

聖恩無窮

萬場尋高 六本木政勇

嘯唳とさやかにひびく喇叭の音

今か帝は出でますらしも

頬につたふ涙拭はずすめらぎの

御顔遙かにをろがみまつる

あなたふと教への庭の末にさへ

めぐみはあふる泣かざらめやも

天顔に咫尺し奉りて

萬場尋高 新井正一

天顔に咫尺し奉り、剩へ聖勅を拜して只感涙にむせぶ。身教育に従事し、次代の國民を養成するの任にあり、幸にこの昭代に生れてこの盛時に會ふ。歡喜極まる所を知らなかつたのであると共に、此の無上の天恩に浴し、此の無比の至榮を荷ふ。深遠なる聖慮を拜察し奉り、益々聖旨を奉體して、輝かしき三千年の歴史とこれを貫く大精神を體得して、皇道宣布のため、たゞ一途に邁進することを誓つたのである。

御親閱の光榮に浴して

萬場尋高 新井辰巳

舉國の大帝を偲び奉るにふさはしい四月三日清淨なる二重橋前に於て、聖上陛下の御親閱を賜はる。時恰も春雨打ち煙りて場内を清め肅として聲なし。玉音朗々いとも優渥なる勅語を賜ふ。特に小學校教育者に對し信倚を明昭にし給ひ、夙夜奮勵努力せよと激勵あらせ給ふ。教育は永遠の大事業である。任重くして途遠しと雖も將來教育報國の一途に専念し天職に殉ずるの覺悟を新にし、ひたすら深遠なる聖慮に對へ奉らんことを期す。

御親閱を拜受して

萬場尋高 飯塚保

九重の松の緑も濃かに

彌榮え行く君が御代かな

大八洲津々浦々の教へ人

畏み仰ぐ今日の勅語を

宣りまし、尊き勅語畏みて

夙夜勵まん我が國の爲

齋戒沐浴以つて御親閱を拜受す

中里尋高 折茂作三郎

新沐者必彈冠と自冀清淨者必誓神明。是日本民族の清明心たり。御親閱前三月三十日産神の大前に齋はり清はり事の由を告げ奉り肅拜鞠躬御親閱に過意無かれと祈願をこめぬ。待望五日、非禮不視不聽不言不動、齋戒沐浴、遂に未曾有の光榮の日は來りぬ、只管恐懼感激胸の高鳴るのみ。颯爽たる御英姿を間近の玉座に拜し剩へ優渥なる聖勅を拜し聖旨深遠陛下の教育に深く御軫念あらせらるゝを拜察し涕淚滂沱として禁ぜず彌々修養研鑽淬礪の誠を致し益々國民教育に精進し此の麗しき世界無比の國體を擁護し以て聖恩の萬一に報い此の光榮に對へ奉らん事を誓ふのみ。

御親閱の光榮に浴して

中里尋高 金澤太忠

いでましのしらせに胸は高鳴りて  
かたじけなきに涙こぼるゝ  
大君の御のりの旨を畏みて  
生ふしたてなん大和撫子  
畏しや日嗣の皇子のあれまして  
大和島根はとはに安けし

多野郡

御親閱の榮光に浴して

中里尋高 櫻井義信

四月三日神武天皇祭の日全國小學校教員精神作興大會が舉行せられました。此の日畏くも、天皇陛下には親しく臨御御親閱あらせられ、剩へ聖勅を賜はりました事は感激の至りに堪へませんでした。聖地に臨御を待つあの神々しい嚴肅な氣、玉座に立たせられ給ふた颯爽たる大君の御英姿を目の邊り拜しました感激は表現の詞を知りません。只々日本人のみが味ひ得る感動と至榮でありました。これを心肝に銘じて教育界の爲め粉骨碎身聖旨の萬分の一にも報いたいと思ひます。

御親閱の感激

中里尋高 高橋錦吾

今上陛下御即位以來、日嗣の皇子の御降誕を神明に祈願せらるゝ事久しかりし折御降誕の報を拜し、歡天喜地拊舞し奉祝の衷情黙し得ざりし吾等小學校教員の請願を嘉納せさせ給ひ辱くも御親閱の御命を賜はる、誠に空前の盛典たり、噫此盛典に會し草莽の吾等さへ天顔に咫尺し奉り、剩へ優渥なる勅語を賜る、誠に聖徳の絶對無邊にして鴻恩の廣大なる唯恐懼感泣に耐へず、吾等一層粉骨碎身以て、聖旨に添ひ奉らん事



を期し尙此光榮を子孫に傳へて永く記念せしめん。

勅語を賜はりて

上野東尋高 金井 勇

いかにせば大御心になふらん

あやにかしこき詔かな

朝夕に勅かしこみ培はん

教の庭の大和撫子

御親閱を拜受して

上野東尋高 黒澤 茂也

我等小學校教育に従事するもの三萬五千は神武天皇祭の佳き日に二重橋前の廣場に於て御親閱を拜受せり。嗚呼誰かこの光榮に感激せざらん。嚙腕たる君が代の奏樂裡に、鳳輦靜々二重橋前に現れ、全員最敬禮裡に玉座につかせられ給ふ。遙に龍顔を拜し奉りて身の聖代に生まれしを喜ぶ。あまつさへ優渥なる勅語を賜はるに及び恐懼感激に堪へず、日夜聖旨を奉體して聖恩の深きに報い奉らん事を期す。

御親閱の光榮に浴して

上野東尋高 今井 四郎

億兆并舞し中外俱に欽仰する 陛下の御親閱を忝うせる、

拜みつつも涙わきくる

おほみこと今ぞうけ申す民われら

教への道に光あらせむ

御英姿を拜して

上野西尋高 白石勝 一郎

闕として聲のない廣場、數萬人が埋めつくした廣場、私どもは感激に満ちた。

大内山からの御車は靜々と玉座の前に止つた。仰ぎ見る我等の 天皇 私は聲高く 皇子様の御誕生と我が國の降昌とを御耳に達しようとうたつた。

日本は安泰である。この感激だけで充分である。更に優渥な大詔を拜し我等は誓つて御奉答の實を擧げねばならぬとおもつた。

御親閱の光榮に浴して

上野西尋高 新井 五郎

維時國家非常の秋に際し常に教育の上に大御心を用ひさせらるる 天皇陛下に於かせられては、特に初等教育の重大性に鑑みさせられ畏くも我等初等教育者に御親閱の光榮と優渥なる勅語を賜はりました。我等一同恐懼感激措く能はざる次第であります。この聖旨を奉體し、この光榮と感激を深く肝

無上の光榮は筆舌に盡すことは出来ません。

瑞雲たなびく松が枝、しづ／＼と出御あらせられる鹵簿はるかに龍顔を拜し奉り、唯々御稜威の有難さに感泣致しました。

教育者最初の御親閱に優渥なる聖旨を奉體して、益々初等教育のために奮勵努力すべき責務を緊々と感じました。

御親閱を賜りて

上野東尋高 吉田 トヨ

御臨幸の鹵簿を拜すれば、感激の情一身に湧き立つ。靜かに走る御車……御出門を誇ぐかの様に舞上る小鳥の群。あゝ一天萬乗の大君が、御親閱のために出御あらせられるのだ。何と有難い事であらう。胸もつまつて體が堅くなる。御前での君が代の合唱は、歡喜と敬虔とにつつまれて一生懸命に歌つた。お堀の水に、松の緑に、「此のよろこびを永久に知れかし」と念じつゝ。

御親閱の光榮に浴して

上野西尋高 中里 義介

東の日出づる國に生れきて

榮えある今日にあへる嬉しさ

すべろぎの神にておはす尊さは

に銘じ、粉骨碎身その職務に奮勵し以て初等教育の爲に盡さんことを期するのであります。



北甘樂郡

御親閲を拜して

富岡尋高 宮川靜一郎

高鳴る胸を押し鎮め、  
畏み待つや教へ人  
喇叭と響く喇叭の音、  
天降ります 鳳輦  
君萬歳の聲さへも、  
只感激に打震ふ  
教への庭の奉安所、  
拜する毎に眞白き  
玉座より洩る玉音を、  
幻の如 拜しつゝ  
大前近く 大君の、  
赤子育む聖職を  
日々に尊みひたすらに、  
つとめ勵みて彌榮の  
國の礎固めこそ、  
聖旨に答へまつらなむ。

御親閲を拜受して

富岡尋高 小林徳衛

玉座に仰ぐ我が大君の御英姿の崇高さ、  
只々感激するのみ。  
吾々初等教育者の爲特に御親閲遊ばされる大御心を拜察する  
時只感激と責任の重大さを思ふ許り。  
吾等が聲の限りを盡して叫んだ萬歳も亦國歌も、  
今日の光榮に浴して其の重責貫徹には心命を堵して努めて大御心に

副ひ奉らんとする衷心よりの奉答であつた。

御親閲を拜して

富岡尋高 坂本誠一

すめらぎの大みことのり畏みて  
教への道にはげまんわれは  
たとふべきものはあらざり我が心  
傳へ残さんいく千代までも

御親閲に臨みて

富岡尋高 關口靜次郎

神武天皇祭の佳き日宮城二重橋前に於て畏くも  
天皇陛下には、全國三萬五千の我等小學教育者代表に親しく  
閣を給ひ且又優渥なる勅語を賜ふ。寔に恐懼感激の極みなり。  
目のあたりに颯爽たる大君の御英姿を拜したる瞬間、その  
森嚴なる光景は筆舌にも盡し難し。この深遠なる御聖慮を拜  
察し奉りて責務の愈々重大なるを覺ゆ、此の無上の光榮を心  
肝に刻し奮勵努力以て畏き聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閲の光榮に浴して

富岡尋高 大塚善藏

春雨に聖場の松もみどりして  
ともにことほぐけふのよき日を  
大君の詔勅は肝にしみじみと  
つどひし人の心うつらん  
すめらぎのおほせかしこみ今よりは  
ともににはげまん教の庭に

拜御親閲有感

富岡尋高 加藤裕

春暖細雨宮城前 萬邦民草受聖恩  
拜御親閲咽感涙 我録光榮傳子孫

御親閲の光榮に浴して

富岡尋高 吉田酒藏

教育報國を宣誓する精神作興大會は、神武天皇祭の佳辰に  
方り、全國小學校教員代表者が宮城二重橋前に會同し行はれ  
た。當日は春雨の中を軍樂隊の吹奏する君が代のうちに畏く  
も、天皇陛下の御親閲を辱うしたる上、優渥なる勅語を賜は  
りたる事は、我々小學教育の任に當る者の眞に無上の光榮と

する所である。陛下が大御心を教育に留めさせ給ふの深き  
は誠に恐懼感激に堪へないのである。我等は此の光榮を子孫  
に傳へると共に、至誠奉公以つて優渥なる聖旨に答へ奉らね  
ばならぬ。

御親閲を拜受して

富岡尋高 野口金太郎

四月三日午後二時半「君が代」を吹奏し、  
聖上陛下の臨御を仰ぎ奉る。聽て玉座の上に龍顔を拜し一同思はず頭を垂  
れ唯感涙に咽ぶのみ。其の光景森嚴壯嚴筆舌に盡し難し。  
全員「君が代」を奉唱し聖壽の無窮を壽ぎ奉る。我等の感  
激は最高潮に達し兩眼涙に潤ひ聲次第に窮するを覺ゆ。  
畏くも 天皇陛下には終始御親閲あらせられ玉音いと朗か  
に優渥なる勅語を賜ふ。寔に恐懼感激の至りに勝へず。我等  
夙夜淬礪し聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閲

富岡尋高 田島宗三郎

光榮の四月三日  
日本全土より集る教育者の群  
我幸にその一人たり  
あゝ龍顔に咫尺し玉音を拜聴く  
感激に双眸はぬれ



熱情の嵐は胸をめぐれど  
大内山雨しづかなり

御親閲を拜受して

富岡尋高 佐藤 きよ

高光る君の御前にぬかづきて

千代もと祈るわが國柱

大君の御前に伏して君が代の

彌榮をばたへつるなり

春雨のけむりて浮ぶ御城に

己が務の重きをば思ふ

御親閲を畏みて

富岡尋高 林 亮太郎

三千歳の遠き昔や

たぐひなき偉き功績

肇治らす神武の帝

しのびまつる今日ぞ

現神我が大君の

御親閲榮のかしこさ

集ひよる教へ人達

おしなべて三萬人

宮瓦の雨にけぶれる

二重橋を拜すれば

感激の潮高鳴る

日本魂持ちてしあれば

托割の敦き勅語

人みな胸の神燭

照みくって熄ゆる時なき

新世の教の指針

探究す教の技を  
築きてん大金宇塔  
夜を夙めて奮ふ努に  
相共にちかひまつらん。

御親閲を拜受して

富岡尋高 小林 なべ

感激にこころ満ちてあり

大き帝の御前に立つ身は

日の皇子の生れましし春の新しき

みどりをもちて柳はめぐむ

安らげき此の大御代にみたみ我

生くるよろこび何にたとへん

恙なくよき日を終へし人々の

さざめくこゑもたのしかりけり

御親閲を拜受して

富岡尋高 高橋 ヨネ

八雲たつ大内山の  
御聲出でぬ吾等みそなはずと

そのかみの神のみこゑを今にして

七度も八度も生きて教へぐさ

さくがかしこし大詔勅

生ふしたてなんみことかしこみ

高光る日つぎの皇子の生れましを

轟にことほぐ神のみ前に

御親閲を仰ぎ奉りて

黒岩尋高 畑 茂十郎

全国小學校教員精神作興大會は宮城二重橋前大廣場に舉行された。會する者共數三萬六千。天皇陛下には特に吾等の爲めに御親閲を賜はり優渥なる勅語を下賜された。麗しき玉の御聲は長へに耳に止まりて我を激勵さす。此の未聞の光榮に浴するを得たる身は感激に胸ふさがる。此有難き聖旨を奉體して愈々心を磨き堅實なる國民の養成につとめて鴻恩の萬一に報い奉らん事を心に深く誓つた。

御親閲を仰ぎて

黒岩尋高 大塚 儀平

昭和九年四月三日、教育報國の志を一層固くせんとする全国小學校教員精神作興大會は、皇居二重橋前に於て壯嚴に舉行さる。天皇陛下には玉座に着かせ給ひ長くも二十分の長きに亘つて御起立のまゝ御親閲あらせられ優渥なる勅語を下し賜ふ。我等小學校教員は無上の光榮に浴し聖旨を拜し奉り感涙にむせぶ、常に此日の感激を回顧し、皇國の興隆を期し、聖旨に副ひ奉るべきなり。

御親閲を仰ぎ奉りて

黒岩尋高 佐俣 博

春雨の柳の絲にそぐるとき

靜かにおはす聖の君は

大君ををろがむ今日ぞ大空も

咽び泣くなり我等と共に

大君の詔勅かしこみ我はなほ

教の道に盡しつくさん

御親閲を仰ぎ奉りて

黒岩尋高 岩井 藤松

畏さにふるふ聲もて君が代を

壽ぎまつる二重橋前

すめらぎの御ことかしこし國の爲

育むみちに勇み行くなり

大君ををろがむ今日の光榮を

子等に分ちて共に勵まむ

御親閲の光榮に浴して

黒岩尋高 杉田 シゲ

歡喜憧憬感激萬籟寂と靜まる皇城の邊立ちこむる瑞氣に昭



和聖代の榮光を浴し今、現人神を遙かに拜しつゝ優渥なる御勅語を賜ふ。恐懼感激の極。この感激必ずや我等をして常に太陽の如き壯嚴永久さまで教への道を照し出だすことならむ。噫々我等粉骨碎身ひたぶるに斯道に邁進し以て聖旨に副ひ奉らんことを誓ふ。

玉の御聲を拜して

一ノ宮尋高 石井 泰藏

畏くも 聖上陛下英邁の姿を以て君臨せられ、至仁至慈蒼生を愛撫し給ひ、殊に教育に御軫念遊ばされ、櫻薫る佳辰をトし吾々に御親閱を賜はる。嘗ては 先帝 皇儲殿下にて前橋に行啓せられし折吾々師範學生の教室に、玉歩を進められしが三十餘年後の今日再び此の光榮に浴す、眞に感涙に咽ふと共に教育の任務の益々重大なるを念ふ所なり。茲に謹んで 竹の園生の彌榮を壽ぎ寶祚の無窮を祈り奉る。

幼兒の教の道にみそち經て

玉の御聲にかゝる嬉しさ

光榮を兒童にも分ちて

一ノ宮尋高 須藤 保太郎

昭和九年四月三日宮城二重橋前廣場に於て 皇太子殿下の御降誕を奉祝し御親閱の光榮にまで浴し得られた私達は此の

上もない名譽であります。殊に其の場に於て 陛下より優渥なる勅語を賜はり玉の御光の直接かゝつた事を思ふと畏くも畏き極みであります。將來第二國民となるべき兒童等に日々接する私達は此の光榮を如何にかして兒童にも分ちつゝより教養上に最善をつくして 聖旨に御應へ申さうと強く心に銘しました。

御親閱を拜受して

一ノ宮尋高 陣内 圭一

昭和九年四月三日春雨濃かに烟る皇城二重橋前大廣場に於て、畏くも 天皇陛下御親閱のもとに全國小學校教員精神作興大會は盛大に舉行されました。

恐れ多くも龍顔に咫尺し奉り、なほ此の時玉音朗々と優渥なる御勅語を拜し奉り、一同恐懼措く能はず、只感激骨髓に徹し、宛ら夢中を彷徨する心地にとざされました。

此の無上の天恩無比の光榮を確と心肝に銘し益々教育の道に精勵し以て御宏恩の萬分の一に報い奉らうと思ひます。

御親閱の光榮に浴して

一ノ宮尋高 齋藤 由太郎

昭和九年四月三日、我が國體と歴史とに對する感銘をいとど深からしめるこの神武天皇祭の當日に瑞雲こむる宮城二重

橋前廣場に於て、辱けなくも 聖上陛下には我等教育者に閱を賜はり優渥なる勅語を賜ふ。

我等曠古の光榮に浴して感涙に咽び深遠廣大なる聖旨を奉戴して恐懼感激す。我等はこの至大の感激を永久に保持し常に聖旨を奉體して粉骨碎身職に盡し奮勵努力志操を強固に持し國民教育振興の途に猛進し以て聖旨に對へ奉らんとす。

感激の御親閱

一ノ宮尋高 横山 くに

息もつかぬ靜肅、一針落すも響く靜寂！ 一齊にひびく喇叭、煙火の轟く瞬間の緊張！ まのあたりに 大君の御英姿を拜し奉り、衷心より湧き出づる無限の感激！ 剩へ優渥なる勅語を賜ふ。最後の御言葉を拜聽せし瞬間、心魂がをどつた、夢ではない、正しくうつし世の盛事である。嗚呼、此の御聖旨、鴻恩、誰か涙なしに拜受せられよう。御還幸の鹵簿を遙かに御見送り奉り胸底深く高鳴りは續く、あゝ生涯の感激。

御親閱を賜はりて

一ノ宮尋高 兼松 薫

我等一同の御待ち申し上げた佳き日は訪れました。鹵簿は靜々と御進みになり 陛下には玉座に御着になりま

した。齋藤文相は 皇太子殿下御降誕の御祝辭を申し上げられました。陛下には辱くも我等一同に誠に優渥なる御勅語を賜ひしみじみと御聖旨の程を御察しする事ができます。天顏殊の外御うるはしく皇恩身に沁みて譬へ様もございません。大内山は春雨に烟り一入その感を深くいたしました我等一同愈々御聖旨に應へ奉らん事を誓ひました。

御親閱の光榮

一ノ宮尋高 齋藤 光次

心して大君拜さむ賤が身の  
心も身をも清めつくして  
玉の音もいと高らかにすみ渡る  
咫尺に召してみこと賜へば  
身はさけて心は碎け散らんまで  
大和撫子はぐくみゆかむ

御親閱拜受の感激

丹生尋高 佐藤 國造

昭和九年四月三日全國小學校教員代表、二重橋前に相會し恭しく 皇太子殿下御降誕奉祝の赤誠を表し奉り更に國民精神を作興して大に教育の信條を固めんとするに當り畏くも 天皇陛下臨御御親閱を賜はり優渥なる勅語を賜ひて小學校



育の重大なるを昭示し給ふ。恐懼感激の至りに堪へず。君が代並に奉祝歌を奉唱せるも有難涙にて我あるを知らず。特に御勅語の玉音を奉拜し洵に有難き極みたり。生等愈々小學校育の職分に精勵し鴻恩の萬一に酬い奉らんことを誓ふ。

聖恩に浴し奉つて

丹生尋高 原澤 旬 一

其日一切見えす

唯心眼に玉座がありくと映り、玉音がかすかにもれるたびに、心魂がをどつた。殊に最後の御言の葉を聴き奉つては、今更ながら身の重大なるを深く思つた。

聖恩の有難さ、血液のをどつた、涙のにじんだ、この心境日本人なるためと、つくづく思つた。

この尊き心境で、教育の道につくしたら、必ず眞の日本人第二國民を、養成することが出来ることを確信した。

御親閲の光榮に浴し奉りて

丹生尋高 黒澤 與 一

四月三日この日我等教育者として御親閲の光榮に浴し奉ることを得ましたのは生涯忘れることの出来ない喜びであります。畏くも優渥なるお勅語を賜はり三萬六千名の者等しく責務の重且大なるを今更の如く意を強くしたことでありませう

我等はこの上は更にお勅語の趣旨を日夕奉體して初等教育のため努力邁進して、聖慮を安んじ奉り光榮に輝く御親閲を永遠に意義あらしめたいと思ひます。

御親閲を仰ぎ奉りて

丹生尋高 田村 敏 夫

皇太子殿下奉祝と全國小學校教員精神作興大會に參列する榮を擔ひたり。畏くも 天皇陛下の御親閲を拜受す、誠に光榮の至りなり。國の御親、我等の 陛下の神々しき御英姿を拜し奉りて無上の有難さに感激し奉る。

一同謹んで君が代を唱し奉れば畏くも御玉音高らかに優渥なる勅語を賜ふ。一同感涙にむせぶ。職を教育の道に奉する誠に光榮の至りなり。愈々聖訓を奉體し奮勵努力以て御鴻恩の萬一に酬い奉らんことを期し奉る。

感激

丹生尋高 富山 玉 枝

一分一分、行幸の時は近づき、各々全身を硬ばらせ息をしづめる。清掃された小砂利を軋る御車の御近づき遊ばざるを拜しては、神氣自ら身に迫るを覺ゆ。氣をつけのラツパは嘔吐として大内山の奥深くこだまを返し、最敬禮、全身硬直冷氣背走り感涙頬を傳ふ。莊重なる玉音をもて勅語を賜ふ。何たる

光榮ぞ。唯々恐懼感激。還御、靜かに遠ざかり行く御車を目送申上げる中にも、唯今の玉音は耳にとどまり、心に鳴り響き、全身の血はたぎり續ける。あゝ生涯の感激。

御親閲を拜受して

高田尋高 田口 恒 藏

昭和九年四月三日、神武天皇祭の佳辰を卜し宮城二重橋前の聖域に於て、全國小學校教員精神作興大會開催せらる。

當日畏くも 天皇陛下には親しく式場に臨御遊ばされ、全國小學校教員代表者三萬六千の御親閲をせられ、且優詔を賜へることは吾等一同の感激恐懼措く能はざる所なり。

吾等一同益々其の責務の重大なることを自覺し、この非常なる感激を實際教育の上に啓培實現せざるべからざることを期す。

御親閲の光榮に浴し恐懼感激す

高田尋高 瀧上 耕 太郎

皇紀二千五百九十四年四月三日、これぞ終生忘るゝこと能はざる御親閲拜受の日なる。洵に千載一遇の榮譽にして恐懼感激の外なし。會場に於て 聖上陛下の颯爽たる御英姿を拜し、玉音いとも嚴かに宣はせられたる優渥なる御勅語を拜聽せし時感激其の極に達し感涙滂沱たり。身の國民教育の任に

在るが故に此光榮に浴することを得たるを思ひ、赤誠以て國民教育の爲に盡瘁し聖恩に報い奉らんことを期す。

御親閲に答へ奉る

高田尋高 白田 八 十八

幸なるかな。我生を昭和の聖代に享け、身を教育の重任におく。今日の佳辰に、嘗て例なき御親閲に浴し、恐懼御聖勅を拜受す。其の歡喜、此の光榮、

如何にしてか此の御聖恩に報ゆべき。慚愧す、御奉答の言葉と行ふその術を識らざるを。

只誓ふは、誠心以て御聖勅を體し、獻身、教育報國の念と夙夜奮勵努力の覺悟あるのみ。

御聖恩に浴して

高田尋高 永田 利 重

感激の御親閲。御聖恩の無窮。吾身を教育の重大なる使命に置き常になすこと無きを思ふ時、實に上 御聖君に對し奉り只恐懼するのみであつた。然るに御親閲の御聖恩に浴し、御聖勅を拜受し、以つて畏くも大御心を拜察し奉る時、吾等の責務の如何に重大なるかを思ひ粉骨碎身修養に努め、以つて御聖恩の萬々分の一に報い奉らんことを誓ふのである。



晴れの日

高田尋高 奈良里やう

たまきはるいのちをもちて今日の日  
このよろこびにあへらくかしこし  
詔らします玉のみことはうつしかも  
われのこころはをののきにけり  
仰ぐたにかしこきはみ天光る  
おほみすがたを今しまさめに

御親閲をうけて

妙義尋高 茂木東四郎

昭和九年四月三日こそ終生忘るゝことの出来ぬ記念の日である。此の日全国小學校教員代表者三萬六千餘名、畏くも、御親閲を賜はり、私も其の一員として参加の榮に浴した。  
・特に 天皇陛下親しく臨御あらせられ、御親閲の榮を賜ひ玉音いとも朗かに優渥なる勅語を賜はる。寔に恐懼感激にたへざると共に、一層責務の重大なるを感じたのである。  
私共永くこの光榮を心肝に刻み聖旨を奉體し、今後益々教育の爲に盡瘁して聖恩の萬分の一に報い奉る覺悟である。

御親閲を仰ぎ奉りて

妙義尋高 土屋 長治

- (1) 瑞氣洋溢せる皇城の畔 昭和九年卯月三日  
小きき教にいそしむ吾等兄弟 踊躍し集る未曾有の盛儀に畏し 聖天子の御親閲
- (2) 吾等の前に下し給へる御勅 國運隆昌の源發するところ  
幼な子の教へにありと 嚮ふところを訓へ給ふ
- (3) 鹵簿肅々進み給ふとき 君が代吹奏さるゝ國歌の調  
燦として輝く其の御英姿 身も心も淨めはてゝ
- (4) 高尚なる徳性を養ひ磨きて 幼子を導くは我等が使命  
吾等の存在を聖ならしめて 吾等は大地を駈と踏へて立ち  
匪躬の節を盡すを誓ふ

光榮ある御親閲

妙義尋高 武田 正一

瑞氣溢るゝ皇城の畔に整列を終り肅然として臨幸を御待ち申上ぐれば、嘯唳たる喇叭の音嚴かに響き渡りて、  
天皇陛下親しく臨御あらせられ、御親閲の榮を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を賜る。我等は感涙滂沱として、聖壽の無窮を

御親閲を拜して

小坂尋高 岩井 三五郎

花もほほむむ神武祭 春雨にはふ大みやこ  
すめらみ國に教鞭をとる 三萬五千の代表に  
かしこ榮ある御親閲 柳もえたつ二重橋  
大内山の松青く 仰ぎまつりて、ひとすぢに  
宮居に高く、旭日旗 玉の御聲のかしこくも  
赤きこころの日本魂。 道あきらけくみことのみ  
今九重の雲ふかく 建國悠久三千年 いやさかえゆく皇國の  
教のにはいたつ人の 是などさくべき民草の 學びの窓のをきな兒を  
さとしましける尊さよ。 おふしたてなん、いや健かに。

聖恩に感激して

小坂尋高 山崎 信次

昭和九年四月三日、吾等の終生忘れぬ御親閲の日、折柄の春雨に潤ふ二重橋前の式場に參集せる三萬五千有餘人の全国小學校教員代表者、大内山を拜して感慨無量、愈々午後二時三十分 天皇陛下には龍顔いと麗しく出御遊ばさる。仰ぎ

壽ぎ奉るの外これなし。即ち、永く此の無限の感激を心肝に刻し、身命を献げて君國の爲に盡瘁し、聊かなりとも今日の光榮に報い奉る覺悟なり。

御親閲を仰ぎて

妙義尋高 藤井 義一

畏くも 今上陛下には義に有難き勅語を下し給ひ、尙今回精神作興の聖慮より、三萬六千の代表者宮城前聖域に於て御親閲を賜はり、重ねて優渥なる勅語を賜はる、吾等はこの未曾有の盛儀に參列し、龍顔と御乾徳を仰ぎ奉り、感激措く能はざりき。此の千載一遇の幸慶に際會し、竹の園生の彌榮と皇國の隆昌を祈り、聖慮を奉體し、奮勵努力、以て聖旨に對へ奉らむことを期す。

御親閲を拜受して

妙義尋高 田村 タカ

天照らす大御光りに民草は  
綠色増す春のあけぼの  
御教へのみのりの光仰ぐ時  
道は定まる日の木つ國



見るだに畏れ多き天顔を拜し奉りて国歌を奉唱す。眼はうるみ聲はつまる。唯感涙の下るあるのみ、畏くも優渥なる勅語を賜ふ。聖恩の敦きに感激して恐懼措く所を知らず。無上の天恩に浴し無比の光榮を受け、責務の重且大なるを心肝に刻す。生を皇國に享け職を教育に奉ずるの幸福なるを思ひ、優渥なる勅語を奉體して、夙夜奮勵努力粉骨碎身以て聖恩の萬分の一に報い奉らん。

御親閲の榮に浴して

小坂尋高 永井 トウウ

四月三日朝來雲低く、冷雨降り注ぎ春にそむく底冷えが致しましたが、御親閲の榮に浴す代表三萬五千名は感激に満ちた面持で午後一時半には整然と位置につき、一同は胸を高鳴らせつつ御待ち申上げて居るうち、二時三十分 天皇陛下には自動車鹵簿にて肅々と軍樂隊奏樂裡に玉座に着御あらせられ、畏くも玉音朗々親しく優渥なる勅語を下し賜はり二十分の長きにわたつて御起立を續けさせ給ひしを拜し、恐懼感激の至に勝へなかつたのであります。これより益々國民道德を涵養し、堅實有爲なる國民の養成につとめ、一意専心其の責務を全うし、以て聖旨に副ひ奉らんことを深く深く感じました。

光榮と感激

小坂第二尋常 佐藤 龜吉

身も心も淨めすぎたる三萬六千餘の教育者、馳せ参じて莊嚴極りなき宮城前に額づけば君が代は莊重に奏でられ日章旗は高く掲げられ 陛下は設けの玉座に出御あらせ給ひぬ。折しも起る君が代と御奉祝歌、ともに和して天地に響き渡りぬ。莊嚴。莊嚴。その極に達せり。待つ程もあらせず玉音朗々として八絃に満ち給ひぬと思へば「小學教育ニ在リ」「奮勵努力セヨ」との有難き御言の葉は一きは強く我が耳をうちぬ。忝し勿體なしと自づと頭は垂れ熱涙は下り身も心も感激にうちふるひぬ。あゝ、この光榮。この感激。永久に忘れ奉らじ。永久に。永遠に。以て、御聖慮に對へ奉らん。

大君のたふとの御姿拜がめば

いとどまさりぬ袖の春雨

御親閲を拜受して

小坂第二尋常 佐藤 代輔

食國はつくくにの榮ゆく時の昭らけき  
聖の御代に御親閲を拜受く  
大内の御堀の緑深うして

榮ゆく御代の聖をろがむ。

御親閲を拜受いたしましたして

小坂第二尋常 齋藤 ユキエ

思ひ起せば四月三日。内地は勿論遠く殖民地からも代表馳せ参じ、我等三萬五千餘の小學校教員によつて精神作興大會は開かれた。私も選ばれて晴れの式場に列し、畏くも尊い陛下の御英姿を目のあたりに拜しまして何ともいへない感激に打たれました。この感激こそ、我々日本人のみの知り得る光榮と感激です。この思ひ出を深く心に刻んで、更にこの道の爲に奮勵し、以て皇恩の萬分の一にも酬い奉りたいと思ひます。

御親閲を仰ぎ奉りて

小坂第三尋常 武士 今治

清淨なる二重橋前廣場に玉座あり、天皇陛下、莊重なる「君が代」の奏樂に迎へられて臨御し給ひ御親閲遊ばされ、畏くも玉音朗々と優渥なる御勅語を賜ふ。我等はふり落つる感激の涙をおさへつゝ、國歌並に皇太子殿下奉祝歌を奉唱し聖壽萬歳を唱ふれば、大内山の松の翠、日の本つ國の津々浦々にそを傳ふ。嗚呼、何たる光榮ぞ、何たる感激ぞや！  
この日  
皇紀二千五百九十四年四月三日  
感激を身にしめて無窮の聖恩に身を以て對へ奉らんことを誓ふ。

御親閲の光榮に浴し奉りて

西牧尋高 關根 今朝太郎

花霞大内山にたなびきて  
瑞氣したたる朝ぼらけかな  
大君の御前かしくみ額づけば  
かたじけなさに涙あふるる  
大君の大みことのりかしくみて

御親閲を拜受して

小坂第三尋常 山田 一郎

大君のみまへに立ちて額づけば  
恵はいとど身にぞしみける  
大君の大みことのり畏みて  
つとめはげまん教のみちに



我は勵まん教の庭に

御親閲を拜受して

西牧尋高 金井喜代松

嗚呼昭和九年四月三日、終生忘れ得ざる有難き日なりき。天皇陛下には畏くも此日吾等小學校教員に、御親閲を賜はり且つ小學校教育に關して此上もなき優渥なる御勅語を宣はせ給ふ。臣は眼のあたり玉音を拜し奉り眞に感激恐懼に堪へず此の無上の天恩、無比の光榮に浴し奉り如何にせば此の御聖恩に對へ奉り得らるるや、日夜身を慎み、御勅語を念頭に粉骨碎身、只管教育の道に邁進し、以て聊か御聖恩の萬一に對へ奉らんことを希ふ。

御親閲拜受に際して

西牧尋高 新井照吉

畏くも御親閲拜受の光榮に浴す恐懼感激に堪へず、鴻大無邊なる天恩固より國民精神指導の本旨とす、然るに此度天皇陛下には特に御親閲を賜ふ、其の御英姿を拜し奉り且又、優渥なる勅語を賜ひ、朗朗たる玉音を拜聽し奉る光榮警へんにもなし。此の至榮無比なる天恩に浴し感激胸に迫り感涙にむせび益々努力奮勵以て國民教育の天職に精進し、皇恩の萬分の一に

もと至誠奉公を期す。

御親閲を拜受して

西牧尋高 鹽谷鵬次郎

昭和九年四月三日は、日嗣の皇子の御降誕を御祝ひ奉ると共に、全國小學校教員作興大會が宮城前の廣場で行はれ、畏くも教育に大御心を注がせ給ふ。聖上陛下には教員代表に御親閲を給ひ且御勅語を賜はりました事は前古未曾有の御盛儀でありました。此の御親閲拜受は終生忘れられない感激であり光榮でありました。その瞬間の氣持を常に心に銘じて、感謝し第二の國民養成に力を致し教育報國の覺悟を一層固め粉骨碎身以て聖恩の萬分の一に報い奉らんとするものであります。

御親閲を拜受し奉りて

西牧尋高 石川國輝

時恰も四月三日、神武天皇祭當日。臣等代表三萬六千。畏くも御親閲拜受の光榮を忝うす。宮城前大廣場に於て、精神作興大會を開くに當り、天皇陛下には特に臨御あらせられ、優渥なる勅語を賜ひ玲瓏たる玉音を拜し奉る。臣等の光榮何ものか之に如かん。國民養成の職にたづさはる者職務に精進し、奮勵努力以て皇恩の萬分の一に應へ奉るべく、御奉公の誠を致さんことを期す。

御親閲を拜受致しまして

西牧尋高 新井つね

天恩の宏大無邊なることを、御親閲拜受によつて一層深く感じました。優渥なる御勅語を賜はり、恐懼感激にたへません。身の教職に在りしたため、此の光榮に浴することを得、大いに感激致すところであります。益々誠心誠意此の職に盡し御勅語の御趣意に應へ奉りたいものです。

聖恩

尾澤尋高 里見治平

意義深き今日四月三日、縣境の谿をめぐる朝靄を分けて一代の榮光に高なる胸を抱きて車中の人となる。關東平野をひた走る車。旭旗の翻る所山川光輝を放ち草木笑む。沐浴の身に嬉しくも雞の聲ひた走る車の窓に日の御旗。春雨煙る皇城のほとり、御親閲を忝うし勅語を賜ふ。皇澤に枯木も春の花ぐもり

感激

尾澤尋高 北澤高三郎

千載一遇の此日、未明に床を蹴り直に入浴。沐浴齋戒神前に額づき聖恩の有難さと身が小學校教員の幸福さに心雀躍することしばし。時の流れは次第に我にして我に非ざる感を増す。宮城二重橋前大廣場嚴たる樂の音に全身粟を生ず。夢か現か息づまる唯感激の心境。畏し御勅語あ、臣もとより微力唯骸骨の續く限り夙夜奮勵恬淡其の職に努め迹象に泥まず正しき嚴なる教育報國に精進又精進而して此の優渥なる御旨に應へ奉らんと、臣神かけて祈る。

御親閲を仰ぎて

尾澤尋高 村山惣吉

昭和九年四月三日畏くも玉座近く集ひ、皇太子殿下の御降誕を奉祝し、聖上陛下の御親閲を仰ぎ奉り、皇太子殿下の御降誕を壽ぎ奉るにつけ、彌榮えまます竹の園生の永劫に限りなきを偲び奉りて、欣喜の情胸に滿ち、御聖勅を仰ぎ奉りては恐懼措く所を知らず、感激の涙滂沱たるを覺ゆ。只々此上は粉骨碎身日夜聖旨を奉體し、以て教育の道に精進し、獻身努力以て御聖恩の萬分の一にも報い奉らんとす。



### 大内山の御光

尾澤尋高 松村 福壽

日本は進む。新しい未來へ、永劫の未來へ進む。燦たる旭日の昇るが如く。大内山の新緑春光に映えて、瑞氣九重に満つ。この時に當り長くも、天皇陛下には吾等小學校教員に優渥なる勅語を賜ふ。吾等臣民恐懼感激専ら教育の道に努力すべく心に誓ふ。謹んで惟ふに、皇統連綿榮え行く御姿を拜し、玉聲を拜聽する時、吾等の行く手ははるかに開け行く。大内山の御光は永く吾等に御恵を賜ふ。聖壽萬歳を祈り謹んで草す。

### 感激文

尾澤尋高 小須田 ともえ

昭和九年四月三日それは私にとつて終生得難き尊い一日であつた。昭和聖代の御慶事 皇儲殿下御降誕後第一回の神武天皇祭この意義ある日に三萬六千人の一員として精神作興大會に出席することを得恐れ多くも御親閱の光榮を辱うし又親しく優渥なる勅語を賜はる等唯々有難く又恐れ多くて感激の涙はとめ得る事が出来ない程であつた。此の無上の天恩至榮を心肝に刻し益々教育の爲に策進して健全なる國民の養成に力め以つて聖恩の萬分の一にも報い奉る覺悟である。

### 御親閱を拜受して

月形尋高 小須田 健次郎

皇紀二千五百九十四年四月三日 宮城二重橋前に於て、皇太子殿下の御誕生を祝し奉り、次いで全國小學校教員精神作興大會を開催するに當り、天皇陛下には親しく臨御あらせられて御親閱を賜ひ、優渥なる勅語を下し賜ふ。聖慮深遠誠に恐懼感激の至りに堪へず、此の光榮を心肝に銘じ 聖勅を奉體して益々初等教育のため奮勵努力して 鴻恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

### 御親閱を拜受して

月形尋高 宮 冕造

時昭和九年四月三日、小學校教員精神作興大會に列席し、計らずも御親閱を拜受した。春雨けぶる宮城前の廣場に設けられたる玉座に御出御の 陛下の神々しき御姿を拜しては、忝さに涙にむせぶ。やがて玉音朗らかに宣らせ給ふ大御言の御一語毎にひし／＼と迫る感動感激！ 微力ながらも粉骨碎身、大御心に副ひ奉れと心に深く刻みつけられた。大君のみこと拜してひたすらに 己が務の重きをぞ知る

### 御親閱を拜して

月形尋高 小林 勝雄

昭和九年四月三日、此の日畏き御親閱拜受の日なり。宮城二重橋前の廣場に心澄まして御親閱の時を待つ。やがて城裡に肅然と、陛下の出御を報する喇叭の音響き、我が魂に觸れてより心いよ／＼緊りて體動するを覺ゆ。玉座に玉顔を拜し奉りては只々有難く畏く、尙優渥なる勅語を賜へる忝き御聲には胸迫りて感激の涙耐へ得ず。 我このみことの聖旨を奉體してつゆもそむかず朝夕に畏み畏み行かむと強く心に誓ふ。

### 御親閱を拜して

月形尋高 市川 つたゑ

心澄して宮城二重橋前の廣場に至り、忝き御親閱の時を待ちぬ。大内山の青松色鮮かにお濠の柳春を刻む。時愈々迫る。畏し 天皇陛下の出御を報する肅然喇叭たる喇叭の音には、場裡の空気が緊り、全身の緊張いよ／＼増すばかりなり。 やがて、玉座に玉身を仰ぎ見るの時、心打たれて頭自らたれ畏み、我たゞ感泣し居たりき。 尙、優渥なるみことを下し給へる御聲に觸れては、感激、恐懼、たゞ一途に大御心に副ひ奉るべく心に誓ふ。

### 謹 誓

磐戸尋高 佐藤 森太郎

昭和九年四月三日の畏き御親閱。恐懼感激の外は御座いません。 今日よりは顧みなくて大君の 醜の御楯と出で立つわれは の古歌と、全然一致の決意を致しました。赤誠、自己の職分に恪遵し、以て天恩に對へ奉ります。御用の爲に卑しき此の身を献げますことを、謹みて誓ひ奉ります。

### 御親閱の光榮に浴して

磐戸尋高 吉田 卯平治

四月三日、神武天皇祭を卜して、皇儲殿下御誕生慶祝を兼ねたる全國小學校教員精神作興大會に小學校教員の代表として参列し、畏くも御親閱の光榮に浴し、且優渥なる勅語の昭示に接したる誠に恐懼感激の至りに勝へず。この無上の天恩を永久心肝に刻し、以て奉公の誠を致さん。世上凡百の事業の根基は實に小學教育に在り、熱誠以て、世道人心を明朗にし、日東帝國の發展に貢獻し斯くて聖恩の萬分の一に對へ奉る覺悟を持する者なり。



御親閲の光榮に浴して

磐戸尋高 新井伊三郎

櫻花今將に開かんとするの候、御親閲の光榮に浴し、欣喜雀躍として、足の踏む處を知らず。玉體を仰ぎて御勅語を賜はるに當り、身の重責に在るの思一際深し。國家將來の盛衰は、初等教育に決つ事大なるは、是何人も知るところなり。不肖學窓を出で、教職に有る事茲に十有餘年、今後益々奮勵努力一意専心教育の任に當り、以て皇恩の萬一に報いんことを期す、右御親閲の光榮に浴し所感を述ぶ。

御親閲の光榮に浴して

磐戸尋高 鹽谷喜鶴

四月三日全國小學校教員精神作興大會に際し、畏くも、天皇陛下には、特に臨御あらせられ、御親閲の榮を賜ひ、あまつさへ優渥なる聖勅を賜ふ。

あゝ此の無上の天恩無比の光榮、獨り代表者のみの受く可き榮譽に非ず、普く小學校教員の榮譽なり。此の至高の感激を心肝に銘じ、誠心以て聖慮の存する所を仰いで、一層責務の重大なるを思ひ、國運隆昌の淵源たるの實を擧ぐ可く、粉骨碎身國民教育振興に邁進し、以て聖慮に副ひ奉らんとす。

感激

磐戸尋高 金子信三郎

御濠の柳の芽ぶき降る雨に  
明るむひかり畏みてゆく  
大内山常盤のみどり雲なびく  
雨おごそかにうなじ垂りくる  
斯の道にありて朝夕にかへりみむ  
大 詔われら賜りぬ  
斯の道にありへし歳はかへりみむ  
直に心のひき緊るなり  
大和撫子生ひ茂りゆくこの庭に  
かしこき光しみわたりつつ  
大八洲わが日本のゆるぎなき  
かしこき道に我たちにつけり  
四月三日御親閲を拜受して  
磐戸尋高 小須田 喜久榮  
國を擧げて教育の庭に立つ人の  
此處に集ひて壽ぎ奉る  
大内山畏きあたり打煙り  
紫こむる春の雨かな

幾萬の人肅とせり嘯嘯の

喇叭響きて鹵簿は進み來る

大君の御出ましご今ぞ今

君が代の中を進ませ給ふ

あな尊とまさしく仰ぐ大君の

畏き極み涙湧き來る

あなかしこ我大君を仰ぎたり

此のまなかひに今ぞ仰ぎたる

道の邊の名も無き草の一本も

君が恵みに立たむとぞ思ふ

春の雨煙れる空にとよもして

壽ぎ奉る萬歳萬歳

御親閲に浴して

青倉尋高 下山正雄

有難き涙の頬に春の風  
感涙に霞む 玉座を拜みけり

御親閲に浴して

青倉尋高 里見治雄

まのあたり龍顔拜す春の雨  
みことのり玲瓏として春の風

北甘樂郡

御親閲に浴して

青倉尋高 茂木三六

やごとなき御姿拜す若緑  
ほぎつづく雲居の春を讃へけり

御親閲に浴して

青倉尋高 仁井みせ子

かつてなき嬉しき春に逢ひにけり  
雙眸にうれし涙や 讚春譜

聖勅を拜し奉りて

下仁田尋高 茂木六次

日嗣の 皇子の御降誕を奉祝し併せて全國小學校教員精神作興大會の二重橋前に於て行はれたのは昭和九年四月三日。この日畏くも 天皇陛下には春雨しめやかに降る中を臨御遊ばされ親しく御閲を賜ひ我等の至誠を御嘉納且つ優渥なる勅語を賜はる。この無上の光榮。この神々しい感激。我等初等教育者はこの感激と光榮とを深く心に銘し聖慮の存する所を仰ぎ奉り、道徳的信念と實踐篤行とに重きを置き、夙夜奮勵以て聖恩に酬い奉らねばならぬ。



御親閲参列の榮を擔ひて

下仁田尋高 小坂橋帶刀

紀元二千五百九十三年十二月廿三日。我町サイレン二回の鳴報は、我等が御待望申上げた。皇儲殿下御降誕の御慶報である。我國が特殊の貴い使命を遂行する上に感じた不安は一掃された。無限の力強さと未曾有の嬉しさを味得したのである。而して、天皇陛下の御前にこの御慶事を奉祝し、教育報國を誓ひ得る我等はまあ何といふ光榮であらうか。此朝三時半離床、齋戒沐浴には特に留意する。そぼ降る春雨は鎮魂には誂へ向きであり、愈々御親閲は始まつて、玉音いとも朗かに優渥なる勅語を賜はつた頃は我等の感激は其の極に達した。我等は此の勅語を胸裡に刻み、且教育勅語第二段の道を實踐躬行範を示し、新興日本を背負ふに足る、健全なる國民養成のため夙夜に精勵すべきを誓ふのである。

御親閲を憶ふ

下仁田尋高 新井龍太郎

壽ぎ奉る竹の園生の初轍  
舉國一致唱ふ國歌や御代の春  
感激に潤ふ涙や御親閲

御親閲に参列して

下仁田尋高 石井次郎

有難き教へ人への御勅語を  
心にきざみ進み行く我  
高光る日嗣の 皇子のよろこびを  
ことほぎまつる君の御前に  
ひたぶるに心うちふれ涙せり  
君の御姿をろがみし時

感激の涙

馬山尋高 戸塚喜太郎

神武天皇祭の佳辰四月三日、大内山に春雨煙る皇城の神域に、響き渡る嘯鳴たる喇叭の音、刻々秒々、臨御を拜して、全國三萬六千の教員代表、寂として聲なし。  
今や着御、と同時に御座所高く拜す、神の御姿、胸は感激に打震ふ。やがて尊き玉音朗々優渥なる勅語を賜はりては、天恩の有難き身に餘り教職の重責いと身にしむ。  
大君の御勅かしこみ音もなく  
還御を送る涙のひとみ

御親閲を拜受して

馬山尋高 江原一郎

胸をどり今ぞいでます御車を  
はるかにのぞむわれぞうれしき  
神々しわれらの君はわが前に  
凛と立たせり凛と立たせり

御親閲を拜受して

馬山尋高 廣澤藤五郎

皇紀二千五百九十四年、神武天皇祭の佳辰、これぞ待ちに待ちたる我等小學校教員御親閲の日なり。午後二時三十分、聖上陛下には出御あらせられ、畏くも我等を御親閲、優渥なる勅語を賜へり。その深遠なる御聖旨、嚴然たる御英姿を拜して、皇運の御隆昌、國體の嚴乎不動が思ひ合はされて、恐懼感激の極に達したりき。  
思ふに萬代不易の我が國を負ひて立つべき小國民の教養に任する我等は一意重責に任じ聖慮に副ひ奉らんことを期さざるべからず。

感激録

馬山尋高 佐藤貞通

皇紀二千五百九十四年四月三日、これぞ職を小學校教育に奉

する者の感激措く能はざる御親閲拜受よろこびの日である。  
上氣した頬を心地よく春雨に打たせ感激に打震へつ、  
御英姿を御座所高く拜し、教育者の爲に有難き勅語を賜ひ玉音に接した時は、忝けなきに熱涙の下るを覺えたのみ。  
やがて熱涙の静まり行く時、我が日の本の赤子と生れし幸を感じ、教育の道に従ふ一員として、益々朝に夕に智徳を啓培以て聖旨に副ひ奉らんと新なる力の湧き出づるを覺える。

御親閲拜受所感

吉田尋高 大里頼善

現人の御神の前にひれ伏して  
玉の御聲を聞くぞかしこし  
大君の勅語畏み今日よりは  
教への庭にいよよはげまん  
身を碎き骨を粉にしていや努め  
今日の勅語の聖旨にこたへん

咫尺に拜して

吉田尋高 北澤政太郎

轟く烽火大内山に木靈し、翻翻たる日章旗竿頭に高し。  
肅然として襟を正せば、嗚呼惟神の道は高鳴る胸に迫りぬ、  
奏する國歌至純の響、和する奉唱拵舞の姿尊しや



玉體を咫尺に拜せば、嗚呼惟神の道は高鳴る胸に迫りぬ。  
銀絲の細雨、芽ぐむ柳色、侍従長の捧ぐる御勅、詔らせ給ふ玉音を拜せば、嗚呼惟神の道は高鳴る胸に迫りぬ。  
感激の涙、更生の心、只期す教育報國の赤誠、破邪の劔いよ／＼牙ゆれば、嗚呼惟神の道は高鳴る胸に迫りぬ。  
昭和の聖世、清浄な集ひ、私に想ふ大和島根の永劫の力、實にや百姓昭明萬邦協和、嗚呼惟神の道は高鳴る胸に迫りぬ。

御親閲に拜列して

吉田尋高 山崎龜壽

惟ふも畏し此の年昭和九年四月三日、我等草莽の微臣を帝都宮城の御前に召し御親閲を賜はる。是絶代の光榮稀世の御盛事、我が身ながらに其の勿體なさを渾身に感ず。今や國家多難の際何れを見ても報國碎心の時、中にも思想國難の際誠に教育救邦の時、謹みて聖勅を奉進して教育の道に盡くし、一身を捧げて國難に當らんとす。兒童一人の教養善導に國家幾年の興廢に關し、一日の教育の功否は國家百年の大計に及ぶ。我等の重責思ふべし。恐懼して所感を述ぶ。

御親閲の光榮に浴して

吉田尋高 石井篤巳

昭和九年四月三日榮えある、御親閲式に參列す。畏けれど

此の日吾 天皇には、恰も日月の至らぬ方なきが如く、天の御柱いや高く、大稜威國の涯に輝きとほり、山川の遠きやかなるが如し。陛下には教育の詔を賜りて、臣等を激勵あらせらる畏しとも畏き極なり。我等國民教育に當る者、夙夜勤勉力を戮せ聖旨に答へ奉らむと誓ふ。君が代を千代とうたひ、廣庭の千もとの花に、榮え行く御代の春をちぎりて、聖壽萬歳の聲は、九重の雲の上にひゞき渡りぬ。

御親閲を拜受して

吉田尋高 伊澤 興

春雨の霑す廣場寂として  
玉の御聲にむせぶ師のむれ  
君が代をくちさみつゝむせびたり  
あらひと神とあがむ御姿  
玉砂利の霑ふ廣場にむせびたり  
玉の御聲のみことのりたふと  
萬歳も九重の奥にとゞろけり  
御代をことぶき集ふ師のむれ

玉音を奉拜して

吉田尋高 高橋ふみ

昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下には全國三萬六千の

教育者に、御親閲を賜ふ。

「其の局に當るもの夙夜奮勵努力せよ」との身に餘る玉音を拜したる時、只々感涙胸に迫る。あゝ何たる光榮ぞ。感激ぞ。身を教育の聖職に委ぬる我は此の時の感激を、此の時の感涙を永久的感激となし、益々奮勵努力し、現代の弊風を打破し教育をあらゆる事業の主位に建設し、以て有がたき聖旨の萬分の一に報い奉らんとす。

御英姿を拜し奉りて

高瀬尋高 齋藤量一郎

永久に記念すべき昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下我等の大會に御親臨遊ばされ三萬五千を聖地二重橋前に御親閱せられ優渥なる勅語を賜ふ。我等の光榮感激言語に絶するものあり。偉容凜然音吐朗々崇高極り無き御英姿之ぞ我等が造次顛沛忘れ難きいと尊き御姿にてぞ在します。嚴父の如く慈母の如く永遠に畏くも我に迫るを覺ゆ。嗚呼何を以てか歡慮に副ひ奉らん。誠心粉骨郷黨教化の實績擧揚に邁進し明朝日本の振興に微力を致さんとす。謹んで記す。

聖勅を拜し奉りし時

高瀬尋高 武井理平

老松聳ゆる大内山の緑は折からの春雨に煙つて一人の神々

しさを感じさせつゝ森嚴そのもの、裡に諸事は進行した。やがて玲瓏たる玉音を目のあたりに拜し奉り、御一語、御一語が身に徹し肝に銘じてきた時私の眼は遂に霞んでしまつた。滿場寂として音もなく聲もない。  
嗚呼何たる畏れ多い極。勿體ない御事であらう。  
聖恩の優渥なる、叙慮の深遠なる、恐懼感激ひし／＼と胸にせまり誓つて聖旨を奉體せんとする念愈々切なるを覺えた。

御親閲を拜受して

高瀬尋高 今井 齋

昭和九年四月三日全國初等教育者三萬五千誦劣を以て精神大會舉行を鞏固の下に切にし、歡下の忱、恆情に萬倍す。  
吾人誠歡誠喜頓首頓首、日嗣の皇子の華誕を奉祝し、正に彌々益々皇室隆昌社稷長久の秋を以ふ。  
至幸。勅語を忝うす。然して按んずるに叙慮深淵、吾人滿眸なるを覺ゆ。萬國競進の時、邦家内容整齊の切要を吾人に依らしむる、正に新なる所以なり。佳辰に際し、恭くし聖壽の萬歳を頌し、歡喜の衷情默す能はず、内省の微意禁する能はず。

御親閲を拜受して

高瀬尋高 佐藤巳之吉

時、昭和九年四月三日春雨煙る二重橋前に於て全國小學校



教員の代表は集ひて、皇儲殿下の御誕辰を奉祝し奉る。この佳辰を下して催されたる精神作興大會に於て畏くも、聖上陛下の御親臨を辱うし、剩へ優渥なる御勅語を賜はる。吾等は千載一遇の此の盛儀に際會し、聖光の餘澤に浴す。あゝ、吾等の光榮何物を以てか之に譬へん。玉音御唇邊に朗々たる今尚ほ耳朶に香ばしく、聖旨の無量胸裡に徹す。感激喜悅禁せず、こゝに謹んで天壽無窮を祈り奉る。

御親閱を拜受し奉りて

額部尋高 伊澤 一二

御親閱拜受の時は來た。合圖と共に空中高く大國旗は掲げられ、ラツパの音は響きわたる。邊は眞に嚴肅。

陛下の出御實に言ひ知れぬ敬虔の念に満たされた。御親閱を拜受いたし、御勅語を賜はり、玉の御聲をまのあたり拜した代表者一同只々感激そのもので三萬五千餘の者一人として、感涙に咽ばざるものなし。我皇室と國民との關係はこれである、あの嚴肅敬虔感激、帝國の萬代動きなきと云ふ確信を更に更に深くいたしました。

御親閱拜受の感激文

額部尋高 根岸金太郎

うる柳春の小雨に色はえて

廣場の景色彌増しにけり  
かみさぶる大内山の御橋邊に  
御幸迎ふか鳩の群れゐる  
高光る日嗣の皇子の生れましを  
とよみことぶく君のみまへに  
ねもごろに畏し君の大勅語  
皆袖ひちていたくかしこむ

感激文

額部尋高 平井健太郎

春雨の恵にまさる大君の  
御聲仰ぎつ今日この身は  
千代かけてうごきなき世の彌榮を  
玉の御聲に我は祈らむ

御親閱を仰ぎて

額部尋高 柳田茂義

春雨に青柳けぶる昭和九年四月三日、我等小學校教員代表三萬五千人は、朝まだきより二重橋前大廣場に集ひ、御親閱を仰ぐ、光榮この上なく感極りなし。

出御遊ばされて  
大君のおはす廣場の静まりは

榮行く民の心なるらん

御勅語を拜聴して

春雨に胸にしみ入る御勅語

聖恩に浴し奉りて

額部尋高 原澤きよ

四月三日、御親閱を賜はる。これぞ一生忘れる事の出來ない有難い日であつた。其の日、大内山は瑞雲低くこめ一入嚴かに拜さる。天皇陛下には唳々たるラツパの響と君が代奉奏の中に出御。三萬六千只感激、陛下の御前に一同謹んで君が代を奉唱した。陛下には、優渥なる勅語を賜ふ、現にきく玉の御聲、畏くも尊き極みであつた。誠に恐懼感激、只涙に咽ぶのみであつた。今にして聖恩の有難さをしみんと感じた。あゝ、御國の爲に盡さん、この光榮と感激を心に銘じて。

御親閱を仰ぎ奉りて

額部尋高 石井常二郎

幸くませ芽ぐむ柳に雨煙る  
みあらかの彌に尊く驚こむる  
民草に君の恵や春の雨  
萌草の上に恵みて春の雨

北甘樂郡

出御ませば密雲明と春雨空  
白鳩の飛び交いていと尊かり  
はからずも玉の御聲に咽ぶ春雨  
聖代に生きてかひある春の草  
神ながら太敷ませる大君の  
彌に尊く在しませしける  
天雲の八重かきわけて高照らす  
日の皇子幸く生れましにけり  
春雷をどよもし響け君萬歳

御親閱を仰ぎ奉りて

額部尋高 伊藤譽雄

四月三日、これぞ生涯忘れ得ない光榮の日。御漆の青柳が静かにけむつて居ます。鳩の群が御城の上空を廻旋しました。唳々とひびいた喇叭の音。莊重な君が代の吹奏。息づまる緊張の底からはるかに御車のひびき、あゝ、萬世一系の陛下を仰ぎ奉りました。涙、たゞ涙！嚴肅な玉の御聲、有難い御言葉が肺腑にしみとほりました。あゝ、今日の此の感激！臣等は萬代の聖恩の萬一に報い奉ることを心に固く固く誓ひました。



御親閲を拜受して

秋畑尋高 久保庄平

教へ人となりわれ二十年にして

今日の榮譽をなど忘れぬや

ひたぶるにつしみをもちかしこみて

君が代の國歌うたひ終りぬ

をろがみて我が日の本の大臣の

いやかしこきを強く感じぬ

あはれわれ此の日の本の民草の

此の幸福を何にか報いん

感激

秋畑尋高 神道清作

御惠の深きを常に仰ぎつつ

玉のみ聲に浴す幸かな

待ち詫びし日嗣ぎの皇子の出まして

彌榮えまます皇御國は

小學校教員御親閲感激録

秋畑尋高 新井福次郎

神武天皇祭の佳辰に方り、全國小學校教員代表者を宮城前

の廣場に、會同せしめて畏くも 聖上陛下行幸遊ばされ、御親閲を賜はり刺へ優渥なる勅語を賜はり小學校教育が國民道徳を振作し以て國運の隆昌を致す淵源であるとの旨を諭し給ひしは、眞に無上の光榮とする所である。陛下が教育に大御心を留めさせ給ふ事の深きは、寔に恐懼感激に堪へない次第であるから、聖慮を奉體して奮起緊張教育の實績をあぐるやう一層精勵努力せんことを期す。

御親閲に浴して

秋畑尋高 安藤しづ

春雨煙る宮城二重橋前に於て、畏くも御親閲を仰ぎ奉る、信號喇叭及三發の花火が打ち揚げられ、我々は直立不動の姿勢をとる、徐々に國旗は掲揚され、寂として唾をのむ。

天皇陛下には、自動車鹵簿にて二重橋を渡らせられ最敬禮裡に玉座につかせらる、莊嚴の極であつた。全員君が代を奉唱し我等感激に堪へず。我が日本帝國に生あるの喜びを一層深くす。親しく 天皇陛下には玉音朗かに勅語を賜ふ。責務の益々重きを思ひ、永く此の光榮を忘れず、教育の爲に此の有難き聖慮を奉體し此の聖旨に副ひ奉らんことを期す。

龍顔を拜し奉りて

小幡尋高 茂木保太郎

玉座に龍顔を拜し奉りたる時、恐れ多き極みながら、陛下と私の外何物も考へられなくなつて 天皇陛下萬歳と叫ばざるを得なかつた。

畏くも御親閲を拜受、重ねて御勅語まで賜はり聖恩無窮小き身の重責を痛感した。

我等は此の日、皇統連綿光輝ある三千年の歴史と、萬邦無比偉大なる皇國の實體とを拜し感慨無量。此の上は自奮自勵以て使命に邁進し、寂慮に副ひ奉らんことを誓つた。

御親閲を拜受して

小幡尋高 安藤久太郎

天皇陛下の御英姿、仰ぎ見る萬乗の君、謙、嚴、仁、愛、慈、總べて御座所に溢れ進む、嗚呼我等の 天皇、玉音朗らかに勅語を賜ふ。奮勵努力せよと、何たる光榮、験の熱するを覺ゆ。然して國家意識、國體觀念、日本意識、總てが錯綜し祖先以來の大和男の子傳統の血潮は高鳴つた。

嗚呼磐石なる哉我國、我皇室、上には 聖天子おはし奉り下萬歳を唱和する生氣の如何に溢れし事よ、私の教育信念はあの感激と緊張とより一層鞏固なるを覺える。

御親閲を拜受して

小幡尋高 小林 藏

四月三日の佳日を下して全國小學校教員精神作興大會に際し、榮譽ある教員代表として、御親閲式に參列し得たことを無上の光榮と思ひました。

遙かに龍顔を拜し奉り感極りて、落つるは涙のみでありました。身教職にある故を以て輝く御親閲に參列の歡喜は永久に忘れず、一層徳性の涵養に勉め、誠實を以て職務に勉勵せねばならぬことを深く感ぜられました。

御親閲に感激して

小幡尋高 岩井治利

嗚呼忘れぬや、昭和九年四月三日、これぞ此世に生をうけて最初の御親閲に浴したる感激無量の日なり。

畏くも 天皇陛下には玉座に起立あらせられ、御親閲を給ふ。何事のおはしますかは知らねども忝じけなきに涙こぼるゝと、云ふ西行の歌の感を目前に御英姿を拜察せる程に入ひしと胸にせまるを覺え感涙滂沱たり。

此の光榮を心肝に刻し身命を献げて教育に邁進し、以て聖恩の萬分の一にも報い奉らむと天地神明に誓ふ。



御親閲に感激し奉る

小幡尋高 江原辨次郎

四月三日、此の日こそ吾等教育者の終生忘るべからざるの日なりき。即ち前古未曾有の御親閲拜受の日なればなり。此の日畏くも 天皇陛下の御尊顔を拜し奉り且又優渥なる御勅語を賜はり、吾等の感激頂點に達し、唯々感涙に咽ぶ。吾等は身を教育に奉じつゝあるを日々感謝せしに此度の御親閲拜受の光榮に浴して益々教育者としての本分を盡し、聖旨奉答の誠を致さんとの覺悟を一層深めたり。

御親閲を拜受して

小幡尋高 佐藤久六

昭和九年神武天皇祭の佳辰今日ぞ我初等教育界永遠の記念日なり。全國小學校教員精神作興大會且畏くも 天皇陛下御親閲の光榮に浴す。春雨煙る午後號砲一發大内山の木靈に響渡るや三萬有餘は蕭然襟を正す。軍樂隊の奏する國歌の莊嚴裡に 天皇陛下玉座に着御あらせらる。我等龍顔を拜するに畏き極なるに優渥なる勅語を賜はり小學教育の重んずべき所以を昭示せられ恐懼感激今更責務の重大を痛感す。非常時の現今夙夜淬礪益々教育の徹底を圖り健民養成に努めんと期す。

御親閲を拜受して

小幡尋高 松浦亮一

四月三日神武天皇祭の佳辰を期し、皇太子殿下御降臨奉祝を兼ね全國小學校教員精神作興大會に參列することを得無上の光榮と存じます。一同二重橋前に參集、畏くも陛下の御親閲を仰ぎ、重ねて優渥なる勅語を賜はりました。唯々感激の外御座いません。

陛下に於かせられては、斯くの如く國民教育に大御心を寄せられ給ふかを思ふ時、一層責任の重大を感じました。

御親閲を拜受して

小幡尋高 白田春

御親閲に關しての御傳達のあつた時既に私共は其の有難き御思召しに對して感激せざるを得なかつた。幸に其の光榮に浴するを得て感激おく能はず。そは降る春雨を冒して陛下の臨御を仰ぐ時の心境は全く緊張と感激其のものであつた。あたりの静かさを破つて信號ラツパ大内山に響き渡ればやがて壯嚴なる君が代は奏された。三萬六千の拜受者期せずして聲をひそむ。小砂利の上をすべる御車の音かすかに耳に聞え輝けるが如き 陛下の御姿を拜し玉音御朗らかに拜聽した。

御親閲を拜受して

福島尋高 黒澤幸藏

君が代は大内山に木靈しつ  
ただ感激に我を忘れし  
春雨に大内山は煙りけり  
日嗣の皇子を壽ぎ奉りて

賜閱の恵に浴して

福島尋高 小出庫太郎

けむる春雨に、大内山の緑も一入輝やかに、白鳩群れかふ二重橋の畔、鹵簿肅々と進みまゐらせば、日のみ旗、唳々たる君が代の吹奏に翻り、三萬の民草身慄き、熱涙湧く。麗しの龍顔咫尺の中にをろがみ壽げば、聲雷み、感激の涙頬をともどもなく下りぬ。

そのかみ 醍醐の帝楠公の誠忠を以つてしても、玉簾を隔てて調を給ひしとかきくに、噫！畏くも尊し。

我大神にあり、君臣の義に蘇り、大神我にましまし、父子の情に生く。渾然一如たり。はや、み還ります風聲に和す萬歳の響き！九重に木靈して神々し。

この至大の感激こそ、久遠の響き神の聖光にて、永久の生命の力、永世の黄金律たらざるべからず。

御親閲を仰ぎて

福島尋高 茂木むめ

昭和九年四月三日、吾等小學教育者として曾て無き御親閲を拜受し、剩へ深遠なる勅語を拜す。是ぞ終生忘れんとし忘れ得ざる感激の極なり。今後永く此の感激と光榮とを膽に銘し愈々其の責務の重且大なるを思ひ至誠を致して教育報國の道に勵み日夜淬礪身命を献げて、國民道德の振作を計り、必ずや健全有意なる第二國民の養成に努め、以て萬邦無比の國體の永遠性を擁護し、且益々光輝あらしめん事を期す。

御親閲を拜し

福島尋高 布川彌吉

昭和九年四月三日、神武天皇祭の佳辰を卜して全國小學校教育精神作興大會は宮城二重橋前廣場に開かれ齊しく國民教育に微涓を致さん事を宣誓決議された。此の日 聖上陛下にはいと御満悦に拜せられ雨中御熱心に御親閲遊ばされた。

畏くも優渥なる御勅語を賜はり小學教育の重大なる旨を昭示なされた。寔に恐懼感激の極みである。此の絶大なる榮譽を永く心肝に刻して一層教への道に精進し以て鴻大なる聖恩に對へ奉らん事を深く誓ふ次第である。



御親閲に就いて

福島尋高 中重安次郎

四月三日春雨煙る中に私共が御親閲の恩典に浴することの出来ましたことは終生忘るゝことのできない一大榮譽と存じます。二十餘年教への道に勵みました身の、今日の光榮に預ることを得まして教育の業にたづさはりましたことの喜びをしみじみ感じました。「夙夜奮勵努力セヨ」と玉音の胸底深く響きました時は只感涙に咽ぶのみでありました。小學教育の重大、師表たるの本分を考へる時一意奮勵育英の天職を全ふし謹んで御聖旨に副ひ奉らんことを期してやみません。

御親閲に列して

福島尋高 須田 竹雄

昭和九年四月三日神武天皇祭の佳辰に、全國小學校教員精神作興大會あり。當日 天皇陛下におかせられては、雨天にも拘らず全國小學校教員を御親閲なし給ひ其の上、聖勅を賜ふ。此の盛典に參列せる三萬餘の小學校教員は胸中深く肝銘せるものあり。小學教育の任、重且大にして須臾も忽にすべからざるを痛感せり。吾人は他の教育者に比し大なる榮譽を感ずると共に大なる重任と、完全なる思想の養成に奮勵努力し國民教育の完成に邁進すべきを期すものなり。

感激

新屋尋高 吉岡 正平

玉の御聲のかゝる嬉しき、之こそ私共の生涯に夢想だもし得なかつた忝けなきであります、全靈を傾けつくして耳を澄ましたあのしゞま、あの緊張、こみあげて来る感涙は拭ふに由もありませんでした。この極みなき感涙に依て清めねばならぬ道、育てねばならぬ兒童、そして 御聖旨に對へ奉らねばならぬ私共の使命であると思へば又してもこみあげて来る感涙をどうする事も出来ませんでした。

御親閲を拜受して

新屋尋高 岩井 虎雄

天顔に咫尺の内にはべりなして  
賤が眼に涙こぼるゝ  
玉のみこゑにひとしほかたむ我が心  
教の道にたづきはる身の  
ありがたきみことかしこみ身を捧げ  
盡すぞ己がつとめなるかな  
枝かはす大内山の若緑  
千代に八千代に榮えまつらん

御親閲を拜受して

新屋尋高 田中 ミチ

萬歳は大内山にこたまして  
ただよるこびの涙あふるる  
咲かせなむ生ひさきこもるうなひ子に  
大和心の山櫻花  
はえある日たゞ感激にむせびつゝ  
みくにの榮祈るわれかも  
みどり濃き大内山のかげ清く  
御代萬歳の聲はとゞろく

御親閲に浴し奉りて

新屋尋高 小板橋 秀治

昭和日本の前途洋々とし輝き渡る 聖天子の御親閲の聖恩に浴したるは我等教育者無上の光榮として齊しく赤誠を捧げ奉る次第なり。  
我等はこの意義深き機會に際し建國以來養成せられたる、皇室を尊崇し國民精神を益々發揮する實質剛健堅實なる思想を以て小學校教育に當り、御聖恩の萬分の一にも報い奉らねばならぬ。こゝに滿腔の赤誠を披瀝し、聖壽無窮を壽ぎ奉る次第である。

感激の日

新屋尋高 丸 秀夫

時皇紀二五九四年、國の内外をあげて益々多事國歩寔に艱難、非常時國民の責務實に重且大なり。この時にあたり長くも 天皇陛下には春雨をば降る中を我等小國民養成を以て天職となす小學校教員代表に御親閲を賜はり且、玉音朗々と優渥なる御勅語を賜つた。我等の光榮感激無上の天恩に感泣せざる者なく責務の益々重きを思ひ唯々恐懼に堪へず。  
御勅語の御旨を奉じ熱烈なる愛國的教育精神の下に不撓不屈國民道德を振作し國運の興隆に此の身を捧げんとす。

御親閲に浴して

新屋尋高 神戸 七太郎

甲戌の春四月宮城二重橋原頭に於いて、前古未曾有の光榮に浴す。軍樂隊の君が代表樂裡に 陛下を御前に迎へ奉る。子等寂として聲なく感激に咽ぶ。忝くも  
天皇陛下には御勅語を下し賜ふ。玉音朗らかに耳朶に響き渡る。國家の隆替は一に小學校教育の如何にあるとの御心を拜聴し、教職の重且大なる事を痛感す。日夜勉勵堅實なる第二國民の養成に盡瘁し、以て鴻恩の萬分の一に報い奉り 聖勅の御趣意に副ひ奉らんとす。



御親閲拜受謹詠

岩平尋高山丸龜雄

柳の芽ややに青みて仰ぎみる  
大内山にけふるはるさめ  
あな尊すめらみことを現身の  
目に仰ぎつつ歌ふ君が代  
み民われ榮きはまれり大君の  
玉のみ聲のただに拜して  
大君の勅かしこみひたむきに  
教の道を行かなむわれらは  
つがの木のいや織ぎ織ぎに語りつき  
とはに傳へん今日の譽を

感激

岩平尋高齋藤谷八

今より二十有餘年の昔、不肖近衛兵の一員として、或は宮城に、或は青山御所に、御守衛の勤務にありし時、畏くも天皇陛下には、當時皇孫殿下として、青山御所に在しまし、玉の如く御美はしく、いとも御可愛らしき御姿を拜し奉りしに、其後久方ふりにて、今日一小學校教員の身を以て御親閲拜受の光榮に浴し、崇高神の如き龍顔を、まのあたりに

拜し奉り、且つ優渥なる勅語を賜ひ、其の玉音を拜しては眞に恐懼感激の極、只だ熱淚滂沱として頰を傳ふのみ。

御親閲を拜受して

小野尋高 高橋正之助

日嗣の皇子の御降誕を祝し奉り教育者としての歸趨を正しくせんとする全國小學校教員精神作興大會は、四月三日午後、春雨こまやかにそぐ宮城前の聖場に於て、仰ぐだに畏き龍顔に咫尺し奉り剩へ勅語の朗々たる玉音を拜聽した其の瞬間、感激殊に深く、至榮心肝に刻し、只々感涙に咽んだ。此の畏き思ひ出こそ、日本人のみの持ち得る感激であらう、無上の聖恩の厚きに感泣し、教育報國の念を一層固めた。

御親閲を賜ひて

小野尋高 新井久幸

昭和九年四月神武天皇祭の佳辰に當り、全國小學校教員代表三萬六千の御親閲は宮城二重橋前廣場に於て、盛大に且つ嚴肅に舉行せられた。此の前古未曾有の御盛事に會し、仰ぎ見るだに畏れ多い天顔に咫尺し奉り、剩へ、玉音を拜する事を得たるは、此上もなき光榮にて、恐懼感激措く所を知らず。此の無上の皇恩に浴し、又陛下が常に教育に御軫念あらせらるゝ事を拜察し奉るとき、其の職責の一層重大なるを

感じ、身命を捧げて教育に邁進せん事を深く心に銘じた。

御親閲を終り 鳳輦を送り奉るに臨みて

小野尋高 吉田金藏

思ひ出多き皇紀二千五百九十四年春四月三日、身は輕き一平民の子にして、御親閲の光榮に浴す。誠に感謝感激唯々感涙に咽ぶのみ。加之優渥なる勅語を賜はり、來るべき國難を善處打開すべき根強き國民の養成は一に吾等の双肩にあるを諭させ給ひ、聖慮の深遠なるを拜し奉りて、感極りなし。誓ふ。よろしく確乎たる信念のもとに、國體觀念國民精神の發揚につとめ、國民教育の重責を果し以て、皇恩の萬一に報い奉らんことを。

御親閲を拜受して

小野尋高 平柳隆三郎

全國小學校教員代表は、神武天皇祭の佳辰に方り、宮城二重橋前廣場に相會し、皇儲殿下御降誕慶賀の誠を表し、更に國民精神の作興をなし、微力を教育に致さんとす、畏くも天皇陛下には特に臨御あらせられ、御親閲の榮を得、勿體なくも玉音高く優渥なる勅語を賜ひて、小學校教育の特に重んずべき旨をお示し遊ばされ、誠に恐懼感激の極なり。吾等は勅

語の御趣意を奉體し、洪大無邊な聖恩を如何に奉公の誠を致すべき。誓ふ。奮勵努力以て鴻恩に報い奉らん。

御親閲を拜受して

小野尋高 茂木きん

昭和九年四月三日、日嗣の皇子の御降誕を祝し奉りて、全國小學校教員精神作興大會の催さるゝや、天皇陛下には畏くも、御親閲を賜はり、且つ優渥なる勅語を宣はせ給ふた。身は代表三萬五千の一員として龍顔を咫尺に拜し得、御玉音今尙耳に新なり。嗚呼何たる光榮、只恐懼の他なし、我等は此の御聖恩に何を以て報い奉らん。他なし。此の度の御勅語を奉戴し教育勅語に基いて、専心職に當るの外に。嗚呼永久に記念すべき昭和九年四月三日。



碓氷郡

昭和甲戌四月三日御親閲の光榮に浴して

安中尋高 塚越朋治郎

大詔の御精神をかしくみて

教へ草生ひ茂らせよ日の本の

神のこゝろをこゝろとはして

聖勅の實踐をちかひ奉る

千早ふる神のをしへを朝な朝な

言ひつたへせん學びやのには

御尊姿を拜し奉りて

安中尋高 小林晋介

時は陽春四月三日小雨そぼ降り大地自然は嚴淨された。午後二時三十分より宮城二重橋前廣場において、畏くも

聖上陛下にはいと龍顔麗しく、全國小學校教員三萬五千名に御親閲あらせられ且親しく優渥なる勅語を賜ふ。全員齊しく恐懼と感激に打たれた。御民われ生けるしあり生きてこの聖恩に浴す。嗚呼この光榮この感激強く永く心に刻み、身

心を捧げて、只管教育報國の實をあげ、以て聖旨に副ひ奉らん。

御親閲を仰ぎ奉りて

安中尋高 白石桂三郎

皇太子殿下御誕生奉祝精神作興大會開催せらるゝに當り畏くも御親閲を仰ぎ奉りて感激措くところを知らず。乃ち二重橋前皇城の畔に於て親しく天顔に咫尺し剩さへ深遠優渥なる聖勅を賜はりたゞたゞ恐懼感涙にむせぶのみ。この無上の天恩無比の至榮を荷ふのとき只管教育精神の實踐昂揚に努めて聖旨に副ひ奉らんことを誓ふ。

天恩の有難さをまのあたり拜して

安中尋高 萩原誠策

宣り給ふ天の御聲ぞ玉の音ぞ

涙してありぬかづくわれは

玉音に涙こぼるゝ二重橋

春の小雨もこゝろありてか

御尊姿を拜して

安中尋高 中澤喜三郎

春とはいへどもしとくと降る雨の膚寒き中に外套をも召されず、直立不動の御姿勢にて玉座につかせられ給ひし吾が

るに優渥なる勅語の御下賜に、宏遠なる聖慮を拜し奉りて益

と我が職責の重大なるを思ふこと切なり。

御親閲を賜はる

安中尋高 小倉はる

昭和九年四月三日神武天皇祭の日、小學校教育の任にあたる我等三萬五千は畏くも二重橋前にて御親閲の榮を賜ふ。

天皇陛下玉音いと朗らかに優渥なる勅語を賜はりし時はただたゞ感激に満ちて我等の使命の大なるを思ひ、此の道のためには微なる力なりといへども自己の最善の努力を以て、對へ申さねばならぬと堅く誓つた。

御親閲

安中尋高 宮口あき

昭和九年四月三日私等小學校教員三萬五千は、畏れ多くも天皇陛下の御親閲を二重橋前の廣場に於て受け、且優渥なる勅語を賜はつたのである。かくの如きは前古未曾有の御事である。この空前の光榮に浴したる私等は感涙にむせび、小學校教育の重大なるを痛感した。この光榮を心深く刻み身命を捧げ教育のために精進し、大御心の萬一にも報いんとするものである。

大君を拜し思はず感涙を催しました。此の御親閲の光榮に浴せる吾等は今後一層聖旨を奉體し、斯の道に献身努力し、吾が大君の御聖旨に副ひ奉る覺悟である。

感激文

安中尋高 綿貫三郎

吾等教員は、おそれ多くも 天皇陛下の御親閲を賜はる。是實に空前の御事であつて、至極至上の光榮に浴したものと

言はなければならぬ。此の日や、吾等全員齊しく皇恩の無窮なるに感じ、日頃の畏敬追慕の念は更に一段の感激を加へ、一時に興奮又興奮、實に其の絶頂に達し、宛然感激の渦中に突入するの觀を現出したのである。

感激文

安中尋高 萩原文雄

畏くもわが 大君を仰ぎ奉りて、唯わけもなく涙は頬を傳ふ。「君が代」を奉唱し聖壽の無窮を壽ぎ奉れば、三萬五千の聲は渾然と和して一なり。蓋し感激にもゆる誠の心の然らしむるところなり。畏多くも 天皇陛下と我との他に何ものも無きが如し。あゝ感激の涙。この光榮。何たる幸ぞや。加ふ



感激録

安中尋高 金田 一男

實に昭和九年四月三日は忘れ得ぬ感激の日にてありき。畏くも 天皇陛下より我等三萬五千の小學校教員代表に對して御親閱を賜ひし日なり。然り、千載一遇の光榮といはずんばあらず。しかのみならず、同時に優渥なる勅語を賜はり、今や全身感激に満ち満ちたり。この光景この感激は、今明らか心に心の底に銘じたり。いでや、この聖旨を奉體し、皇恩の萬一に報いたるために、教育界のため粉骨碎身死して後止むの覺悟を以て邁進せん。

皇恩に感激

原市尋高 鬼形 守三

昭和九年四月三日全國小學校教員代表者三萬餘、宮城前の廣場に集り 皇太子殿下の御降誕を祝し奉り併せて教育報國の誠を聞こえ上げんと致しましたところ、畏くも 天皇陛下には御親閱を賜ひ、且優渥な勅語を下されて小學教育の重んずべき旨を昭示せられました。寔に恐懼感激の至りに堪へません。私は職を國民教育に奉ること二十年餘りこの聖代の盛儀に際會いたし、辱くも目のあたり天顔に咫尺し奉り玉音高らかに、聖勅を拜しまして感泣極りなく誠に終生

無上の光榮と存じます。この光榮この感激を、永へに心肝に刻し愈々奮勵努力、以て皇恩の萬一に報いたい覺悟であります。

御親閱の光榮に浴して

原市尋高 浦野 美一

昭和九年四月三日春雨こまやかに降りそゞぐ宮城二重橋前の廣場に於て、全國小學校教員代表三萬有餘人が畏くも、聖上陛下の御親閱を仰ふぐ事を得たのは教育界未曾有の盛事であつて、自分も此の空前の盛事に列り、仰ふぎ見るだに畏れ多い、龍顔に咫尺し奉り、加ふるに玉音朗かに勅語を賜はり眞に一代の光榮に無限の感激を覺ゆると共に、皇慮の存する所をあふぎ、教育報國の熱意を新にし且つ固くした。

感激の文

原市尋高 茂木 一郎

宮城前大廣場に三萬餘の國民教育家は、首相を始め文武の顯官と、畏くも御親閱並に優渥なる勅語を賜はる。日頃孜々として只管第二の國民の育英の天職に精進しつゝある我々に取つて、此の上ない面目であり、又精神上力強い激勵である。故に自ら此の天職を大なる誇りとなし、世の風塵を餘所に、専ら其職に忠實なると共に、日夕斯の道を實踐し、忠孝の大

義を以て一貫し、共々に心を一にして天壤無窮の皇運を扶翼し、益々國家の興隆を圖ることに努めねばならぬ。

辱御親閱有感

原市尋高 萩原文之輔

天顏崇高瑞雲中 聖旨宏遠德不窮  
草莽微臣唯感激 鞠躬全任誓精忠

陛下を拜し奉りて

原市尋高 永井 仁恵

天地とともに榮ゆる日の本の  
すめらみかどを仰ぐうれしさ

御前に君が代を奉唱して

原市尋高 萩原 富次

君が代は君の御むねに通ふらん  
兒等をはぐくむ赤誠のせて  
勅語を奉戴して  
朝夕に教への業に勵まん  
詔のみ旨胸にきざみつ

御親閱を拜受して

原市尋高 長瀧 桂二

春雨のしげくそゞげるみやるべに  
うつゝみかみを仰ぎちかひぬ

御親閱を拜受して

原市尋高 眞下 誠一

ひたぶるに大和なでしこおほしてん  
みことかしこみ朝な夕なに

御親閱拜受の光榮に浴して

原市尋高 豊田 よし

朝來の小雨交りの空氣も和ぎ、邊は緊張した靜閑さと化した。莊重な君が代の奏樂裡に、玉座に御起立遊はさるゝ、陛下の御英姿は、御微動だにあらせられず。吾等に御親閱を賜ふやがて優渥なる勅語。玉音朗かなるその一言一句に、皇慮の有難さはひし／＼と胸に迫り、たゞ／＼恐懼感激の外なく、ますます聖旨を奉戴して、健全なる第二國民養成の一路に邁進せんと念を深めた。やがて奉祝歌を終り、熱誠こもつた萬歳三唱、斯くて御親閱は莊嚴裡に終りを告げ一同最敬禮の中に 陛下には龍顏殊の外麗はしく宮城に還御あらせ



られた。

御親閲拜受の光榮に浴して

原市尋高 大塚文美江

この日四月三日、遙か前方に皇居を拜す二重橋前、美しい眞砂に敷きつめられた清浄な式場に敬虔な念を以て静かに御親臨をお待ち申上ぐる時其の感慨無量、定刻午後二時半愈々陛下の御出御に式場は崇嚴の氣に滿つ。國歌の合唱に皇國の彌榮を祈りつゝ、謹んで龍顏を拜す。やがて優渥なる勅語を賜はる。第二國民養成の如何延いて帝國前途の隆昌は、かゝつて皆我等の双肩にあり。誓つて日夜研鑽普通教育の徹底に奉公の誠を捧げん事を。

御親閲の光榮に浴して

松井田尋高 塚越新太郎

皇紀二千五百九十四年四月三日。今日ぞ吾等小學教員千載一遇の盛儀、至光至榮の日である。教育報國の誓を固むべく皇城の畔に集ふ全國小學教員代表三萬五千。この日春雨しめやかにけぶる中を、聖上陛下には、親しく臨御あらせられ、畏くも御親閲を賜はり、剩へ玉音朗々優渥なる勅語をさへ下し給はつたのである。惟ふに天顏を拜するに無上の光榮であるのに、目のあたり玉音に接し奉ることを得たことは何た

る光榮、何たる幸福であらう。しかも「其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ」との御言葉を拜するに至つては、今更に陛下の赤子であり得たことの喜びと、小學教育に携はる身であり得たことの光榮とを痛感し、有難き勿體なきに只々感涙に咽ぶ外はないのである。

宮居近く玉のみこゑをあふく今日

兒童ら守るとちのさちぞかしこき

列聖の教育特に小學教育に對し、深く御軫念遊ばさるゝ事は申すも畏き次第であるが、特に今回の聖勅は、小學教育の重要性強調と、小學教育者に對する御信倚とを明昭にし給はつたものと拜察せられて、優渥極りなき聖慮の程實に恐悚に堪へない次第である。

吾等はこの深遠なる叡慮を畏み、其の重責に覺醒し、協心戮力至誠一貫己が職分を樂しみ、夙夜奮勵以て聖旨に副ひ奉らんことを誓ふものである。

光榮に浴し奉りて

松井田尋高 佐藤明雄

御姿を拜してうれし春の雨

ありがたき玉音さくや春の雨

御親閲お蔭に萌ゆる若柳

御親閲を辱うして

松井田尋高 駒口清重

御諭しにむせびて今は國の歌

うたふ聲さへうるみがちにて

天地も聖旨にむせぶ春の雨

御親閲の光榮に浴して

松井田尋高 廣木四郎

天地の神も涙す喜びは

吾等が上に煙る春雨。

外つ國の里まで響け敷島の

大和男子の萬歳の聲。

今日の尊さ

松井田尋高 平石正枝

萌え出づる若葉に今日の恵かな

柳の芽曉見えしお蔭かな

御親閲

松井田尋高 高木あい

日の皇子の生れ給ひしよろこびに

御親閲を辱うして

松井田尋高 新井悦郎

子等教ふつとめなりせば賤の身に

ひじりの君を拜すうれしき

春雨のけむる玉座に立ちませる

みかどの御姿たふとかりけり

もろともに涙流せりよろこびの

玉の御聲のうるはしきかな

御親閲を賜はりて

松井田尋高 中山宇志男

千載一遇の榮譽ある時が、秒一秒迫つてくる。それにつれて、言ひ知れない誇を強く感じた。定刻は来た。

君が代の音が静かに而も強く、大内山にこだまして、我等の腦裡深く響きわたる。はるか玉座に龍顏を拜し奉つた。

嗚呼其の瞬間、一切の理論を超越して、唯々感泣の外はなかつた。此の日御親閲を忝うした上に、更に優渥な勅語を賜はり重ねぬの榮譽に浴した。此の限りない天恩に對し奉り、粉骨碎身奮勵努力せんことを、神々に固く誓つた。



われも召されし今朝の尊さ。  
春雨や今日の行幸を知らざるか  
いま一時を雲としてあれ。

御親閲を拜受して

白井尋高 横田 春吉

身に餘る光榮に奉答ふる道に二つなし

育英の職にいそしまんより。

朝夕に勅語の旨を身にしめて

育英の道に努めはげまん。

仰御親閲に在感

白井尋高 中山 久

皇城橋畔仰天俯、玉音最朗々賜勅。

天地共只潤感激、至誠誓教育報國。

御親閲を仰ぎて

白井尋高 武井 積榮

肅々と鹵簿出でまして胸をどり

かたじけなきに涙こぼるる。

玉體を拜まんとしてつまたてり。

全國教育者大會に列して

白井尋高 上原 精一

全國小學校教員精神作興大會代表者の一員として選ばる、  
畏くも 天皇陛下には、我々に御親閲を賜ひ、更に優渥な  
る勅語を下し賜はられた。これ一生の光榮と恐懼感激して居  
るものである。

身命を賭して進まん此の日より

學びの道の永遠のはてまで。

御親閲を賜はりて

白井尋高 山下 えい

春雨に降り清められた日、身は小學校教員の一員にありな  
がら御親閲を賜はり聖恩にしばし感涙を禁じ得なかつた。吾  
天職に努力するに勅語の御旨を深く心に體し御趣旨に副ひ奉  
らんと心に誓つた。

御親閲かこし春の雨の中

龍顔にさがる首や遠霞

御親閲記念の夜や春の泥

御親閲拜受について

白井尋高 町田 美代子

昭和九年四月三日、春雨煙る宮城前廣場に、三萬人群集の  
一人として私も交り、おそれ多くも、

天皇陛下の御親閲を拜受し優渥なる小學教育に關する御勅語  
を賜はりまして、一層 聖上陛下下の御徳の崇高さと、御惠の  
深き事を感じました。此の榮え行く聖代に生をうけた  
喜びと同時に教育のため専念努力すべき秋であると深く深く  
胸の奥に誓ひました。

謹 詠

坂本尋高 猿谷 七五郎

ちはやぶる神の姿をそのまゝに

拜みまつりて我はうれしき。

すべらぎのみこと畏み一筋に

いよゝはげまん皇國の道。

御尊影を拜し奉りて

坂本尋高 中山 一郎

恭しく、天顏を拜し奉れば、崇嚴神威自ら身に迫りて、  
思はず襟を正す。

天皇陛下には、常に初等教育に御軫念あらせらるゝに、今日  
のあたり、聖勅を拜し玉音を拜聽す。恐懼感激の極、只感涙の  
滂沱たるあるのみ。謹んで、聖慮の存する處を恐察奉りて、  
奮勵努力以て、聖旨に副ひ奉らんとす。  
むらぎもの心の奥ぞしみわたる  
神のみすがたあふぐたふとさ。

御親閲を賜はりて

坂本尋高 村岡 正美

神の御姿を拜し神の御言葉を賜はり、唯々感激し、感涙に  
むせび、限りなき光榮を思ひ、重責を今更に感じ、粉骨碎身  
以つて聖旨に對へ奉らん。

大君の神のみすがたいや高く

皇國の榮ゆくを思ふ。

御親閲の光榮に浴して

入牧尋高 藤卷 稠太郎

昭和九年四月三日、御親閲。空前の光榮に浴す。  
陛下玉座に御起立遊ばされ御命釋賜りし時の崇高なる御影、  
御勅語賜りし玉音。感激の極いふところを知らず、「其ノ局ニ  
當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ」との御聲を拜するに至りては恐  
懼感激身命を献げたまつりて、聖旨の萬一に報いたてま



つらんと只管に心奥に刻まれ感涙滂沱としてとゞむる能はず。

光榮の御親閲式に參列して

入牧尋高 瀬山 壽治

精神作興大會に 陛下の御親閲式に選ばれて列し臨御を待つ間のあの神々しい嚴肅な氣持、やがて「氣をつけ」の合圖次に「君が代」の樂の音が流るゝや颯爽として玉座に玉歩を運ばせ給ふ御英姿を目のあたり拜してより還御あらせられるまでの間がたゞ夢の様過ぎ去つて胸うち震ひ心臓が高鳴るのみでした。そしてこの森嚴な光景のみが私の心と目に強くはつきり映じて居ります。

御親閲の光榮に浴して

西横野尋高 眞下 茂十郎

予兒童教養に従ふこと二十有七年、茲に昭和の聖世に遭ひて、親しく、龍顏に咫尺し玉音を拜し奉る、誠に光榮の極みなり。今や世を擧げて、非常時を叫び自力更生を説く、我等國民教育の重任を帯ぶる者、特に一大發奮なくして可ならんや。朝な夕なみことかしこみひたすらに

おほし立てなん大和撫子

御親閲の光榮に浴して

西横野尋高 眞下 參爾

昭和九年四月三日、吾等全國小學教員の代表者三萬六千、二重橋前大廣場に整列し、陛下の御閱を辱うす、無上の光榮何物か之れに如かん。加之、かしこくも優渥なる勅語を下賜せらる。誠に恐懼に堪へざるなり。今や我が國は、益々國家觀念を涵養し、國民道德を振作し、以て國運發展の根柢を充實せしむべきの時、此の聖慮を奉戴し、粉骨碎身、謹みて聖旨に副ひ奉らん。嗚呼、至幸なる哉。

御親閲を仰ぎ奉りて

西横野尋高 中山 ゆき

おごそかなる玉音を拜し諸人は

涙只涙感極りて。

教育に誠いたして御聖旨に

副ひ奉らん日々心して。

御親閲感激記

西横野尋高 佐藤 萬爾

記念すべし。昭和九年四月三日、かしこくも、我が天皇陛下には、宮城前大廣場に、御親臨あらせられ、優渥

なる小學教育に關する勅語を下賜せらる、是れ誠に、明治五年教育令發布以來の盛事たるべし。幾萬の群衆一つ心に恐懼措く能はず、引續き精神作興大會をなして緊張せり。

萌え出づるわが民草に培はむ

御旨かしこみ朝な夕なに

聖 恩

西横野尋高 山本 武弘

天皇陛下には、神武天皇祭日に、小學教員を二重橋外に於て御親閲あらせられ、優渥なる聖詔を賜ふ、臣等鸞駕の臨御を辱うして、龍顏に咫尺し奉り恐懼に堪へず、實に教員に取りては無上の光榮たり。是れ子々孫々に傳へ永劫忘るべからざる聖明の恩に浴し奉り、感激の至に堪へず、奮つて簪鈿を鞭ち。國民教育に獻身的精神を以て報恩致さんことを記す。謹みて、 皇上 皇嗣の萬歳を祝し奉る。

皇恩の有難さに感泣して

磯部尋高 金井 憲一

御親閲を仰ぎて

ふりそゞぐ春雨のごと大君の

めぐみ洽ねき今日の嬉しき。

皇太子殿下の萬歳を壽ぎ奉りて

碓米 郡

日の本の皇子あれまし、嬉しきを

雲井によばふ壽のこゑ。

精神作興大會に臨みて

我こそは今日よき日を心して

み國の爲につとめ勵まん。

春 七 句

磯部尋高 半田好太郎

春曉や上り列車のまつしぐら  
玉座白う微雨に輝く柳かな  
日章旗團旗と鳴れり風光る  
今は春雨頬につたはるばかりなり  
さんさんと恵みあまねし春の雨  
春雨の明るさに降る静かな  
萬歳を唱ふ 涙や花霞

此の佳き日

磯部尋高 今井友一

春雨に都の花も咲きそめて

今日の佳き日を壽ぎにけり。

宮の内に生ひ立つ松の浅みどり

萬代ふとも色は變らじ。



まのあたり拜む帝の雄々しさに  
 感きわまりて涙流るゝ。  
 大君のおほせ畏み塵の身を  
 捨て、學びの子等に捧げむ。  
 みこの宮壽ぎまつる歡聲は  
 雲の上まで聞えつがなむ。

佳き日

磯部尋高 佐藤 勇

玉座近く立てる國旗のはためきを  
 小兒の如く喜ぶわれは  
 出でませる若き帝の御眼鏡の  
 光りておはすなつかしきかな  
 かけまくもあやに畏しすめらぎを  
 仰ぐ我が眼に涙の湧くも  
 大君ののらすみことば聞きてあれば  
 我があまつかみ尊くおもふ  
 待ち惚びし今日の佳き日に巡り會ひて  
 我がこの心只に嬉しき

感激に濡れて

磯部尋高 佐藤彌之助

千代田の城の松が枝に注ぐ春雨いと煙り緑いや増す二重橋  
 集ひし子等の心待つ大君仰ふぐ今日の日よ  
 ひときは高きラツバの音銀鈴の如我が胸に柳動かす聲もなし  
 玉座に帝を伏し拜み、感激の涙にじみ出づ  
 あな畏くもすめらぎの玉のみ聲ははるばると國旗を軽く飄す  
 畏か敬かはた喜か涙か大君仰ふぐ今日の日よ

御親閱を拜受して

磯部尋高 萩原勝代

一  
 めぐみの露を身に浴びて、<sup>みゑる</sup>皇居の前に集まれる、  
 吾身の幸を偲びつゝ、  
 仰ぐ帝の尊きよ。  
 二  
 御國の力子等のため、  
 吾身捧げて盡さんと、  
 思ふ心のよりくくに、  
 仰ぐ御勅の畏きよ。

御親閱を賜はりて

磯部尋高 萩原いく

天地も感泣してか今日の日を

大内山邊けふる春雨。

まのあたり帝おろがむ我が身には  
 おほ御姿ぞ神と仰がる。  
 明らかく宣り給ひにし御聲こそ  
 春の小雨と身にぞしみける。  
 春雨のけふる千代田の森の邊に  
 御姿送る身に涙あり。  
 朝夕に教へるには立つ我は  
 永久に語らん今日の盛儀を。

御親閱を仰ぎ奉りて

東横野尋高 田中正雄

嚶曉たる喇叭の音は大内山に響き渡りぬ。大國旗は高く揚  
 げらるやがて 天皇陛下君が代の奏樂裡に玉座に着かせら  
 る。一同最敬禮にて御親閱を拜受したり。  
 余は遙か後方にて、目のあたり 天皇陛下の龍顔に咫尺し  
 得ざれど人の間に拜する 陛下の御英姿如何ばかり莊嚴にお  
 はしけむ、感極りて言葉もなし、聽て玉音朗に勅語を賜はる  
 教育尊重の御聖旨を伺ひ奉りては一意斯道に邁進せむ。

春雨

東横野校 木暮勝彌

春雨の大内山や松の色  
 春宮を壽ぐ人や衣更へ  
 有難き仰せ言葉や春の雨  
 御心に厚き感謝や春の雨  
 萬歳に揺ぐや堀の新緑  
 五月雨に語る宿直<sup>とら</sup>や御親閱  
 蚊やりして一夜感激を分ちけり

御親閱を仰ぎ奉りて

東横野尋高 大澤重夫

昭和九年四月三日宮城二重橋前にて御親閱を仰ぎ奉る、此  
 の日 天皇陛下には午後二時半御出御遊はし給へば、全員  
 皇儲殿下の御降誕を壽ぎ奉る。龍顔殊の外麗しく拜し奉り  
 ぬ。斯くて我等に對して辱くも御勅語を賜ふ。此れ教育の忽  
 にすべからざるをお諭し遊はされし歡慮に外ならず、嗚呼誠  
 に感激に堪へず、常に此れを心に銘じ、朝夕拜誦して以て御  
 聖旨に對へ奉らんことを誓ふ。



感じての歌

東横野尋高 田島福松

大君の詔かしこみひたすらに

大和撫子はぐくまん我

御親閲に浴して

東横野尋高 橋本 中

昭和九年四月三日、此日こそ終生忘れ難き記念日である。想ひ起すだに畏れ多き事ながら、天皇陛下の御前に於て、大やまと九千萬國民の、久しく待望し奉りし、皇太子殿下御降誕を奉祝し聖壽萬歳を壽ぎ奉ることを得たのは、臣子の身としては限りなき光榮なるを、更に優渥なる勅語を賜はり、只々、天恩の宏大なるに感激し、一層身を正し、堅實なる國民の養成に努めて聖旨に副ひ奉らんことを誓ふのである。

御親閲を仰ぎ奉る

東横野尋高 中澤 貞雄

四月三日午後一時 陛下に於かせられては、朝來よりの雨に吾等の身の上を案じさせ給ひ、式中雨具を用ひて宜しいとの尊い思召があつた。日常如何に大御心を吾々の上に注がせ給ふかを拜し、兩腋に露を宿した。莊嚴な君が代が千代田の森に響けば、天も聖慮を畏みてか、雨は小降りとなつた。

私は仰ぎ見るだに畏れ多い御英姿に咫尺せし時、世界に比なき帝國をまぎ／＼と意識し感激の涙に咽ぶのみであつた。

御親閲の日に

東横野尋高 田村富貴子

春雨の宮居邊高く晴れわたる

雄々し御こゑに心ふるへて

感激文

岩野谷尋高 富田 益造

二千五百九十四年神武天皇祭の佳節に當り春雨けむる宮城二重橋前の神域にて畏れも、天皇陛下臨御し給ひ御親閲あらせられ親しく優渥なる勅語を賜ふ。寔に恐懼感激の至りに勝へず此の無上の天恩に浴し深遠なる聖慮を拜察し奉り特に我が責務の大なるを思ひ身心を獻けて皇恩に報い奉らんことを期す。

仰ぎみる君の御訓かしこみて

いよ／＼はげまん重きつとめに

感激文

岩野谷尋高 秋山 甲馬

春雨煙る玉座上嚴たる御英姿に崇高、感激愈々深し、突

如勅語を給ふとの御沙汰、肅然襟を正す。おゝ尊き哉凛然として響き給ふ。玉音の尊嚴と歡喜に泣き四邊に靈氣漂ふ。玉の御聲に興起感奮したる多感尊王の偉人高山正之先生ならざるも誓つて奉公の誠を致さんの念油然として起るを覺ゆ。

ちさちさのみことのりふみ耳にしめ

心にゑりてつとめはげまん

感激文

岩野谷尋高 岡田 強一

げに千載一遇と云はん今日 大君の御前に親しく閱を賜はる。莊重なる君が代の裡に、畏れも、至尊の臨御あり咫尺に御英姿を拜す凛たる御聲四方に響きて優渥なる勅語は下賜されぬ。欣感骨髓に透り永久に忘れざる深刻なる何物かを胸に宿し恐懼感激の涙滂沱と湧きぬ。

ありがたき君がみこゑにこたへなむ。

御代おりなせる子らをそだてゝ。

感激文

岩野谷尋高 小野 貞義

皇紀二五九四年四月三日春雨そぼ降る中を、天皇陛下には玉座に臨御あらせられぬ。茲に臣等畏れも御親閲を賜りしは誠に千載一遇の欣幸とする處なり、加之玲瓏たる御玉音高ら

かに優渥なる勅語を賜りしは寔に恐懼感激に堪へず聖慮の宏遠なるに唯々感激の涙あるのみ。

臣等此の感激を永く心肝に刻み謹んで聖旨を奉體し以つて日夜粉骨碎身小學教育に奮勵努力し一意聖旨に副ひ奉らん。

無上の光榮に浴して

板鼻尋高 戸塚 泰三

昭和九年四月三日は、生涯忘れ得ぬ光榮の一日であつた。瑞祥溢るゝ宮城前に参りし時、既に歡喜と緊張とに身内の打顫ふのを禁じ得なかつた。此の日畏れも、天皇陛下には特に御親閲を賜ひ剩へ優渥なる勅語を賜ひました。寔に聖慮深遠聖訓肝に銘じひたすら感激の涙にむせんだ。永へに此の光榮感激を胸に刻し、益々聖旨を奉體し、夙夜精進聖恩の萬一に報い奉らんと深く心に誓つた。

有難き極み

板鼻尋高 山口 三二郎

皇紀二千五百九十四年四月三日これぞ生涯忘れることの出來ぬ有難き記念日である。此日、天皇陛下には雨中に臨御三萬の全國代表に向つて閱を賜る。燦たる御英姿仰ぐだに畏き極み、身も心も唯、陛下の大前に一人ひれ伏すの感あるのみ有難さに涙のじむを覺えた。又玉音朗々と賜ひし御勅語の



一言一句は深く心底に徹して大御心の程を拜し粉骨碎身以て聖旨に副ひ奉らねばならぬとの覺悟を新にした。

感激を綴る

板鼻尋高 鬼形 隆

皇太子殿下の御降誕は九千萬國民の感喜感激惜く能はざる處此の至大無限の景福に逢着し今又御親閱拜受の恩命に浴するを得たるは恐懼感激の外なく君民一體の寂慮畏き極なり。殊に優渥なる勅語を賜ひて教育の重んずべきを示させ給ふ大御心の程唯々感涙にむせぶのみ。御民我生けるしるしあり生きて聖恩に浴するを思へば。嗚呼何たる光榮ぞや。謹んで感激を綴り竹の園生の萬々歳を祈る。

御親閱拜受の感激に満ちて

八幡尋高 佐藤 四郎

昭和九年四月三日小學校教員代表者三萬六千有餘は、千代田の城の大前に於いて、精神作興大會を開き 皇太子殿下の御降誕を壽ぎ上げなん集ひを催しぬ。此の日 大君には親しく閱を一同に賜ひ畏くも御ことのりを垂れ給ひければ、唯々御聖徳の洪大なるに感激して、教育報國の一念萌ゆる更に新なるを覺えたり。

日のみこの現れまし、ことほぎを  
けふのつどひに聞え上げなむ  
五百重なす雲の中なるみ光を  
おろがみまつる今日ぞうれしき

御親閱を仰ぎて

八幡尋高 渡邊 元三

皇子あれまして竹のみ園生いやさかの  
住き日にあふをよるこばふあれ  
はぐくみの集ひに近く大君を  
仰ぎ見し日は忘れざらまし  
大君の勅を尊みかしこみて  
いよはげまん教育の業

御親閱を拜受して

板鼻尋高 須藤 ゆき

皇紀二千五百九十四年四月三日、この日こそ一生涯記念とすべき恐懼感激の日なりき、我が國民九千萬の同胞中第二國民養成の重き教職にあるが故に、かゝる恩命に浴することを得長くも 天皇陛下の龍顔を拜し、玉音を耳にせし時の感激― 我この恩命に浴せし感激を以つて更に奮起し朝夕重き職に奮勵努力し聖慮の萬分の一にも副ひ奉るべく深く期せり。

御親閱の光榮に浴して

八幡尋高 清水喜三太

畏くも、 天皇陛下の御親閱を仰ぐ全國小學校教員精神作興大會は昭和九年四月三日二重橋前廣場に於て最も嚴肅に舉行された。私も三萬六千人の一員として、仰ぎ見るだに畏れ多い天顔に咫尺し奉り加ふるに玉音期々たる勅語を賜はり一代の光榮に無限の感激を覺ゆると共に、聖慮のほどを拜察し奉りて恐懼措く所を知らず。益々奮勵努力健なる國民の養成に努め、聖恩の萬一に報い奉らんことを誓つた。

御親閱を仰ぎ奉りて

八幡尋高 小川 清三

昭和九年四月三日此の日こそ吾等小學校教員の畏くも 皇上陛下の御親閱を仰ぎ給ひし住き日なり。  
天皇陛下には陸軍通常禮裝を召され終始玉座に御起立在らせらる、森嚴莊嚴の極み其の感激言語に絶す、全員君が代を奉唱し聖壽無窮を壽ぎ奉れば玉音いと朗かに優渥なる御勅語を賜ふ。此の未曾有の光榮に浴する吾等何ぞ斯道に邁進盡忠報國の赤誠を誓はざらん。

大御心を拜して

八幡尋高 宮崎 節子

くにたみにかくも恵をかけたまふ  
日の大君のみことかしこし

御親閱詠二首

八幡尋高 山崎 しげ

待ち待てる今日の住き日に大君は  
出でまし給ひぬ民草のため  
春雨に身を清めたる心地して  
君の御前に歌ふ君が代

神代ながらの 至尊の御姿をまのあたりに拜し奉るの光榮と感激とを與へられた全國小學校教員の、御親閱は我國教育界未曾有の盛事として去る四月三日行はせられた。我等教育者をかくまで御愛撫し給ふ、聖慮の程を拜察し奉りては唯々感激の涙に咽ぶのみである。今や國家多難の秋に際し我等は誓つて身の重責を思ひ日夜粉骨碎身、以て今回の有難き聖旨に副ひ奉らん事を期するものである。



御親閲にこたへて

八幡尋高 吉澤ひろ

永久の誠意を君にさげなげなん

教への庭に生けるうれしみ。

をのがじし只一筋に大君に

こたへまつらん榮の此の身を。

春宮はるのみや生れたまひける大聖代おほひかみよを

祝歌たからにことほぎにけり。

大君の御英姿を仰ぎ奉りて

豊岡尋高 吉田良太郎

昭和九年四月三日、祥雲こむる皇城の畔、純白の玉座に目のあたり神々しい御英姿を拜し奉つては靈氣身に泌み渡り御前に「君が代」を奉唱せる我等の感激は眞に他の何ものにも譬へやう無き深いものであつた。更に長くも玉音いと御力強く勅語を宣せらる。嗚呼、此の光榮、此の聖恩、唯天恩の萬嶽よりも重く我が身の鴻毛より軽きを感じ、不肖身命を捧げて小學教育に淬礪し皇恩の萬一にも報い奉らんことを期す。

千代田の聖域にて

豊岡尋高 茂木貞二

春雨の煙る廣場に御姿を

仰ぎし刹那永久に忘れじ

大君の大詔かしこみて

重き務の身をぞ思へり

いとどまた教の道に盡さなむ

大御心をこころとはし

天顔を拜し奉りて

豊岡尋高 大山好夫

二重橋御前今正に仰ぐ爽壯たる御英姿、莊嚴、恐懼三萬六千の赤子只襟を正し我を忘れて、赤誠を捧ぐるのみであつた。君が代を歌ふ良き日は多けれど今、大君の御前にて歌ひ申すこの光榮が、又何時の日にかあるべき。生を昭和聖代に享けて、二十有七年夢想だにせざりし天顔を目のあたり拜して、無上の光榮と、無限の感涙に咽ぶを得たる何たる身の幸福であらう。

目のあたり御英姿を拜して

豊岡尋高 清水正明

此の嚴肅緊張の裡に、大君の御英姿を目のあたり拜しました瞬間、身は靈感に打ち震へ涙は止めども無く流れ落ち、私の頭は思はず知らず深く深く前へ垂れてしまひました。嗚呼、何たる尊い感激の瞬間だつたらうか。

再び千代田の森が目にはつきりと映じた時、我等が責務の重大さが嵐の如く心の底を破つてほど走り出づるのをどうする事も出来ませんでした。

御親閲を拜受して

里見尋高 花岡慶治郎

春雨に四方の草木も茂らなむ

恵みあまねき大八州國

大君の勅かしこみひたすらに

教のにはに立たんとぞ思ふ

御親閲を拜受して

里見尋高 入澤覺二

天つ風月のかつらを折るとても

わが日の本はさゆるぎもせず

たふとくもおごそかなりし御親閲

神のみくにはかくやあるらん

御親閲を拜して

里見尋高 原田文助

待望の四月三日、大内山に響く君が代の奏樂に一入の緊張を覺えた。頭をあげはるかに、御姿をはつきり拜し奉るれば有難さ、辱けなきが胸にせまり、しばし我が意識には、

陛下の外何物も無く、二重橋前の廣場も、三萬の群集もなかつた。御親閲中の御熱心さ、辱き勅語、大御心を拜すだに恐れ多き極みである。我等は此の無上の光榮、無限の感激にはつきりと進むべき道は意識された。道は一筋たゞ教育報國の誠あるのみ。

御親閲を拜受して

里見尋高 松本巳助

昭和九年四月三日、我等教員は御親閲を拜受す。當日は細雨しとくと降り注ぎ、其の中を二重橋廣場へ集合整列す。一同時の迫るを待つ。間もなく軍樂隊が君が代を吹奏す。肅然と襟を正した時は、玉座に、聖帝の御英姿は拜せられ、優渥なる御勅語を賜はり感激に堪へず。深く御聖旨を奉體し、粉骨碎身以つて之が貫徹に日夜努力し、御聖慮に應へ奉



らん。かくして無限の感激を以つて、聖壽萬歳を祝し奉りたり。

御親閲を終へて

里見尋高 深山 山 覺 仙

昭和九年四月三日午後一時半、全員入場を終り、畏くも陛下の臨御を仰ぎ奉れば、莊嚴な軍樂隊の「君が代」の合奏と共に、一同最敬禮の裡に玉座に着御遊ばされました。陛下には終始御起立あらせられて御親閲を賜ひ、後全員「君が代」の合唱に御聖壽無窮を壽ぎ奉れば、陛下には優渥なる御勅語を賜はり、我等教育者は深遠なる御聖慮を拜察し奉つて職責の益々重きを思ふ時、身を捧げて斯道に邁進し、御聖恩に副ひ奉らん事を深く期したのであります。

御親閲を拜して

里見尋高 金井 鶴 代

瑞氣みなぎる皇居の前に謹んで臨御を待つ。莊重な君が代の旋律に臨御と拜察。嚴肅の氣持、自づと熱涙を感ず。畏くも大勅に仰せられた國民道德の振作を深く心に刻み、今日の佳き日を壽ぎ、日夜恪守することを誓ふ。

御親閲を拜して

里見尋高 日野原 みつ江

緑に包まれる皇居の御前の靜肅な空氣を揺ぐ君が代の吹奏一入高鳴る我等小學教師の胸。無上の幸に感極まる今畏くも臨御遊ばされるを拜察する瞬間、身心感激に滿ち謹みて歌ふ國歌の節も覺えなきに、刺へ、玉音いとも朗らかに優渥な聖勅を賜はれば、愈々全身汗し、涙溢れ、責務の益々重きを痛感し、省みて只管、神明の御加護を祈りつゝ、天職を守りて微涓を教育に致さんと誓ふ。

無上の光榮

里見尋高 岡 田 秀 雄

曉々と響く喇叭の音、音もなく走る御車より出御、玉座に着かせらる。齊しく仰ぐ眼、只有難さに感極まつた。春雨降り続く中に微動もあらせられず、優渥なる勅語を賜ふ。陛下常に教育に御軫念あらせられ、特に本日御親閲を賜はり、神々しき崇高なる御態度、御近く玉音に接し恐懼感激に勝へず。この光榮を永久に膽に銘じ、教育報國の誠を致すべく御誓ひ申上げた。

御親閲拜受

秋間尋高 清水 育 治

吾等の待ちに待ちたる此の日、陛下には特に臨御遊ばされ御親閲を賜はり玉音を以て親しく優渥なる勅語を賜ひ小學教育の重んずべき所以を昭示し給へり。聖旨深遠洵に恐懼感激の至りに勝へず。此の古今未曾有の盛儀に列し唯感激の涙こぼれ又天地も感泣してかこまやかなる春雨に包まる。吾等此の無上の天恩無比の至榮を永く心肝に刻し愈々其の責務の重大なるを感じ夙夜精勵奉公の誠を致し聖旨に副ひ奉らん事を期す。

御親閲を拜受して

秋間尋高 萩 原 利 一

國を建てし遠き昔をしのびつつ  
しづしづつどふ御所のひる前。  
うるはしき御姿あふぐかしこきに  
胸ふさがりてなみだぐましも。  
おほみこといたゞきまつるけふよりは  
更にみがかんわがまごころを。

御親閲を仰ぎて

秋間尋高 眞砂しやう

みことのり下したまひし御心に  
我は對へん、いそしみゆきて。

御親閲拜受

秋間尋高 眞下まつえ

おのづから熱き涙にむせびけり  
我が大君を拜みまつりて  
日つぎの御子生まれしけるおよろこび  
きこえ上げたる今日のうれしさ



御親閲拜受の感想

秋間尋高 深 海 良 子

國民教育に従事する者は御勅語の御趣旨を奉體し誠心其の職に盡すべきは申すまでもありませんが今回圖らずも御親閲の光榮に浴し親しく龍顏を拜し御勅語を賜り一層其の感を深くしました。昔高山彦九郎先生が「我れをわれと思召すかやすめらぎの玉の御聲のかゝるうれしさ」と讀まれてあります。私もこれと全く同様の感にうたれ奮勵努力以て皇恩の萬一に對へ奉らねばならぬと深く腦裡に刻みつけられました。

御親閲拜受の感想

秋間尋高 小 林 四 郎

御英姿を拜みまつりて日の本の

ゆるぎなき世を尙祈るかな

おほみことかしこみまつるあしたより

さらにはげまんわれらのつとめ

御親閲を仰ぎて

秋間尋高 内 田 壽 郎

身に餘る榮譽や今日の御親閲

千歳に薫る花を育てん、

勅語を奉戴して

大君の恵に青む柳かな。

御親閲を仰ぎて

秋間尋高 田 島 盛 造

我帝國の天地と共に窮りなく榮え、君が御稜威の四方に輝くの淵源は皇室並に國體にあらせ給ふこと言ふも更なり。我等想を茲に潜め益々剛健なる國民精神を興し、大御心に副ひ奉る事こそ當の務なるを。辱くも御親閲を拜受したるは光榮の極なり。御聖恩の有難さに只感激あるのみ。  
よろづ代に匂ふ撫子育てなむ  
けふのみさとしむねにきざみて。

御尊姿を仰ぎ奉りて

後閑尋高 内 田 辰 巳

昭和九年四月三日、此の日は我等初等教育に従事するもの、等しく記憶すべき光榮の日であり感激に堪へざる至榮の日である。日嗣の皇子の御降誕を奉祝すると共に非常時日本に處する教育者としての精神作興大會は神武天皇祭の佳節に宮城二重橋前の大廣場に舉行された。春雨細かに注ぐ午後二時半軍隊の君が代の莊重なる音の廣場に流るゝや、陛下には宮中略式薄蕨にて二重橋を御渡御あらせられ颯爽として御召

皇恩に浴して

後閑尋高 津 金 英 治

すめらぎの日嗣の皇子のみさかえは

みことより副ひまつらんと朝夕に

教のみちにいそしむ我は

君恩に感激して

後閑尋高 須 賀 勝 彌

君が代を千代に八千代と唱ふなり

はる雨けふる皇城の畔

すめらぎの宣ひ給ひし大詔

心にしみて玉音しのばゆ

感激の涙

後閑尋高 新 井 久 男

嘯曉たるラツバの音は嚴に響き渡り、全員最敬禮の裡に天皇陛下には玉座に御起立遊ばさる、その颯爽たる御姿四海に御德普き現人神をまのあたり拜し玉音いとも朗に勅語を賜はる、高山正之先生の、我を我としろしめすかやすめらぎの玉の御聲のかゝるうれしさ、などおもひ出されて、そとろに

玉音を拜し奉りて

後閑尋高 金 井 竹 七 郎

玉音は大内山にこだまして

三萬六千の胸にこもりぬ

あなかしこ神のめぐみを身にうけて

生けるしるしを誇ぐ我は



溢れ出づる感激の涙は兩頬につたはる、涙にも種々あらう涙すべき時にも場合があらう、然しかくも尊きかくも美しき涙が他にあるであらうか。

御親閲を拜し奉りて

後閑尋高 悴 田 宇 吉

玉音の胸にひしひしせまりきて

おのづと落つる我が涙かな

大君の詔かしこみひたすらに

教の庭に我はつくさむ

大君を拜し奉りて

後閑尋高 有 阪 ら ん

大君の御閱拜せし嬉しさに

ながるゝものは涙なりけり

みをしへの群に入りたる身もちて

御前にうたふ今日の樂しさ

恭しく御親閲を拜受して

國衙尋高 高 木 和 三 郎

春雨に濡るゝのみかは大君の

めぐみの露にしぼる袖かな

むらぎもの心つくしてひとすちに

大御心にこたへまつらん

大君の御前に立ちてよろづ代を

ことほぎまつる今日の嬉しさ

朝な夕な大御心をかしこみて

おほし立てなん大和撫子

恭しく御親閲を拜受して

國衙尋高 上 原 穰

全國小學校教員精神作興大會に於て長くも 天皇陛下の御親閲を賜ふことを得たるは眞に千載一遇の光榮なり。宮城前聖域に於て御尊影を仰ぎ奉り剩へ優渥なる勅語を諭示せらる誠にて恐懼無限の感激に堪へずたゞたゞ感涙にむせぶのみ。我等國民教育の任に當る者益々其の任の重且大なるを思ひ宜しく聖旨を奉體し夙夜確固たる信念と不屈不撓の勇氣とを以て斯の重大なる天職に精勵し以て皇恩の萬一に報いんとす。

御親閲を賜はりて

國衙尋高 潮 佳 喜

小學校教員精神作興大會に列し長くも御親閲を拜受し得たるは無上の光榮なり。剩へ優渥なる勅語を賜はり小學校教育の重んずべき旨を昭示し給ひ深く國民の教育に軫念し賜ふ。定

に恐懼感激の至りに堪へず、其の身國民教育に職を奉するもの感奮措く能はず一段と教育の重任なるを覺ゆると共にこの光榮を夙夜佩服し研磨黨陶の務に精進し聖慮に副ひ奉るの信念と熱とを以つて皇恩の萬分の一にも報いんとす。

恭しく御親閲を拜受して

國衙尋高 小 宮 山 よ し

天地の神も我等の衣ぬらす

我大君の御聲拜して

大君のいでまし給ふこのあした

ただ感涙に我むせぶのみ

御親閲を拜し奉りて

細野尋高 吉 田 今 朝 次 郎

四月三日。之れぞ我等の榮光と瑞祥とに包まれたる佳き日なり。聖慮の深遠無窮はいよゝゝ恐懼に堪へず。ますゝ大調を體し夙夜淬礪以て聖旨に對へ奉らんことを期す。

年毎に縁いやます千代田城

千代に八千代に動かざらん

承けつぎし遠つ御祖の御詔を

明かに拜む現神かも

御親閲を拜受して

細野尋高 岩 井 長 太 郎

四月三日嘯曉たるラツバの音は、大内山に響き君が代の軍樂は奏でられ行幸の自動車は目眩にせまり 陛下にはいと崇高に玉座へと臨御あらせられる。一同最敬禮を行ひ國家を歌ふ。余は呼吸をするともなく歌ひ終へた。人と我真に渾然一體皆聖壽の無窮を永なへに壽ぎ奉る。この時、長くも優渥なる勅語を賜はりて感涙にむせび粉骨碎身斯の道に精進せんことを期するものである。

御親閲を拜受して

細野尋高 新 井 九 十 郎

皇太子殿下御降誕を奉祝し、全國小學校教員精神作興大會を舉行せらるるに當り、忝くも 天皇陛下の御親閲を仰ぎ奉り我が教育史上空前の盛事に浴するを得たるは洵に感激の至りに堪へず、此の日冷雨を降る天候をも御厭はせ給はず行幸あらせられ優渥なる勅語を賜ふ。恐懼置く處を知らず爾今益々勉勵教育の職責に盡力し以て極りなき天恩の萬一に報い奉らんことを期す。



御親閲を拜受して

細野尋高 石井 計衛

「我を我と知召すかや天皇の玉の御聲のかゝるうれしさ」。一介の小學校教師として長くも天顔に咫尺し奉り聖勅を賜はる。嗚呼何たる光榮何たる辱さぞ。この無上の寵遇に浴するもの高山先生ならずとも誰か感泣せざるを得ようか。仰いで神々しき御姿を拜し、俯して聖勅を拜聽する時聖代に生を享け 聖天子を戴きまつる至上の幸福と感激の中に御民として小學校教師として邁進すべき大道が拓けるのであつた。

御親閲を拜し奉りて

細野尋高 佐々木 敬

莊重なる軍樂吹奏裡に 聖上陛下には静かに玉座に着御なされた。あの神々しい御様子感激の波は胸に全身に躍つた。我々はおのづから君が代の奉唱をなし聖壽の萬歳を稱へずにはをられなかつた。この歡喜この光榮の中に 聖上陛下より畏くも優渥なる御勅語まで賜つた「夙夜奮勵努力セヨ」この有難き御言葉、あの尊い御英姿、この感激を只感激に終らしめずこの道の大きいなる泉とせねばならぬことを泌々と感じた。

御親閲の榮を得て

細野尋高 内堀 かね

時恰も四月三日神武天皇祭の當日でございました。畏くも天皇陛下には二重橋前に於て私達教育者の爲に御親閲を賜はつたので御座います。此の日特に有難い御勅語までお下しになり一層恐懼致すの他なく唯々感涙に咽ぶので御座います。斯く大御心の程を深く拜しまして皇運の益々無窮ならんことを祈ると共に國家教育の重任に當る者の責任の重且大なる事を深く感じました次第で御座います。

御親閲を拜受して

細野尋高 織 茂 鼎

昭和九年四月三日我等教育者天顔を拜し得るの榮を賜はるの秋終始御直立の儘にて御親閲あらせられしあの神々しさ、御健さ、朗々たる玉音、畏くも祖宗の御精神を體現し給ひいと畏し。御英明を拜し其夜静かに我が御歴代の皇室を偲び今日又龍顔に咫尺し奉り優渥なる勅語を賜はりたるを思ふ時感激此の上なし、此の感激もて職務に努力せざるべからずと強き感懷を抱けり。

無邊の聖恩に感激して

烏淵東部尋常 長谷川 精一

のりたまふ今日のみさとしかすならぬ  
わが身にあまりかしこかりけり  
わがちからおよぶ限りをかたむけて  
かみのみむねにこたへまつらむ

聖恩鴻大なるに感激して

烏淵東部尋常 中島 千四松

わたつみの大海原のするとほく  
御稜威の波はうちよするなり  
教草生ひ茂らせとのり給ふ  
おほみさとしの身にしみておほゆ  
我が子にも我がうまごにもかたらはん  
ひぢりの君のおほみことのり

目のあたり拜みまつりて

烏淵中部尋高 廣神 確 治

御壕の柳は黄色に芽ぐんでゐる。全國小學校教員は宮城二重橋前に教育報國宣誓のため集つた。天皇陛下には此の機會に御親閲を賜はるとの事であつた。御寫眞では度々奉拜し

光榮に浴して

烏淵中部尋高 塚 越 皓 次

四月三日、この日こそ、私の全生涯を通じて決して忘れることの出来ない感激の日であり、永遠に記念すべき意義深い日でございます。仰ぎ見るさへ畏れ多い天顔を今日のあたりで拝しました私は、恐懼と歡喜との交錯した一大感激に撃たれ只只「教育報國の爲に身を捧げねばならぬ」といふ念以外に何物もございませんでした。この感激を常に心に刻し教育の爲に戒飭淬厲以て聖旨に副ひ奉る決心でございます。

御親閲を仰ぎて

烏淵西部尋高 田村 宇三 郎

永遠に記念すべき日、榮譽と喜悅に満つるの日、即ち昭和九年四月三日、我等全國初等教育者精神作興大會は宮城前大廣場に開催せらる。此の日、畏くも 天皇陛下には親しく臨御あらせられ、御親閲を賜はり剩へ優渥なる勅語を下し給ふ。



誠に感激の極なり。我等聖恩の辱きを拜すると共に責務の愈々重きを感じ。將來益々兒童教育郷黨指導に専念し三千年來鍛へし愛國的信仰を培ひ、只管聖旨に副ひ奉らんことを期す。

小學教員たる譽

鳥淵西部尋高 原田久作

一介の小學教員たる我々に『お目通り』を許さる、誠に未曾有の破格なり之 陛下の教育に御軫念あらせらる御聖旨の賜、身千載一遇の好機に生れ小學教育の天職を擔ふが故に此無上の光榮に浴し剩へ小學教育に千鈞の重きを置かせ給ふ勅語を賜はりたる、何たる光榮ぞや。深き敬慮を拜察し奉りて、無限の幸福と底知れぬ感激と心の奥底に湧起る無涯の力を體認し 陛下の小學教員の一人は我ぞとの誇りを感じたり。

吾妻郡

御親閱を仰ぎ奉りて

中之條尋高 宮崎 貴

われもまた生ける驗あり古歌の  
しみんと今日胸に應へて  
宮ちかくつどへる人の聲たえて  
おほろかに均す玉砂利の音  
大君の行幸よろこび九重の  
御橋のほとり鳩の群とぶ  
大神の天降りましたる心地して  
迎へまつりぬ今日の行幸を  
大君の立たせたまへる御姿は  
現人神にぞおはしましたける  
大君の玉の御聲のかゝるとき  
おく露ふかしわれら民草  
大君の御前にわれも立てるけふ  
世になき母の偲はるゝかな

御親閱を拜受して

中之條尋高 木暮千太郎

昭和九年四月三日、宮城二重橋前大廣場に於いて全國小學  
校教員代表に對し畏くも 天皇陛下には特に臨御あらせられ  
御親閱を賜はり且優渥なる勅語を賜ひて小學教育の重んずべ  
き旨を昭示し給ふ。寔に感激の至りに堪へず。殊に卑賤の身  
として、天顏を拜するだに光榮の極みなるを近く玉音を拜し  
眞に畏しとも畏き極みなり。今後一層教育者の責務の重きを  
自覺し、身命を献げて斯道に精進せんとなす。

感激二一首

中之條尋高 高橋素二

三十年のつとめつくせし甲斐ありて  
今日の御幸にあふぞ嬉しき  
大君の御言かしこみ今日よりは  
つねにもましてはげみつとめん  
あゝ尊し

中之條尋高 荒井正雄

昭和九年四月三日、これ畏くも御親閱を賜はりし光榮の日  
なり。細雨爛る千代田城外玉座遙かに至尊の颯爽たる御姿を



拜す。あゝ尊し。猶畏くも御親閱を賜はり、更に親しく勅語を賜はる。眞に感激の極なり。天顔を拜するに我等終生の光榮なるを近く玉音を拜す。昭和の聖代に生れ、身を小學校育に奉ずればこそ、かゝる光榮に浴するなれ。永く此の光榮を心肝に刻み、教育に涓埃の力を致し、宏大なる聖恩の萬一に報い奉らん事を期す。

御親閱を仰ぎ奉りて

中之條尋高 内田 勇

昭和九年四月三日春雨爛る二重橋前の聖域に肅然と威儀を正す、折しも起る君が代の奏樂。天皇陛下颯爽と臨御あらせられ御親閱を賜はる。我等感泣しつつ聖壽の無窮を壽ぎ奉る。畏くも 天皇陛下には玉音朗かに優渥なる勅語を賜ふ。寔に恐懼感激の極なり。斯くて榮ある御親閱を終り鳳輦を送り奉る。我等此の光榮と聖勅とを永久に奉體し夙夜努力奮勵皇恩の萬一に報い奉らん。

大君ののらせし勅かしこみて

たた一すちにふみ行かんわれ

御親閱拜受の光榮に浴して

中之條尋高 小林 乙女

輕き身に重き務をしみじみと

今日ぞ思へる行幸仰ぎて  
あなたふと君が御旨に應ふべく  
甲斐なき我も奮ひて立たん

御親閱の光榮に浴して

中之條尋高 齋藤 操

春漸く酣ならんとする神武天皇祭の佳き日、あゝ何たる光榮に輝ける日ぞや。はるばると全國より集り來る小學校教員代表が宮城前の大廣場に雲集整列し、畏くも 天皇陛下の出御を御待ち申上ぐる中に、春雨けふる大内山より軍樂隊の吹奏する君が代につれ嚴肅裡に臨御玉座につかせらる。その御英姿。居並ぶ三萬六千の民草の胸中は如何に。實に莊嚴、緊張、君が代を歌ふ我が身はいつか聲をふるはし切れ切れにつづく。然し熱誠こめたる國民のその奉祝の聲こそ、他國に比すべきものやある。しかして優渥なる勅語を賜はり、畏き極みなり。此の有難き聖慮を奉體し益々奮勵し謹んで聖旨に副ひ奉らん。

御親閱の光榮に浴して

中之條尋高 星野 ひさ

昭和九年四月三日、此の日こそ私達の榮ある御親閱、小學校教員代表者三萬六千有餘人は宮城前大廣場にて大君の御英

天恩に浴して

東尋高 小池 邦

かしこさにわれを忘れて感激の  
外何もなしはえの受閱に  
うるはしき玉の御聲をたまはりて  
たゞ感激のなみだのみわく  
みをしへをあやに尊くかしこみて  
おほし立てなん大和なでしこ

御親閱の光榮に浴して

東尋高 依田 忠雄

おごそかに立たせいませる御姿の  
神々しさにまぶたしばたく  
うつくしき玉の御聲をかしこみて  
なほもはげまん育みの道  
大君の御前に立ちてかしこくも  
たゞ感激の萬歳の聲

御親閱を拜受して

東尋高 佐藤 卷之助

昭和九年四月三日嗚呼何と言ふ光榮の日であります。此

姿をお待ち申上ぐ。けふるが如き春雨も漸く薄緑せし柳に玉ぬき初め一入の緊張を加ふ。忽ち上る煙火。續いて起る君が代の奏樂。天皇陛下臨御。嗚呼其の壯嚴さ。龍顔麗しく御着御遊ばされ給ふ御英姿。未だ曾て例なき御親閱。尙又、陛下には優渥なる御勅語まで御下賜遊ばさる。かくまで大御心を留めさせ給ふ。一天萬乗の大君を目のあたり奉拜する私達は恐懼感涙あるのみ。唯々兒童教育に邁進し以て御聖旨の萬分の一たりとも報い奉らん。

御親閱拜受の光榮に浴して

中之條尋高 茂木 不二子

昨年末 皇太子殿下の御降誕を拜し誠に恐悅歡喜の至りでございます。明けて卯月三日神武天皇祭にあたり、宮城前の聖域に於いて御親閱あらせられ、剩へ優渥なる御勅語を下し賜はりました。御軫念の程拜察するに恐れ多き極でございます。龍顔を拜し得た喜び之に過ぐるものがございませうか。此の光榮に浴し有難き聖旨を奉戴した私共小學校に職を奉ずる者、一意教育報國の道に精進し大御心にそひ奉らねばと一層その感を深くしたのでございます。



日天顔に咫尺し奉り玉音を拜す、此光榮感激は只感泣するのみであります。この無上の光榮に浴し將來の教育に至大の力と熱が加へられ、明かに教育道がさし示されました。はふり落ちる感激の涙をおさへ無窮の聖恩に對し責務の重きを思ひ身をさげしてお對へしようと思ふばかりです。

大君の聖旨かしこみ一途に

教の業にいよよはげまむ

御親閲を拜受感激して

東尋高 松井 昇

大君の下し賜ひし教へ草

學びの道ぞ夢な忘れそ

大君の御前に我は佇みて

教への道に涙溢るる

御野立の英姿輝く五大洲

聖恩に嗟ぶ雫や春の雨

拜謁の二字は尊し家の花

聖恩に浴して

東尋高 福原ウメヨ

卯月の空暖き御恵に櫻の蕾もほころびかけた三日聖恩に浴し得た身の幸、たゞ喜びの心ばかりであつた。萬物も皆佳き

日にめぐり得た身を祝ふが如く、日の光もやはらかに恵の雨も胸に沁み心はをどり、感激の中には過ぎて行つた。何事も考へずたゞ佳き國に人と爲り、世界に比なき大日本の第二の國民を教へ導く務の尊さがひし／＼と心を打ち、此の務を果し終へんとちかふばかりであつた。

御親閲を賜はりて

太田尋高 關 有志三

全く恐れ多い、ありがたいことです。殊に小學の教員、未曾有の御恩典、體は直立、たゞ肅然。恐懼感激。無我の境地にいつの間にか感涙の頬に傳はるを意識したその刹那、玉音朗々長くも優渥なる御勅語の玉の御聲を拜しては、再び感激、血は躍る、報國の念、焰と燃え、あゝこの佳き日を境として。

五雲瑞氣皇城畔 臣等三萬感激群

聖恩優渥淚潤頬 更期一死報君國

感激の日

太田尋高 戸谷莊一郎

昭和九年四月三日、吾等は感激の極に達した。君が代、奉祝歌の一節毎に涙が浮ぶ、唯々有難い。

天皇陛下の外何物も意識されない、御姿は拜し得たが、ぼう

つとして龍顔の程はしかと拜し得なかつた。優渥なる御勅語を賜はり感涙に咽ぶ。前進の一步々々に有難い感激の思をこめて歩んだ、目のあたり玉體を拜してたゞ有難く至誠報國聖恩に應へ奉るべく強く強く決心した。

御親閲を拜受して

太田尋高 折田松太郎

御親閲拜受の光榮に浴す。これ小學教員なるが故、思へばこの雨空、聖慮を惱し奉る事ども一掃せでおくべきか。

聖上陛下の御英姿を拜し只々有難き身にしみ、眼頭いと熱くおのづと感激に咽びたりき。辱くも親しく優渥なる御勅語を賜ふ。聖慮の程畏しとも畏し。御聖勅を奉體するに教育者の天職を信じ、健全な身體を以て、温故知新の精神を以て、日常生活の上に實證し、日本人なる大信念を把握して聖慮を安んじ奉りたし。

光榮に浴して

太田尋高 本多かう

緊張と感激の幾日か過ぎ、建國三千年の歴史を偲ぶ四月三日、宮城前の聖域に於いて御親閲を拜受した。嚴肅な天地に君が代の莊嚴な樂の音が流れる時、無言の中に緊張していよいよ嚴肅となり有難さいよ／＼身にしむ。畏くも夙夜努力せ

よとの優渥なる御勅語を賜はる、感激の涙頬を傳ふ。玉座にまします天顔を拜し奉つた感激の瞬間を久遠の生命として身命を賭して教育報國の實を挙げねばならぬ。

御親閲を拜受して

原町尋高 小池 永吉

昭和九年四月三日これこそ余の生涯を通じて、最も感激に満ちたる一日なりき。儀仗兵に打ち守られし御車の二重橋の御通過、既に吾人は或る尊さを感じぬ。玉音いとも朗かに聖勅を下し給へる刹那、其心境は到底筆舌の盡す所にあらず。たゞ感激の涙の滂沱たるのみなりき。今回天顔に咫尺し奉り加ふるに有難き聖勅を拜受したる我身を顧みて、この光榮を確固と心肝に銘じ粉骨碎身一大勇猛心を以て教育道に精進し聖旨に副ひ奉らん事を期す。

御親閲を仰ぎ奉りて

原町尋高 渡邊千代丸

うたのこゑ車中に満ちて御幸仰ぐ  
心はとみにひきしまるかな  
九重の雲井にまでとこころして  
君が代をうたひたてまつる哉  
すめらぎの玉の言の葉かしこみて



盡しまつらんみをしへのみち

大君の御影仰ぎて

原町尋高 中島 忠雄

いでましの喇叭は鳴りぬ御自勳車は

いま鐵橋を渡りそめたり

大君のみかげ仰ぎていよいよに

身をも心も献げんと思ふ

すめらぎの畏き御詔勅仰ぎたる

今日のおよき日を永久に銘さん

御親閱を賜はりて

原町尋高 眞田 勝重

昭和甲戌春四月三日、宮城二重橋前の聖域に全國小學校教員大會を開催し、皇太子殿下の御降誕を壽ぎ奉り、更に現下の情勢に鑑み吾等教育者たるもの、精神作興を誓ふ。

此の日畏くも 聖上陛下には特に臨御あらせられ、御親閱を賜ひ、優渥なる聖勅を下賜せらる。聖旨の深遠洵に恐懼感激に勝へず、職責の益々重大なるを思ふ。此の光榮と感激を心肝に刻し、赤誠以て夙夜奮勵努力し、聖旨に副ひ奉らん事を天地神明に誓つてやまざるなり。

御親閱の御恵を拜受して

原町尋高 大川 みや

御親閱!! 何たる感激に満ちた言葉であらう、春雨こまやかにけぶりて九重の奥は愈々森嚴。

陛下の臨御を待ちわぶる全國代表者の輝かしき瞳よ、莊重なる君が代の奏樂裡に 陛下には御英姿颯爽として着御あらせられた。玉音玲瓏一語一語御力を強めさせられて賜はりたる御勅語も、心と聲の限りを盡して奉唱申し上げし 皇太子殿下御降誕奉祝歌も、肅然として、還御遊ばされし御鹵簿の御目送も終りて始めて我に歸れば、たゞ聖壽の萬歳を祈り奉る心境を覚えしのみ。

御親閱を拜受しまつりて

岩島尋高 山田 吾郎

玉の御聲きまつる身は高山の

君になりたる心地こそすれ

すめらぎの御前に立ちて仰ぎ見る

この喜びを何にたとへむ

日の御子のあまりましを大君に

壽詞さげぬ數ならぬ身も

大君のみことのりをば身にしめて

教の道にいざやはげまむ

我かつとめいよゝ重きを加へけり

今日みことのりきくにつけても

御親閱を拜受し奉りて

岩島尋高 日野 軍治

大内山に瑞雲こむる昭和九年四月三日、これぞ我等の最も感激措く能はざる日なりし。即ち、謹みて 皇太子殿下御降誕奉祝の爲、同日午後二時三十分宮城前大廣場に於て畏くも 天皇陛下の御親閱を仰ぎ奉り、全國小學校教員中三萬六千人の一員として、御親閱を拜受し優渥なる勅語を賜はる。我等の光榮之に過ぐるものなし。茲に彌々皇運の無窮なるを祈り奉り、益々勉勵教育報國の至誠を捧げ、以て聖旨に副ひ奉らむ事を誓ひぬ。

御親閱を拜受し奉りて

岩島尋高 愛 敬 四 郎

昭和九年四月三日、瑞氣洋溢せる宮城二重橋前廣場に於て皇太子殿下御降誕の御慶事を謹んで奉祝するに際し、茲に畏くも、天皇陛下には臨御し給ひ、全國小學校教員代表者三萬六千人を御親閱あらせられ、優渥なる勅語を賜ふ。此の盛事に會し天恩に浴するは、無上の光榮として恐懼感激の至

りに堪へず。吾教育に従事する者として、皇恩の萬分の一に報い奉り次代の國民に範となり師表たるの本分を竭し、國本を培養するの益々重大なるを深く感ず、恐懼誠惶謹んで誌す。

御親閱を拜受し奉りて

岩島尋高 小池 源重郎

大君のおましはるかにをろがみて

さかゆくみよにあれしちちおもふ

くにの子らよくをしへよと大君の

おほみことのりいとまかしこし

身はかるくつとめは重し日のものとの

をしへのみちにいそしまんわれ

御親閱を拜受し奉りて

岩島尋高 都 所 壯 平

現神千代田の宮をいでましぬ

涙はるかにをろがみ奉る

大勅語心に刻りて一すぢに

いざはぐくまん大和なでしこ

皇子祝ふ萬歳の聲とゞろきて

千代田の城のゆり動かかな



御親閲を拜受しまつりて

岩島尋高 角田 穠 作  
あまつひのとよさかのぼる御英姿を  
けふのよき日にをろがみにけり  
あなかしこおほみことのりみにしめて  
をしへの庭につとめはげまむ

御親閲を拜受し奉りて

岩島尋高 宮崎 あい  
緑濃き大内山に満ち互る  
壽ぎ祝ふ民草の聲  
諸人と祝ひまつらん天地に  
ちかひて萬世に動きなき代を  
しめやかに烟る御殿の松に映え  
天つ皇國のみしるしの旗

御親閲を拜受し奉りて

岩島尋高 竹淵 愛子  
みたみ我かたじけなくも今日ここに  
高きみいづを仰ぎつるかな  
九重の雲の上よりおりたちし

御親閲を拜受して

坂上尋高 黒岩 福太郎  
昭和九年四月三日、是ぞ吾人の終生忘るべからざるの日なる。この日、宮城の畔に集まれる全国小學校教員の代表者は皇太子殿下の御誕生を奉祝し、併せて精神作興の大會を開くや、長くも 天皇陛下には御親閲あらせられ且つ優渥なる勅語を賜はる、寔に恐懼感激に堪へず、即ち永く此の光榮を心肝に銘じ、一意専心斯道のために盡瘁し、以て聖慮の萬分の一に報い奉らん事を誓ふ。

御親閲の光榮に浴して

坂上尋高 樋田 濟  
ありがたき御沙汰かしこみ詣づれば  
神の廣前雪眞白なり

かくまでに御惠ふかき御代にあひて  
身のおこたりのはづかしきかな  
大君の御前につどひ大君の  
萬々歳を唱へ得たりわれら

御親閲を拜受して

坂上尋高 劍持 福治  
待ちわびし日嗣の御子は生れまして  
喜び祝ふ君の大前  
君が代を壽ぎまつる其の聲は  
千代田の森にとどろきにけり  
かくあれと下し給ひし御諭しに  
そひ奉らんと今日ぞ誓ひし

御親閲を拜受して

坂上尋高 腰塚 利市  
天皇のまします城の大前に  
教へびとども集まりにけり  
現身の神にまします大君を  
をろがみにけりしこぐさのみに  
大君のみめぐみかしこ子等の爲  
身をつくしてぞつくさんと思ふ

勿體なし

坂上尋高 田口 安義  
高潔の氣漲る同志三萬六千、御親閲を仰ぎ奉るの光榮に、肅として聲なき二重橋前の壯嚴さ、天よりの聲聞ゆ。  
國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ事ニ其ノ局ニ當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ  
勿體なし、優渥なる勅語を賜はる。恐懼感激の中に教育報國を宣誓し、精神作興大會閉づ。誓ひ奉る國子の教導の全うせんことを。

御親閲拜受

坂上尋高 西澤 義雄  
昭和九年四月三日、是ぞ、永遠に記念すべき榮譽と喜悅と感激とに満つる吉き日なる。長くも  
天皇陛下には親しく臨御し給ひ特に御親閲あらせられ、なほも優渥なる勅語を賜ふ。寔に感激措く能はず只々感涙の滂沱たるのみ。永く此の至榮を心肝に銘じ、身命を献げて教育の事に致し日夜淬礪堅實有爲なる國民を養成し、以て聖恩の



感激

坂上尋高 湯本 次郎

むち打ちて己が務むるなりはひに

いよよはげまんと今日ぞ思ひぬる

世の海の波風いかに荒くとも

生ふし立てなん大和撫子

緑こき大内山のはのへに

いやさかなれと壽ぎしかな

御親閲を拜受して

坂上尋高 加邊きわ子

昭和九年四月三日、宮城二重橋前廣場に於いて忝くも御親閲を賜はる、我等の光榮譬へん方なし、尙其の上に親しく優渥なる勅語を賜はり小學校教育の重んずべき旨を昭示し給ふ。身小學校教育の職をけがすの故を以てこの光榮を辱うす、かへり見て教育者としての責任の重大なることを思ひ今後いよゝ奮ひ立ちて聖恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふ。

御親閲を拜受して

坂上尋高 丸橋はぎの

御親閲拜受せし身のほまれをば

教へ子たちに分ち與へん

大君の降り給ひし御昭示に

感激胸を裂かんとぞする

かしこくも此の度うけし光榮に

教への道にたどり報いん

感激

長野原尋高 桑原 一二

昭和九年四月三日 天皇陛下には吾等小學校教育關係代表者に對し、御親閲を賜はり、且優渥なる聖教を垂れ給ふ。

聖旨深遠、寔に感激の極みなり。我等は愈々感奮興起、誓つて教育の重任に猛進し、以て教育報國の誠を致して聖恩に對へ奉らんことを期す。

春雨煙る皇城、二重橋渡御の風聲、颯爽たる 至尊の英姿と朗々たる玉音、皆吾等の一生を支配する奉公の源泉として強烈なる刻印を肺肝に刻しぬ。

御親閲を拜受して

長野原尋高 萩原 四郎

去る四月三日御親閲を賜はるの日、我等は二重橋前廣場に整列し 天皇陛下の臨御を待つ。やがて宮城より出御あらせ給ひし 陛下には親しく玉座につかせ給ふ。神々しき現の神

たる御姿を初めて拜せし我等は思はず襟を正し頭を垂れぬ。尙長くも勅語を賜はり、感激の熱涙自ら双頬に下る。あゝ我等此の聖慮を拜察する時、一層職務に精勵し忠良なる第二國民の養成に粉骨碎身の誠を捧げ、以て聖恩に報い奉るべきなり。

御親閲を仰ぎて

長野原尋高 橋爪 辨太郎

昭和九年四月三日、我が終生忘れぬ光榮の日、

天皇陛下には全國小學校教員代表三萬六千を宮城前に於て御親閲遊ばさる。我實に此の光榮に浴す。

畏くも 陛下には玉座に進ませ給ひ、玉音朗かに勅語を賜はる。滿場肅として感激に打たる。嗚呼此の光榮に浴し、我何を以てか此の無窮の聖恩に報ぜん。現職を天職と思ひ益々奮勵努力聖恩の萬分の一に報い奉らんのみ。

御親閲を拜して

長野原尋高 永井 義一

萬緑いよいよ深く地氣ますます熾なる四月三日全國小學校教員代表が宮城二重橋の大前に於て、天顔を仰ぎ畏くも優渥なる勅語を賜はつたのはあまりに勿體なく、感激措く所を知らなかつた次第である。

我等教育の重職にある者は齊しく此の聖旨を奉體して一層精勵教育報國を全うし、聖恩の萬一に報い奉る覺悟である。

御親閲を拜受して

長野原尋高 角田 松重

昭和九年四月三日、此日こそ私共小學校教員にとつて、終生忘れることの出来ない光榮の日でありました。畏くも

天皇陛下に於かせられましたは、國民教育のことに大御心を注がせ給ひ、全國代表三萬五千の小學校教員精神作興大會が二重橋前廣場に開かるるや、龍顏麗しく臨御遊ばされ、御親閲を賜ひ、玉音朗々優渥なる勅語を下し給はりました。此の盛儀に參列の榮を蒙りました私共自身の光榮は申すまでもなく、小學校教育の任にある者の末代迄の榮譽と申さなければなりません。此上は勅語の御趣旨を奉體して、至誠兒童教養の任に當り以て聖壽の萬歳、寶祚の無窮と、帝國の繁榮を期し、聖恩の萬一に奉答するの覺悟を持つことが肝要であると思ひます。

數ならぬ身にしあれども大君の

御聲まともにかゝる嬉しき

御惠の露に霑ふ幼兒も

やがて皇國を背負ひ立つかな



光榮に浴して

長野原尋高 渡邊みほの

皇太子殿下御降誕あらせられ九千萬同胞は欣喜措く所を知らず、即ち昭和九年四月三日瑞雲こむる皇城の大前に全國小學校教員代表三萬六千は、皇太子殿下御降誕を祝し奉り、國民精神作興大會を開きたり。天皇陛下には御親閱あらせられ勅語を賜はりし事は恐懼の至なり。

我々教育者は此の聖恩に浴して我が責務の重且大なるを思ふ。故に益々教育の爲めに盡力し以て聖恩に報い奉らん事を期する次第なり。

御親閱を拜して

長野原尋高 齋藤ふみ子

號砲一發大國旗は冲天に掲揚され嘸曉たる喇叭の音は嚴かに響き渡り軍樂隊の君が代奏樂裡に、陛下式場に入御、颯爽として玉歩を運ばせ給ふ。陛下の御英姿を拜し全員水を打ちたる如く一齊に深く頭を垂れ實に萬感交々到り、感涙あふるる有様なり。長くも、天皇陛下には終始玉座に御起立あらせられ御親閱を賜ふ。全員君が代を奉唱し、皇太子殿下御降誕を奉祝し聖壽の無窮を壽ぎまつれば、陛下には玉音朗かに勅語を賜ふ。嗚呼其の感激。

御親閱を辱うして

長野原尋高 角 永雪 江

瑞氣こむる大内山の彼方より、天皇旗を御先に、朱の御車。小雨降る肌寒き中を御厭ひなく、玉座高く立御せられつゝ、長くも御擧手の御答禮を下さる。

御英姿を拜し奉り、斯くも親しく私共民草を愛しみ下さる大御心又長くも優渥なる御聖勅を賜はりたる此の有難き光榮に對へ奉り、尙一層の努力をなし、その萬分の一たりとも應へ奉るべしと覺悟致しました。

御親閱を賜はりて

嬭戀東尋高 山 田 武市

皇太子殿下御降誕を奉祝し、全國小學校教員精神作興大會宮城二重橋畔に開催せらるゝや、陛下親臨親しく閱を賜ふ。我等の光榮、我等の歡喜何物か之に譬へん。

謹みて惟ふに聖勅を賜はり國民道德の振作國運の隆昌其因る所小學校教育に負ふ所重大なるを昭示し給へり。聖慮宏遠恐懼感激に堪へず、爾今聖勅を奉體し神國日本の眞髓を世界に明徴にし一意専心鴻恩萬分の一に報い奉らん事を誓ひる奉。

御親閱を賜はりて

嬭戀東尋高 黒岩 治三郎

四月三日瑞祥溢るる宮城二重橋の畔に昭和聖代の御慶事皇太子殿下の御降誕を奉祝し、併せて日本精神を興揚すべき小學校教員精神作興大會は開かる。長くも、天皇陛下には臨御あらせられ、御親閱を賜はり加之優渥なる勅語を賜ひ小學校教育の重んずべきを昭示し給ふ。吾等教育者として寔に終生得難きの光榮なり。此の無上の天恩に浴し無比の至榮を荷ふ、吾等は國民教育の任にあり益々奮勵努力身命を獻げて職務に盡瘁し聖恩の萬分の一に報い奉らん。

御親閱の光榮に浴して

嬭戀東尋高 深井 明

麗かなる春の都に、日嗣の皇子を奉祝し、國運隆昌旭日の如きこの聖代に遭遇せし我等の歡喜たとへんにもなし。聖上陛下本日長くも勅語をさへ賜はりて、學藝の林に分け入る輩をして迷ふ所なからしめられしは我等至上の光榮と言ふべし。冀はくば日夜淬礪し其の職に斃れて、聖恩の萬一に報い奉らんとす。不肖御親閱の光榮に浴し、抖擻の餘り自ら禁する能はず、圓誠を抽んで皇國隆盛の萬歳を頌す。

御親閱を仰ぎ奉りて

嬭戀東尋高 桑名 信一郎

祥雲搖ぎ瑞氣溢るゝ皇城の畔に親しく御親閱を仰ぐ、寔に恐懼感激の至なり。小雨そぼ降る中に臨幸を待ち奉れば聽て響き渡る喇叭の音、莊重なる軍樂隊の君が代、玉座に拜せしあゝ其の御英姿、此の聖代に生れて此の盛事に會ふ、我身の光榮何物か之に加へん。聖上陛下常に教育に關し深く御軫念あらせられ給ふ、我等の責務愈々重きを思ふなり。即ち永く此の光榮を心肝に刻し、益々奮勵努力せん事を期す。

御親閱の榮を賜はりて

嬭戀東尋高 黒岩 重作

ゆくりなくも御親閱たまはる大君の  
恵に浴す今日の身の榮  
草萌ゆる大内山に慈雨こめて  
めぐみ霑ふ日の本つ國  
榮えゆく聖の御代に生ひ立ちて  
つくしまつらんおのが誠を



吾人の覺悟

孀戀西尋高 松井九兵衛

天皇陛下には、初等教育に關し深く御軫念あらせられ給ひ、去る三日の神武天皇祭の吉日を卜し、全國小學校教員代表者を宮城二重橋廣場にて御親閱下され余も其の光榮に浴するを得たり。長くも優渥なる勅語を賜はり、恐懼に堪へず、聖慮を拜し奉り責務の益々重大なるを思ひ、身命を献げて教育のために努力し、淬厲以て職責を竭さんことを誓ひ奉る。

御親閱を拜受して

孀戀西尋高 黒岩金四郎

大内山の松の緑を拜するだに常に皇室の尊嚴を感じ且ありがたさにむせぶ。

まして 陛下の御英姿を直接拜し唯々 陛下は實に神にておはしますとの感激に滿つるのみ。

「御民われ生けるしるしあり……」とは實に此の境涯を云へるならん。我々は一身を献げて本務を盡さんと確固たる信念の猛火の中に立つを覺ゆるなり。

御親閱に参加しての感激

孀戀西尋高 齋藤俊策

小學教育者として

なりはひを教へそだつる身にうけて

今日のめぐみにあふぞうれしき

勅語を拜承し奉りて

大君のみこともれききわがちかひ

つとめはげみていやつとめなむ

御親閱を拜受し奉りて

孀戀西尋高 瀧澤重成

身と心清め澄まして大君を

をろがむ目をぞ祈り待ちける

御姿も御聲も直に拜み得し

身のなりはひの尊さを知る

ひたすらにみことの程をかしくみて

生ふしたてゆく大和なでしこ

榮えある御親閱を拜受して

孀戀西尋高 渡邊理明

時は昭和九年四月三日、皇太子殿下の御誕生を祝し、併

奮勵し、聖恩の萬分の一に報い奉らむことを期す。

御親閱を終りて

草津尋高 千川祐太郎

せて國民精神を作興して、益々教育に力を致さん爲三萬六千の代表、春雨濃かに注ぐ宮城の畔に會するや、畏くも天皇陛下には親しく臨御遊ばされ勅語を賜ふ。我等仰ぎ見るだに畏れ多き龍顏に咫尺することを得たるは寔に光榮の至りに堪へず唯感涙の滂沱たるのみ。此の至榮を荷ひ深遠なる聖慮を拜察し奉り、責務の愈々重きを思ふや切なり。

御親閱を拜受して

孀戀西尋高 荒井大二

佳き朝や武藏野原はいと澄みて

あらはれます大君を待つ

大君のお召自動車しづしづと

なみろる人は聲一つなし。

榮光に浴し奉りて

草津尋高 松井利市郎

全國小學校三萬六千の教育者に對し、長くも御親閱を賜ひしに際し、吾等代表の一員として此の盛儀に加はるを得たる無上の光榮を思ひ衷心感激に堪へざる所なり。吾等赤誠以て此の榮光ある感激を永遠に持續し、教育者たるの責務の益々加重し來れる事を覺悟し、宜しく相率の相勵まし以て教育精神の高潮振興を計ると共に、益々教育効果の向上伸展に努力

昭和九年四月三日全國小學校教員代表三萬六千餘人相會し皇太子殿下の御誕生を奉祝し、聖恩に報いん爲め精神作興大會を宮城前聖域に開き非常時に處する方途を圖るや、畏くも 天皇陛下には親しく臨御あらせられ、御親閱の榮を賜ひ剩へ優渥なる勅語を賜はる、天顏に咫尺し今玉音を拜す。寔に聖旨深遠恐懼感激に堪へず。嗚呼、何たる光榮ぞや、此の上は益々至誠奉公以て責務に精勵して聖旨に副ひ奉らん。

御親閱を拜受して

草津尋高 進邦良明

彌榮の大内山や風光る

うれしきや龍顏仰ぐ御代の春

春雨や齒簿肅々と仰がるゝ

雨しと御苑の柳靜なり

御園生の八千代をほぎて松の花



御親閲を拜受して

草津尋高 羽田 七郎

皇紀二千五百九十四年、皇統連綿として窮み無き我皇室の彌榮と慶祝を壽ぐの秋、畏くも一天萬乗の大君は教の庭に立つ賤民を召されて御親閲の榮を賜はり、宏大無邊の御仁徳を垂れさせ給ひき。身此の光榮に浴して英邁なる聖容を拜し一意専念教育報國の業に邁進し、もつて皇恩の萬分の一に應へ奉らんとす。

御親閲を拜受して

草津尋高 宮崎 導晴

昭和九年四月三日。身を潔め二重橋前に集ひ、仰ぎて皇居を拜し奉れば、慶雲の靉靄として棚びくの感を覺えたり、謹みて 皇太子殿下の御降誕を奉祝し、皇運の隆昌を懐いて、感慨無量なりき。

天皇陛下の臨御を仰ぎ奉り、優渥なる勅語を賜はる。我聖慮を拜し奉り、身を省みてその重責を惟ひ、一身を以て教育の業に精進し以て聖慮を安んじ奉らんとす。

御親閲を拜受して

六合尋高 市川 守城

御すがたを拜して我はむせびなく  
榮ある幸に今日しもあひて

もろともにこよなき幸にふりたゝん  
みことかしこみ教のにはに

御親閲を辱うして

六合尋高 一宮 音吉

あなたふとおほみことのりかしくみて  
つとめ勵げまん教へのにはに

教へ子に分かちはげまん大君の  
高くたふとき今日のみのりを

御親閲に参列して

六合尋高 丸山 浩太郎

全國の小學教育に従事する者相會し、皇太子殿下の御降誕を奉祝し、更に日本精神を興揚して教育報國の誠を致さんとするに當り、畏くも 天皇陛下には親しく臨御あらせられ

御親閲を賜はり、加之優渥なる勅語を賜ふ、寔に恐懼感激の至りに堪へず。身國民教育の任にある者の責務愈々重きを思ふこと切なり。益々發憤、聖旨を奉體し、健全なる第二國民を養成し、以て聖恩の萬一に報い奉らんとす。

御親閲を拜受して

六合尋高 中澤 吉造

曩に 皇太子殿下降誕あらせられ、九千萬の蒼生齊しく歡呼の聲に和す。而して、全國小學校教員宮城前に會し奉祝の誠意を表し、且國民精神の作興を圖るや、

天皇陛下には辱くも御親閲を賜ひ加之優詔を賜ふ。生等恐懼感激措く所を知らず。吾等只々感泣するのみ、  
任に小學校教育にある吾等、内外の情勢に稽へ國家觀念を養成し國民道徳を振作し夙夜淬礪職務に盡し以て聖恩の萬一に報い奉らんとす。

感激の涙

澤田尋高 佐藤 新治郎

二重橋前の聖域は掃き清められて塵一つ見ることの出来ない美觀である、吾々代表者三萬六千人はコの字型に整列し寂として聲なく只管臨御を待ち奉る。午後二時三十分練濃き大内山より嚙曉たる喇叭の音は嚴かに響き渡り續いて場内には

吾妻 郡

軍樂隊の君が代の奏樂が始まる、皆襟を正し直立不動の姿勢となる。御車は先驅、風輦、後衛の順にて出御になり聽て玉座に着御遊ばされる。感激に満ちた最敬礼、茲に目のあたり天顔を拜し身の光榮に浴したるを喜ぶ、齊しく捧ぐる君が代の合唱實に感激其のものであつた。次いで  
天皇陛下よりは、玉音朗々勅語を賜はり恐懼措く所を知らず、唯々感激の涙に咽んだ、思へば此の聖代に遇ひ、此の光榮に浴し、此の感激終生忘るゝことは出来ない、此の感激を實際教育に及ぼし、聖旨を奉體し奮勵努力し以て教育報國の誠を致さうと期する次第である。

御親閲を拜受し奉りて

澤田尋高 角田 馬喜太

ためしなき榮をになへる賤が身は

命の限り献げまつらん

励めよと玉音氣高く賜はりぬ

詔勅畏み忘るべしやは

萬歳にこめし誠は千代かけて

大内山の松にこもれよ



感激

澤田尋高 古屋次雄

春風にをろがむ玉の宮居かな  
松青き大内山や春の色  
肅然と春雨に鹵簿拜しけり  
生れませる皇子壽ぐや東風の庭  
龍顔に咫尺す榮や風光る

感激

澤田尋高 丸山數馬

昭和九年四月三日、此の日こそ終生忘るゝ事能はざる感激  
光榮の日なれ。即ち全國小學校教員代表者の一員として、畏  
くも御親閲の光榮に浴し 皇儲殿下御降誕の御慶を天聽に達  
し奉り龍顔に咫尺し剩へ優渥なる聖勅を賜ふ。寔に前古無比  
の至榮を荷ひ、深遠なる聖慮を拜察し奉り、恐懼感激の至に  
勝へず、即ち永く此の光榮を心肝に刻し身命を献げて教育報  
國の誠を盡し奉らんことを誓ふ。

御親閲の光榮を賜はりて

澤田尋高 篠原定吉

昭和九年四月三日開會の全國小學校教員精神作興大會に不

御親閲を拜受感激して

澤田尋高 角田巳之作

響きけり萬歳唱ふるその聲は  
大内山のおくのかたへに  
身を献げ教のにはいそしみて  
玉の御聲に副ひ奉るべし  
御親閲あふぐ御旗や春の風

御親閲の光榮に浴して

澤田尋高 山口綾子

昭和九年四月三日、我が本土はいふまでもなく、遠く海を  
越えた植民地迄も、各小學校を代表した初等教育者は、宮城  
前の廣場に整列し、畏くも 天皇陛下に御親閲の榮を賜はり  
ました。私も此の光榮に浴することを得まして衷心喜びに堪  
へません、其上優渥なる勅語を賜はりまして其辱さに唯々感  
泣せずには居られません。私微力たりとも辱けなき勅語を奉  
體し此の天職を誇りとし専心努力し御聖旨の萬一に副ひ奉ら  
んことを期する次第であります。

省參列するを得、辱くも御親閲を賜はり、天顏を拜し奉るの  
光榮に浴す。あまつさへ優渥なる勅語を賜はる、感激極りな  
く廣大無邊の御仁慈に感泣す。今後益々聖旨を奉體し、天地  
神明に誓つて、教育報國の誠を盡し、以て 皇恩の萬分の一  
に報い奉らんことを期す。

御親閲の光榮に浴して

澤田尋高 蜂須賀 要

皇子あれし國旗あがりぬ冬日晴  
粒らに赤き軒の南天  
高砂も尾上も共に住みよくて  
波も静けき浦安の邦  
待たれたる名月の空澄み渡り  
葉末葉末に露の輝く  
色替へぬ松の映えたる大廣場  
教の道に集ふ人々  
畏くも雨の中なる御親閲  
心に留めて詔守らん  
蕾より芳しき花知らるなり  
竹の園生の彌榮ゆる春

御親閲を賜はりて

澤田尋高 小池 文

紫の國旗を先頭に、晴れの喜びに胸ををどらせて隊伍整々  
宮城前廣場に入る三萬六千の小學校教員、喜びに溢れ、緊張  
した顔!! やがてする／＼と掲げられた日の丸の大國旗、軍  
樂隊の奏する君が代のうちに、二重橋上の御車を拜した時、  
覺えず身がひきしまり、有難さ、辱さに涙が溢れました。あ  
、今此處に龍顔を拜し、あまつさへ玉音朗々勅語を賜はりま  
したことは獨り私共の光榮ばかりでなく、全國第二の國民養  
成の任にあるもの、光榮であります。昭和九年四月三日、此  
日を期して私共小學校教育に従事するものは、層一層この使  
命を全うするやう、愈々奮勵努力せねばなりません。

感激に満ちて

澤田尋高 都筑 るい

昭和の聖代、此の輕き身に小學校教育者の一代表として、  
皇太子殿下の御降誕を奉祝し御親閲を賜はる。これ空前の  
光榮にして恐懼感激措く所を知らず、此の日瑞氣洋溢せる皇  
城の畔大内山の翠緑は春雨に煙る中を 天皇陛下には莊嚴裡  
に玉歩を運ばせ給ふ、拜閱者三萬六千、天顏に咫尺し剩り剩  
へ玉音朗々優渥なる勅語を賜はり、只感涙の滂沱たるのみ、



此の光榮をば長へに心肝に刻し以て深遠なる聖慮に副ひ奉らむことを誓ふ。

畏き御親閲の光榮に浴して

伊參尋高 吉田 英

教草うゑひろめよと詔る

我が大君のみむねたふとし

現世の神に在する 天皇の

み聲に涙とゞめ得ずわれ

小學校教員三萬六千の御親閲。何と云ふ有り難い思召しであらう、北毛の山峽に勤務する數ならぬ身にも、高大無邊なる御聖恩御仁慈を垂れ給ふとは、誠に末代迄の光榮、恐懼感激の極みである。

四月三日午前三時起床、本日の光榮は我が身一人のみならず老母妻子一家全員の光榮であらねばならぬ。先づ身體衣服を清め神々を拜し、今は三十年の昔、同じく職を教育に奉じてつひに日露の役に旅順に戦死したる我が父の靈前にも、今日の光榮を報告し併せて無事終了を祈つたのであつた。此の至榮に浴する我が身の背後には、一校職員兒童の魂があるのだ。玉音朗かに賜はる御勅語には、其の昔志士高山正之の心事も察せられて、おのづから感涙のはふり落ちるのを禁じ得なかつた。此の聖代に生れ天顔に咫尺し奉り、剩へ聖勅を拜

し奉る事は、誠に畏き極みであつて、我等はいよ／＼己が責務の重大なるを思ひ、永く此の光榮を心肝に銘して、身命を献げて教育報國の爲に邁進し 聖恩の萬分の一に報い奉らねばならぬと、心の底に深く／＼誓つたのである。

御親閲拜受の光榮に浴して

伊參尋高 町田和五郎

大御代の光尊し文の道

さし添ふ今日を迎ふるうれしさ

宮城前大廣場に勢揃ひして、天皇陛下の御英姿を仰ぎ且優渥なる御勅語を拜戴するの光榮に浴したる我等一同は責任の重大さを痛感したのである。高山彦九郎先生のわれをわれとしろしめすかや すべらぎの玉の御聲の かゝるうれしさの如く、肝銘し一意邁進すべく誓をなして歸つた。

御親閲を拜受し奉る

五反田尋高 小池吉良治

午後二時 天皇陛下は龍顔いと神々しく我等の集團を前にして立たせ給ひ、やがて勅語を賜はる。國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニアリ

玉音は此の時一段高く嚴かにして我が心魂一入の感激に顫

へ感涙流る。折柄の冷雨御衣を濡らすも、大君は磐石の如く立たせ給ひ教育に御軫念せられ給ふ畏き、我が過去の怠慢を悔い更生以て聖旨を奉じ、子弟と共に忠良ならんことを謹みて誓ひ奉る。

國歌と國民精神

五反田尋常 金井 彌

感激の渦巻は聖壽の無窮を祈りつゝ高らかに奉唱する「君が代」に依つて高潮に達しました。私は今迄に幾度か國歌を奉唱し、其の都度國歌の持つ偉大な力に感激して参りました。然し、此の度の感激とは異なるものでありました。私は畏くも天皇陛下の大前で奉唱して居るではありませんか。私は餘りの光榮と欣喜に感泣して聲は戦きました。是こそ未だ且て體驗したことのない神秘の心境でありまして「國歌は國民精神の表徴なり」と深く信じた次第であります。

感激のまゝに

蟻川尋常 茂 木 俊 一

何たる身の冥加ぞ、何たる身の幸福ぞ。この目もて、現人神に在す 天皇陛下の御姿を拜し奉り、この耳もて、玉の御聲を聴き奉るとは。時は昭和九年四月三日、場所は宮城二重橋前、畏くも御親閲を仰ぎ奉る全國小學校教員代表者三萬六

千の中、その一人に加はるを得たるなり。眼頭は熱くなりぬ。故も知らぬ涙は頬を傳はりぬ。かくて御國に生をうけし小學校教員たる赤子の一人は、たゞ恭しく畏みて額づき奉りしなり。

御親閲を拜受し奉る

蟻川尋常 飯塚 晋

春雨や 龍駕迎へし二重橋  
春雨の中に 龍顔仰ぎけり  
あな尊春雨の日を 御親閲  
尊やな 御閱長し春の雨  
春雨や松の雫に光あり

御親閲を仰ぎて

名久田尋高 丸山 激 一

御親閲たゞ感涙に咽びけり  
春雨に大内山の緑濃し  
大君の御姿こそたふとけれ  
皇統の彌榮え行く御代の春  
詔勅の薫り遍し大八洲  
春雨に萌え揃ひたり教草  
學校に咲き匂はさん國の華



御親閲を仰ぎ奉りて

名久田尋高 高橋雄司

慶の聲も充ちけり日の本の

日嗣の皇子の生まれし日の

今日ありと思はざりしを御親閲

不二より高く我は仰ぎて

大勅のみ旨畏みてをさなごに

さとしきかせん國の教を

御親閲を仰ぎて

名久田尋高 霞 寅五郎

みどりそふ大内山の瑞雲に

天降の皇子の春にはほへり

春雨しきる假屋に立ちし大君の

おほみをしへのいや崇くして

大庭にとこよを祝ふこゑ和して

大内山にこだまするなり

感激の日

名久田尋高 山田とよの

長くも 天皇陛下には四月三日神武天皇祭の日をトし、全

國小學校教員代表三萬六千人に御親閲を賜ふ。この日降りし  
きる小雨の中に、陛下にはいとも御麗しき御英姿にて檜の  
假屋に行幸遊ばさる。こゝに親しく天顔を拜しうたゞ皇恩の  
無邊に感泣す。尙又優渥なる勅語を賜ふ。誠に恐懼感激にた  
へず。我等勅旨を畏み、夙夜奮勵努力し以て健全なる第二の  
國民の養成に邁進せざるべからず。

御親閲を仰ぎて

名久田尋高 田村精一

みさとしの玉の御聲をかしこみて

勉めはげまん己がつとめに

詔うけたまはりて思ふかな

たふとかりけり己がつとめは

春の日や瑞雲高く鶴の聲

春雨や萬歳ひびく大八洲

御親閲

高山尋高 一場四郎

□宮城廣前へ

普天の下率土の濱

三萬六千の高鳴る足並は宮城の廣前へ

□天顔を拜し奉りて

仰ぐ御英姿

たゞ涙のみ伏す草莽の臣

□御勅語を畏みて

玉音朗々

天皇と我身一人とあゝ畏し御旨は胸に

□君が代奉唱

相和す君が代

感激か法悦か涕涙か我が聲は潤みぬ

□還御

御車は還りましぬ

みまもる大内山献身報國の眸は動かざりき

題 御親閲

高山高等 千村勝友

靄々春烟滿帝京 御園靈變五雲生

二重橋畔拜龍駕 萬古千秋仰禁城

光榮に感激して

尻高尋常 高橋眞道

生まれまし、日嗣の皇子の彌榮に

幸多かれと我祈るかな

九重の雲井の奥に響きけむ

ことほぎあげし萬歳のこゑ

皆同じ心に報國誓ひけり

教の庭に鞭をとる身は

道芝の其の一本に似たる身に

神の御聲のかゝる嬉しき

みことのり下し賜へる 天皇の

大御心に袖ぬらしけり

みさとしに答へまつらむ道は只

誠を盡す一筋にあり

春雨の如くそゞぎし 天皇の

恵に育つ大和なでしこ

御親閲拜受感激記

尻高尋常 割田常藏

雲井より霧こそ縫うて出でましぬ

大みことのりに袖搾りけり

日の皇子を言祝ぐ聲や九重の

空を渡りて沖つ白波

長くも親しく君の御英姿に

同じ廣場に逢ふぞ嬉しき



玉のみこゑ

中山尋常 金井龜次郎

嚴然と玉座にゐます天つ神

現人神を今日拜みけり

感激の涙沸きけり教員の

晴れの親闕玉のみこゑに

御親闕吾が教員の眼は濡れて

大内山に春の雨降る

雨具をば去るに及ばぬと畏さや

大御心に涙沸くなり

雨具をば召せと仰はかゝれども

着る人の無し雨は降れども

玉のみこゑ「夙夜奮勵努力せよ」と

忝さに胸の動悸めく

萬歳と聲を限りに謹みて

聖壽無窮を祈りけるかも

御親闕の光榮

中山尋常 野上滋治

あたかも 皇太子殿下御降誕慶祝の誠を表はし奉りつゝあ

る秋 身教育の聖職にありし爲、昭和九年四月三日神武天皇

祭の住き日瑞雲こもる宮城二重橋前廣場に於て  
天皇陛下の御親闕を賜はり加之優渥なる勅語を拜し奉りし  
光榮に浴せり。恐懼感激の極みなり。畏くも天顔を拜し奉り玉  
音をも拜承し萬感胸にせまり聖恩のかたじけなき、國體の尊  
嚴に感じ只々聖壽の無窮を壽ぎ奉り此の聖代に生を享け教育  
の天職に従ふ事の幸に歡喜せり。此の未曾有の至榮を深く心  
肝に刻し愈々教育の職に覺醒精勵し謹んで奉公の赤誠を致さ  
ん覺悟なり。

教育報國

中山尋常 田中文一

小學校教師の御親闕。全く前例のない御事であつて吾々小  
學校教師にとつてこの上もない面目であり光榮でありまし  
た。吾々は第二國民たる兒童を教育する重要な事として名譽あ  
る職務に在る故に欣然として日夜奮勵努力すべきに、何と云  
ふ幸福であらう、天顔を咫尺の間に拜するの光榮に浴し且又  
優渥なる勅語を賜はり、この有難き聖慮を拜察して只々感涙  
あるばかりです。この上は自らの天職を誇となし協力一致實  
實剛健を旨とし、健全なる國民の養成に一身を献げて盡力し  
以て優渥なる聖旨に副ひ奉らん事をお誓ひ申し上げます。

利根郡

勅を謹み畏みて

沼田尋常 荒木正恭

春上 彌榮の氣宇乾坤に充滿し、麗雨の惠澤に蒼生陽とし  
て新緑萌芽す、大内山の瑞氣九重に漲り、仰ぐ二重橋、伏す  
眞砂、ならび立つ楠公の像、煙霧立ちこもる宮居の壕、森羅  
悉く齋成して萬象皆清淨なり、皇紀二五九四年四月三日、微  
臣等 皇太子殿下御降誕を奉祝し壽久萬歳、寶祚無窮を祥福  
し精神を作興して奉公の誠を輸すや事天聽に達し、畏くも御  
親闕を賜ふ、光榮愉悅感激勝ふるにもなし、剩へ親しく御  
勅語を下し給ふ、聖旨優渥、玉音麗朗、心肝に透徹して神祕  
神托の感禁せず、神勅の宏謨自ら四海に燦然たり。吾にかへ  
り教職の重任重責を再認し殉職の覺悟を總身に決す、此の恩  
榮を神魂に刻み、永久に光輝あらしめ更に又御親闕に参加せ  
ざる教師に對して、是の誠歡盛喜を遍く頒たんとす。

目をとし利根郡榛名神社の祠前に於て郡下教員大會を開き  
教育報國の鐵心を固め、國民道德の振作時艱局難の打開匡救  
に努め、國運の進展隆昌に淬礪恪勤して以て、皇恩の萬一に  
報せんことを誓ひ、神明の照鑑を得て神人一體、億兆一心、

教師總員、師表たるの本分を完うし、教育勅語の行者となり、  
勅を承けては必ず謹み、拳々服膺して夙夜聖慮を拜す。

御親闕の勅語畏み行ひて

教の道に立つぞ嬉しき

九重の雲居高く仰ぎ奉りて

沼田尋常 加藤孫九郎

九重の雲居にたかく龍顔を

拜して畏し涙こぼるゝ

鳳輦はかすみて高し二重橋

御親闕の恩榮に浴して

沼田尋常 鈴木琢男

我國は萬世一系の皇統連綿として、萬邦無比の國體を有し  
御歴代の 天皇深く御仁徳を垂れ給ひ、國威は年を追うて  
益々隆昌となる。吾等此の光輝ある大御代に生れ剩へ職を初  
等教育に奉じ今茲に御親闕の恩榮に浴し聖慮を拜し奉る。洵  
に恐懼感激の至に堪へざるなり。願ふに今や内外の情勢は極  
めて多事にして教育者の責務愈々重きを加ふ。吾等は聖旨を  
深く腦裡に刻し神に誓ひ至誠一貫奮勵努力能く國民教育者た  
るの重責を全うし以て聖恩の萬一に應へ奉らんとす。



御親閔を拜受して

沼田尋高 都丸喜巳雄

現神 拜みまする幸の日に

大内山は霞こめたり

一入に身によるこびのあふるゝを

ひとしく分けん吾が教へ子に

御親閔感激二句

沼田尋高 加藤 綜 一

九重の宮居神々し春の雨

御代の春教の道に花咲きぬ

御親閔を拜受して

沼田尋高 荻野 武雄

春漸く酣ならんとする四月三日、神武天皇祭の佳辰に當り

天皇陛下の御親閔の光榮に浴する事を得たるは、我等千載

一遇の榮譽、恐懼措く所を知らざるものなり。

折しも春雨煙る中を恐れ多くも、陛下には宮中より行幸

あらせられ、御親閔の上かたじけなくも優渥なる勅語をも下

し賜ふ。我等第二國民教養の重責を負ふ者は、この有難き、

聖慮を奉體し一層發奮努力し、國運發展の根底を充實せん事

を期し謹んでこの聖旨に副ひ奉らん事 固く覺悟せり。

御 親 閔

沼田尋高 宇津野松治

大君の邊に額きぬ春の雨

春雨の齋戒となり御親閔

御親閔感想

沼田尋高 坂大クマ

現神の龍顔をろがむ光榮を

分ち與へん教へ子達に

日の本のわが大君の賜ひける

聖旨に深く感泣すわれは

其の日に詠める

沼田尋高 新井 勇

汝等は國の礎固めよと

みのりかしこし今日のみ恵み

御親閔に感激して

沼田尋高 山村仲次郎

ときはなる大内山の大前に

御親閔感想二首

沼田尋高 倉品 廣

天皇の玉顔おろがむ列にあり

感激の心湧きあがりくも

皇城を遙拜すれば我がたてる

廣場の眞砂に光しみつゝ

御親閔を拜受して

沼田尋高 林 三郎

日嗣の皇子の生れ給ひ、竹の園生彌榮ゆく御代の春を、千

代に八千代と壽ぎゆく葦原の此の満足りの國に生れ来て、學

びの庭の大和八千草生ふし立てゆかんと、日毎教への道に立

つ、嗚呼幸多き我等よ。さるを懸巻くも綾に畏し 大君の九

重の宮城も床し、その廣庭に出でまし給ひ親しく御閔をぞ給

ひたる。忘れじな、昭和甲戌四月三日、打續く松緑なる千代

田の森の雲居遙か、おろがみまする現人神の尊さや、涙して

聽き入りぬその御詔の畏さや、國民の道を正して搖ぎなき、

國の礎固むるは汝が業なるぞ努めやと。嗚呼その深き御心に

何ぞ奮ひ立たざらむ。其の責重くその道遠し。我等朝に身を

慎しみ、夕に心を清め怠らず、至純の誠をその御聖慮に捧げ

まつらむと深く心に誓ひたり。

わが大君をおろがみまする  
身命を教の庭にさげなん  
畏き勅肝に銘じて

大君の邊にこそ死なめ

沼田尋高 田中 堯 一

雨は降りに降つてゐる。躍る己が魂をしつかりと抱きしめ

三萬五千の教へ人達は不動である。歡喜の心を、火の腫もて

じつと制へて静まりかへつてゐる。嘸曉たる喇叭の音莊重に

天皇陛下出御を報じた。御車は音も無く我等の前に進まる

天皇陛下萬歳、沈黙の絶叫である。

歡喜の涙が胸に落ちて止まない。嗚呼この日この感激。

御親閔の列伍の中にわれは立ち

まづしき心忘れてゐたり。

朝夕にわが大君の思ひ給ふ

教の道にわれはありたり。

御親閔感激一首

沼田尋高 中町與三郎

すめらぎの御英姿清くたちませり

御聲はろかにおろがみまする。



感激録

打ち見やるうるむ腫に映るひぬ  
御壕の眞碧み恵の雨

御親閲に列するを得て

沼田尋高 矢野間ふさ

千早ぶる神武の昔偲びつゝ

光榮ある物語仰ぐかしこさ

御親閲感想

沼田尋高 八木シズエ

大君の御前に立ちていや深く

われはおもひぬ重きつとめを

御親閲感想

沼田尋高 塚越 雷

御親閲拜受、而して其の後に來るもの、そは感激の一語あるのみ。

畏し日の御子

升形尋高 眞庭 武

御親閲を待つ

大君の御閲し受けむこれの身は

朝夕に齋戒まをす

御親閲の日

萌え出でし芝生すがしく雨に濡れ

大内山に霧立ちこもる

行幸の喇叭響けば民草は

いやつゝましくしはぶきもなし

高光る日の大御子の御立しの

まこと氣高くおはしけらすや

まのあたり現人神をおろがみて

あやに畏し涙に咽ぶ

八隅し、我大君の詔勅

心にしめて生くべかりける

皇太子殿下御降誕

すめら皇子天降り給ひしよろこびに

勢づきぬ非常時日本

榮光を拜受して

升形尋高 鈴木 忠

維時昭和九年四月三日、想へば何たる榮光に輝ける日なりしぞ。大君は神にあれば、とは古代から讃へ奉る所、その現神にあらせ給ふ 陛下、天照らす神の御裔にわたらせ給ふ萬乗の 至尊に咫尺し奉り得べしとは、吾等の夢想だにもし

得ざりしところ、然るに今この榮光に浴し、剃さへ優渥なる聖勅を拜戴す。嘻何たる榮譽至幸ぞや。余は實にこの逢ひ難き聖代の一大盛事に遭遇し、永へに記念すべき大榮光に感激して、爾後賜はりし聖勅を奉戴し粉骨碎身、夙夜奮勵努力して天與の大使命を遂行し、以て涯無き聖恩の萬一に報い奉らん事を深く誓ひぬ。

無上の光榮

升形尋高 田村龜三郎

皇紀二千五百九十四年昭和九年四月三日こそ一生涯忘れることの出来ない日である。

恐懼 感激

この聖代に生れ御親閲を拜受した光榮を思ひ教育報國に夙夜奮勵努力するのみ。

感激録

升形尋高 近岡 佐武

綠柳煙雨春四月  
何哉祝皇子生誕  
警蹕知君之行幸  
君諭我以教育要  
欣喜奉聖訓之厚

來會宮前三萬民  
九重之春正曉綻  
三萬民淚拜龍顏  
我奉拜叙慮深遠  
感在此所生命悅

利根郡

君恩催聖壽萬歲 曠炭之聲充溢天

よろこび

利南東尋高 角田卓二

襟を正し君の御前に君が代を

詠ふ光榮永久に忘れず

光榮

利南東尋高 宇津野福井

(一) 永久に榮ゆる日の本の 我が大君のみことのり  
朝な夕なに一途に 教への道にはげまなん  
(二) かしこき今日の光榮を 千代に八千代に諸共に  
松の緑のそのごとく 赤き誠ぞつくきなん

あなかしこ

利南東尋高 矢野間 又

千代八千代千代田の松の色はえて  
神の御裔の玉音たふとし  
かけまくもあやにかしこしすめみまの  
さとしみことにふるひて立つも



詠 感激

利南東尋高 五十嵐紹作

諸共に氏のみ神に頼りて  
榮のこの日にこたへざらめや  
百敷の松の緑の永へに  
いや榮えませ天地のむた  
萬葉のよき歌人のきこえ上げむ  
その心ぞも賤の男子も  
大君のみこと畏みかへるさの  
都大路に春雨烟る

か し こ し

利南東尋高 森田久吉

神さびし大内山の火前に  
みこゑを仰ぐ今日ぞかしこし  
かしこくも勅して賜はりつ  
心して立たん教の道に  
日の皇子の天降りませしめでた代を  
壽さまつる今日ぞうれしき

御親閲を拜受して

白澤尋高 齋藤善作

昭和九年四月三日、これぞ吾等全國小學校教員代表者が、  
宮城二重橋前の聖域に於て、無上の光榮に浴した感激の日で  
ある。午後二時三十分、畏くも 天皇陛下には、壯嚴なる國  
歌奏樂裡に、臨御あらせ給ふ。こゝに吾等は忝くも現人神の  
御尊姿を、目のあたり拜し奉り、刺へ玉音親しく優渥なる御  
勅語を賜はり只恐懼感激の涙に咽んだ。吾等は古今未曾有の  
光榮に浴して、小學校教育に携はる責務の重大なるを深く深く  
感銘し、自今益々淬礪努力以て聖旨に副ひ奉らんとす。

御親閲の光榮に浴して

白澤尋高 榎山莞爾

大君の御前に在りし心持して  
教の道に我ははげまん  
教へ人今日の感激を旨として  
御國のために共に盡さん  
千代田城松の緑の色どりも  
君が御稜威にいやましにけり

感激のその日に

白澤尋高 岡村孝治郎

遙かに拜すれば 陛下の純白の御手袋が鮮かにカーキ色の  
の軍服に映えて、美はしい。御微動だになさらぬ御姿、玉音  
朗々として勅語を賜はる若き我等が 天皇陛下の御元氣なる  
を拜し、皇國の前途誠に多幸なることを祈る。

感 激

白澤尋高 小野武夫

昭和九年四月三日、瑞雲たなびく皇城の畔に全國小學校教  
員代表三萬六千にくみして畏くも 天皇陛下の御親閲を得て  
親しく優渥なる御勅語を賜はつた日、これぞ生涯忘るゝこと  
の出来ない日である。  
小學校教員がかくも揃つて 陛下の龍顔を拜したゞけでも  
未曾有の光榮であるのに、更に畏れ多くも玉音を拜聽するを  
得たことは我等の恐懼感激に堪へざることである。

聖上陛下を拜して

白澤尋高 高山稔

陽春四月三日神武天皇祭の佳節に際し、我等全國小學校教  
員に御親閲を賜はり、誠に恐懼に堪へざる所でありました。上

毛の奥利根より代表者の一員に加はり、御親閲を拜受する事  
の出来ましたこと、實に身に餘る光榮は勿論子々孫々までの  
光榮と欣喜致しました。千年の松の緑濃き宮城前の大廣場に  
て、東西に比なき我が 聖天子の御健全な御尊顔を拜しまし  
た時全く有難く感激垂涙の極でありました。嗚呼我が偉大な  
る 聖天子』この 聖天子を奉戴する我々九千萬同胞の幸を  
一層深く感銘致しました。尙親しく玉音御勅語を賜はり、『國  
民道徳ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ  
小學校教育ニ在リ』の御言葉に至りては、小學校教育に携はる我  
々の重責を痛感致しました。自今益々日夜奮勵努力斯道の爲  
に精進し、粉骨碎身以て聖慮の萬一に報い奉らんとするもの  
であります。

御親閲を拜受して

白澤尋高 小林 茂

行幸の鹵簿を御橋にあふぎつゝ  
萬餘の人ら咳一つなし  
なごやけき彌生の空を振はして  
よろこびに歌ふ君が代の歌  
玉音の一語々々の尊くも  
大君の御詔胸にきざまる  
大君の御前にして萬歳を



唱へつ熱き涙出にけり  
すめらぎの御聲尊く胸にしみ  
おのづからわが涙にむせぶ

御親閲を賜はりて

白澤尋高 波多野キツ

大君のみまへに出づるみと心  
無事終了を神だのむわれ

御親閲を賜はりて

白澤尋高 根岸幸治

すめらぎの彌榮におはします  
優渥な玉音胸にきざまる

今日此日二重橋前のこの廣場  
三萬餘人の静けさよ

二重橋前に衣を正して

東村尋高 熊澤欽一

楠公父子の身は華と散りぬ。楠公父子の魂は華と咲きぬ。  
富貴は人の欲する所、貧賤は人の厭ふ所、名譽利達を弊履と  
棄て、一身を幼童の育英に委せんとして、茲に二十有二年  
嗚呼我が身は華と散らん哉。我が魂は華と咲かん哉。

邁進し以て微力の最大を致し翼は生を終へんことを。

御親閲拜受感激文

東村尋高 青木茂登雄

壯重嚴肅而前古未曾有、御現人神様の御親閲を拜受。此  
絶大無邊なる御聖恩に浴することを聴かされた吾々教育者は  
大御心の忝さに唯々恐懼感涙に噎び、更に優渥なる御勅語を  
まで拜戴し、國運の隆昌に及ぼす小學教育の重要性を御諭し  
頂いては、感激の極、夙夜淬礪、身心の鍛錬と智徳の研修  
とに努め以て、其の職に弊れ、聖恩の萬一に報い奉らむと  
す。

御親閲拜受の刹那

東村尋高 高橋幾三

午後二時三十分 陛下は玉座に臨御遊さる、全員前へ進め  
の號令は下つた。今こそ 天皇陛下の御前にて君が代奉唱の  
この光榮只々感激に満ちて聲もおろろに自ら喉が熱してくる。  
麗はしき龍顔を拜し奉り優渥なる御勅語を賜ひ感激はその  
極に達した。皇太子殿下奉祝歌奉唱 聖壽無窮と萬歳三唱。  
御親閲は緊張と感激の一瞬間は過ぎた。今ぞ立たん教育報國  
の爲に雄々しく進まむ教への庭に。

聖詔 時に嚴かに『夙夜奮勵努力セヨ』と、感極り唯と泣く。

教へ子はみな楠の二葉なり

ほどく／＼にせん雨や風やも

御親閲を拜受して

東村尋高 楠淵雄多憲

時は維れ昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下には、我等  
小學教育者の爲にいと有り難き御親閲を賜ひぬ。宮居の松  
一入色冴えて莊嚴なる裡に 聖上陛下には玉座につかせられ  
給ふ。我等は君が代を奉唱し、聖壽無窮を壽ぎ奉れば、玉音  
嚴かに優渥なる勅語を下し給ひぬ。我職を育英に志して十有  
五年今此の盛典に逢ふ。歡喜極りなし。噫此の感激。胸深く  
秘めつゝ内省又内省努力邁進 聖旨に副ひ奉らん事を誓ふ。

御親閲の恩典に浴して

東村尋高 高井新之助

全國小學校教員代表者の一員として宮城二重橋前大廣場に  
於て最も壯嚴なる御親閲を拜受したり。是實に曠古の盛儀に  
して之を中外に求むるも未だ其例を知らず光榮何ぞ如かん。  
剩へ 陛下には畏し優渥なる勅語を賜ひ小學教育の重要性を  
宣らせ給ふ。玉音玲朗定に克く胸臆に徹し感涙滂沱たり。嗚  
呼 聖君上に御座す微臣既に毫すと雖爾今益粉骨碎身斯道に

御親閲を仰ぎ奉りて

東村尋高 大島 潔

皇紀二千五百九十四年四月三日、此の佳き日、我等三萬六  
千の代表は、宮城前廣場に參集し、 天皇陛下の御親閲を仰  
ぎ奉る。嚙々たる喇叭と共に莊重なる國家君が代の吹奏裡に  
我が 大君には、玉歩を玉座にはこぼされ給ふ。一天萬乗の  
大君の御英姿を拜し奉り、たゞ恐懼感激致すのみならず優  
渥なる勅語を賜はりしことは、微臣生涯の光榮にして、粉骨  
碎身以て 陛下の御趣意に副ひ奉らんことを誓ふ。

御親 閲

東村尋高 小淵愛之助

(一)  
神聖君ケ代の奏樂に 尊き君のいでまして  
辱けなくも御勅語 我等を激勵させ給ふ  
光榮何かまさるなし 唯感涙にむせびたり。  
(二)  
四月三日の此の佳き日 光榮例なき御親閲。  
尊き 大君拜しては 今更ながら我が職の  
大なる命に胸をうつ 我は瘳れん此の職に。



御親閱感激文

東村尋高 金子 でん

靜かに煙る春雨に若草萌える四月三日、陛下が我等教育者に、御玉歩御進め給ひ、御勅語御下賜とは、大御心の御篤き愛の實に尊きに唯々感激のみ、あゝ何たる光榮ぞ。神韻無量、崇高の念に無我の境を越え、かすかに聞ゆる軍樂の調に、陛下の臨御、同時に君ヶ代合唱、時正に午後二時半靜寂天地に漲り、玉音朗々と溢るゝ刹那、身に餘る光榮に感涙し唯職務の重大なるを自覺し奉公の二字に胸はをどる。

御親閱感激文

東村尋高 中村 せつ

春雨注ぎて塵靜まり松の綠彌増し莊嚴の氛滿つ皇居の前、時は來りぬ。嚙曉たるラツバの響、早御車二重橋上に拜す云ひ知れぬ心身の緊張、臨御を仰げり。陛下のみに額きて勅語奉體、國歌 皇太子御降誕奉祝歌奉唱、又瞬時 御聖姿奉拜、聖壽の萬歲奉唱、大いなる感激胸にみち、只感涙に咽びつ還御のみ車は靜かに、雲井の奥に入らせ給へり。願れば、おゝ、我がの一時は世の外に生き居たる心地す。

光榮の日

片品尋高 關 谷 義 次

昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下には、吾等小學教員代表の集へる皇城の畔に、親しく玉歩を進ませ給ひて、御親閱あらせられた。仰ぎ拜するだに畏れ多きに、剩へ、聖勅を拜し奉りし時は只々感激に泣くのみ。嗚呼此無比の光榮に浴し責務の益々重きを感じること切なり。我此の非常時の中に立つて、常に清淨なる力を保持し、只管國民教育の爲に粉骨碎髓以て、聖恩の萬一に副ひ奉る可く覺悟を更に強うせり。

昭和甲戌四月三日全國小學校教員會於帝都仰御親閱即參列此盛儀謹賦七絶二首

東村尋高 金子 武 男

- (一) 人據育英聲譽存 國揚文化彩光繁
- 龍顏咫尺感無極 日夕捧持謝聖恩
- (二) 聖德洋洋及八荒 人文日進國威揚
- 是時親閱育英事 優詔服膺憶正行

無上の光榮に浴して

片品尋高 高山 邦 造

教育界未曾有の盛舉に列して、畏くも一天萬乘の至尊の御臨幸を仰ぎ、御親閱を拜受するの光榮に浴す。草莽の身を以つて、天顏に咫尺し奉るだに畏き極みなるに、剩へ御麗しき玉音をさへ拜し奉り、且は、皇室の彌榮を壽ぎ奉る我等の赤心を親しく上聞に達し奉るを得。此の實に身に餘る至榮至福に浴して、無窮の皇恩に惶懼するとともに、將來益々粉骨碎身、教育の道にいそしみ、以て優渥なる聖旨に對へ奉らんことを期す。

御親閱を拜受し奉りて

片品尋高 松 井 米 雄

大内山の常磐木に、春霞たなびき、禁苑の櫻蕾ふくよかに瑞氣滿ちあふるゝ昭和九年四月三日、神武天皇祭の佳き日に全國小學校教員精神作興大會は宮城二重橋前廣場に於て舉行せられ、畏くも龍顏に咫尺し奉り勅語を賜はりたるは寔に前古未曾有の盛儀、寔に恐懼感激の至りに堪へず。

御親閱を拜受し奉りてより、責務の益々重大なるを思ふ事切なり。永くこの光榮を心肝に刻し、身命を獻げて教育の爲に奮勵努力し、聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

四月三日

片品尋高 青 柳 博 司

皇太子殿下の御誕生奉祝の赤誠を、瑞祥溢るゝ宮城二重橋の畔に披瀝し奉り、國民精神の作興を圖るや、畏くも 天皇陛下親しく臨御あらせられ、御親閱を賜はり優渥なる勅語を賜ふ。天顏に咫尺し、剩へ玉音を拜し、奉祝の聲を親しく天聽に達し奉りて、聖恩洪大、聖旨深遠寔に恐懼感激に堪へず。此の光榮を辱うし聖慮を拜察し奉りて責務の重大を覺ゆること切なり。身命を獻げて聖旨を奉體し、小學教育に策勵し盡瘁し、以て聖恩の萬分の一に報い奉らむ。

無上の恩榮無限の感激

片品尋高 吉野 兎 二 基

皇紀二千五百九十四年卯月三日は吾が一生を通じて記念すべき尊き日であつた。御親閱拜受の恩命に接してより、其の光榮を感激すると共に身を清めてひたすら善き日の來るのを待つたのである。其日春雨煙る午後二時三十分 天皇陛下の御英姿を仰ぎ奉り優渥なる勅語を拜受し恐懼感激身も心も固くなりて君が代の奉唱も喉につまり只々有難いと思ふ心で一ぱいであつた。我々は愈々眞清水に身を淨めすゝいで師表たるの本分を完うせんと心に誓つたのである。



教育報國の一途

片品尋高 長谷川信次

昭和九年四月三日、我等全國小學校教員代表三萬餘名は、宮城二重橋前に参集し、畏くも 天皇陛下の御親閲を仰ぎ優渥なる勅語を賜はり、無上の聖恩に浴す。感極つて熱淚滂沱たるを知らず。謹みて惟ふに、忠君愛國の途に二なし。今や非常時に直面し、皇國の興廢は國民の雙肩に懸れり。臣等只、身命を捧げて教育の道に精進し、夙夜淬礪、健全なる次代國民の養成に努力し、粉骨碎身、教育報國の誠を竭し、以て、聖恩の萬分の一に報い奉らんのみ。

御親閲の光榮に浴して

片品尋高 齋藤爲之助

四月三日、御親閲。畏くも、 天皇陛下玉座に凜然として立たせられ給ふ御姿、尊く、神々しき御有様は申上るも畏く、殊に、優渥なる御勅語を賜はり、洵に恐懼の外なく、唯々光榮と感激に打震ひ、洪大なる聖恩の深淵に感泣するのみで御座います。この光榮身に餘る吾等、御聖旨を奉體し、己が重大責務を自覺し、聖恩の萬分の一にも報い奉る可く、粉骨碎身、よき日本人の教養に努め、國運の隆昌に努力せねばなりません。

感激の日

片品尋高 島野一衛

日嗣の皇子現はれまし皇運彌榮え、日東の島帝國益々宇内に重きをなすの時、至上親しく細雨に際大内山外濠の松色濃き邊、廣場の白砂重疊たる上に整列したる全國三萬餘千の小學校教員に臨み給ふ。時維昭和九年四月三日。而も更に玉音朗々優渥なる勅語を賜ひ、身心の措く所を昭示し給ふ。何たる光榮。何たる感激の日ぞ。職を小學校教育に致したる故を以て此の佳き日に逢會す。重責たる身に此際益々自重一入努め、聖旨の萬一に副ひ奉らむ。

御親閲を拜受して

片品尋高 小林憲保

全國小學校教員代表御親閲を辱うし不肖憲保幸に其の一人として之の光榮に浴す唯々有難く感涙に咽ぶのみ。此の日 天皇陛下には二重橋より行幸遊ばされ玉座に着かせられ給ふ。今親しく龍顔を拜し御尊體を仰ぎ奉りては唯感激あるのみ。我等の最敬禮に代表の奏上に一々擧手の御會釋を賜はり更に玉音高く御勅語を賜はる畏き、恐懼感激其の言葉を知らず、只々感激あるのみ。此の感激こそ我が教へ兒に移し同胞に分ちて國民教育の本とし以て聖恩に應へ奉らんとす。

感激の日

片品尋高 田村善吉

代表三萬有餘人 我等の集身をかため  
今日のよき日待ちあぐむ 尊き國に生れけり  
竹の園生のいや榮え 我が大君の神がたり  
萬歳の叫びとるるまで 永久にかはらぬわが心  
この心してをさなごと はげみはげまん朝夕に  
つとめつくさんちよ八千代 此の日この時忘るまじ。

至榮に浴して

片品尋高 眞柄せい

永遠に記念すべき四月三日此の日こそ私達が千載一遇の光榮に浴しました記念の日でございます。畏くも 天皇陛下には特に小學校教育に御軫念あらせられ親しく御親閲を賜はられたのみならず優渥なる勅語まで戴きました。私達は無上の幸福を感じ唯々感涙にむせぶばかりでございます。愈々これより第二國民の教養に努力精勵し師表たる本分を盡し奉公の誠を致す覺悟でございます。

感激の日

川場尋高 今井久雄

嗚呼。吾はよくも職を教育に奉じたるよ。教育者なればこそ、御親閲の光榮に浴し、剩へ優渥なる御勅語を奉戴す。恐懼感激。参列者悉く、玉の御聲のかゝる嬉しさに涙せり。 天皇陛下萬歳、と唱へ奉りし吾等の聲は、感激の極、言ふ處を知らず、唯、吾等が赤誠を聞召せ、との至誠の誓なりき。光榮の日、昭和九年四月三日。この日、吾等は教育者たるの光榮を眞に理解し、高き忻恃と重き責任とを自覺し、體物として強き力の心中に湧き起れるを痛感せり。

御親閲を拜受し奉りし時詠める短歌

川場尋高 見城貫一

王城のみ濠のふかく湛へたる  
みどりは嘗て拜せしより深き  
にぎはしき通をこえて皇居前に  
芝生の芽ぶくみどりに驚く  
三萬六千人の入場猶も續くらし  
霧立ちこめて雨おちそめぬ  
九重の雲はくだりてめのまへの  
千代田の森は尊きろかも



嘯唳と喇叭ひびきて君が代の

吹奏いちじにおこる畏き  
醜の丈夫今の現に神にておはす

天皇ををろがみまうす

大君の玉のみこるのあきらかに

さとし給へや音に哭く教人

大君の尊き勅語うけまして

いまより吾はたがはざるべし

憶 御親 関

川場尋高 落合 賢一

詔胸の奥にぞひびきけり

教の道の重き我身に

君がため捨つる命となりなんと

學舎眺む明暮のとき

ちよろづに傳へんものと心しぬ

強き心の動きをぞ知る

御親関の光榮に浴し奉りて

川場尋高 大崎 歳市

すめらぎの御前近くに伏すわれは

たゞ感涙にむせび居りけり

九重の尊きすがたおろがみて

いやうごきなき國をしぞ思ふ  
たらちねの國のみおやの勅語

かくも重きか己がとつめは

すめらぎのみことかしくみ朝夕に

いよはげまん己がつとめに

御親関を拜受し奉りて

川場尋高 宮田 順三郎

昭和甲戌四月三日畏くも 天皇陛下には、初等教育者代表  
三萬有六千の我等に御親関を賜はり、親しく優渥なる勅語を  
御下賜あらせらる。寔に恐懼感激、只感涙の滂沱たるを禁ず  
る能はず。我等幸に昭代に生を享け、無上の天恩に浴し、我  
等の責務益々重大なるを覺ゆ。乃ち智徳の研鑽と人格の向上  
に努め、國民精神を涵養し、身命を獻けて夙夜匪懈、第二國  
民の養成に盡瘁し、上 勅諭を安んじ奉り、以て聖恩の高分  
の一に報い奉らんことを期す。

御親関の光榮に浴して

川場尋高 宮内 瀧雄

四月三日。我等の記念すべき日。其の職にある我等の光榮  
であり、且幸福である。其の日、御健かな龍顏を拜し奉り、

たれか感激せざる者があらうか。剩へ有難き勅語を賜ふ。玉  
音いとも朗かに我等の耳に徹した時、嗚呼、身に餘る光榮。  
此の時、我等の心中こそ、教育の重大なること。この重大な  
る職を負ふ我々。如何なる障碍、如何なる困難をも打破し行  
く、力強い心。即ち確固たる信念のもとに邁進し、唯教育の  
爲に身命を賭してあたる覺悟である。

光榮に浴して

川場尋高 宮野 入鈴子

大内山の松の緑を背景に、御立ち遊ばされた御尊姿、やが  
て静けさを破つて、いとも御力強き玉の御聲を耳にするや、  
あまりの恐懼の至りに、熱き涙はいつしか小雨と共に、頬を  
傳つて居りました。

日嗣の御子はあれましぬ 天皇陛下萬歳三萬六千人の歡喜  
の聲は、天地に轟き渡りました。私の生涯忘れ得ぬ感激最大  
の光榮に浴して、眞に教育者の責務の重且つ大なるを、深く  
深く脳裡に刻みつけられました。

御親関の光榮を賜つて

川場尋高 桑 原 たか

畏くも 玉座との距りいくばく。一呼吸一呼吸緊張は強ま  
ります。嚴肅な君が代が奏されると共に、御尊姿は拜せられ

ました。餘りに勿體なく畏きに、涙こぼるゝ思ひが致しまし  
た。辱くも 陛下より親しくお勅語を賜はりました時は、只  
々感泣の外なく、これこそどんな教育教授の手腕家が何萬の  
辯舌を弄しても、感じ得ぬ興奮感激で御座います。生涯忘れ  
る事の出来ない感激、此の感激を動力として今後は一層努力  
し其の職に勉め、以て御聖旨に副ひ奉る覺悟で御座います。

御親関に感激して

川場尋高 宮田 武義

御仁慈の露に霑ふ民草は  
大君のため身をば捧げん  
幼児を育くむ業を重しとて  
みこと給ひし今日のうれしさ

御親関を仰ぎ感涙にむせぶ

池田尋高 林 胤吉

昭和九年四月三日この日こそ、我等の終生忘るることの出  
來ない光榮の日であつた。畏くも 天皇陛下に於かせられて  
は、我等小學校教員三萬五千の代表者を、齊しく御親関遊ば  
されたのである。此の日春雨稍煙りて千代田の森の緑いや増  
し、皇城の畔一點の埃を止めず、陸續として參集せる人々の  
面影には、極りなき歡喜の色が漲つて居た、待ち奉ること須臾



にして、聖上陛下には御召自動車に召され、君が代の奏樂裡に御着場遊ばされた。私は當日幸ひにも本縣より團長の肩書を戴き、御蔭を以て列前に立ちて程近く、天顏を奉拜するの仕合せに浴し、絶えず感激の涙にむせんで居た。玉座に御直立の陛下には、嚴然たる現人神の御英姿いや尊く、朗々たる玉音を以て、優渥なる勅語を下されたのである。噫此の利那に於ける、我等の歡喜、我等の感激、到底筆舌を以て盡すことは出来ない。私は直ちに一身を陛下に捧げ教育報國の爲に斃れて止まんとする決心が、強く全身を躍動せしめたのである。我が上毛の大忠臣高山彦九郎先生の「我を我と知ろしめすかや、天皇の玉の御聲のかかる嬉しさ」は、取りも直さず私の其の時の心情であつた。即ち草莽の微臣教育勅語を奉體して職を小學校に奉すること茲に三十有餘年、皇道教育の一點に於ては、至誠一貫心血を捧げては來たものゝ省みて何等効績の見るべきものないのを慙ぢる。今此の深遠なる御勅語を拜受しては感奮興起措く處を知らず、今後一層老骨に鞭ち、國民教育に精進し、皇恩の萬一に報い奉らん事を、深く心に誓つたのである。

御親閱を仰ぎ奉りて(光榮と感激の極み！)

池田尋高 小野塚 由之助

旗手として列頭に在り畏くも玉音を浴し龍顏を拜し奉る。

夢ならし今日ぞ仰ぎぬ現し神  
畏し大君は皇孫一系の天子  
道德つくり國興さむの源は  
小學教育にありと宣らせ給へり  
今日よりは雄々しく起たむ小學教員なり  
玉の御聲の勅語かしこみ

御親閱拜受の感激

池田尋高 荒井 駒吉

時は昭和甲戌春 遙拜龍顏祝降誕  
宮前萬象歡喜滿 報國丹心正氣新

御親閱

池田尋高 角田 浩

佳節早且向東都 春雨圍九重莊重  
奉拜龍顏賜勅語 誠忠更強貫身軀

御親閱を仰ぎて

池田尋高 角田 吉久

感激の泪にふるふ聲のみて  
大前に君が代唱ひおほせぬ。

御親閱を拜受し奉りて

池田尋高 小野塚 ちか

千早振る千代田の皇城かすみこもり  
玉座ほのかにしるく尊し  
日章旗もてタクトとる歌三萬の  
赤誠こもれり奉祝の歌  
萬歳や誓ひの拍手雷のごと  
大内山にこたましてけり

御親閱を拜受して

池田尋高 吉澤 しん

有難き御代に生れし喜を  
汽車にゆれつゝ友と語りぬ  
寂として玉砂利をふむ音のみが  
雨の廣場に重くひゞけり  
大君の玉の御聲のかしこさに  
しみん、思ふ我が務かも  
今こゝに誓ひし赤心永久に  
心に刻りて生きんと思ふ  
感激に夢見る如き我が耳に  
御車の音は遠ざかりゆく

利根 郡

御親閱を拜受し奉りて

池田尋高 藤井 もん

君が代の千代を壽く赤子等の  
歌聲重く天にひゞけり  
遙にも仰ぎ奉りし御尊體の  
尊くあるかな胸迫りくる  
ひとすちに君が御勅の長さに  
跪きけり我が命かも  
感激のあふるる今日の喜びを  
胸に抱きて任務勵まん

御親閱を拜受し奉りて

池田尋高 尾崎 一郎

宮城前へ宮城前へ希望と緊張に滿ちた我等の行進、五十、百。三萬五千の精神、ラツパの一音に躍る、湧然と溢るる歡喜君が代の奏樂に融け込む、無窮の國歌を空に描くタクト、これに一致する總て。出御、聲なし。自己の心に反響する誠心感激の熱涙。優渥なる勅語莊重に響く、輝ける腫足下の玉砂利の中に故郷の教へ子の顔を見る。還御、聖旨に恪遵せんとの決意に肅然聲なく涙拭はんとする者もなき三萬五千の大衆。



御親閲を仰ぎて

池田尋高 松野春蔭  
振へとぞのらせ給ひぬ長くも  
玉の御聲のいとも尊く

御親閲を拜受す

薄根尋高 齋藤廉吉

昭和九年四月三日此の日何たる光榮の日ぞ。身教職に在るの故を以て長くも 天皇陛下に御親閲を賜はるとは、恐惶して以て身心を清め大内山の近くに進めば二重橋上瑞氣漲る裡より、陛下出御あらせられ玉座に着御遊ばさる。生等感激の極言ふ所を知らず。唯感激の裡に御玉體を拜し、御勅語を忝うす。ここに天地神明に、聖壽の萬歳を祈り一意専心教育報國の念を堅うせんとする次第なり。

聖恩に浴して

薄根尋高 森下良一郎

昭和九年四月三日 聖上陛下には帝都二重橋前廣場に於て全國小學校教員代表三萬六千を御親閲遊ばされ、優渥なる勅語を賜ふ。吾等一同皆廣大無邊なる聖恩に感泣す。吾等は皇國の赤子として生を聖代に受け、職を育英の事に奉ず。

惟ふに光輝ある皇國の進展に與り、この聖恩に應へ奉るは吾等の使命なり。吾等は日本精神に生き愈々智徳を磨き以て其の職に邁進せんとうす。

御親閲を拜受して

薄根尋高 野村類二

時は四月三日午後二時二十分軍樂隊の君が代奉奏と共に聖上陛下におかせられましては玉座に着かせられました。其の神々しさ言はんかたなく、長くも 聖上陛下には直ちに御親閲あらせられ親しく優渥なる勅語を下し給ひ小學校教育の重んずべき所以を昭示下さいました。聖恩洪大聖旨深遠誠に恐懼感激の外なく愈々責務の重きを自覺し益々職務に奮闘努力すべきことを心に誓つた次第であります。

御親閲謹詠七首

薄根尋高 茂木信太郎

このよき日仰がむものと陸遠く  
満洲國より來たる人あり  
春雨のそぼふる中もいとせす  
教員われ等に閱見え給ひぬ  
待ち待ちしその時は來ぬ長くも  
現に仰ぐわが日の帝

御日嗣の皇子生まれましとほとさを

讚え奉りぬ御傍邊近く

春雨の御玉座に立たすみすがたを

現に仰ぐあやに畏し

式果てて君入りましぬ一時の

この長さを身にしめゆかむ

夜の汽車に眼をつむり今日これの

あやに長き御勅を思ふ

親閲拜受

薄根尋高 小林倉之丞

堤上老松翠色濃 寶泉白鳥嬉々游  
瑞雲漂陽春宮邊 楊柳新色新人心  
君矣親矣唯一尊 萬世一系聖天子  
此日何幸賜親閱 身心躍動不能禁  
衆庶人心唯一心 致思益固皇國礎  
天顏玉音無比健 謝天恭無窮聖恩

御親閲の日

薄根尋高 中澤一郎

昭和九年四月三日、おゝその日こそ吾等小學校教員の終生忘れ得ざる感激の日である。しめやかに注ぐ春雨に全身をう

るほされながら玉砂利の上じつと立つて居た私は何とも云はれない唯有難い有難い心持で一ばいであつた。目のあたり拜したあの 御英姿、あの玉音、私の頭は無意識に無限に下るのであつた。風聲の遙かに雲の上に還御あらせ給ふ頃始めて我にかへつた私の胸には或何物かのこみあげて來るのを禁じ得なかつた。

御親閲を拜受して

薄根尋高 小島とよ

天皇陛下、長くも昭和九年四月三日全國小學校教員代表者を、二重橋御前にて御親閲あらせられ、優渥なる勅語を給はる。此の光榮に浴し奉り聖恩洪大聖旨深遠誠に恐懼感激す。謹みて御勅語は小學校教育の重んずべき所以を昭示し給へるなりと惟ふ。今次の聖旨を、肝に銘じ感激を永續し至誠一貫教育に當り、君恩に報い奉らんとす。

粉骨碎身教育報國を誓ふ

古馬牧南尋高 加藤晴治郎

昭和九年四月三日神武天皇祭の盛辰に當り、宮城前の大廣場に於て、吾等全國小學校教員代表者に對して、長くも 天皇陛下には御親閲あらせられ、剩へ優渥なる勅語を下し賜はりました事は、吾等教育者の未曾有の光榮でありまして、



聖旨深遠誠に恐懼感激の至に堪へない所であります。吾等はこの無限の感激、この無上の光榮を永遠に光輝あらしめる爲め、天地神明に誓ひ粉骨碎身教育報國に盡瘁し、以て聖恩の萬一に報い奉る覚悟であります。

生等徳薄く學又乏し然りと云へども昭示したまひたる聖慮を奉じ、一路邁進教育の業に粉骨碎身その誠を致し以つて鴻恩の萬分の一にも報い奉らんことを期す。

御親閲吟詠

古馬牧南尋高 阿部三代三

御親閲場 春雨は晴れて行くなり御幸待つ  
御發聲 御臨御や霞にあがる大國旗  
玉座 浅みどり御に高き玉座哉  
奉祝歌 君と民つゝむ霞や奉祝歌  
首相誓詞 宰相の誓詞凜々たり草木萌ゆ  
還御 奏樂に霞む御齒薄や御還幸  
終了 終関や春雨空になる花火

御親閲を拜受して

古馬牧南尋高 森田義雄

現今の我が國、内外の狀勢より老若男女打つて一丸となり非常時打開に努力せねばならぬ事を、常に信じて居りました。圖らずも今度、御親閲の光榮を賜りまして、いよいよ小學教育の重大なる事が、身骨に深く刻み込まれたのであります。今後は一層國家觀念を涵養し、國民道徳を振作する爲に日夜努力に努力を續けて、教育の實績を擧げて、忠君愛國に勵み、有難き聖慮に副ひ奉らんと誓つて居ります。

御親閲を拜して

古馬牧南尋高 佐々木美枝

昭和九年四月三日、それは全國小學校教員代表が千載一遇の御親閲の光榮に浴したる感激の日なり。此の日優渥なる御勅語を拜し奉り感激の涙に胸せまり、帝國の基礎教育にたづさはる身の今更其の責任の重大なることを痛感せり。身淺學不才なれども百倍の勇氣を以て粉骨碎身以て聖恩の萬分の一にも報いんことを固く誓ひ奉る。

昭和九年四月三日彌生の空に榮光のみなきる記念すべきこの佳き日

天皇陛下におかせられては全國小學校教員代表三萬五千に御親閲を給ひ且つ優渥なる勅語を賜ふ、感激恐懼おく能はずいづれの日にかこの聖恩にそひ奉らむや。

御親閲所感

古馬牧南尋高 遠藤てる

御親閲。私は豫期しなかつた否豫期し得なかつた最上の光榮に浴しながら他國人の味ひ得ぬであらう感激に咽んだ。この清らかな感激！美はしい幸福これこそ日本人の最上の誇りだ。此の感激！此の情愛これがあつてこそ彼の明き直き強き清き精神を持つて日本が眞善美聖に向つて若々しく生活出来るのだ。感激は善の勇の原動力だ、感激を知らぬ人間は、國は希望を發展を平和を忘れて行く、大内山は絹のやうな春雨に煙つてゐる。一木一草皆伸びんとする希望に燃えてゐる。時は春だ。自分もこの榮えある感激を長く肝に銘じて。

く決心せり。

御親閲を拜受して

古馬牧南尋高 石田久治

千載一遇この光輝ある御親閲の光榮に浴し加之優渥なる勅語を賜はる。感激の至りに堪へざるなり。世當に非常時其の職の重且大なるを痛感す。須らく粉骨碎身職を全うし聖恩の萬分の一にも報い奉るべきなり。

御勅語を賜はりて

古馬牧北尋高 湯淺愛作

昭和九年四月三日、吾等は宮城前の聖域に參集し、威儀を正して御親閲の光榮に浴した。この日 天皇陛下には特に小學教育に従事する者の爲に、玉音いとも朗らかに優渥なる勅語を下賜せらる。吾人は陛下が小學教育に御軫念あらせらるる聖旨の深遠なるを、目のあたり拜して身を之に奉ずる榮譽と、其の責務の愈々重大なるを覺え、無限の歡喜と共にこの光榮に感激して、自奮の念が勃然と湧き起つた。

御親閲に参加して

古馬牧南尋高 原澤元

昭和九年四月三日、精神作興大會の日、全國小學校教員代表者三萬五千餘、御親閲を仰ぐべく宮城前廣場に、今や遅しと開會を待つ。陛下には「君が代」の奏樂裡に、定められし玉座に御着御遊ばしぬ。誰一人一語を發する者なく只陛下の威嚴に感激せしのみ。やがて玉音朗かに優渥なる勅語を賜はる。小學教育にたづさはる身の誇と重大なる責任とを痛感し今後益々奮勵努力以て第二の國民養成に邁進せんと堅



玉の御聲

- 古馬牧北尋高 登坂一衛
- 一、大内山の若崩えに今幾山河踏み越えて四方より集ふ同胞の面に固き覺悟あり
- 二、折しも煙る春雨に 龍の宮居の神さびて皇國の姿そのまゝに高く大きく鶯舞へり
- 三、君が代いとも嚴かに鳳輦ゆるく着きまして嗚呼萬世に一系の 皇帝の徳高し
- 四、玉の御聲の 大詔無比の至榮を身にしめて幾千代かけて 皇の高き 御稜威に應へなん

大いなるよろこび

- 古馬牧北尋高 岩佐キクイ
- 一、銀雨に濡れし青柳に 瑞雲なびき 謹みて整列ぶ吾等の心みな 今日佳き日を感謝しぬ
- 二、玉音いともうるはしく 御勅語賜ふその一瞬、大天地も静まりて たゞ感激のみ四方に満つ。
- 三、日嗣の皇子の彌榮を 壽ぎまつる萬歳は 響きひびきて溢れけり。 外つ國々の涯までと
- 四、嗚呼この得難き光榮よ 畏き極み御親閱 御聖旨の程を胸に緊め 日々に努めん己が業。

感激

水上尋高原 澤邦治

あなかしこ御車着きぬ十善の  
君を拜して涙こぼるゝ  
天津日の日嗣の御子は千代ませと  
壽詞奏して伏しをろがみぬ  
皇國の道の源つちかへと  
ひじりみことばをろがむわれは

御親閱拜受の日を憶ふ

水上尋高 吉田 實

私は國歌といふものの莊重なることを、彼の時程強く感じたことを知らない。私はあれ程神秘なる雰圍氣の中に置かれた自分を未だ意識したことを知らない。恐らく今後、再びあの境地に浸ることは難く、彼の時の感激は、私といふものの存在する限りに於て、永久に、不滅のものとして持続されると思ひ、又、然ありたきものと念ずるものである。

感激

水上尋高 須藤 範二

昭和九年四月三日畏くも 天皇陛下御親閱のもとに宮城前に於て全國小學校教員精神作興大會を舉行せられたり。聖上陛下には親しく臨御し給ひ優渥なる勅語を賜へり尊く畏き御英姿を拜し奉り恐懼感激の至りに堪へず。御勅語の大御心を常に心に銘して夙夜奮闘努力國民養成の大任に携り皇恩の萬分の一に酬ゆるの覺悟を神かけて誓へりここに謹みて一意報國の誠を披瀝し、榮ある御親閱の感激を陳ぶ爾。

御親閱感激文

水上尋高 野尻 善次

喇叭は宮城前廣場に響き渡つた。我等が鶴首して待つたその日だ。御車より下りさせ給ひて玉座に立たせ給ひし尊き御姿、やがて玉音朗らかに大内山の空氣を振はして我等の耳に傳はるとき、餘りの尊き畏きに、居並ぶ一同唯感涙に咽ぶのみ。嗚呼、神國日本の尊き姿、上 天皇を中心として結びつけられし皇國日本。私はあの時始めて、神國日本の眞の姿を はつきりと認めることが出来た。

御親閱に參列して

水上尋高 小暮 清

昭和九年卯月三日、これぞ我等教育者にとりて最も意義深き記念の日ではなからうか。式場に於て斯かる壯嚴なる雰圍氣に浸つた事は過去には持たぬ、恐らく將來にもあるまい。我、生を此の世に享けてより二十有餘年、教育に身を捧げてより三有餘年、偶然千載一遇とも言ふべき此の盛事に參列し得た事は、自己無上の光榮であり、聖慮の宏遠なるを思ひ益々教育の事に献身努力せん事を期する者の一員である。

勅語を奉體して

水上尋高 笛木 つる

畏くも 天皇陛下には、特に大御心を教育に用ひさせられ神武天皇祭の日、初等教育の任に當る私達を御親閱あらせられ、優渥なる勅語を賜はり眞に感激に堪へません。如何に教育者の責務の重大なるかを痛切に感じ、よく勅語の聖旨を奉體し、永くこの光榮を心肝に刻み、身命を獻げて教育の爲に盡し、益々勉勵以て教育の實績の向上を計り、皇恩の萬分の一に報い奉らねばなりません。



### 光榮に浴して

水上尋高 田村 たみ

玉音朗かなる、大君の御勅語を拜し、緊張の絶頂に達せし私は、只々夢の様な興奮に浸る。何萬人の能辯者が勞するも感じ得ぬ興奮感激。これ以上なる力があり得やうか。玉座にお立ち遊ばせし御英姿、永遠に忘るゝ事の出来ない尊い印象として、奥深く私の脳裡に刻みつけられた。此の異常な感激こそ、教育報國の誠を盡すべく最大の使命を覺えた。あゝこの無比の天恩至榮、誰が感泣せざるべき。

### 龍顏を拜し聖壽の萬歳を祈りて

幸知尋高 生方 祐五

もゝちとせ榮えん御代を壽ぎぬ  
現つみかみを伏し拜みつゝ  
あめつちと限りなき世を祈るなる  
宮居のまへにひれ伏す吾は  
もろびとのかさみとならんひたすらに  
教へのみちをさとされし吾

### 聖駕を拜して

幸知尋高 桑原 谷平

神武天皇祭の佳辰、小學校教員精神作興大會に 天皇陛下親しく臨御あらせられ、御親閱の榮を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を賜ひ、小學教育者の責務の重大なるを諭させ給ふ。我等は小學教育の責務重大なるを意味し、天與の職分を樂しみ、建國の精神を明にし、當日の決議文を恪遵し進んで範を示し師表たるの本分を完し、身命を捧げて、君國の爲に盡し、皇恩の萬一に報い奉らむことを誓ひます。

### 御親閱の光榮に浴して

藤原尋高 雲越清一郎

午後二時三十分、壯重なる君が代の奏樂裡に、愈々天皇陛下には略式鹵簿に召されて、玉座へと着御あらせられた。君が代の奉唱を終つて遙かに御英姿を拜し奉つた時、私の心は有難さに硬直して只感激に感激を重ねるのみ。この時に當つて畏くも 天皇には、私達の爲に優渥なる勅語を賜つた。天皇の御聲に接した時、感激を又新にした。國民として最高の光榮に浴すことの出来た私は粉骨碎身以て國家に盡くさうと決心した。

### 御親閱の至榮に感激して

藤原尋高 林 親二

御親閱の光榮に浴さんと宮城前式場に着して  
額けばかみ光り見ゆ心地して  
いともたふときこの宮居かな  
至榮に感激して  
今さらに重きつとめと覺えたり

### 御親閱の感激

桃野尋高 細川 伊豫太

いとも長き今日のみのに  
道のためつとめはげみて大君の  
けふのみゆきに答へ申さん  
くろがねの道ゆく汽車のそのごとく  
只一筋に道を守らん

### 前古未曾有の盛儀

桃野尋高 木村庄 三郎

仰ぎ見るだに畏れ多き 天顔に咫尺し奉り、玉音いとも朗かに優渥なる勅語を賜はる。  
此の昭代に生れ小學教育に携はるが爲に此くの如き前古未曾有の天恩に浴し無比の至榮を荷ふ。寔に歡喜極りなし。深遠なる聖慮を拜察し奉りては責務の益々重きを痛感し恐懼感激措く所を知らず。此の光榮を心肝に刻み夙夜淬礪身命を献

### 靈感

桃野尋高 原澤 新平

靈感夜毎の夢これこそ今回の御親閱に強く感受させられたものである。 聖上陛下御臨御遊はさる旨の吹奏は緊張の上段の緊張を覚えさせ、玉座に御立ち遊ばされし御英姿は列尾に整列せる身には深遠にして拜し奉るに到らざりしも直



前に尙在はすが如き瑞感に打たれたり。御勅語を賜はりし時に到つては更なり。捧持せられしその利那現人神のかたじけなさに胸せまれり。噫これ正しく靈感激なり。吾等事に當るの身克く聖旨に副ひ奉らんと誓ふものである。

御聖勅を拜して

桃野尋高 津金澤信治

畏くも玉音いと嚴に「奮勵努力セヨ」との大詔を拜し奉つた瞬間。天祖の御神勅が心魂にきらめく。同時に感激の涙の底からより一層明確に躍動したものは何？ 神ながらの道の國の實在の姿！自らの天職！さうだ、己れの名は正しく「小學校教員」、務めは當に「國民道德の振作者」、之を貫くに「夙夜奮勵努力の赤誠を捧げ奉る」のみだ。おゝ限りある身に限りない奮勵努力の赤誠を捧げ奉る求道者、そして實踐者なのだ。

御親閱拜受の光榮に浴し奉りて

桃野尋高 佐藤綾子

蕭々として降り注ぐ春雨に 一切の不淨は潔められ  
みどりいやます大内山より 颯爽として玉座に進ませ給ふ  
我が 大君を拜す一刹那 我等が小さき胸は高なりて  
只々 感激の一事のみ 折しも 玉音いとも高らかに

御優渥なる勅をば賜はりぬ あゝこの光榮この感激  
何を以てか眞に表はし得べきとは日本人のみの知る幸ぞ  
此の尊き感激を深く心に銘じ我に與へられたる使命をば  
守りて深き皇恩の萬一に誓ひて報い奉らん

短歌

桃野尋高 福田重廣

かけまくもかしこけれども生れまし  
みこのみことを壽ぎまつる  
ほぎ歌をきこえあげむと思へども  
み前と思へば聲むせびつゝ  
數ならぬ我なりながら大君の  
み爲にはこのいのちまつらむ

光榮の感激

桃野尋高 阿部 英

畏し  
教草の一葉もて  
玉音に接し  
龍顔を拜す。  
嗚呼！聖代に逢ひて  
此の無上の皇恩に浴す。

何たる光榮！何たる感激！！  
唯涙――。

感激の一端

小倉尋小 野上榮樹

維時昭和九年四月三日、全國小學校教員代表相會し、精神作興大會を開催し、宮城前の聖域に集りて、皇太子殿下の御降誕奉祝の赤誠を捧げんとするや、天皇陛下には親しく臨御あらせられ、御親閱竝に勅語を賜はり小學校教育者の責務の至大なるを諭させ給ひて寔に恐懼感激の至りに堪へず。この無限の感激を長へに力あらしめんがために、聖旨を奉體し愈と教育報國の志を固くし、至誠一貫身を以て範を示し皇恩の萬分の一にも報い奉らんことを誓ふ。

御稜威彌榮

新卷尋高 田畑武一

今日のこの日  
幼兒を教ゆる道に立ちてこそ  
今日のこの日にあひあへるなり  
御車の二重の橋へ出でませば  
皆ひとゝきに身はしまりけり  
群れ飛ぶ鳩  
利根郡

感激

新卷尋高 木暮億衛門

宮城前の廣場に選ばれた我々三萬六千は、今こそ千載一遇

現神まうけの御座につかるれば

一羽の鳩だに身動きもせず

みことのりを拜すにつれて

詔仰ぐにつれて三萬六千の

身はひとりでに踊りける

君が代を彌榮益しに榮ゆかさん

一人一人の力あはせて

光榮に浴して

新卷尋高 岡田春治

神武天皇祭をトした四月三日の全國小學校教員精神作興大會に参加し、畏くも御親閱を賜はりしは我等の終生忘れ得ぬいと尊き光榮である。あまつさへ優渥なる御勅語を拜するに及びては、只よ有難涙に咽ぶのみ、誰か其の責務の益と重且つ大なるを覺えざらん。今後はひたすら御聖旨を體し、一層精勵格勤共に、身命を献げて教育に精進し、以つて大御心の萬分の一に報い奉り、帝國をとこしへに泰山の安きに置かん。



の時と容儀を正して固唾を呑み、天皇陛下の御來臨を御待ち申し上げた。やがて宮城の茂みの間から軽快な響と共に、御車が現れ給ふた。一臺二臺三臺四臺五臺と思ふ間もなく玉座に立たせ給ふ御姿を有難くも確かと拜し奉ることを得た。微動だもせさせ給はず、いとも明朗壯嚴な御詔を拜せしこそ誠に千載一遇の感激である。

一意奉公

新巻尋高 西山信次

昭和九年四月三日午後二時半より二十分間に亘り御親閱を賜ふ、寔に恐懼感激に堪へず、幼時よりの宿望今日かなふ。嗚呼悦し、有難し、陛下にはいと御質素なる陸軍の御服装にて玉座に着御、玉音朗かに優渥なる勅語を賜ふ。最敬禮、代表の奉答、皇太子殿下御降誕奉祝歌、萬歳に一々御答禮並に御會釋を賜ふ。御還幸に際しても整列せる御右、御正面御左と擧手の御禮を賜ひたり。感涙に咽び此の無比の光榮を心肝に銘じ一意奉公の誠を致さんと固く決心せり。

御親閱の光榮に浴して

須川尋高 熊澤達二

長閑さや 聖駕迎ふる大廣場  
鹵簿に伏す御民淨むや春の雨

下筋の力強さや 大御稜威  
御聖勅に 感激深し春の空  
塵も生立てなん むきくくに  
胸に咲く花や 御閱の記念章  
若芝の色映えにけり 大御閱

御親閱を拜受して

須川尋高 千吉良勝三

御親閱を拜受する身の光榮を感謝して  
畏くも大御心の惟はれて  
教への道を歩む我身は  
大神の前に額づく我身なれど  
導く術の恥かしき哉  
優渥なる御聖旨の程を奉戴しては  
國家の基きづくは汝が責と  
論させ給ふ勅宣文  
君が代を壽ぐ聲の木霊して  
集ひの庭に慈雨しきるなり  
かくて任を果して歸郷途上の感激は  
浦々に歸るよすがに慮ふかな  
生立てなん教へ草群

千載一遇の光榮に浴して

須川尋高 神保文雄

昭和九年四月三日。身一片の小學校教員にして、全く千載一遇とも云ふべき、御親閱の光榮に浴する事の出来し身の幸に感泣せずにはおられぬ。海行かばと歌ひ、山は裂けとの赤心の叫び、又西行の詠に、我等祖先の熱烈なる忠誠道を知るとともに、今又目のあたり。  
陛下の御姿を拜し奉りて恐懼感激、身盡忠の赤誠に張り満たされ、我が君は千代に八千代にと心に繰り返すのみ。

心の「君が代」

須川尋高 越次松枝

「君が代は、千代に八千代に」春雨そほ降る中、赤誠をこめて天地も砕けよとばかり、天皇陛下の御姿を伏し拜み奉り身に溢るゝ感激に咽びつゝ歌ひました。三萬六千人の太く強く長く大内山を震はせた、感泣の聲は永遠に私の心耳を打ちつゞける事でございます。  
その聲を想起する事によつて、私は再び陛下を拜み奉りたる感激を新にして己に鞭打ちて我が勤に勵み度いと思ひます。

御親閱の光榮に浴して

生井尋高 新井勇八

今日しも四月三日瑞祥漲り、千代田の森の緑いや増し、皇城の畔いとまうるほひ静寂一入なる神域に於て特に御親閱を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を御下賜あらせらる。寂慮深遠誠に恐懼感激に堪へず。凜たる御英姿に咫尺するだに終生得難き光榮なるに、玉音朗々たるを拜し得たるは、教への道に席末を汚す身に餘る至幸至福感激措く能はざるなり。深く、聖旨を奉體しかゝる感激の日を胸に秘め日夜粉骨碎身身を献げて教育道に邁進し以て聖恩の萬分の一に應へ奉らんとす。

御英姿を拜し奉りて

生井尋高 木暮サダ

すめらぎのあやにかしこきみこと  
ぬかづく我にしかと聞ゆる  
親しくも君の英姿を仰ぎたる  
今日を心の鞭となしてん

御親閱を拜して

入須川尋常 笛木正雄

春雨にぬれて色増す神垣の



松の木の間を輝く御旗  
大前に集へる友は多けれど  
しままに居りて春の雨降る  
この榮とこの歡びをいかにして  
教へ子達につげ知らすべき

御親閱を仰ぎて

川田尋高 小淵 孟 治

感激の極みとは、今回の全国小學校教員精神大會に際しての言葉でありませう。生を享けてより今日まで、眞の感激に涙の流るゝを禁じ得なかつた事は僅かに三度です。第一回は始めて 皇大神宮に参拜した時、第二回は昭和四年の秋 聖上陛下の御親閱を拜受した時、及今回とす。日本國民の誰でもが私と同じやうな體驗を體驗されて居ると思ひます。そして日本人には日本人の血が流れて居るのだなと強く強く感じた次第です。

御親閱を拜受し奉りて

川田尋高 桑 原 好

未嘗 陛下を拜み奉りし事無き身の御親閱の日を如何に待望せしことか。此日、喇叭の響と共に會場に出御あらせられし御英姿を、遙に拜み奉りし身は、全身に轟々と迫る感激と

謂ふか、戦きと謂ふか一種の動悸と緊張とを強く感ぜり。颯爽たる御英姿、朗々たる御音を拜し奉りては、嗚呼此の御姿此の御聲こそ、吾等九千萬同胞の等しく仰ぎ奉る「我等の天皇よ」と。唯有難く忝けなく、何等の私心なく「粉骨碎身皇恩に報いなん」との感激あるのみなりき。

感激歌

川田尋高 大竹好太郎

神なんいや貴かる 大君の  
御勅語賜ふもたまにかしこし  
この御勅語心にもりてあはひたに  
いそしみ行かん教への道に  
神閑ぶる大内山の春雨に  
けむりわたるもいよ々尊とし  
彌榮豊榮え行かん日の本と  
聖壽祈りて萬歳さけぶ

感激文

川田尋高 田 村 倉 藏

畏もいや高き竹の園生の榮へまします、皇太子殿下の御降誕を九千萬同胞が等しく御祝詞申上ぐると共に、皇位と國家の隆昌を御祈り奉る。時維四月三日此の記念す可き日、

聖上陛下全国小學校教員代表を二重橋前の大廣場に御親閱あらせられ、玉音朗々と御勅語を賜はる。微臣感激身の措く所を知らず、謹で聖旨を奉戴し現時の世相に礎となり、奮勵努力日本精神を作興し、聖旨の萬分の一に、そひ奉らん、謹で感激のあまり記す。

御親閱を拜受して

川田尋高 富澤 知 治

あな尊と春や宮邊に御親閱  
春雨や聖諭に芽ぐむ教師われ  
春なかばわれ只泣けり御親閱  
感激を兒等に傳へむ春の雨  
忽忘草の種求めけり御親閱

御親閱の光榮に浴して

川田尋高 見 城 佳

四月三日、畏くも 陛下には我等三萬六千の教育者の爲に御親閱を賜ひ、尙その上に、優渥なる勅語を賜へり。小學校教育に對する 御軫念の程も拜察せられて、只、只感激に咽ぶのみ。  
ああ、何たる幸福ぞや、私は小學校教育者としての、自己の身に餘る幸福な姿と責任とを、一層強く感ずると共に、

御聖旨を奉戴して、健全なる國民の養成に努め 皇恩の萬分の一にも報ゆべく誓へり。

御親閱を拜受して

川田尋高 清 野 や す

君ヶ代は千代に八千代にさざれ石の  
いはほとなりてこけのむすまで  
今自分の口をついて出づるこの歌が、何萬人の聲に和して  
畏くも 天聽に達するかと思へば、歡喜おく所を知らず、  
遙かに 御尊影を拜し奉りて、只々感激の涙にむせぶのみ。  
此の身に餘る光榮に浴し、有難き御聖旨を奉體して、益々責務の重きを思ひ、身命を教育に捧げて、御聖恩の萬分の一にも報ゆべきことを誓ふ。

感激文

川田尋高 小 林 卓 藏

搖ぎなき皇統三千年、やんごとなき神の御姿を眼の前に、玉の御聲のかゝるうれしさ。  
雲井に煙むる大内山のすみずみまで響き渡る君が代の歌に胸せまり涙ぐむ我、日本國民として、教育者としての光榮と心強さ!!  
幾度か拜讀、幾度か深思して「其ノ淵源スル所實ニ小學教



育ニ在リ」に到る毎に五尺の身體感激に燃ゆ。

感激文

川田尋高 林 千代松

大内山の松の緑益々濃く、日嗣の皇子生まれまして、奉祝  
歡喜の聲、大八洲を震ふ時、宮城前廣場に集ふ全國小學校教  
員代表三萬五千。時恰も春雨銀糸の如く降り、衆皆肅然とし  
て息をのむ。嘸曉たる喇叭の響と、國歌の奏樂に吾等は襟を  
正し光榮と感涙に咽びつつ、

天皇陛下の臨御を仰ぎたり。嗚呼待望せる千載一遇の御親  
閱を賜り、剩へ優渥なる勅語を戴して、恐懼感激指く所を知  
らず。たゞ教育報國以つて聖旨に答へ奉らんのみ。

御親閱を拜受し奉りて

川田尋高 星野 義 規

昭和九年四月三日、

これぞ私の生涯忘るゝことの出来ない感激の日である。長く  
も 聖上陛下の御英姿を目のあたり拜し奉り剩へ玉音いとも  
朗かに御勅語を賜つた事は前代初等教育者にあつては未聞で  
あつて今日の盛事に際會出来る光榮に唯恐懼感激するばかり  
である。この上はこの感激を第二國民養成の爲めに體驗して  
粉骨碎身皇恩の萬分の一にも報い奉る決心である。

龍顔を拜して

久呂保尋高 山口 筆吉

龍顔にま見えし幸や身にあまる

玉の御言葉いかで忘れん

感激のただ一言に盡にけり

玉の御聲のかかるその折

みことのり拜して我は一筋に

教へ育てん大和撫子

皇太子殿下の御降誕を壽ぎ奉りて

敷島の大和の國にあきらけき

光を賜ふ皇子生れます

日の皇子を壽ぎ歌ふその聲は

大内山にひびき渡りぬ

眞心をこめて祈らん神々に

日つぎの皇子の御すこやかを

教育への光を讃ふ

久呂保尋高 平 井 丈 夫

(一)はつくにしらすすめらぎを 祭り給ひし記念の日

大君近く拜す身は 生けるしるしあり御民われ

(二)玉音期々宣り給ふ わが 大君のかしこさよ

教への道に榮あり

(三)皇紀二千六百年

神武のみかど建國の

(四)教への道のはらからよ

勅旨かしこみもろともに

あゝ、感激の大うしほ

わが極東の祖の國

使命は重しあゝ、日本

國の非常時身にしめて

教への光いやまさん

感激

久呂保尋高 森 井 貢 二

そぼ降る雨の中を長くも 天皇陛下には、宮城二重橋前ま  
で車駕親臨あらせられ、全國小學校教員代表三萬六千人の御  
親閱並に玉の御聲の勅語を賜はり我等此の光榮に浴したる者  
の何たる光榮ぞ、唯々感激あるのみ。  
君が代の千代萬代までの御榮へを祈り奉ると共に此の感激  
を永久に忘れず、御勅語の御聖旨に基き粉骨碎身以て兒等を  
導かんことを誓ふ。

御親閱に感泣して

久呂保尋高 倉 品 充 男

大和島根の誇とも云ふべき櫻の花も綻び初むる四月三日、  
天皇陛下には春雨煙る大内山より玉歩を進められ、我等教  
員三萬六千に對し、長くも御親閱を賜はり、あまつさへ玉音  
朗々と優渥なる勅語を賜ふ、我等が感激何物をか之に譬ふべ

き、我等はかくも限りなき聖恩の有難さに感泣したること  
無く又かくも國民教育の重大性を感得したること無し、我等  
は何を以てかこの聖恩に報い奉り、如何にして勅語の聖旨に  
答へ申すべきか。之唯聖旨を奉體して日夜奮勵努力、第二國民  
の養成に當るあるのみ。こゝに之を誓ひ筆をおく。

光 榮

久呂保尋高 藤 井 さ と

幼子の教への道ぞ國榮ゆ

源と詔らせしかしこさよ

春雨に身をば清めて御閱の

永久の光榮をいかで忘れん

三萬を超えて五千の教へ人

花咲ける日に涙あふれぬ

覺 悟

限りなき重き任めを一入に

今日ぞ覺えぬ勅語仰ぎて

大勅語心に刻りて我が郷に

務め勵まん日々業

春の日に尊き勅語御受けして

大和櫻を善きに育てん



「玉音を拜して」の一節

糸之瀬尋高 中村 萬吉

此の日全國より集まれる者約三萬六千名、春雨煙る皇城の畔に整列して、時の到るを待つ。午後二時半すぎ嘯鳴たるラツバの鳴り響くや、全員一齊に襟を正して、緊張の極に達すこの時 天皇陛下には略式自動車鹵簿にて宮城御出門、かねて備へ奉りし純白の玉座に立たせ給へり。仰ぐも畏し、神祖より大統を承け継ぎ給へる 聖天子の神々しき御姿只々有り難し。と言はんより他に言葉なし。かくて吾等の捧げし最敬礼も、君が代も、萬歳も、この時程感激の裡になされしことは、かつてあるまじ。ことに朗々たる玉音を拜しては、誰か感泣せざる者あらん。嗚呼この感激この光榮こそ我等日本國民ならでは、眞に味ふこと能はざるべく、これぞ悠久無限なる日本國史上の一瞬間たるべし。

あれませる 皇子の聖壽を千代八千代  
ことほぐ今日ぞ嬉しかりける  
大君の御前にありて 皇御子の  
生れませるを我はことほぐ

御親閲を拜受して

糸之瀬尋高 加藤 正常

時こそ今は教育の 力によりて救はんと  
大御心のいと尊 神ながらなる日の本に  
畏き御詔垂れ給ふ  
時こそ今は國民の 尊き光富士に似て  
千古に朽ちぬ文の跡 神ながらなる日の本の  
礎永久にゆるぎなき

御親閲を拜受して

糸之瀬尋高 新 井英 雄

昭和九年四月三日、薫風罩むる大内山に紫霞たなびきて、清香浮動し、櫻花將に聖世の春を壽きてはころび出んとする時、此處宮城前の大廣場に、全國小學校教員代表三萬有餘は皇太子殿下の御降臨を奉祝すると共に精神作興大會を開催し、御親閲に浴するの光榮を得。誠に喜び至れり。  
神姿高徹。仰ぶぐ我等欣然として 大君が御稜威を壽ぎ奉

御親閲を拜受して

糸之瀬尋高 片 桐義 猷

有難きみことのり得し今日の日を  
幾千代迄も我は残さん  
如何せば答へまつらん事を得ん  
今日の畏き御詔きゝては

る。かくて優渥なる御勅語を拜し誠に恐懼感激に堪へず、只管斯道に淬厲努力し以て聖旨の萬一に副ひ奉らむことを期す。

御親閲を拜受して

糸之瀬尋高 小 林 ふ じ

昭和九年四月三日、畏くも 陛下の御親閲を賜はるといふ未曾有の盛儀に、淺學非才の身で今日此處に此の光榮に浴した事は何たる感激でありませうか。此の日朝來より春雨濃やかに、皇城の畔には瑞雲立てこめてげに一天萬上の 大君を仰ぐにふさはしき日であります。恐れ多くも  
陛下には、優渥なる勅語を賜ひ、我等教育者の向ふべき大道を昭示し給ふ。此の瞬間の心を肝に銘じ、第二國民の養成に、日夜勵む覺悟で御座います。

感激の日

赤城根中部尋常 小野竹次郎

昭和九年四月三日、この日こそ私等にとり永遠に忘れ得ぬ光榮と感激の日でありました。  
天皇陛下臨御あらせられてより、御親閲を賜はる間、私は何とはなしににじみ出る涙のうちに終始しました、ことに玉音朗かに勅語を下し給ふ際の如きは吸泣をさへ禁ずるを得

ませんでした。私は此の無限の感激と無上の恩榮を永へに記憶すると共に自己の責務の重大さを痛感しました。

天職を盡して對へまつる

赤城根西尋常 山 岸 貫 善

春雨蕭々として降りしきる中に感涙に濡れ立ち盡し等しく聖天子の慈雨に潤ふ。御親閲且又優渥なる勅語を拜す。此時の恐懼感激この場面の嚴肅さ實に空前絶後なり。或人曰「従前未だ嘗て見ざる聖代の盛事大偉觀なり」と、然り生等夙夜孜々として只管育英の天職に精進しつゝある甲斐あり、こよなき面目又力強き大靈感を得たり。吾人は國體に基き公道宣布徳教を樹立し此責任に對する認識と實踐とを神かけて誓ひまつる。

古今未曾有の小學校教員御親閲の光榮に浴して

赤城根東尋常 羽 鳥 澤 吉

佳辰四月三日、松の綠葉色濃き宮城前の神境に、全國小學校教員代表者相會し、精神作興大會を開き 皇太子殿下御誕生を奉祝せんとするや、畏くも 天皇陛下親しく臨御あらせられ御親閲を賜はりし上、優渥なる勅語を賜はりたり。明治維新の大業は實に本居宣長の國文學にありしとき。身は眇



たる一小學教員なりと雖も、今拜戴せる聖慮に感泣、以て昭和の本居宣長となり、更生教育に實行主義——身を君國に捧げ以て聖旨に應へ奉るの一大決心を心肝に銘じたり。

佐波郡

御親閱を仰ぎ奉りて

伊勢崎南尋高 萩原彦吉

(一) 小學校教員精神作興大會に行幸と承りて  
此の慶の盛儀は、御親閱を終つて後、小學校教員精神作興大會を開催するものゝ如く要項にも示され、各種準備も進められて居たのである。然るに宮内省から文部省への通達には「明三日宮城前廣場ニ於テ舉行ノ全國小學校教員精神作興大會ニ行幸ノ旨仰セ出サレタリ」と記されてある旨前日承つたので何といふ畏れ多い事かと既に前日から感激に満されて當日を迎へたのである。

(二) 天顔に咫尺し奉りつゝ君が代を奉唱して  
「今日こそは晴れの御前のことなれば最も美しい聲で高らかに君が代を奉唱せんものを」と時の至るのを待ち申して居つたのに、何ぞ圖らん眼のあたり天顔に咫尺し奉りては萬歳胸に迫りて只々光榮に感泣するのみ、儀式係は「君が代奉唱」を報ずるも感涙に咽んだ私には初は容易に聲が出せなかつた。宜なる哉三萬六千の會衆にも似ず君が代の第一節を奉唱する聲の甚だ低かりしことはと後になつて氣が付いた。

(三) 小學教育に關する勅語を拜し奉りて

嗚呼何たる勿體ない事であらう一天萬乗の至尊に咫尺し奉るさへ吾等小學教員の終生浴し難き至榮である。然るを更に親しく玉音を拜して勅語を賜はるとは。感激の涙双頬に流るゝのを止むることが出来なかつた。就中「其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ」と仰せられた瞬間には何とも喻へ方なき衝撃を身に覚え、まるで夢では無いかとさへ思はれた。蓋し感激の最高潮に達した時であつたらう。勅語を拜し畢りて始めて吾に復り「粉骨碎身聖旨に副ひ奉る様奮勵努力すべく」堅い／＼決心が油然として涌き上るのであつた。

御親閱を拜受して

伊勢崎南尋高 熊谷芳茂

昭和九年四月三日、全國小學校教員精神作興大會の舉行されるに當つて、教育者たるの故を以て、此の式典に參列するの光榮を得た。當日式場に列し感激に堪へなかつたことは、陛下の玉姿を眼のあたり拜し奉つた時であつた。此の間の有難さ尊き畏き、實に何と申してよいか到底言辭に盡し難き感激であつた。全く夢にして眞實とは思はれなかつた。更に親しく御勅語を賜はつた瞬間は全く感激の極であつた。此の間身も魂も釘づけされた緊張であつた。吾を忘れて君が代を奉唱し萬歳を叫んだのであつた。陛下の鹵簿を遙に奉送し



て始めて吾にかへつた。此の空前の盛儀に列して眼のあたり陛下のかくも小學教育を重んじさせ給ふ御聖慮を拜し奉つては、粉骨碎身以て教育報國に邁進せねばならぬと固く誓つたのであつた。

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 八木彦重

あれましし日嗣の皇子のよろこびを

歌ふ聲にも力こもれり

朝夕に尊き今日の仰せごと

子らにつたへん身を碎きても

御親閲を拜受し勅語を賜はりて

伊勢崎南尋高 横尾福治

千はやぶるおほうちやまのひろまへに

しづがともがらけみしたまはる

しづばらにやまとなでしこつちかへと

おほみことのりたまふかしこさ

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 大澤彦左衛門

今しかくやまと島根のおしへ人

今日のほまれに何をうたはん  
よろこびはこのひと時に消えぬべき  
わがはらからのこのよろこびは

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 木暮りう

温き君が御詔を畏みて

生々し立なむ大和撫子

石の上古き昔を偲びつゝ

いそしむ事ぞ我が勤めなる

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 寺内定一

かしこさよ君のめぐみのいや深く

皇國男子は胸充ち充ちぬ

今日の誓ひ心に深く植ゑこめて

教の庭の柱となさむ

御親閲拜受に際會して

伊勢崎南尋高 北爪正雄

皇紀正に二五九四年長くも我が皇室に於せられては萬世一系の寶祚を踐ませらる可き 皇太子殿下御降誕遊ばされ我等

國民の喜びこれに過ぐるものなからん。時恰も神武天皇祭の佳辰の日全國初等教育に職を奉ずるもの數萬、玉の宮居前廣場に集ひ畏れ多くも 陛下の御親閲を拜受仕る。只に龍顏を拜し奉るのみにても恐懼おく能はざる處なるに 陛下には夙に國家興隆の基は國民精神の作興にあり、國民精神の作興は向上せる資質を具備せる國民の養成に俟つのみと、かゝる國民の養成こそ實に初等教育者の任務なり、かゝるが故に初等教育の振否は即ち國家の興隆に一大反影を致す可き事を御軫念遊ばされ我等に優渥なる御詔書を賜はりたるは前古未聞と云ふ可く眞に感激に堪へざる處である。

御親閲に際會して

伊勢崎南尋高 高橋正義

かしこさよ現人神とおろがみて

賤が譽のいやまさりける

御親閲を拜受して我が務を思ふ

伊勢崎南尋高 倉林丈雄

大君の御前にありてしみじみ

己が務をかへりみしかな

感激の胸に満ちたり大君の

御旨守りて兒等に臨まん

御親閲を拜受して

伊勢崎南尋高 石黒量太郎

昭和九年四月三日、あゝこの日こそ終生忘れることの出来ぬ感激の日であつた。この日、九千萬同胞の翹望久しかつた皇太子殿下の御降誕を壽ぎ奉り、併せて兎角世の濁流に染らんとする教育界を否更に一般社會を淨化せんとの一大念願のもとに、我等三萬六千の小學校教員が風靡る宮城前の大聖地に參集したのであつた。

おゝ然るに何たる光榮であらう！前古未聞なる陛下の御親閲をさへ賜つたのに、思ひもよらぬ有難き御勅語に接しようとは！ 聖慮深遠、皇恩無涯、これ以上我等小學校教員をして欣喜雀躍、感奮興起せしめる何物があらう。會て我が郷土の偉人高山彦九郎先生が、ひそかに光格天皇に拜謁仰せつけられ、剩へ大御言葉を賜つて、先生感激に堪へず。



我を我と知召すかや 天皇の

と詠まれたとか、當時の先生の感激こそ、正に今の我等の感激に外ならぬであらう。

御親閲拜受後の精神作興大會に於ては、會長の宣言文朗讀に對して滿腔の至誠をこめて手の痛くなるまで賛意の拍手を送つた。今の感激を永久に持續させ、この貧しき身命を皇國教育の爲に捧げることが、天地神明に誓ひつゝ。

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 岩崎喜久雄

燦然と一卷の繪卷そのものを

まのあたり拜する聖駕

天皇御勅をかしこみて

固き誓ひに身をこめし

其の一際を幾年の

世迄偲びて己が身の

骨となしつゝ玉と碎けん

御親閲を賜はりて

伊勢崎南尋高 橋本政之助

つとひ來て膚粟さす思ひ有り

重きせめ持つ我にて有りし

すく／＼とのびゆく兒等が導きに

おりたちてこそあひし今日の日  
大みこと胸にきざみて努めなん

日の本になひ立つわらははべに

御勅語を賜はりて

伊勢崎南尋高 森

すべらぎの御勅かしくみおきな兒の

教への道に捧げんわが身

茂

御親閲に際會して

伊勢崎南尋高 日野松枝

今よりは心の駒にむちうちて

教の道にいざや進まん

健やかに日嗣の皇子は生れまして

千代田の森はいや榮えなん

御親閲を拜受し奉りて

伊勢崎尋常 生形信藏

皇紀二千五百九十四年、神武天皇祭の佳辰の日、吾等全國小學校教員代表は、春雨こまやかにそそぐ宮城前の聖域に於

て、畏くも御親閲を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を賜はる。寔に千載一遇の至榮なり。午後二時三十分、嘔嘔と響くラツパの音、肅々と宮城二重橋を渡らせ給ふ雨瀟をはるかに拜し奉るや、我等教員代表は感極り寂として聲なく微動だにするものなし。畏くも 天皇陛下には、會場正面純白の玉座に臨御あらせられ、玉音朗々勅語を賜ひて、吾等小學校教員の責務至大なるを聖諭し給ふ。嗚呼、この聖勅を拜し奉りては「吾等小學校教育に従ふ者如何にしてか聖旨にこたへ奉らん」とは光榮に浴せし者の胸に齊しく漲れる感激なり。畏れ多き龍顏に咫尺し奉りながら、感涙に咽びて仰ぎ奉る事を得ず。

皇太子殿下御降誕奉祝歌も、聖壽を壽ぎ奉る萬歳も、恐懼感激に胸せまるのみ。たゞ此の上は、日夜聖旨を奉體し、至誠一貫職分を楽しみ、粉骨碎身身命を獻げて、次代國民の教養に盡瘁し以て、聖恩の萬分の一に報い奉らん事を誓ふ。

御親閲を拜受し奉りて

伊勢崎尋常 柳澤悌二

昭和九年四月三日、春雨降り注ぐ宮城前聖域に於て、全國小學校教員精神作興大會を催さるゝに方り、臣等畏くも天顏に咫尺し奉り、剩へ玉音朗々優渥なる勅語を賜はり、未曾有の光榮に無限の感激を覺ゆると共に、聖慮の程を拜察し奉りて、恐懼措く所を知らず。臣等萬世一系の 聖天子を戴き奉

る至幸を思ひ、相共に志を一にし、建國の本源に廻り至誠一貫職分に勵み、以て聖旨に報い奉らんことを誓ふ。

御親閲を拜受し奉りて

伊勢崎尋常 五十嵐房吉

春雨そそぐ千代田の城

緑はいよよ色もはえて

昭和の御代はここに九年

四月三日の今日の佳き日

小學校に職を奉ずる

吾等三萬六千人

前古未曾有のけふの盛事

逢ふぞうれし涙

畏し君に咫尺しまつり

國のさかえは吾等にまつと

御のり賜ひし聖旨あふぎ

ただ感激の涙あふる

ああこの上はこの身ささげ

夙夜奮勵職をつくし

次代の民をおしへそだて

御のりかしくみ答へまつる

謹みて御親閲の感激を詠す

伊勢崎尋常 毒島順作

大宮のみ前におはすすめらぎを

咫尺まつりてあふぐうれしき

おほみこと奮勵努力とのりたまふ

心も身をもささげつくさむ

非常時の荒き波風叫ぶとも

君にささげむ大和心を



國民を直く正しく一筋に

教へさとしてよき人にせむ

御親閲を拜受して

伊勢崎尋常 龜田長作

天皇陛下には四月三日に吾等初等教育者を宮城前廣場に於て御親閲あらせられ、尙優渥なる御勅語を賜はり、吾等の進むべき道をお示しになりました。誠に聖恩の宏大なのに恐懼感激致しました。

不肖私も此の光榮に浴し、愈其任務の重大なる事を感じると共に今後益奮勵努力して堅實なる國民を養成し、以て聖恩の萬分の一に報い奉る覺悟であります。

感奮興起

伊勢崎尋常 長谷川龍雄

時將に昭和九年の春、ゆかりも深き四月三日、今日ぞ我等の感激の日、肅々として聲なく春雨降り注ぐ宮城前廣場。おゝ現れましぬ。現人神の尊き御姿。玉音朗々と賜はりたる、いとも有難きことのり。

並居る人々の頭は自ら低く、二條の熱涙は滂沱として頬に傳はる。思はずひきしまる誰しもの眉宇に感奮興起、粉骨碎身、教育報國の大道に一路精進の覺悟は現れぬ。

御親閲謹詠

伊勢崎尋常 原 登喜雄

嘯々と大内山にこだまする

出御のラツバに胸は高鳴る

雨曇るこゝの廣場にしづくと

行幸の車やがて止れる

春雨のけむる千代田の城の邊に

帝の英姿仰ぎつるかも

天地も動けと聲をかぎりにて

皇子の萬歳となへけるかも

すめろぎの勅かしこみ一筋に

教への道に生くべかりけり

御親閲を拜受して

伊勢崎尋常 八木彌平

この昭代に生れて、不徳の身を以て未曾有の光榮に浴し得たり。此の感激を體し永く小學教育に従事して、次代の國民を養成し、聖恩の萬分の一に報い奉らむことを期す。

感激賦録

伊勢崎尋常 早川寛一

國を擧りて歡聲の轟き渉る大八洲、靈光映えし大御代に生れ給ひし 聖天嗣、國家喜悅の感激に日は酣け榮えて初春の華の卯月に魁けて恐懼も深き御親閲。國を隅なく集ひ來じ召されて晴の教育者。赤誠こめて尊崇の 帝を仰ぐ佳き日かや。身も敬虔の極致にて稱へ唱へし「君が代」の心に祈る千代八千代。惠の潮に棹して光輝は榮ゆる大和人、いざ諸人よ教職の身を誠めて作興の精華に生きて心せん、全き道にいそしむつ。

御親閲を拜受して

伊勢崎尋常 小野里幸治

おのづから眼に涙滿つ御姿の

あまりに近し額づきをれば

降り來る春雨の中にあなかしこ

我が大君は御手擧げたまへり

君が代の樂の音近く聞ゆなれど

心空なり臣の子われは

かしこききはみ

伊勢崎尋常 松村きん

かしこかる御代にあひたるうれしみを

持てる心のすがすがしけれ

ほがらかに御代をことほぐ聲強く

わが身に泌みて力わき來る

御親閲を拜受し奉りて

伊勢崎尋常 大森 いく

菅の根の長き歲月、國擧り待ちわびるたる 皇祖の御子は生れまし、いや榮の御代をほがんと若芽吹く春日長閑に、遠つ祖祀る佳き日を幼子を導く者の、大宮の邊にまゐつどひすめら皇子ほぎまつれば、世のさかえ其の身に負ふとおほけなき勅賜ひぬ、身に餘る勤のほまれ、あやに尊し。  
長くもたふと勅耳にしめ  
胸におさめつ力つくさん

御親閲拜受の日

三郷尋常 田島 衛

此の日、莊麗の二重橋は、折柄烟る春雨に美しく淡く浮び出されて、外苑一帶神氣に充ち満ちてゐた。颯て靜寂を破る



嗚々の喇叭、莊重の軍樂の裡に、御紋章燦たる御自動車を迎へた。何たる莊嚴ぞや！ 思はず感激の涙にくれた。 恐懼目前に正しく拜す 至尊、皇恩に浴する此の身此の心。 幾度か瞑目合掌禮拜しつゝ、御還幸を見送つた。小學校教員なればこそと、歸途を忙ぐ吾が靴首の舗道に高かつたことよ。

光榮の日

三郷尋高 梶山 文助

その日、そぼ降る雨は瑞雲かすむ大内山の松か枝に一入の緑を増し我等の双肩を濡して重き責務を感じよと教ふるものゝ如し。やがて二重橋よりの御車を迎へ奉る。龍顔いと麗しく玉座に臨御します。さしもの廣場も肅として聲なし。

あゝ日東の 聖天子。一天萬乗の 現御神の御英姿。まのあたり拜し親しく御聖勅を賜はる、身小學校教員なればこそと感激のあまり、ただ／＼教育報國を額つき誓ひ奉る。

陛下おでましたの刹那と御勅語下賜

三郷尋高 長岡 龜吉

千萬の神をぞ思ふ聖帝こそ  
いやが上にも尊かりけれ  
有難き大みことのり身にこめて  
あらん限りの使命果さん

御親閲の刹那

三郷尋高 毒島 一司

四月三日午後二時十五分燦たる鹵簿は九重深き錢橋上に輝くや、嗚嗚たる喇叭の音大内山に響き渡れば、吾等は胸轟き三萬六千人の教職員の呼吸も一つ／＼に聴き取られるの感あり。我が大八洲島長くも君民一體今眼前に展開せる此状景、天を仰ぎ地に伏して只感激の一念、君が代の奏樂裡に設けられたる玉座に 現人神の親臨ましまし、恐懼感激只衷心より聖壽萬歳を絶叫す。嗚呼教育者の幸福に併せて奮勵を期す。

光榮の日

三郷尋高 横堀 眞太郎

その日、二重橋からの御車をお迎へして莊重たる軍樂隊の奏樂を耳にした時、誰の胸にも歡喜と光榮とがいつばいに満ち満ちたであらう。胸せまり、眼頭の霞むのを感じて、靜かに私は頭を垂れた。

今こそ拜す 陛下の御英姿！ 身、教育者なればこそこの光榮！ 私は獨り胸を手に當て、この光榮に報ゆることを誓つた。

感激の歌

三郷尋高 中村 正直

數ならぬ身にしはあれど君仰ぐ  
光榮ある今日にあふぞ嬉しき  
大前にひれふす我は身にあまる  
光榮に泣きつゝ頭たれしも  
人の子を育む力伸せよと  
大御言葉を下し給ひぬ  
雨けぶる大内山の松が枝は  
君萬歳に打とよみけり  
九重の雲の彼方に還ります  
歸ります君が御車仰ぎつゝ  
數ならぬ身の幸を思ひぬ  
御諭をきもにきざみて幼な兒を  
生ふし立て行く我身嬉しき

御親閲

三郷尋高 岡田 衛作

大君の御姿を拜したゞ感激の外なく必ずや聖旨に副ひ奉るべく誓ふ誠心が天の感する所となつたものか、やゝもすると小雨に打たれつゞけらるる懸念もあつたが、御姿の御座所に現はれ給ふや不思議にもその間雨も止み心をこらして、現人神としばし萬歳とともに唱ふことが出来たのは光榮實に之に過ぐるものはなかつた。

御親閲を仰ぎて

三郷尋高 細野 たつみ

數ならぬ身もためしなき大君の  
大みそなはし仰ぐかしこさ  
ひたすらに教の道にいそしまん  
朝な夕なにみことまもりて

御親閲の日

三郷尋高 大隅 トキ

佐波 郡



御親閲の感激

三郷尋高 西村 義一

四月三日の佳き日全国小學校教員三萬五千餘宮城二重橋近き廣場に 皇太子殿下御誕生を奉祝し且國民精神作興大會を開くや、畏くも 天皇陛下には御親閲を賜ひ優渥なる聖旨を賜ふ、其の近く玉音を拜すは無上の光榮なり。感激し責務の一層重大なるを思ふ、皇運の無窮皇國の發展につとむるは我等の使命なり。愈發奮し粉骨碎身其の職分を盡し至誠一貫皇恩に報い奉らん。

御親閲を仰ぎて

赤堀尋高 田島 保平

すめらぎの凛々しき姿拜みけり

教の庭にいそしめばこそ

斯の道にさゝげます身のこの榮に

浴してはなほ勵まんとこそ

師の道のつとめの重さ一しほに

我が身にしみぬ榮に浴して

御親閲を拜受す

赤堀尋高 田中 忠三

仰ぎみる御英姿！ 瞬間、意識なしに私の頭は、前へ深く

垂れてゐた。あゝ今し すめらみことの御姿を、おろがみまつる尊さに、唯々、襟を正すのみ。この氣持、この森嚴さこそ私の一生忘れ得ぬ所であらう。  
畏くも、我等小學校教員を、御親閲あらせられたる御聖慮を、拜察し奉り、又、この日賜はれる、優渥なる御勅語の御聖旨に對し奉るの道を思ふ時、責務の益々重きを痛感するものである。

御親閲の光榮に浴して

赤堀尋高 宮下 英治

大君の教への庭に立つ者を

親しく閱しありがたき

賜ひし勅語かしこみて

生ふし立てなん大和撫子

光榮を千代萬代に分ちおき

我が大君の御徳つたへん

御親閲の光榮に浴して

赤堀尋高 木島 寛治

春雨に煙むる千代田の松の枝

緑の色は千代に八千代に

大君の御前に頼づく我が胸は

たゞ君が代の歌詞にこそあれ

大君の御詔仰ぎて有難く

如何に對へん重きつとめを

生涯の悦び

赤堀尋高 小倉 要作

忝けなくも、三萬六千の代表の末席に列して、したしく、龍顔を拜し奉る光榮に浴せしは、これぞ吾が生涯を通じて忘るべからざる感激の極みなり。唯々、御勅語の御趣旨を奉體し、以て職務の爲に粉骨碎身するのみ。  
教へ草庭に立つみの身に餘る

今日の御言葉深く守らん

無上の光榮に浴して

赤堀尋高 山田 金八

春雨のけふるが中に大内山

神々しさのいやまさりける

奏樂の調は胸にせまり來て

兩の眼にしづく湛へり

龍顔を遙かに拜し感激の

佐波 郡

涙に國歌とぎれとぎれつ

畏くも宣らせ給ひしみのり

おしいたゞきて奮ひ立たなん

萬歳の聲は天地を揺がせし

現人神の大前にして

數ならぬ身の限りなき光榮に

浴し得たるぞ嬉しかりける

御親閲の光榮に浴して

赤堀尋高 柳田長次郎

今春四月三日神武天皇祭の佳き日、御親閲を賜はるとは、如何に 陛下が教育の事に御軫念遊ばさるゝかは伺ひ奉るだに畏れ多く、愈々御聖姿を拜しては萬感交々胸に迫り刺へ、御聖勅を拜しては身の幸甚筆紙に盡し難く只々感激あるのみ、一層職の重きを肝に銘じ、聖慮の存する所以を拜察し以て、皇恩に報い奉らんこそ我等教育者の使命たるべく益々其の責の重きを感じる者あり。

御親閲の光榮に浴して

赤堀尋高 東野 政次

昭和九年四月三日。畏くも 天皇陛下には、我等三萬六千の小學校教員代表を親しく閱せられ、尙も優渥なる御勅語を



御下賜され、初等教育に 大御心を煩し奉るは、實に比なき聖慮の深厚なることである。  
況や、現時の世相益々多難なり。かゝる際に初等教育に身を置き、此の聖代の盛事の光榮に浴するを得たるを思へば、其の責任の重大と、その努力の尋常ならざるべきを痛感す。

御親閲拜受の光榮に浴して

赤堀尋高 神澤壽太郎

昭和九年四月三日、畏くも御親閲を仰ぎ奉りたる、古今未曾有の盛事に會ひ、其の光榮洵に感喜極る所がありません。天皇陛下には、玉音期に優渥なる勅語を賜ひました。あゝ、陛下が夙夜、大御心を教育に留めさせ給ふの深きは洵に恐懼感激に堪へません。私達は竹の園生の彌榮を奉祝し、至誠一貫職務に精勵し、謹んで、聖旨に副ひ奉らんことを期するものであります。

御親閲の榮に浴して

赤堀尋高 根岸明治

四月三日、御親閲拜受の光榮に浴し、刺さへ、玉音朗々と勅語を賜ふ。かゝる有難き、御思召は未だ嘗て非ざる所にし、唯々、聖慮の深遠にして教育の事に、御軫念あらせらるゝ大御心の拜察されて、かけまくも畏き極みなり。我等、御

聖旨の廣大無邊なるに感泣し、粉骨碎身奮勵努力以つて、皇恩の萬分の一にも報いんことを天地神明に誓ふ。

御親閲の榮に浴して

赤堀尋高 鈴木のぶ

天と共に永へに、地と共に久しく、榮光に輝く大内山。皇太子繼宮明仁親王殿下の萬歳を祈り奉る。

感激永遠に

東尋高原 澤延壽

四月の半ば露滴る麥畑青味帯びた桑の梢に又なく鮮かな爽快な村の朝、新聞を披くと「鬚を剃つた童顔で御行列を奉拜高橋老藏相の感激」の記事。日嗣の宮様が天宮御所初の御訪問遊ばされ還啓御通過を官邸前で待ち奉る情景、御尊顔を間近に拜し得た際の感激等讀み往く間に油然湧き起る強い感激。此朝不圖此の感激を持ち得たのは四月三日無上の光榮を擔ひし賜物と、獨り正座瞑目唯々高き皇恩を拜謝し奉り更に燃ゆる感激我が胸奥に在り永遠に愈々新しく強くあれと只管祈りました。

御親閲拜受して

東尋高 佐々木貞司

私達の使命の尊さが深く臆に感銘いたしました。聖恩に浴して記念すべき今日の佳き日。私達は言はんとし言ひ得ぬ喜びでありました。益々自己の修養に努め以て國勢打開の第二國民の教養に邁進しなければならぬと思ひを重ねました。

御親閲拜受の光榮

東尋高 板野元司

限りなきすめらみかどの御恵を  
只ひとすじに子等に傳へん  
學びやのみちをさとせるみことのり  
心あはせて君に仕へん  
優渥のおほみことのりたまはりて  
只有難く涙こぼるる

御英姿を拜し奉りて

東尋高 細野仙太郎

天顔に咫尺して君が代を奉唱し、皇太子殿下奉祝歌を合唱する。この感激や誠に筆舌に盡し難きものであります。陛下には玉座に臨御あらせられしより還御までげにも御端

御親閲拜受の光榮に浴し忘れ得ぬ感激

東尋高 小倉友士

我が教育史上空前の盛事全國小學校教員精神作興大會に於て畏くも御親閲を拜受す。至尊玉座に着御あらせ給ふ。神々しさに頭は下り眼は潤ひ同時に最敬禮を奉る。謹み畏みて御親閲拜受只々有難さと恐懼を感じ言ひ難き敬虔の念に打たる。皇太子殿下御降誕奉祝を文相閣下言上一同奉祝歌奉唱の時皇室の彌榮に榮行くこと、皇國隆昌の象徴の感激あり感涙に噎ぶ。殊に優渥なる勅語を賜はり聖恩に感激し粉骨碎身皇國小學教育の爲に全身全靈を捧げ以て皇恩の萬分の一に報い奉らんと誓ふのみにて言ふところを知らず。

御親閲拜受の感激

東尋高 小保方誠二

大君の邊にこそありと思ふとき  
我なかりけり心おどりて  
尊しの姿やたまの大詔勅  
永久に忘れじけふのこの日を



正なる御英姿にて微動だにあらせられざりしは私共の最も恐懼おく能はざる所でした。當日賜はりましたお勅語に

「國運隆昌ノ淵源ハ小學校教育ニ在リ」

と仰せられ身をもつて範を教示され給ひし御聖徳に對し奉り一意専心赤誠をもつて教育のことに従ひ、宏恩に違はざらんことを期する覺悟でございます。

御親閲の光榮に浴して

東尋高 飯島 政一

昭和九年四月三日 天皇陛下には宮城前大廣場にて、全國小學校教員三萬六千を親しく閲して、優渥なる勅語を賜はりました。身初等教育の任にある者これに過ぎる光榮はありません。

龍顔を咫尺に拜し玉音を拜聴し得たるとき、たゞ言ひ知れない敬虔の念にうたれて、感激の涙を禁することは出来ませんでした。

上に 聖天子を戴き、日毎に榮へゆく大御代に生を享け且この光榮に浴せるを憶ふとき。益々初等教育の任に精勵し粉骨碎身以つて聖旨の萬一に答へ、教育奉公の誠を盡さうと思ひます。

御親閲を拜受して

東尋高 齋藤 雪二

初等教育者に對し御親閲を賜はるといふことを承り我等はどんなにか聖恩の有難きに感激したことたらう。

然も選ばれてその光榮に浴し得たのである。この日の感激の數々は筆紙に盡し得ない。唯我等は益々教育の道に精進して、聖恩の萬一に報い奉らん事を誓つた。

御親閲參加の光榮

東尋高 根岸 藏人

昔は「普通の人でありながら殿様に逢ふと目がつぶれる」とさへ言はれたそうです。ところが申すも恐れ多いことですが、

天皇陛下には、小學校教育者のために御親閲まで下され、私までもが直接此の光榮に浴することが出来たことは、今でも夢の様にはかり思はれます。拜受の朝齋戒沐浴し大神様に御燈明を上げ家を出ました。皇城前の廣場に天顔近く拜し優渥なる勅語まで賜はりし時「我は我にして我にあらざる」との念を強くしました。この有難い思召に對しどうしてよいか至誠一貫斯道に粉骨碎身精進し以て 皇恩の萬分の一に報い奉らうと思ひます。

御親閲の光榮に浴して

殖蓮尋高 根岸 國造

嚴に、大内山より響き渡る喇叭の音に襟を正ししはぶきの聲一つなく御待ち申しけるに、神々しく玉座に立たせ給ひし御英姿ををろがみ、御舉手の御答禮をさへ賜はりたる光榮、限りなき忝さに、胸は迫り不覺の涙に眼はくらみ耳は高鳴りして、何ものも見えず聞えず無我になり、只、日の本の蒼民としての誇と、大父君の御前の赤子たる親みの情にいかにもして御勅に對へ奉らんことを神に誓ひぬ。

感激謹詠

殖蓮尋高 川端門 太郎

齋きして都へ立つや春の朝  
赤子四萬芽柳の道進みけり  
春雨の二重橋見つ出御待つ  
草萌ゆる大地に伏してをろがみぬ  
詔春雨に拜し 感泣す  
苗守や雨の日風の日怠らず(勅語奉答)  
宮城は霞の奥や還御ます

この感激

殖蓮尋高 常見熊 太郎

天顔まぢかく咫尺して、勿體なきに我を忘る生けるし今更に、無限の力湧き出づ玉の御聲のかゝる有難さ忝さに涙こぼるゝ教育報國たがへじと、胸邊深く誓ひけり

心にゑりて

殖蓮尋高 須田 登

ここへの大宮まへはけむり居り  
勅語仰ぎて身に泌みじみと  
此の感激こころにゑりて雑草に  
むきむき咲ける花生ふしてん

感激

殖蓮尋高 櫻井元 日子

(一)春大内山に輝きて 雑草大地に萌え出す  
神武の祭に御閲うく きよき精神に四萬人。  
(二)惠溢るる日の本の 我が 天皇の御詔をば  
うけし我等の感激は 魂魄をうつす鏡なれ。  
(三)希望久遠の炬ぞ明き 君の高嶽讀へつつ



大和に生くる幼児を やまたこ いやうらやすに育まん。

謹 詠

殖蓮尊高 小林 只一

大君のおそば近くに進む子の

門出祝して老母涙す

春雨の煙る宮居の廣庭に

至尊を仰ぐ赤子四萬

大君の親閱受けし其の時の

心が大和心なるらん

大君の大詔かしこみて

教へ諭さん我身捧げて

熱きなみだ

殖蓮尊高 栗原 春雄

この世けふよるこびにみつみ榮に

曉起きて心すがしも

春雨の草萌え出でて大宮は

いらかの色のいつくしきかな

大君は今前近ういでましぬ

かく思ふだに長きものを

明つ神その大前に進み行く

四萬の御子はいきこらしつ

高光る大御姿を拜すれば

すめらぎまこと 天照らす日か

その天職勉めよと今宣らせ給ふ

その大御音はただに長き

大詔かしこみ拜し御民われ

熱きなみだのとめあへなくに

御親閱を拜して

殖蓮尊高 小保方英夫

春雨注ぐ聖域、參列せる教育者喜びにみつ。あゝ光榮なる

御親閱の日。臨御を告ぐる喇叭の音、翻り昇る日の御旗、莊

重なる君が代の奏樂。臨御玉座に拜す凛々しき御英姿、神々

しき有様、心うち、大地にひれふし拜み奉る。やがて、玉座

近く進み御親閱を仰ぐ。ついで 陛下には玉音朗々と、御勅

語を賜ふ。玉の御聲、ひし／＼と身に迫る。

有難き聖慮を拜し感激に咽びつゝ教育報國を心に誓ふ。

御親閱を拜受して

殖蓮尊高 永谷 きん

瑞祥漲る宮城二重橋の聖域、中央にくつきり浮べる如き純

白の玉座、そこにいと厳かに御起立遊ばさるゝ

聖上陛下今ぞ仰ぎ奉る御英姿。あゝ何たる光榮何たる榮譽。感激に全身打震ひ兩眼うるみて視界俄かに茫然とす。やがて玉音朗々たる御勅語を拜聴し今更ながら聖恩の廣大無邊なるに感泣す。我、必ずや奮勵努力し皇國のよき御民を育成し以て聖慮の萬分の一にも報い奉らんことを期す。

御親閱に浴して

殖蓮尊高 寺内 菊子

御發聲を報ずる唳々たる喇叭の音鳴り響く。瞬間の緊張、寂として聲なき神境の静けさ、靜かに仰ぎ見れば純白の玉座

に御起立あらせらる御英姿、その神々しき、唯々感激に咽ぶ

のみ、聖壽の無窮を壽ぎ奉る君が代の奉唱すら胸迫りてかす

る。聽て玉音朗々と勅語を賜ふ。全身一時にわな／＼き、有難

き聖旨に感泣す。此の感激、永く心肝に刻し、身命を捧げて

使命の遂行を期し、以て優渥なる聖慮に對へ奉らん事を誓ふ。

御親閱拜受の感

茂呂尊高 多賀谷憲策

皇國千載一遇職を初等教育に奉ずる者齊しく御親閱拜受の

光榮に浴し滿腔の感激永久措く能はざるの日は實に昭和九年

四月三日なり。身を清め攝生に努め神明の加護を祈願し整々

順調 激榮に終始し得たる欣幸胸に滿ち、聖代の恩賜只無聲

の感銘を覺ゆるのみ、特に長くも優渥なる聖勅を賜はるの際、夙夜奮勵努力せよ、との鳳聲明朗腦裡に徹し、恐懼感激神澄み滿身の榮光を覺ゆ、彌教育報國の志操堅く献身一意聖恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふ。

御親閱を拜受して

茂呂尊高 高橋 榮吉

昭和九年四月三日我等小學校教員代表は宮城前の聖域に相

會し、皇太子殿下の御誕生を奉祝し奉ると共に精神作興大

會を開く。此の日長くも 天皇陛下には臨御あらせられ御親

閱の榮を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を賜はり「事ニ其ノ局ニ當

ルモノ夙夜奮勵努力セヨ」との玉音を拜聴しては唯々聖慮の

宏大深遠なるに感激し職責の重大なるを覺ゆ。千載一遇の御

親閱を拜受しこの無限の感激を永久に傳へ、聖勅を奉體して

夙夜奮勵教育報國に精進し以て皇恩の萬一にも報ゆる覺悟な

り。

御親閱拜受に際して

茂呂尊高 橋本 繁

春雨細やかに降りそゞぐ四月三日、精神作興大會は長くも

天皇陛下御親閱のもとに盛大に行はる。陛下には「君が

代」喇叭の吹奏裡に、純白張りめぐらせる玉座に着御あらせ



られ、畏くも終始御直立不動のままにて御親閱あらせられ、次いで玉音朗々と勅語「其ノ局ニ當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ」と、賜はりたるは、誠に千載一遇の光榮にして、聖慮の厚きに感泣し責務の重きを感じ永く此の光榮を心肝に刻し、身命を獻げて教育に邁進以て聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閱を拜受して

茂呂尊高 篠原興瑩

皇紀二千五百九十四年四月三日、神武天皇祭の佳辰の日宮城前廣場に於て、畏くも御親閱を賜ひ又優渥なる勅語を賜はり寔に恐懼感激の至に堪へません。自今益々聖旨を奉體し日夜奮勵、身命を捧げて職責を竭し、聖恩の萬一に報い奉る覺悟であります。

御親閱を拜受して

茂呂尊高 久保田元術

皇太子殿下御降誕遊ばされ慶瑞の氣は國內に滿ち感激の波は海外に溢る、この秋に當り宮城前の聖域に於て畏くも春雨烟る中に、聖上陛下の臨御を仰ぎ御親閱を受く。神々しき御英姿を咫尺の間に拜し尙且優渥なる勅語を賜はる。深淵なる聖慮を拜察し奉り唯々恐懼感激の涙に咽ぶのみ。千載一遇の

御親閱の光榮に浴し我々小學教育者の責務の重且大なるを自覺し勅語の御趣旨を體し本來の使命に邁進し以て聖慮に應へ奉らんとす。

御親閱拜受に際して

茂呂尊高 阿久津とめ

九重の聖の君に謁えんと  
幾山川を経てぞ來ぬらし  
専らに仰がんとこそ脊伸して  
御座の家根の微見ゆるなり  
教へ人皇子を壽ぐ大庭に  
雲井の松も彌練して  
大君の御前に集ふ教へ人  
今日の譽を千代に傳へん  
感激の涙は雨に通ひてか  
春雨しと袖に袂に  
露深き佐波野が原の教草  
枝をも葉をも茂らせよ世に  
いとどなほ御勅のまゝに努めなん  
教への道に命捧げて

御親閱を拜受して

茂呂尊高 小井戸 さかゝ

昭和九年四月三日畏くも 天皇陛下に於かせられましては宮城二重橋前の廣場に於て、三萬六千の全國小學校教員を御親閱遊ばされ、優渥なる勅語を賜ふ。この無上の光榮に浴し心より 皇太子殿下御降誕を奉祝し、竹の園生の彌榮を壽ぎ奉り、天地もゆらぐばかりの萬歳を唱ふ。皇統連綿とした大日本帝國に生を享けたるを喜び御聖旨を奉體し心身を獻げて皇國の爲に盡瘁し皇恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふ。

光榮を心肝に刻して

采女尊高 須藤憲治

教育史上に燦として輝く感激の此日臨御の定刻が迫つた。さしもの大集團肅としてたゞ一心 陛下を迎へ奉る。純白の玉座に大君を仰ぎまつるその神々しきたとへんにもものなく、剩へ玉音朗かに優渥なる勅語を賜ひて特に小學教育の重んずべき所以を昭示し給ふ。臣等唯々身命を君國に獻ぐる至情ありしのみ。この姿こそ正しき日本の姿にて、日本國なればこそ、日本國民なればこそと今さらながら國體の有難さ、大和民族の光榮を泌々と感得したりき。

御親閱を拜受して

采女尊高 新井孝次

大君のみそなはします晴の日に  
我はいさみて宿たち出でぬ  
かくてこそすめらみくにの國ぶりは  
とつ國八のよも味へじ  
大君ををろがみまつる己が眼に  
あつき涙のせきあへずして  
すめらぎの玉のみ聲を拜す身の  
かくあらんとは思はざりしを  
千早ふる神のみ教かしこみて  
大御心に對へまつらん

御親閱を拜受して

采女尊高 金井基樹

畏くも玉座に立たせ給ふ嚴然たる御姿を仰ぎ奉りて、崇嚴とも壯絶とも名状すべからざる靈感に打たれた。  
我等はこの聖世に生を享けた 陛下の赤子である。大切な兒童の慈父である。愛兒を引受ける身である。そして未來の文化を創造し、將來國家の運命を荷ふ第二の新人を導くものである。何たる光榮であらう何たる幸福であらう。唯々聖恩



の厚きに感泣して、日夕其業務にいそしまねばならない。

御親閲をかたじけなうして

采女尋高 高柳武司

すめらぎの大みことのり畏みて

教への庭におりたむわれ

すべくにの道の教へをもろ肩に

負ひ擔ひてぞ我は立たなむ

大内の松のみどりのいろはえて

君萬歳のころはとゞろく

御親閲を拜受して

采女尋高 關根精一

身にあまる光榮に浴す有難き

今日のおき日をとほに忘れじ

御尊顔はるかに仰ぎわが心

感きはまりて涙にむせぶ

畏けれど大勅拜しつゝ

御趣旨に副はん心かたしも

かにかくも御聖慮の程偲びつゝ

教職吾の責務にはげまん

御親閲拜受の光榮に浴して

采女尋高 鹿沼清作

四月三日の神武天皇祭の佳き日、吾々全國小學校教員に御親閲を賜はりし折私もその光榮に浴することの出来たことは無上の喜びであつた。畏くもその時にあたり特に小學校教員に優渥なる御勅語を賜はりし、天皇陛下のいかに小學校教育に大御心を用ひさせ給ふかを想ふとき、私どもの職責の重大なることを強からしめられ、只々粉骨碎身その職に奮闘し聖旨に報ずるの覺悟である。

御親閲を拜受して

采女尋高 齋藤むつ

翻る國旗、群る人々にさしもの廣場も數刻にして埋めらる。折から煙る春雨に松の緑は滴り柳の若芽黄に萌えて千代田の森の優雅さは彌が上にも高めらる。遙に拜す質素な玉座、嘯嘯響く喇叭の合圖、満場肅として聲なく一糸亂れぬ零圍氣に着御せられし現人神、唯崇高と神嚴の交叉におのづと涙潤ひて還御の時をも覺えず。天恩に浴せし此の感激、優渥なる大勅一は育の母の靈に、一は幼き童の訓に、絶えず捧げまして聖恩の萬一に報いん。

御親閲を拜受して

采女尋高 沼田忠次郎

三萬六千を超ゆる群衆は皆、天皇陛下を拜し奉ることを待ちわびてゐた、折から南風に誘はれ煙る様に微雨がせまる。「氣を付け」の喇叭に森嚴の氣が場に満ちる。天皇陛下には玉座に着御遊ばされ畏くも式中直立不動の姿勢であらせられたのを拜し如何に尊く神々しい事かと深く胸にをさめて感泣した。

感激の極み

采女尋高 新井工

偉大なる感激と興奮の裡に御親閲の儀は進み、側近者陛下の御前に参進し御卷を捧げ奉るや、瞬間自分は號令も合圖も耳目に入らず只恐懼と感激に頭を低く垂るゝに玉音朗かに勅語を下賜せられ給ひぬ。萬感迫りてその全文を詳に拜承し得ず。終りて頭を上ぐるも眼頭熱くしかと龍顔を拜し得ざりき。天皇陛下還御あらせられ、始めて我に戻りて千載一遇の光榮に浴せる一人たるを考へ更に新なる感激を覺ゆ。

御親閲の光榮に浴して

采女尋高 阿左美重代

昭和九年神武天皇祭のよき日御親閲の光榮に浴す一員に加はる。喇叭の音に迎へ奉る、陛下の尊き御姿、身皇國に生れ此の盛事に會ふ。歡を禁じ得ず、皇統連綿三千歳萬邦無比の皇國に今又後繼ぎ給ふ、皇太子殿下の御降誕竹の園生の彌榮えに榮えゆく嬉しさに國民舉つて昭和聖代を壽ぐの時此の光榮に浴し得る身の幸を思ひ限りなき皇恩を深く肝に刻みて日夜勅語を身にしめて聖恩の萬分の一に報い奉らんとす。

初等教育者未曾有の光榮に浴して

剛志尋高 奥山陽

まのあたりすめらみことを拜がみて  
教へにつくす盟かためぬ  
あなたふと玉の御聲に涙して  
奮ひ起たざる人やなからん  
努めよや國の榮はうなる子の  
教へにありの御勅かしこし  
樞原の遠つ御祖の祭り日に  
みかどは我等けみしたまひぬ  
忘れしな玉の宮居の大前に



御幸あふぎしけふのほまれを

御親閱拜受

剛志尊高 木暮市大郎

拙さも忘れて唱ふ大前に

聲張りあぐる国歌奉祝

國民をはぐくむ業の尊さや

御勅拜して彌増しにける

感激の涙とめ得ぬ今日の日は

すめらみことの御聲聞き得て

四月三日

剛志尊高 宇津野 久五郎

大内山を背景の

春雨煙る大廣場

玉座の彼方仰ぎ見て

日夜心に描きつる

現人神をまのあたり

拜み奉りて嬉しくも

我は思はず涙しぬ

龍顔いとも麗しく

英姿颯爽厳かに

玉の御聲をかけ給ふ

我が大君の畏さよ

嗚呼草莽の我ながら

浴せし今日の光榮を

溢れし今日の感激を

如何にか人に傳ふべき

その刹那

剛志尊高 矢内丑太郎

喜びと只なつかしの心もて

我大君を拜しまつりつ

御親閱拜受者のすべては、その瞬間一様に強く鋭くこの尊  
き感激に打たれしなるべし。この時のことを思へば、今も全  
身俄に熱血の逆るを感じ、血は湧きかへり、肉は躍動し、胸  
の高鳴はいやが上にも烈し。仰ぎまつれば、玉座には雄健颯  
爽たる御英姿を拜す。幾十年會はざりし父母に面せし如き思  
慕の情と神前に額づく時自然に發する敬虔の念と並び起りて  
興奮感激止る處を知らず、「義君臣情父子」と宣はせし大勅の  
御旨を茲に始めて感得するを得たり、畏き哉嬉しき哉。やがて  
聖上にはいとも懇にいと朗かに玉音朗々勅語を賜はる。我  
は唯己あるを知つて居並べる他の者を忘れ獨り天顔咫尺の間  
に參じ奉りて優渥なる御聲を拜せし心地せり。ふと我に歸り  
て「今一度」と玉座を仰げば玉體は春雨煙る中二十分前そのま  
ゝにて微動だもなし給はず尊嚴の極致を現出して畏しとも畏  
し。我は更にこの行幸の 陛下御親ら御發案あらせ給ひしと  
漏れ承り、ひたすらにこの榮譽をになひし天恩の洪大に泣き  
榮え行く聖代に生を享けしを喜び更に「局に當る者夙夜奮勵  
努力せよ」との勅諭を畏みて一層粉骨碎身道のためつくすを

無上の光榮なりと痛感せり。

御親閱拜受到感激して

剛志尊高 岸 菊二

高らかに日嗣のみこの御生れを

君の御前に祝ふうれしき

小雨降る大内山の外垣に

君を拜する身のほまれかな

大君の御徳に心はうちふるふ

などか誠の道にはづれん

御親閱を拜受して

剛志尊高 岡部 内次

身にしみる玉の御聲や卯月空

感激を國の土産や春の宵

仰ぐだに感極まりぬ御親閱

千載に一遇の日や春の雨

春雨や大内山の松の色

天恩を拜謝して

剛志尊高 對比 地祐

身にあまるこの感激をいかにせん

神に誓ひて我は進まん

佐波郡

すめらぎの玉のみこゑのうれしさに

力の限り我はつくさん

御親閱を仰ぎて

剛志尊高 定方 あさ

玉しきの御座の下にぬかづきて

君千代いませと吾は壽ぐ

大君のみことかしこみひたすらに

大御心にそひ奉りなむ

あな尊と日の本つ國に生れ來て

すめらみかどををろがみにけり

御親閱を拜して

境町尊高 塚 越 輝 平

上原喜久雄

金子静六郎

加部和四平

吉田 忠 勝

北爪善四郎

昭和九年四月三日、神武天皇祭の佳辰に方り、森嚴限り無  
き大内山の邊り緑松に映ゆる二重橋前の靈場に於て、全國小  
學校教員の代表者三萬六千有餘人に對し御親閱を行はせられ



畏くも小學教育の重んずべき優渥なる勅語を賜はる。寔に前古未曾有の盛儀と謂ひつべく不肖等其の光榮に浴し、親しく御英姿を拜し朗々たる玉音を耳にし感激の至情其の極に達し、覺えず目頭の熱するを感ず。我等は斯の至仁至慈なる聖恩に對し如何にして奉答を期すべきか。他なし、全國二十有五萬の小學教育者と此の秋此の際大いに結束を固くし、職責の自覺を深め修養を積み人格を練磨し、粉骨碎身教育報國に邁進する一途あるのみ。

左の反省七則はともすればひるみ勝なる余等の弱き心の鞭韃資料にもと今回の感激を持続せしめたき實行方案の一なり。かくして日々月々歳々の反省を重ねて、聖旨の萬一に奉答を期し度き念願なり。

反省七則

- 一、吾輩著技術ハ外、世界列強同級教員ニ比シ、内國家他業人士ニ較べ、同等若シクハ優越先進ヲ誇リ得ベキヤ。
- 二、吾研鑽自修ノ努力工夫ハ、眞ニ日進ノ盛觀ヲ呈シ、駿進止ムナキ天下ニ先チテ遺憾ナク此ノ大業ヲ行フニ足ルベキヤ。
- 三、吾知徳見識ハ、果シテ内同人子弟ノ敬慕ヲ博シ、外父兄闔郷ノ尊信ヲ購フニ値スベキヤ。
- 四、吾職事ニ對スル勤勞辛苦、並ニ能率成績ハ果シテ巔然頭地ヲ社會各界ヨリ拔キ、是等當事者ヲシテ、刮目景仰セ

シムルノ程度ナルベキカ。換言スレバ吾匪躬盡瘁ノ程量ハ、常ニ身心ノ全力ヲ傾倒シツツアリヤ。

- 五、吾心術態度ハ、子弟ノ師友トシテソノ前途啓導者トシテ何人ニモ讓ラザル理解同情ヲ有シ、眞ニ年少青年男女ノ伴侶トシテ、報效ヲ國家社會ニ期スルニ遺憾ナカルベキヤ。
- 六、吾行フ職事ハ少クトモ自覺アリテ責務ヲ解シ、布衣ニシテ天下ノ治亂ヲ念ヒ、一身ニシテ團體ノ榮辱ニ任ズル未來國民ヲ造就スルニアリ。然モ吾等果シテ自ラ此ノ覺悟ヲ有シ一校教育ノ隆替ト全校子弟ノ弛張ヲ双肩ニ荷ヒ、公私言行概ネ皆責務ノ色彩ニ溢レ、自ラ社會ノ儀表ヲ以テ任ズルノ氣魄ヲ有スルカ。
- 七、自問自省、冷汗滿身、赭赤全面ノ慚愧ヲ禁ズル能ハズ。吾ノ天職ノ背後ニハ、眞純無垢ノ子弟耳目ヲ聳張シテ吾人ヲ觀望シ、其ノ影響縱横ニ感及シテ、成敗殆ンド底止スベカラズ。今日厘毫ノ差モ他日千里ノ違ヲ生ズ。宜シク嚴ニ自制責己春風以テ人ヲ待チ秋霜以テ自ラ肅ミ、斯ノ天職ヲ樂マム哉。

光榮の日

境町尋高 柳 いさ

夢か あらず

今こそ此の眼

仰ぎぬ みますがた

まこと 此の耳

拜しぬ みのり

四萬の人むれ

しはぶきもなく

この日此のはえ

道説く身こそ

畏き極み

島村尋高 徳 江 倫 藏

現御神の御姿を目の當り拜し奉りて滿身靈感に打たれ唯感激の涙に咽びしのみ、 聖上御心を教育に用ひさせられ、小學教員に閑を賜ひて親しく其の要を諭させ給ひ夙夜奮勵努力せよと仰せらる、聖恩洽く小學教員に及ぶ、昭和九年四月三日、神武天皇を祭るの日、恰も注ぎし春雨と共に、教育の職に在る者須らく猛省せよ、清く、正しく、而して努めよ、祖國發展の萌芽たる貴き我が一千万學童の爲に、謹んで記す。

御親閱を拜し奉りて

島村尋高 田 島 莊 次

我が史上未だ嘗て類例を見ざる全日本小學校教員代表者の

佐 波 郡

御親閱を蒙りし日は去る四月三日なりき。此日帝都は密雲深く垂れ細雨時に降り一層莊嚴の氣を漲らす。畏くも 陛下には供奉員を従へさせられて臨御優渥なる勅語を下し給ふ。余等の光榮と感激譬ふるに物なし、今後は聖諭を奉體して夙夜勤勉益々力を教育に盡し以て聖慮の萬分の一に報い奉らん事を誓ふ。

御親閱を仰ぎ奉りて

島村尋高 關口初太郎

皇紀二五九四年四月三日、畏くも 聖上陛下御親閱の光榮に浴す、誠に歡喜極まると共に恐懼感激の至に堪へず、この日親しく天顏を拜し君が代を奉唱し聖壽の無窮を壽ぎ奉れば、玉音いと朗に優渥なる御勅語を賜はり小學教育の重んずべきことを昭示し給ふ。昭和の聖代に生を享け、小學校教師として此の無上の天恩に浴し無比の榮譽を荷ひ恐懼措く所を知らず、只々感涙に咽ぶのみ。

御親閱に浴して

島村尋高 栗原左馬太

昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下に於かせられては、宮城二重橋前廣場に於て、我等初等教育代表者に御親閱を賜はり、且優渥なる勅語を賜はれり。陛下の御英姿を拜し奉



りて有難き身にしみ、自ら聖壽の萬歳を祈り奉りたり。昭和の聖代に生を享け、前古未曾有の光榮に浴したるは無上の光榮なり。永くこの光榮を心中に刻し、一身を獻げて教育の爲に精進し、聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閲に浴して

豊受尋高 北爪舜太郎

皇紀二千五百九十四年神武天皇祭の日、この日、大内山の樹々は春雨に一段と青色を帯び、御親閲を拜受する人々は、感激に満つ。

微賤の身、初等教育に従ふの故を以て、この光榮に浴し恐懼の至りに堪へず、たゞ高らかに御代の彌榮を壽ぎ、胸中強く教育報國を誓ふ。聖域に君萬歳の聲高し

御親閲を拜受して

豊受尋高 秋山秀松

日の本の教への道につくす身の

玉の御聲にあふぞかしこき

しづが身の教への海に棹さして

けふの榮譽にあふぞ畏き

御親閲に浴す

豊受尋高 栗原長治

細雨降りそゞぎ莊嚴いやます宮城二重橋前の廣場、白く清らかな玉座に仰ぎ見る 天皇陛下の御姿、畏き極みの御勅語陛下の御前に誓ひ奉れる教育報國の覺悟、感激に満ちた萬歳三唱――。

昭和九年四月三日、御親閲の日の光榮は、私たちの身に心に強く刻まれて永久に忘れぬ感激である。この感激を、やがて全國一十五萬の小學校教員に及ぼし、更に八百萬の小學兒童に傳へると共に、夙夜奮勵努力國民教育の職責を竭して聖慮に對へ奉ることこそ、私たちの光榮ある任務である。即ち私たちの今後の生活は、御前に於ける誓ひの實踐でなければならぬ。

御親閲の光榮に浴して

豊受尋高 井田秀

皇紀二千五百九十四年神武天皇祭日にあたり、宮城二重橋前に於て、全國小學校教員代表者中の一人として、畏くも陛下の御親閲を仰ぎ得たることは、無上の光榮にて、斯る教育界未曾有の盛儀に連り、恭しく龍顏を拜し、朗々たる玉音を拜聽して、小學教育の如何に重要にして意義深くあるかが

強く感ぜられ、國民を養成する天職を持つことを誇とし、孜孜として、精進するの信念を深刻に感じたり。

御親閲に浴して

豊受尋高 徳江肇

折から響く嘯鳴たる喇叭の音、萬籟鳴を鎮めて天地の間物音一つせぬ。一段高くしつらへられた玉座に仰ぎ見る 天皇陛下。おゝ極みなき畏き。感激なき人は眞の人にあらずの言今更ながら痛感。此の感激は相互に何時迄も持續せねばならぬ。

此の光榮に浴し特に感を強うしたのは、日本人の有難き、君民一體の精神であつた。我等は益々皇室國家のため眞摯な努力、献身的な誠を致して、天壤無窮の皇運を扶翼し奉らねばならぬの信念を鞏固にしたのである。

御親閲に浴して

豊受尋高 飯島環

賤が身に惠の露をかけられし

すめらみことの神の御姿

しろしめす日嗣の皇子の生れまして

瑞穂の國の基は播がし

朝夕にすめらみことの御教を

佐波郡

心にありて進みゆかまし

御親閲に浴して

豊受尋高 新井元一

春の雨に大内山は霞みけり

みすがた仰ぐ今日のよき日に

日の御子のことほぎ歌を我もまた

天に届けと和し唱ひけり

この佳き日身に餘りたる榮光を

父祖のみ靈に告げ参らせむ

御親閲に浴して

豊受尋高 高木昌

賤がみの大和撫子はぐゝみて

玉のみこゑのかゝるうれしさ

天つ日の大みことのり畏みて

教への道にささげまつらむ

大君のへにこそ死なめ

豊受尋高 新井けさを

噫々光榮極みなき御親閲は終りぬ。皆感激に充たされ肅々と、大内山を後にせり。いつしか細雨も止みて、池畔の柳は



春風にそよぎ、水の面には碧漪たゞよふ。  
默然として歩み静かに瞑目すれば、眼前に幾十かの可憐な  
教へ子の面影髣髴と浮ぶ。噫々畏れ共大君の爲教への道に  
この生命盡して終へむ。總てを捨てて顧みせず。  
おお聖恩に感泣せる今日の日よ永劫に輝きあれかし。

御親閲に浴して

豊受尋高 石川 照久

我等三萬六千の代表は一齊に宮城前大廣場に集團す。やが  
て午後二時三十分囀曉たる君が代奏樂の中に 天皇陛下には  
肅々と大内山より臨御遊ばされ畏くも御親閲を給ふ。全員感  
激に咽ぶ中に 陛下には優渥なる勅語を賜はり益々感激を深  
くし唯々頭を垂れるのみ。此の御勅語の趣旨を膽に銘じ國家  
將來の教育に碎身せんと期する者なり。

御親閲に浴して

豊受尋高 中里 龜吉

皇太子殿下御誕生を奉祝し併せて國民精神作興大會に列し  
畏くも 天皇陛下の御親閲に浴し親しく天顔を拜し奉りしは  
終生得難き光榮なり。然るに、小學教育を重んじさせ給ふ優  
渥なる勅語を賜はり尙且つ吾等奉祝の聲を親しく天聽に達し  
眞に恐懼感激に堪へず、吾等は、此の光榮を深く心肝に刻し

職務に粉骨碎身し、以て皇恩の萬分の一に報い、聖旨にそひ  
奉らん事を期す。

御親閲に浴して

豊受尋高 西村友次郎

我が日出づる國の皇祖神武天皇の御偉業を仰ぎ奉る四月三  
日の佳辰に、 聖上陛下には、宮城前大廣場に親しく臨御遊  
ばされ優渥なる勅語を賜ひて、小學教育の重んずべき旨を昭  
示せらる。寔に恐懼感激にたへず。此の空前なる光榮に浴し  
たる吾人は、常に聖旨を奉體して、専心自己の心身の鍛錬に  
努むると共に、剛健質實なる國民の教養に一身を献げ以て、  
聖恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふ。

御親閲拜受五句

名和尋高 矢島 胖

春雨や大内山の奥深き(煙雨の中を二重橋前廣場に參入)  
額づきて鹵簿迎へけり春の雨(鹵簿を奉迎す)  
日本の國土に育てむ櫻花(勅語御下賜恐懼して三句)  
濡れたつやめぐみの露のあげひばり  
みむねうけて咲せかむものぞ莖草

御親閲拜受五句

名和尋高 龜井邦芳

みそなはず學の道や君が春(御親閲)  
若葉の香をろがむ宮居雲深し(宮城を拜して)  
八紘に溢るゝ菊の香かな(御英姿を拜して)  
恐懼して我も人も無し玉の聲(御勅を拜して)  
我が心唯一筋よ菊の秋(聖旨に副ひ奉る覺悟)

感激の極にて

名和尋高 石川 宗次

吾等、教育報國精神作興大會の日、畏くも 天皇陛下の御  
親閲を仰ぎ奉り、眞に無上の光榮なり、申すだに恐れ多きこ  
とながら畏くも 聖上陛下には大御心を教育に留めさせ給ふ  
ことの御深きこと、誠に恐懼感激の極にて、吾等教育者その  
任の重且つ大なるを痛感し、いよいよ天職に精進し國民教育  
の重責を全うせんことを誓ふ。

御親閲所感

名和尋高 木暮 國兵

櫻花欲綻柳糸新 三萬教官拜紫宸  
造次勿忘育英業 綸言如玉及微臣

佐波 郡

御親閲の光榮に浴して

名和尋高 深町 一策

時は昭和九年四月神武祭の當日であつた。全國小學校教員  
精神作興大會が宮城二重橋前の廣場に 天皇陛下御親閲のも  
とに盛大に舉行せられた。當日參列の小學校教員三萬六千名  
は、畏れ多くも龍顏に咫尺し奉り御勅語を拜聴いたしました。  
陛下が如何に國民教育に御軫念あそばされるかが拜察せら  
れます。この御親閲中さしもの大集團が私語するもの弛緩せ  
る態度をとる者一人だになく教育者の緊張一途に高潮したか  
が察せられました。自分自らも無我の境地とも言ひませうか  
全く吾を忘れて精神淨化し感激身に餘るの態であつた。  
聖上陛下は陸軍の通常服誠に畏き御態度で少しも身動き遊ば  
されないうで御勅語の奉讀實に音吐朗々琴線に觸るゝ様又非常  
に御活潑であらせらるゝ事は萬人一齊に感銘する所であつ  
た。空前絶後といふか。今日のこの日に 現神の御姿を拜し  
て思ひ深い感激をのこした。この感激を永久に保持して國民  
教育振興の途に猛進しようと思ひます。

御親閲を拜み受けて

名和尋高 井上 守平

國民の一つ心に祈るなる



竹の園生のいや榮えに榮ゆ  
天地の限り盡して言壽ぎ奉る

春雨煙る宮城の御前に  
おしなべて言壽ぎまつる君が代の

有難さにぞ涙こぼるる

身に餘る御宣を受けぬこの榮えは

いつの世にかは忘れうべき

待ちわびし榮の喜び分ちてぞ

賤の團欒も今宵賑ふ

御親閱拜受之詞

名和尋高 福島 清

垂柳映濛春雨煙 謁御一人唯恐懼  
拜勅賜諭以修身 遼踏夙夜期副心

御親閱の光榮に浴して

名和尋高 新井 一郎

初春の雨は稍々強き西の風を伴ひ冬を想はせる寒さと呼ん  
だが、皇城の畔を埋めつくした三萬六千の颯は、此の至上の  
光榮に欣躍し、輕快柔なる春光に浸るが如き明朗さのみな  
ざるを見受けた、而し一脈の靈氣の漂ふことを見逃がすわけ  
には行かなかつた。身を教育事業に投じて幾年か、微力なる

自己史を終世得難き光榮にで記し得たることは、眞に有難き  
極である、即ち昭和聖代の御慶事である 皇儲殿下の御降誕  
を、かしこくも 陛下の御前にて奉唱し、更に優渥なる聖勅  
を賜はり、玉音を目前に拜し得るとは、すべては唯感慨無量  
の言につきるのである。想へば健實なる第二國民の養成に當  
る教育事業に職をもつことの使命の、更に重きをおぼへ教育  
報國の誠を致さねばならぬことを強く感じた次第である。

御親閱の光榮に浴して

名和尋高 五代ときえ

春雨に濡れそぼちつ、天皇の

いでましを待つ廣場静けし

うつし世の神がみ影に深々と

垂る、首を春の雨うつ

あまりにも胸せまりきし人々の

聲なき聲は廣場埋めり

すめらぎのみこと畏みなほも亦

教へ育てん大和撫子

大君のみ旨を受けて教へ草

根ざしいよゝにゆるがざらなむ

感激の極

名和尋高 鈴木いほ子

春雨に煙る二重橋!! 綠彌増す大内山の老松を仰いで、集ふ  
三萬六千、我等の友、嗚呼、感激の日、光榮の日。

午後二時半、合圖の花火、ラツバの音、灰空に翻る日章旗  
喇唳たる君が代の奏樂、實に嚴肅其ものゝ霧圍氣の中を  
陛下には颯爽として玉座に進ませ給ふ。畏くも尊い御姿、今  
眼のあたり拜し奉りて感激の極、身の硬直して只頭の下るを  
覺ゆるのみ。更に優渥なる聖旨を賜はるに至つては、御聖徳  
の彌高く、御仁慈の彌深きに恐懼措くところを知らず。

愈々責務の重且大なるを痛感し、顧みて我身の乏しきを如  
何せん。至誠其足らざるを補ひつゝ、一途に斯道に精進し、洪  
恩の萬分の一にも報いんと誓ひ奉る。

御親閱の光榮に浴して

芝根尋高 鹿沼喜久太

昭和九年四月三日、終生忘るゝ事能はざる御親閱の光榮に  
浴しぬ。この日長くも、玉座に立たせ給ふ颯爽たる御英姿を  
拜し、思はず感激に咽び、加之優渥なる聖詔を仰ぎては、感  
激一入身に迫り、吾あるを知らざるの心地す。思ふに昭代に  
生れ、國民教育者としてかゝる盛事に會ひたる幸を心肝に刻

み、畏くも勅語に諭させ給ひし深遠なる聖旨に肝銘し、全身  
全靈を献げて職に當り、聖恩の萬一に應へ奉らん事を誓ふ。

聖恩に感激し奉りて

芝根尋高 田島 治雄

あらたかの御すがた拜しとめどなく

胸はせまりぬ幸の深きに

身にあまる大みこころを拜受して

生命ささげむ重きつとめに

この生命終はる日まで傳へなむ

我が教へ兒に今日の心境を

國 歌

芝根尋高 新井 増郎

この感激吾が教へ兒に傳へなむ

微力けれども生命ささげて

彼の兒にもこの感激こそは眞實に

心にしみて理解りて呉れむ

大君の御前に國歌奉唱ふなり

何故にか音調の高まりて行く

山は裂けと詠ひし古人のその心

今にひしひし胸に湧きくる



御英姿を仰ぎ奉りて

芝根尋高 瀬川 うめ

春雨にけむりてをりし緑こき

宮前立てば心澄みたり

出でまし、現人神のけだかき

をのゝきたりし弱き至誠は

真心の一つになりゆく喜びに

聲も心も破れんとすなり

御勅をかしこみ奉りて

芝根尋高 金井 あい

御雅き 至尊の玉音をきく。嗚呼此の佳き日。我が光榮何

にかたとへん。今や世は非常時この國際難局を如何に突破せんかその根本的解決こそ實に小學教育に在り。吾人感奮興起我國教育界の爲大いに身命を献げ自重奮發を期して聖恩の萬分の一に報い奉り、日夜優渥なる御勅語に仰せられし聖旨に身を以て奉答せんとす。

御親閲を拜受して

玉村尋高 熊谷 恵壽

紀元二千五百九十四年四月三日全國三萬六千の我等小學校

教員代表は、仰ぐも畏き聖域に參集して、畏れ多くも

天皇陛下の御親閲を拜受し優渥なる勅語を賜はる。

聖徳無量、神々しき御英姿を拜しいとも尊き玉音を辱うす。

過分なる光榮寔に恐懼の至りに堪へず臣等感激胸に迫りて感

涙に咽びしのみ。

大君の御閱畏み教へ人

生ひ茂らせよ白菊の花

御親閲に對へ奉りて

玉村尋高 高橋 良夫

みことのり我かしこみて導かん

後の世に立つ幼き者を

小雨にも「雨具許す」とのたまひし

大御心の程ぞかしこし

大君の御聲まぢかに拜したる

身は有難し畏れをののく

例なき此の度の御閱かしこみて

我人共にいよよ勵まむ

禍事も僻事も皆をさまりて

榮行かん代を尙祈るかな

御親閲の光榮に浴して

玉村尋高 笠原 義悌

昭和九年四月三日、我等初等教育者代表三萬六千、畏くも聖上陛下の臨御を仰ぎ奉り、御親閲の聖恩に浴し剩へ優渥なる聖勅を賜はる。何の幸ぞや、微身この盛典に列し、龍顏に咫尺し奉り、玉音に接し、謹んで「君が代」を奉唱し、皇太子殿下の御誕生を奉祝し奉るの光榮を擔ふ。何の面目何の感激かこれに過ぎん。只感涙滂沱、七世報國以て皇恩の萬一に報い奉らんのみ。記して兒孫に傳ふ。

御親閲に答へ奉りて

玉村尋高 黒崎 嘉三

彌生の空低うして慈雨時に來り、春色鮮に萬朶の櫻將に微笑まんとする季に當り、松籟聖く瑞雲棚引く大内山の畔に參集して、皇儲殿下御降誕奉祝の赤誠を捧ぐ。恐懼と感激とに非ずして何ぞや。嚙曉たる軍樂の調、莊重たる君が代、萬場肅然たる裏に颯爽たる御英姿嚴然として懽され、朗々たる玉音凛々として諭さる、誠に恐懼感激に堪へず。臣初等教育に携はる身の無窮の光榮、謹んで懋戒以て聖旨に副ひ奉らん。

感激文

玉村尋高 中澤愛之助

時は昭和九年四月三日全國小學校教員代表に御親閲を賜はり、畏くも優渥なる勅語を下されました。その光榮何物にも比べることは出来ません。御親閲を拜受した有難さに感激しまして何とも申すことは出来ません。君が代を合唱する時の如きは涙が出るばかりで聲を出すことが出来ませんでした。誠に有難い事でありました。

御親閲をうたふ

玉村尋高 清水 成

歴史は遠し神武の日

畝傍の山に神集ひ

天津日嗣の基建てし

今日ぞ、受けぬる御親閲。

二

嗚呼、明治の大帝

吾が同胞に諭しける

尊き詔勅身にしめて

今日ぞ、受けぬる御親閲。

三

日嗣の皇子は生まれしぬ

千代田の森の彌榮え

聖慮畏し大前に

今日ぞ、受けぬる御親閲。

四



嗚呼、教育の任重し 驚駭策ち朽つるとも  
この鴻恩に報いんと 今日ぞ、受けぬる御親閔。

雨中に御親閔を賜はりて

玉村尋高 高橋 克己

春雨に龍顔拜しむせびけり

忝さと責の重きに

御親閔の光榮に浴して

玉村尋高 原田 なか

鴻毛の身にあまりあるこの至恩

辱さに涙ながるる

建國の大精神に生きて

上陽尋高 清水富貴壽

あゝ光榮と感激とに満たさるるの日、澄みきつた我等の心には、建國の大精神が生きて生きと迫り来るを覺えた。思へ、久遠の生命をもつ祖國日本の姿を。今や、列國治亂興亡の外に立って、不斷の發展と、躍進とをつづけて居るではないか。天顏を拜し奉り、優渥なる勅語を忝うした我等教育者、この光榮と感激とを心に銘し、不退轉の勇を鼓して、まさに教育報國の實を擧ぐべきと思ふ。

光榮に浴して

上陽尋高 坂井 宗一

皇紀二五九四年、神武天皇祭の當日、畏れ多くも 皇上陛下には、吾等小學校教育者に、御親閔を賜はり、而も曾て前例なき優詔を下したまふ。無上の光榮にたへず。吾等此の聖代に生をうけ、職を小學校教育に奉ずればこそ、斯くも有難き御聖旨に浴し得たるを思へば、夙夜専念この天職に勵み、協心戮力、實祚の御繁榮と、我が國威の發展とに力を盡し、以て鴻恩の萬一に報い奉らんことを神がけて誓ふのみ。

聖恩無窮

上陽尋高 中村 繁太

畏くも、神武天皇祭の佳辰の日 皇儲殿下の御降誕を慶祝し奉り小學校教員精神作興大會を開く 陛下には特に臨御あらせられ御親閔を賜はる。聖姿を遙拜して唯々感泣極りなし。剩へ優渥なる勅語を賜はる、寔に恐懼感激の至りに堪へず。吾等小學校教育に奉仕するもの常に聖旨を奉體し、夙夜匪懈身命を賭して一意専心君國のために盡瘁の誠をいたし聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

前代未聞の光榮に浴して

上陽尋高 細野 俊夫

春漸く酣ならんとする神武天皇祭の佳辰に方り、吾等三萬有餘、謹みて 皇儲殿下の御降誕を祝し奉ると共に國民精神作興大會を開催す。畏くも 皇上陛下には、春雨煙る大内山をいとも御氣色麗はしく出御遊ばされ、御親閔を賜ひ更に優渥なる勅語を賜ふ。聖慮の深遠宏大なるを拜し奉りて、天恩の鴻大なるに感泣す。

片時も忘れざらめと身にしみて

御勅語の旨をいそしまん吾は

御親閔を拜受して

上陽尋高 野口 源司

すめらぎの御前に立ちて賤が身は

みのりのままに日日にこたへん

前古未曾有の光榮に浴して

上陽尋高 井田 積善

我等前古未曾有の御親閔の榮に浴し剩へ優渥なる御聖旨を賜はる。この日 陛下の御委拜し奉れば玉體より慈光の輝き給ふ如く餘りの有難さに感泣して涙とゞめあへず「汝は汝に

佐波郡

感涙にむせぶ

上陽尋高 栗原 鶴吉

皇紀二千五百九十四年四月三日、燦と輝く空前の御盛儀、御親閔を仰ぎ奉りしこと、まことに恐懼感激にたへぬ。あまつさへ優渥なる勅語を賜はる。無上の光榮である。我等は日夜聖旨を奉體し、我が教育精神に鞭打ち、粉骨碎身一途に教育道に精進し、よき日本人の養成に努力し、悠久三千年の光輝ある國體を擁護し奉り、聖恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふ。

感涙

上陽尋高 清水 てう

春雨煙りて千代田の森の緑いやます皇城の畔に立ちて感涙に濡れ、御聖諭を仰ぎ奉り、教育に在る私共は、夙夜淬礪益々國民道徳を涵養して、堅實有爲なる國民を養成し、以て御聖恩の萬分の一にも、報い奉らんと決心の堅きを誓ひ奉る。



御親閲を拜受して

宮郷尋高 須田 豊 治

昭和九年神武天皇祭の佳辰の日、全國小學校教員精神作興大會を宮城二重橋前聖域に開き、皇太子殿下の御誕生を奉祝せんとするに方り、畏くも 天皇陛下には親しく臨御し給ひ御親閲あらせられ、剩へ優渥なる勅語を賜はる。吾等小學校教員として此の無上の天恩に浴し此の無比の寵榮を荷ひ、深遠なる聖旨を拜し奉りて、恐懼感泣極無し。

今や國家非常時艱に際會し、愈々國民精神を作興して日本精神を培養し、以て皇運を扶翼し奉るべきや切なるの時、吾等は一層其の責務の重大なるを覺え、この光榮を負へるの期を教育維新となし、夙夜奮勵努力、天地神明に誓つて彌々身命を献げて教育報國の赤誠を致し、以て聖恩の萬一に報い奉らんことを期す。

賤が身も今日の集ひにめぐりあひ

神のみ聲を聞くぞ嬉しき

大君のみこゑのままに賤が身は

ただ有難さに涙こぼるゝ

天皇のみこと畏み教へ草

今日もつままし明日もつままし

みをしへを受けて感激限なし

みことかしこみいでや勵まむ

とつくににまされる實をば結ばせん

君が御園に匂ふ撫子

ちよろづの國にまさりし日の本の

君が手植の撫子の花

御親閲を拜受して

宮郷尋高 小林喜三郎

今回神武天皇祭の佳辰に當り 皇太子殿下の御誕生を奉祝し、竹の園生の彌榮行きて、國礎の愈々固きを壽ぎ、奉祝の赤誠を捧げんとす。此の日春雨煙り萬木生々として、春を湛へし清淨の聖域に整列を終り、暫時にして莊重たる奏樂に、臨御を奉迎するや、我身自と嚴肅の氣に打たれ、肅然と神氣に覆はれて、只々名狀し得られざる感激の裡に、畏くも臨御あらせられ、御親閲の光榮を辱うす。剩へ優渥なる勅語を賜はる玉音朗々とあたりに徹するや、身は硬直微動を生じ、寔に恐懼感激の至純に堪へざるなり。かゝる無限の感激の裡に、御親閲を終了し、鳳輦を送り奉る、吾等呆然として感涙敢行極りなし。謹みて惟みるに、聖旨宏遠にして小學校教育の重大なるを諭させ給ふにあり。我等は此の感激を長へに力あらしめんが爲め、爾今度みて聖旨を奉體し、益々日本精神を振興して、國光を宇内に發揚すべき第二國民の育成に力を致し

以て教育報國を念とし聖恩に報い奉らんとす。

御親閲を拜受して

宮郷尋高 岡田順次郎

昭和九年神武天皇祭の佳辰に方り、全國小學校教員代表、宮城前の聖域に相會し、皇太子殿下御降誕を壽ぎ奉り併せて精神作興大會開催せらるゝに當り、其の一員として此の盛典に參列するの光榮に浴す。此の日春雨煙りて聖域は一層淨化せられたるの觀あり。豫定の通り一同整列を終りて待ち奉るや、畏くも 天皇陛下臨御あらせられ、御親閲を賜ひ剩へ優渥なる勅語を賜はり、小學校教育の責務重大なるを諭させ給ふ。全身感激に満ちて只肅然たり。かくて御前に於て 陛下の萬歳を奉唱し鳳輦を送り奉る。是れ寔に千載一遇の光榮にして、齊しく恐懼感激に堪へざる所なり。向後度みて、聖旨を奉體して身命を献げて教育報國以て聖恩に報い奉らんことを期す。

畏くも 聖上陛下の御親閲を仰

ぎ得し日に

宮郷尋高 梅澤 武雄

御親閲仰ぐ喜び語り合ふ

聲に賑はふ伊勢崎の驛

佐波 郡

青柳の並木路行く教員の

長き列には喜びのあり

二重橋前の廣場をうめつくす

教育の友三萬六千

大君の臨御を知らず號音に

高々昇る日の丸の旗

翻る國旗のもとに心から

我が大君を迎へまつりぬ

ありがたや大御心の御勅語

うけし吾等は光榮になく

大君を玉座に拜しおのづから

昭和の御代の榮ゆくを知る

御親閲を拜受して

宮郷尋高 森村 精

二重橋前の廣場に肅然と

御親閲まつ三萬六千

大君をいと近々に拜しつゝ

心のうちに誓ふ至誠を

大君の御勅語拜ししみじみと

おのがつとめを喜びにけり



御親閔を拜受して

宮郷尋高 常見三吉

感激の涙や末は春の海  
教へ子に分て深海の君の恩  
春の雨御國の基礎を固めけり  
かぎりなき幸をぞ祈る君が春  
一人に光ぞ添へん國の旗  
さざれ石こけむすまでや皇子の幸

御親閔を仰ぎ奉りて

宮郷尋高 目崎龍

しみんと教への道に携はる  
我が身の幸を今日ぞ知るなる  
若草をなほく育めてふみのり  
身のある限り應へまつらん  
おほやしまくまなく萌えし教へ草  
みのりにそひて我育まん  
君がためかんばせあれと若草を  
教への庭に育て行くわれ

御親閔に列して

宮郷尋高 富田菊次郎

春雨にそぼぬる松の色深し  
大君をまつ聖なるところ  
御親閔うけん一人に加はりて  
大君近くぬかづく吾は  
天皇のしろしめす道もれうけて  
教への道に身をば献げん  
朝夕に御聖旨とくと身につけて  
いざやつとめん教への道

御親閔を拜受して

宮郷尋高 關根貞一郎

小學校教員の職を奉ぜし故、有難き極みの御親閔を拜受す  
ることを得たるは、眞に千載一遇の光榮にて、如何に己が職  
の重且大なる使命、而して力を持つものなるかを層一層明か  
に、力強く痛感し唯々、此の職に己が力、誠の最大限を致し  
聖恩に報い奉らんのみなり。

御親閔拜受の心を

宮郷尋高 山本すぎの

みや廣場立ちる袖のうれしさに  
絶えず涙の露ぞこぼるる  
大和草名残を雲に吹き止めて  
今し降らん宮しろの園

御親閔を仰ぎ奉りて

宮郷尋高 森ヨウ

今日の佳辰に宮城前聖域に於て、天皇陛下には親しく御  
親閔あらせられ、剩へ優渥なる勅語を賜はる。誠に歡喜感激  
極なし。茲に度みて、皇室の御榮と聖壽の無疆を禱り奉り爾  
後日夜淬礪して此の職に努め、教育報國を誓ふ。  
大君の御前近くにつどひあひ  
玉のみこゑを聞くぞ嬉しき

御親閔を拜受して

宮郷尋高 設樂喜代子

畏しや命ありてぞかかる御代の  
有難き日に逢ひにけるかな  
天皇をあふぎまつりて春雨の

御親閔を拜受して

宮郷尋高 天笠千代

空にひゞけと萬歳を呼ぶ  
大君の玉の御聲を賜はりし  
我等が務めいや重きかな  
敷島の大和島根をすべたまふ  
天皇を今をがみまつれる  
鈍色の空おほらかに鶯の舞ふ  
大内山の春がすみかな  
春雨に心もすがし玉砂利に  
選ばれし人の集りてをり  
畏くも下しましけるすめらぎの  
大みことのり仰ぐ嬉しき  
今もなほ玉の御聲は吾が胸に  
思は遠き城前の空  
天津日嗣の皇子生れしを祝はんと  
教の人々集ひよるなり



新田郡

唯感激

太田尋高 富岡吉蔵

卯月三日の 神武祭

畏れ多くも 大前に

兒の父として今日我等

壽ぎ申し 奉る

日嗣の 皇子の御降誕

教の道に勵めよと

玉の御聲にふれにしは

さながら 神の勅

押し戴きて 感激に

唯感激に ふるへつゝ

君 恩

太田尋高 塚原義睦

教の庭にたづさはる

吾等は四月三日に

日頃いただける真心を

さげんものとつどひよる

おそれおほくも 大君は

春雨けむるその中を

吾等のためにいでまして

教の道をさとさせ給ふ

お委拜し 御聲をば

おきゝいたせし其の時に

すめら御國の道のため 吾等はつくさんとちかひけり

天恩に浴して

太田尋高 澤田虎雄

嗚呼!!此の天恩、此の至榮。

余はより永續的有自重努力の、持續的に自我の生活の上に閃くときのその世界を描き、此の大なる使命の潜流のせらぎに耳をそばだたせて、その強いしかも深い使命に敬虔な心を以て禮拜せねばならぬ。そして精悍な氣、向上の念、あらゆる苦痛に嚴然として堪へ、身命を献げて此の職責を全うするため策進せねばならぬ。

天恩に感激して

太田尋高 塚越實重

畏くも 天皇陛下には特に臨御あらせられ、御親閱を賜ふ。加之に優渥なる勅語を賜ひて小學教育の重んずべき旨を昭示し賜ふ。寔に恐懼感激の至に堪へず、此の無上の天恩此の無比の至榮を心肝に銘じ職の爲日夜精勵し天恩の萬一に報せんことを期し、任の重且つ大なる事天恩の有難きに感じ唯感謝の念高まり、感激の至り、落涙して止まらず。

此の光榮と覺悟を子孫に傳へて 御聖旨に對し奉公の誠を致さんことを誓ふ。

光榮によくして

太田尋高 櫻井巳夫

天皇陛下には去る四月三日全國小學校教員代表を二重橋外に於て御親閱遊ばされ、畏くも優渥なる勅語を賜はりしことは我ら感激に堪へず。私は恭しく天顏に咫尺し且玉音を拜聴し、あの尊く、畏い御姿何たる神々しい感激の瞬間ならん。あの瞬間を常に心に銘じて忠良なる第二國民の訓育養成に努力し非常時の波を乗越えもつて海よりも深く山よりも高き聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

感激の日

太田尋高 大澤賢視

御親閱を賜はりたるさへ望外の光榮なるに優渥なる勅語を拜戴す。聖代の餘慶只皇恩の厚きに泣くのみ。

竹の園生の御榮えと皇國の光輝の彌増さん事の七生かけてこの身一つにかゝれるを思ひて感激の念更に切なり。

聖恩に感激して

太田尋高 加藤好一

昭和九年四月三日。畏くも 天皇陛下の御親閱を拜受したる、感激の日である。

嚙曉たる喇叭の響と共に、 聖上臨御遊ばされ、次いで御親

閱を賜はり、剩へ目のあたり優渥なる勅語を下し給ふ。餘りの忝さに、感激に戦き恐懼に慄れ、高鳴る胸は只痛む許りである。擴声器に響く指揮の合圖も殆ど夢の様であつた。

これにつけても、有難き聖旨を奉體し、職責の重大さを思ひ、一意教育報國に専念せん事を銘記したのである。

御親閱に浴して

太田尋高 大槻重衛

日嗣の皇子の御降誕を壽ぎ奉ると共に非常時に處する教育者としての、誓を新たにせんとする晴の式場に列するの光榮に浴し、仰ぎ見るだに畏れ多き龍顏に咫尺し奉り、剩へ優渥なる勅語を賜はり叙慮の深遠なるを拜し天恩の厚きに感泣するのほかはありません。

此の無上の天恩、無限の感激を奉じ一意教育の道に邁進し以て皇恩の萬分の一に副ひ奉る覺悟であります。

大前に立ちて

太田尋高 田島久勇

受閱團の登音歩く春の雨

芽柳に降る雨玉座濡らしけり

東風いよ冷き襟や御親閱



雨に濡れて玉座に伏すや燕來る  
御答禮の春の手袋拜みけり  
燕來て雨の玉座に腹白き  
勅を拜すや雨の燕鳴かで飛ぶ  
大君に誓ふ一つや花曇

御親閱を拜受して

太田尋高 阿部甲子三

神武天皇祭の佳辰に當り、畏くも 聖上陛下には初等教育に従事する三萬六千の教員に對して、御親閱の榮を賜ひ、剩へ小學校教育の重んずべき旨を昭示し給ふ。  
聖慮の宏大無邊なるを仰ぎ恐懼感激の至に堪へず。  
此の聖恩に報い奉らんとし、國民教育の充實によりて國民精神の發揚を計ると共に、至誠一貫師表たるの本分を完うせん事を期し、以つて教育報國の赤誠を捧げんとす。  
去るの日、天顏に咫尺するの榮を擔ひ深き感激に堪へず。

御親閱を仰ぎまつりて

太田尋高 橋本たか

かしこかれたまかしこけれ大前に  
親しく拜す玉のおん聲  
あさなゆふなおほみことのりかしこみて

をしへそだてむ 大和撫子  
皇太子様の 生れましにける大御代を  
ちよよろづよに ことほぎ奉る

光榮

太田尋高 櫻井ムラ

昭和九年の春四月  
我等教への道人を  
「篤クスノ道ニ勸メヨ」と  
榮に浴せし我はたま  
今日の心を終生の  
教への道に努めんと  
かたじけなくも大君は  
御前親しく召し給ひ  
畏き御勅賜ひけり  
無量の感の止みがたく  
心となしてひとすちに  
心に固く誓ひけり

感激の御親閱

九合尋高 關口喜義

全國小學校教員精神作興大會は、空に瑞雲曳き大地は讚仰震動する四月三日、清掃せられたる宮城大前に於て、畏くも天皇陛下の御親閱を仰ぎ盛大に舉行せられ且又優渥なる勅語を賜はる。此の古今未曾有の聖勅を拜して恐懼措く所を知らず、此の光榮此の感激、熱涙只眼瞭に覺ゆるのみ。  
我等教育の聖職にありこの聖恩の深甚なるを思ひ、御稜威の慈光に浴して勇躍奉公の至誠を致し、身命を献げて聖恩の

萬一に報い奉らん事を期す。

無上の光榮と感激

九合尋高 田島宗仁

身を清め心をこめて今こそは  
聖の君を迎ふうれしき  
しとくと降る春雨に御親閱  
今日のみをしへ身にぞしみける  
つとひよる教への庭に立つ我等  
かたじけなきに涙こぼるゝ

光榮の我等

九合尋高 中島藤滿

四月の空  
待望の今日  
歡喜と緊張に充滿  
光榮の我等  
三萬六千  
聖勅を拜す  
無限の感激!!

御親閱

九合尋高 石倉喜代太郎

我等の胸は躍る  
卯月の空に  
尊き姿を  
玉の御聲の  
御勅語  
あなかしこ

御親閱を拜受して

九合尋高 津久井一衛

嘲嘆たる喇叭は響き渡つた。民草の神と仰ぎ奉る、  
天皇陛下には出御あらせられた。最敬禮、君が代の奉唱に、  
何事かは知らねど只有難きに身は戰いた。數ならぬ我等を御  
信頼下さる御勅語を拜した其の時の感激よ、殊に御力強き玉  
音に接し、帝國臣民ならでは知り得ぬ希望幸福責任の念を深  
くした。斯くして身に餘る光榮に浴したる我等は層一層一念  
以て聖旨に副ひ奉らん事を期するのである。



御親閲を拜受して

九合尋高 富岡 永二

學び舎の庭におりたつ身の故に  
かゝるわれにもかゝる嬉しさ  
あきらけき今日の御教かしくみて  
今こそ行かめ子等は待ちわぶ

御親閲を拜受して

九合尋高 鈴木千代子

春雨細やかにけむり往古の大精神をしのぶに相應しき神武  
天皇祭のこの佳き日、吾等三萬六千の民草は親しく大御心を  
教育に寄せ給ふ、天皇陛下の、御尊姿に接する光榮を得、刺  
へ辱き御勅語を拜受す。吾等は其の聖恩に感泣し、更に一層  
教育報國の信念を固くせり。今後益々此の意義深き感激を體  
して、微力乍ら斯の道に碎心努力せんと誓ふ。

御親閲に感激して

澤野尋高 星野金八郎

大君にむかひまつりて今ぞ知る  
をしへの道の重きつとめを  
彌榮の聲もつまりぬすべらぎに

向ひまつりて上るうれしさ

君が代は千代に八千代とうたへども

聲はつまりて涙あふるる

感激の日

澤野尋高 饗場 光夫

雲重く雨は降れども大君は  
民見知らずと出でましにけり  
日の皇子をたゞへまつると陸の極み  
海の果より集ひ來しかも  
教へ人の行手定かに指し示す  
わが大君のみことのりかも

君の御聲はつゞなれど努力せよ

そのみことのりの忘れがたかり

よこしまの道を正しと思ふ人に

この感激を割きて見せばや

世をうらみ遠つ御祖先の教へにも

背ける人を哀しと思ふ

以上二首、歪める思想持つ人に

常世まで語りつぐがね喜びの

餘り傳ひし泪今見し

皇太子殿下御降誕奉祝

澤野尋高 中野 益一

神の御末の皇國、日嗣の皇子のいでまして、千代萬代に輝  
かん

感激の日

澤野尋高 天 笠 通一

春雨こまやかにそゞ宮城二重橋前廣場において、長くも  
天皇陛下の御親閲を賜はる。吾等教育者は、この聖恩の厚き  
に感泣しつゝ、教育報國の覺悟を一層固めねばならない。  
この前古未曾有の盛儀にして、仰ぎ見るだに畏れ多き龍顔  
に咫尺し、朗々たる玉音を拜聽し、此の無上の天恩に浴し、  
此の無比の至榮を荷ひし四月三日を卜し、感涙にむせびつゝ、  
聖旨奉體、新しき希望に燃え、新らしき歩みを以て、雄々し  
く、正しく、日夜淬礪、その職責を竭さむことを誓ふ。

聖旨奉體

澤野尋高 野村 金太夫

慈雨にもる 聖地に仰ぐ 龍顔や  
咫尺して 涙にむせぶ 御親閲

御親閲

澤野尋高 柴 宮 まつ

まともにも拜めず拜む英姿かな  
御親閲慈雨のなさけにむせびけり  
皇子ことほぎの國民の眞心皇子ことほぎぬ

御親閲の光榮に浴して

澤野尋高 茂 木 恒 治

大宮の松の緑も色はえて  
今日のみえつにあふぞうれしき  
君が代のうた静まりてその裡に  
われ等のまなこうるほひにける  
かしこみて玉のみ聲をむねにつけ  
教への道につとめ行かまし

龍顔に咫尺し奉りて

澤野尋高 船 田 芳 造

肅々と聖域の緑に灑ぐ春の雨、嘯嘯と大内山にこたまする  
ラツバの音、幽薄肅々として二重橋を渡御ましゝぬ。我が  
終生の光榮の時、遂に來れり。仰ぎまつる玉座の 天子、儼  
として立たせ給ふ現神の御尊姿、涙に曇る眼に、今こそをろ



がみ奉る。一介の村夫子、閔を賜はるだに畏き極みなるに、おほけなくも、玉音朗かに、御聖旨をさへ下し給ふ。皇國の民として生を享け、聖職に身を献ぐる歡喜、今ぞ極りぬ。今茲に、新たに教育報國の微涓を誓ひ奉り、せきかねて亂れ勝ちなる聲張りあげて、聖壽萬歳を壽ぎ奉りをはんぬ。

御親閔に浴して

澤野尋高 野村チトセ

君が代をことほぎまつる國民の

今日のつどひに逢ふぞうれしき

みどりなすこの大前にかしこくも

玉の御聲のかゝる尊さ

もろともに大和島根のさかえよと

ただひとすぢにつとめ勵まん

御親閔を仰ぎ奉りて

尾島尋高 津久井 藤一郎

昭和九年神武天皇祭の佳辰に、國民精神作興の爲宮城前に全國小學校教員大會を開催いたしました。

事長くも、天聽に達し、小雨そぼ降る二重橋前に玉歩を進め給ひ、御親閔を賜はり、剩へ、玉音いとも朗かに優渥なる勅語を下し賜はれました。初等教育者の光榮、唯恐懼感涙に咽

ぶ許りであります。

みさとしの教への勅をかしこみて

いよよつくさんわが身くだきて

優詔を拜受して

尾島尋高 藤原多三郎

小學校教員として天顏に咫尺し奉り優詔を拜受するに當り只光榮の大なるに恐懼して何とはなく胸迫り心躍り血は激して涙滂沱として禁する能はず。國歌の奉唱も感激の極發聲震へ唯終生得難き光榮の大なるを感ずるのみ。吾人は茲に自己の天職に目覺めて混濁せる世態の中に健實なる第二國民養成に向つて一層奮勵興起し至誠一貫 至尊の前に誓ひ奉れる心を心として身命を献げて此光榮に對へ奉らんことを期す。

御親閔を拜受し奉りて

尾島尋高 豊岡 一衛

君が代は千代に八千代と祈るなる

誠の心神やきかなん

感激に心満ちてあり御親閔を

受けし喜び何と申さむ

今日はしもわが身にあまる光榮の

有難き日ぞと子にいひきかす

大君を拜して

尾島尋高 横田 孝藏

緑うごく大内山にこたまして

昭和の君のみ姿勇し

御前にぬかづきて

尾島尋高 田 島 良 平

建國のかみもゆかしき四月三日瑞祥當に溢るる大内山の邊に我が 大君御親閔の光榮に浴しぬ。皇威八紘に輝き御惠の慈雨よりまされるに剩へ優詔を賜はりたることげに聖徳の忝き、唯感泣あるのみ。嗚呼偉なる哉。我等は常に天壤無窮の皇運を祈ると共に天職に淬礪し以て御聖旨に副ひ奉らんことを期するのみ。

千代の森よろづに映えてあれましぬ

常磐の春は八洲にかをれり

御親閔を拜受して

尾島尋高 中 島 鍋 一

昭和九年神武天皇祭の佳辰にあたり、畏くも 聖上陛下の御親閔を賜はり優詔を拜す。これ未曾有の盛事にして只々感涙に咽ぶのみ。

瑞雲こむる大内山の松の緑はいろこく聖壽無窮、萬邦無比の皇國日本の姿をこゝに拜して莊嚴の氣分と力強さを感じ小國民の教養に心血をそゝぎ聖旨に副ひ奉らんことを誓ひき。

御親閔を拜受して

尾島尋高 津久井 芳五郎

昭和九年四月三日辱くも我等初等教育の任に當る全國小學校教員に對し御親閔の榮を賜はりたり。我等此の光榮に浴さんと式場に參列し時刻の到るを御待ち上ぐるに定刻に至れば鹵簿肅々玉座に臨御あらせられ神々しく御親閔遊ばされ畏き御勅語をも賜はる。此の慈光に浴し極みなき有難さに感激し感涙に咽び粉骨碎身自己の職責に勵精し御聖旨の萬分の一に報い奉らん事を強く感じたり。

御親閔を拜受して

尾島尋高 飯 田 森 次

昭和九年四月三日全國小學校教員精神作興大會は細雨烟る大内山を背景に、二重橋前大廣場で莊嚴裡に開催され、辱くも 聖上陛下御親閔の未曾有の光榮に浴し優渥なる勅を拜受した。我等は初等教育に御軫念遊ばさるゝ聖旨を奉體して獻身育英報國の道に勵み皇國將來の發展に貢獻せんことを誓つた。



はぐくみの道にいそしむころこそ

君に獻ぐるまことなりけれ

御親閱を拜受して

尾島尋高 石原周 作

君が代は千代に八千代にと、日嗣の皇子の御降誕を壽ぎ奉れば、天顔特に麗しく笑ませて有難き御勅語を下し給へり、誰か感泣せざるものあらむや。

吾等はこの御親閱に對し如何にして應へる奉るべきか、粉骨砕心日夜己が天職に致々として勵み、忠良なる國民を養成し我大日本帝國の益々隆昌ならむことを祈らざる可からず。日の本の教への道ぞ豊かなる

大みことのり守りゆきなば

御親閱の光榮に浴して

尾島尋高 黒澤光業

吾輩聖文武なる 天皇陛下におかせられては、畏れ多くも國民精神作興大會に親しく臨御あらせられ、卑賤なる吾等をして咫尺のうちに龍顔を拜し奉るの光榮を賜ひ、剩へ聖勅を賜はる。吾等かゝる聖代に生れて、廣大無邊なる聖恩に浴し奉るさへ畏き極みなるに、今又斯の如き光榮に浴し恐懼感激措く所を知らず。只々聖旨を奉體して一意教化に赤誠を致し、

以て聖慮に副ひ奉らんとす。

御親閱を拜受して

尾島尋高 栗原幸子

亞細亞の東日出づる國のこの聖代に生を享けし我等の歡喜一入と胸に迫り、自ら感涙に咽ぶのみなり。

陛下には四月三日我等小學校教員を特に御親閱遊ばされた。歡喜と光榮とに充ち満ちて只管御稔威と御聖徳との廣大無邊なるに感激するのみ、特に龍顔いとも麗しく親しく勅語を賜はりし優渥なる大御心に對し奉りては、我等全力をあげ育英の天職につくし、御鴻恩の萬分の一に報じ奉らんことを期す。

御親閱を拜受して

尾島尋高 橋本たみ

みそなはすすめらみことの高みくら  
をろがむ今日の幸ぞ身にしむ  
大内山松のみどりにとよもして  
おほらかにひびく君が代のうた  
生れまし、日つぎのみ子のみさかえを  
いや祈るなり天津み神に

御親閱を拜受して

世良田尋高 栗原利平

吾等小學校教員代表は、四月三日の佳辰、二重橋前に於て、畏くも 天皇陛下の御親閱を拜受し、且優渥なる勅語を賜はる、聖訓の深遠なる寔に恐懼感激の至に堪へず。

特に 陛下の御前近くにての君が代の奉唱、又玉音朗かに勅語を賜はりし時の如き、感激の極み唯感涙に咽びしのみ、不肖聖代に生を享け小學校教育に身を置きたるの故を以て此の光榮に浴す、かゝる上はいよく教育報國の實を擧げ、以て皇恩の萬一に報い奉らんことを誓ふ。

御親閱を拜受して

世良田尋高 黒田達太郎

全國小學校教員精神作興大會に際し、畏くも 天皇陛下の御親閱を拜受し且つ優渥なる勅語を賜はる、蓋し我國前古未曾有の一大盛儀といふべし。殊にいとも明朗なる玉音を拜聴し、聖旨の深遠切實なるを思ふ時、實に言辭に盡し難き恐懼感激の極みなり。

今や内外多事の時、教育に従ふ者に對し、かくも叙慮を寄せさせ給ふ事の深きを拜しては、吾等齊しくこの聖旨を奉體し、更に精勵の誠を盡し、大御心に對へ奉らざるべからず。

御親閱の光榮に浴して

世良田尋高 峯崎重康

肇國の大帝を偲び奉る四月三日こそ何たる感激の日ぞや。尊き御英姿を玉座に仰げば滿場寂として聲なく森嚴の氣壓するが如く、唯々感激そのものなりき。目の邊りいとも神々しき玉音に接し奉りては恐懼措く能はず、感涙に咽びしのみ。吾等幸にしてこの昭代に生れ國民教育の聖職に身を獻げこの空前の盛典に列し無上の天恩に浴し至大の榮光を荷ふ。茲に無限の感激を永遠に心に刻し、聖旨を奉體し日夜淬礪その職に殉じ、聖恩の萬一に對へ奉らんことを誓ふ。

御親閱を拜受して

世良田尋高 塚越徳太郎

春雨靜かに注ぐ昭和九年四月三日、教育に大御心を注がせ給ふ 聖上陛下には、畏くも三萬有餘の我等小學校教員代表を御親閱遊ばされました。

この思出こそ私の生涯を通じて忘れ得ない感激であり、この有難き御親閱を常に心に銘じて、國民教育振興の道に猛進して、海よりも深く山よりも高い皇恩の萬分の一に報いたいと堅く心に誓ひました。



御親閲を拜受して

世良田尋高 星野茂十郎

昭和九年四月三日。これぞ生涯忘るゝことの出来ない感激の日であつた。申すも畏きことながら、天皇陛下の御前で「君が代」を奉唱した時、何時とはなしに胸が一ぱいになり、どうしても思ふやう聲に出なかつた。奉唱し終つた時には眼輪が熱くなつてゐた。やがて勅語を賜はつたが、せめて玉音の御一言でもと全身を耳にして居た甲斐あつて、「奮勵努力セヨ」との御言葉だけは、はつきりと拜聴することができた。記念寫眞を拜む毎に、陛下の御一言が必ず思ひ出される。

御親閲に列して

世良田尋高 寺内正晴

二重橋前の席場に參集の數萬の代表者の面上にはひとしく晴やかな然も緊張せる氣分がみなぎつてゐる。やがて陛下出御の合圖がひゞき渡る。冷い風も雨も感じない。御英姿のみが心にうかぶ。刻一刻と緊張の度は高まつて来る。陛下の御臨幸。頭は熱し血は湧き立つ。仰ぎみだ私の眼には涙さへうかんでゐる感激の極みだ。尊き御姿を拜しての君が代の奉唱、いかに莊重に有難く私の心に響いたことか終生忘るゝことは出来ない。

御親閲を拜受して

世良田尋高 須田福太郎

道の邊の草のわが身にあまりある玉のみつゆのかゝるうれしさかぎりなき君のめぐみをみにうけてつとめはげまんなりはひのみちしづがみのおもはざりけり雲の上の御聲のかゝる今日よろこび

御親閲を拜受して

世良田尋高 相澤實

晴の式場に列し天皇陛下の臨御を待つ間のあの神々しい嚴肅な氣持、やがて鹵簿の先驅が二重橋に達した時の嚙曉たる「氣をつけ」のラツバ、君が代の莊嚴な樂の音、目のあたり拜した御英姿、玉音朗々我等小學校教員に賜はつた優渥な御勅語を拜しては只々胸が一杯になつて感泣するのみであつた御親閲の光榮と此の感激に對しては國民教育のため一層奮勵努力以て皇恩の萬分の一に報いる覺悟あるのみである。

小學校教員精神作興大會の感想

世良田尋高 山岸平四郎

名實共に全國小學校教員一團となり、現代の世相に鑑み帝都二重橋前に於て、小學校教員精神作興大會を開催する前古未曾有の盛儀といふべし。吾等數萬の代表は畏くも天皇陛下の御親閲を受け優渥なる勅語を賜はり、洵に恐懼に堪へざる處なり。かくも小學校教育に御軫念あらせらるゝを拜し奉り吾等の職責は國家の重任たるを一層痛感し、爾後身命をささげ粉骨碎身榮譽あるこの職責を全うし、聖慮に對し萬分の一たりとも報い奉らんことを深感してやまざるなり。

御親閲を拜受して

世良田尋高 瀧川イシ

おほげなくみ空の天子をろがみてわれらが胸に歡喜みなぎる限りなき慈悲と御教かしこみてわれいそしみの力湧ききぬ

御親閲を拜受して

世良田尋高 小川よね

大君のいやさかえにさかえよと

御親閲を拜して

木崎尋高 柿沼角次郎

端然と玉座に御立ちあそばされた天皇陛下の御姿は、今尙私の眼の奥底に残つて居ります。おそろく永久に残るものと確信致します。君が代を合唱するとき、萬歳を三唱するとき、皆感激の熱い涙と共にでありました。

有難き今日のみことをかしこみて生のかぎりをつくしまつらむ

天顔に咫尺し奉りて

木崎尋高 服部久八郎

嗚呼、我等の陛下咫尺に在す。若く尊く力強き陛下の大前に並み居て感激の涙滂沱たり。吾奇しくも此の國に生れ、此の御代に會ひ此の時を得、此の閱を賜ふ、何たる光榮、幸運、恩寵、嗚呼!! 吾、奉公すべし身命を賭して奉公すべし、肺肝を貫き逆り出づる叫び、歡喜の血潮、風向變じて春雨霽れんとす。



御親閲感想

木崎尊高 目黒幹夫

鳳輦は玉の宮居を出でましぬ。喇叭の音は鳴り響く。御親閲を拜受する全国小學校教員三萬六千は宮城前の廣場に集り迎へ奉りぬ。肅として聲なし。天皇陛下には玉座に着かせ給ふ。君が代の奉唱最敬禮の中に天顔を拜し奉る。身は幸に小學校教員の一員たる爲此の度の有難き御親閲に列することを得ぬ。誠に無上の光榮、末代までの記念にして唯々感涙に噎ぶのみ。この上は勅を守り一意専心教育に精進する覺悟なり。

御親閲をうけて

木崎尊高 笠原祐作

天皇陛下には特に大御心を教育に留めさせられ、畏くもさきに聖勅を下し給ふ。此の度御親閲あらせられ、更に優渥なる勅語を賜はり、國運降昌の淵源は小學校教育にありと、其の重んずべき事を昭示し給ふ。生等古今未曾有の盛儀に浴し、齊しく唯々恐懼感激に堪へず。無比の至榮を荷ひ此の有難き聖慮を奉體し、責務の益々重大なるを感ず。生等其の任にある者一致協力奮起緊張して、堅實なる國民の氣風を養成し聖恩の萬分の一に報い奉らんとす。

玉音

木崎尊高 龜井俊一

わすれじな  
現人神の御聲を胸に  
大和撫子争む責を

この感激

木崎尊高 廣瀧スガ

千代田の松の緑、春雨にいやはえ、畏き御親閲に我等の胸は高鳴る。肅然として待つ間の幾時、遙かに拜す。大君の御英姿凛乎として邊を拂ふ。嚴かにくたる御勅語、我等の光榮これに越したる事なく、深く心底に銘じて、只涙下るのみ。皇國の世界に冠たる所以を強く經驗し、認識す。

嗚呼この光榮。大君の御稜威の下にある我等は其幸福を感謝し、教育報國の實をあげ、皇恩に報いん事を深く誓ふ。

熱涙

木崎尊高 塚越たけ

現世の神の御聲に迷る  
行くべき道を照らす涙は

御親閲を拜して

寶泉尊高 岡部兵馬

聖上陛下に國民教育の振興に御軫念あらせられしが昭和九年四月三日我等初等教育者を東京に召し給ひ親しく御親閲の榮を賜ひ且、優渥なる勅語を御下賜あらせられ期するに國民教育の振作を以てせらる。我等恐懼勅掟を畏みて教育者たるの光榮に感激し、一意教育報國の誠を致さんとす。

御親閲を拜して

寶泉尊高 塚越累平

たゞ恐懼あるのみ、たゞ感激あるのみ、特に玉音いとも嚴かに勅語を賜ふ、是れ恐懼感激の極なり。我等は責務の一層重大なるを痛感すると共に、一意教育報國に盡せんことを誓ふのみ。

御親閲を拜して

寶泉尊高 江田源太郎

今回の精神作興大會に當り、畏くも天皇陛下の御親閲の光榮に浴し眼のあたり颯爽たる御英姿を拜し奉りては思はず頭を深く前に垂れ、唯感涙にむせぶのみであつた。凜然として

御親閲を拜受して

寶泉尊高 齋藤耕一

春雨しとくと降る中を鳳輦いうくと二重橋を渡らせられた時、何とも言へぬ有難さがひしと胸に迫りました。玉座にお上りになり優渥なる勅語を賜はり、寂慮の深遠なるを拜し奉つて感泣極りありません。吾等は此の無限の感激を長へに胸に抱いて、その責務の重大さを自覺し奮勵以て皇恩の萬一に報いる決心であります。

御親閲を拜受して

寶泉尊高 富信雄

聖上陛下の初等教育に深遠なる寂慮をよせさせ給へる、この道に職を奉ずるものゝ、責務重大なるに感激す。吾等は、この任重き初等教育發展のため、こゝに親しく、陛下より聖勅を賜ふの光榮に浴し、恐懼にたへず。この聖旨



を奉體し、至誠一貫、身を犠牲にし、皇恩の萬一に報ぜんとする。

御親閲を拜して

寶泉尋高 久保田五一

瑞雲のたゞよふにはに集ひて

君のみことを拜すうれしさ

心して國の教へにつとめよと

のらせ給へるみことかしこし

畏くもくだし給へるおほみこと

命のきはみわれは守らん

御親閲を拜して

寶泉尋高 野口良作

神武天皇祭の佳辰に當り全國小學校教員代表者に對し、天皇陛下には、畏くも御親閲の榮を賜ひ剩へ優渥なる勅語を賜はり、小學教育者の責務の重且大なることを諭させ給ふ。寔に恐懼感激の至りに堪へず。吾等職を小學校に奉じ國民教育に従ひ驚馬に鞭つて偏に教化につくし、列聖の皇謨に率由し日夜微力の及ぼざらんことを恐れたりしに、復た新に聖勅を賜はる。叙慮の深遠なるを拜し奉つて感泣極りなし。

御親閲を拜受して

寶泉尋高 高橋フサ

春雨こまやかにそそぐ四月三日神武天皇祭の盛辰に方り全國小學校教員精神作興大會は宮城二重橋前廣場に開かれ畏くも、天皇陛下親しく臨御あらせられ御親閲の榮を賜ふ、只々感激のほかなし。又我等は、皇太子殿下奉祝歌を奉唱し衷心より尊き萬世一系の御皇位の窮りなく榮えまさんことを祈り奉りぬ。殊に畏くも優渥なる御勅語を賜はり只々感涙の滂沱たるのみ。我等は此の無上の天恩に浴し深遠なる聖慮を拜察し奉りて責務の益々重きを思ふこと切なり。

御親閲を拜受して

寶泉尋高 塚越とよ

聲なき嚴肅と緊張の中に、天皇陛下親しく臨御あらせられ、我等三萬六千餘名の小學校教員に御親閲の榮を賜ひ、畏くも優渥なる勅語を賜はりました。この光榮、この感激を深く心に銘じて、一意専心我が尊き責務に精進し、忠良なる日本國民の養成に努め、聖恩の萬分の一に報い奉りたいと思ひます。

御親閲に際して

鳥之郷尋高 丸山忠三郎

更に更に重き務を覺えけり

學びの道にたづきはる身の

掛けまくもあやに畏き天皇の

御勅語ひと身にしみるかな

たまちはふ神の教をそのまゝに

強く正しく導かんとぞ思ふ

御親閲を拜受して

鳥之郷尋高 山藤正

昭和九年四月三日、これぞ我が生涯に於て、忘れ得ぬ日なる。此の日選ばれ三萬六千人中に加はりて、御親閲拜受の光榮に浴しぬ。

春雨に煙る大内山を右に仰ぎつゝ、柳の芽漸く綻び初めし二重橋前、午少し過ぐる頃ほひ、全國より集ふ人々と共に定位置に着きたり。午後二時頃より細雨降りしきりたり。場内の一隅より擴聲機に依り「御紹介申し上げます。天皇陛下の御思召に依り雨具を用ひても、差支へないのとこのとであります。」と報ぜられし時、御叙慮の程を拜察し、眼にあつきものを感じぬ。

午後二時三十分の頃、啾唳たる喇叭の響と共に、鹵簿二重橋よりいでましぬ。場内水を打ちたるが如く聲するものなし。雨しきりに降れども、雨具を用ふるもの一人もなし。御親閲を終りて陛下には玉音朗々と勅語を賜へり。此の優渥なる勅語に對し奉りて、恐懼言ふ所を知らず。只々己が天職の重責を感じ粉骨碎身死力を竭して、世界の覇を目ざして進む我が第二國民の養成に全我を打ち込み、以て我が國の光榮を全うせんことを期す。

幼子の教の道にあればこそ

玉音に接する今日に逢ひけれ

炸裂する感激

鳥之郷尋高 大槻三好

つゝましやかに「教育の歌」が合唱され、無上の光榮に驀進する列車

「我は小學校教師也」此の歩調を忘れまい、ビル街の舗道に氾濫する教師よ

御親閲記念章の胸が颯爽と切る街頭、雨雲の下に廣告氣球がかすんで

火花が、感激が中天に炸裂する、春雨けむる大内山より鹵簿春雨に濡れる、感激に濡れる、朗々たる玉音耳朶に残り、すすくと胸に芽ぐむもの



くわつと展けた道だ、粉骨碎身だ、教育報國だ、私は私の力を信じよう。

御親閲に浴して

鳥之郷尋高 渡邊實太郎

九重の 帝の御車目のあたり  
拜す今日こそかしこかりけれ  
さし昇る朝日の如くさわやかに  
君の御姿いともかしこし  
大前にぬかづき白す國民の  
心は一つ誠なりけり

御親閲の光榮に浴して

鳥之郷尋高 茂木 貢

たまちはふ現人神の健けき  
御影をろがむ今日ぞ嬉しき  
天皇の御勅語のまゝに教とく  
我が心こそ誠なりけれ  
ふつゝかな身ぞと思へば思ふ程  
今日の御親閲に會ふぞ恐しき  
朗々と御勅語讀み給ふ 天皇の  
御聲さやかに聞くぞかしこき

はらからよこれのほまれを永久に  
傳へて家の寶とぞなせ

御親閲に浴して

鳥之郷尋高 木暮 柳

こそ雨に響きかへれるみさとしの  
みことのりうけてかしこし我等  
大君の御勅かしこし今更に  
教へ導く誠かたしも

御親閲を拜受して

強戸尋高 相澤節三郎

昭和九年四月三日、全國小學校教員 皇太子殿下御誕生を奉祝し皇室皇國の萬歳を三唱大いに教員精神の作興を圖れり。此の時に際し畏くも 天皇陛下親しく臨御あらせられ 御親閲の光榮を賜ふ。不肖教育者の末席をけがし此の榮をになふ、一身一家の光榮を子孫に傳へんとす。別けて今回の此の企に身最前線にありて 天顔に咫尺し玉音朗々勅を賜はるに至り感激其極に達し云ふ所を知らざるなり。只職に殉ずるの覺悟をもつて御聖旨に副ひ奉らんことを期するのみ。

御親閲を拜受して

強戸尋高 永田 孝一

現下我國は非常の國難に際會し我等初等教育に従事する者坐視するに忍びず大いに國民精神を振作し協心君國の爲に身命を獻げんとす。時恰も昭和九年四月三日全國小學校教員代表二重橋前の廣場に會し恭しく 皇儲殿下の御降誕を奉祝し小學校教員精神作興大會を開かんとするや畏くも 聖上陛下御親閲を賜ひ優渥なる勅語を下し給ふ。我等此の土に生を享け只管爲す事の足らざるを憂ふるのみなりしに今此の事あり。只感激の外なし。此上は只一筋聖恩に報い奉らんのみ。

御親閲を拜受して

強戸尋高 盆子 敬亮

吾生を世に享けて茲に半世紀に垂んとして昭和の昭代に會す。何たる慶福ぞ。剩へ一介の小學校教員として長くも龍顏を拜し得たるをや。聖慮を拜して吾人の責務の重且大なるを想ふや寔に切なるものあり。銘記せよ。牢記せよ。皇紀二千五百九十四年神武天皇祭の佳辰陽春轉た新にして煙雨濃かに注ぐ二重橋前廣場に於ける未曾有の此の榮えあるこの御親閲拜受を。

御親閲を拜受して

強戸尋高 久保田良平

昭和九年四月三日、全國小學校教員代表者の一員として、二重橋前の廣場に相會し、恭しく 皇太子殿下の御降誕慶祝の誠を表はし、更に國民精神を作興して、齊しく微力を教育に捧げようとするに當つて、畏くも 天皇陛下より御親閲を賜はり尙其の上優渥なる御勅語まで賜はりましたことは誠に感激の至りであります。今や國家非常の秋、この無上の光榮、この有難い御勅語、愈々小學校教育の重大なることを痛感致しました。この上は層一層御聖旨に副ふ様奮勵努力する覺悟であります。

御親閲を拜受して

強戸尋高 仙名 テイ

建國の大精神をしのぶにふさはしき四月三日、精神作興大會は舉行されました。畏くも 聖上陛下には御親閲遊ばされました、玉座に立たせ給ふ尊く畏い御姿を拜し頭は思はず知らず前へたれてしまひました。剩へ勅語を賜ふ玉音を拜し感激の極言ふ所を知りません。還御あらせられるまでの間夢の様過ぎ去つて、あの森嚴な光景のみが強く映じて居ります、あゝ生涯を通じての感激心肝に銘じ、教育報國の信念を



一層確固にいたしました。

御親閲を拜受して

生品尋高 間々田寛作

大君を拜みまつる うれしきは

幾千代かけて 忘れざらまし

大君を拜みまつる ありがたき

しみじみ泌みぬ 賤の骨身に

御親閲に感激して

生品尋高 江原七郎

現神を仰ぎ壽ぐ萬歳歌

御親閲只感激にむせぶ春

あなかしこ今日のよき日をまもりせん

御親閲を仰ぎ奉りて

生品尋高 塚越仲祐

高なる胸をひめし人

所せましとうづめたる

春雨けむる千代田城の畔

嘯唳たるラツバの響に

いと厳かにいでの

君のたまひし御勅

あやに長くいただきぬ

我等の使命いよよます

御親閲を仰ぎ奉りて

生品尋高 大島良太郎

まごかがみ清き廣場につどふ人

春雨の中に立ちてうれしげなる

萬歳の聲にとよみて大宮の

御門の原は湧き立つごとし

春雨のけむれる中にひれふして

みたまのふゆをかしこみにけり

あなかしこすめらみことを仰ぎます

四萬の人の深きしづもり

御親閲を仰ぎ奉りて

生品尋高 岡田 亘

天の下しろしめすなる 天皇の かみのみことの大宮の

二重橋前今日しかも 行幸仰ぐと集ひたる四萬の人は喜びに

こころ天なり はるかなる千代田の城の松籟の かそけくと

よむふかごころ 仰ぎみすれば春雨にけむれるなかをいでま

しの 鹵簿おごそかにすすみます 今ぞさやけきうつせみは

胸ぞ昂まる いでましの行幸のつらに胸ぞたかまる

大宮をいでます君の御車の

還幸ののちの寂しき仰ぎみる

大宮の上につくむる春雨

御親閲を拜受して

生品尋高 荒牧寅十郎

御親閲に映えて光るや城の春

感激に去りがたく居り春の雨

御親閲を仰ぎ奉りて

生品尋高 大橋憲次

卯月の雨は音もなく

千代田の城に降りそゞぐ

我が兄姉の三萬餘

身をも心も清めつゝ

帝の出御を待ちあげぬ

嘯唳となる君が代に

薄雲なきぬ春の陽に

仰ぎ奉りし

大帝

我等が行手長くも

指し示されぬこのよき日

あゝ學び舎に住む我等

櫻の朝 雪の夕

今日の幸をば永遠に

鏡となして勵みつゝ

國の華をばいやまさん

御親閲を仰ぎ奉りて

生品尋高 峯岸 キク

かしこしやわが大君の御前に

侍りまつりてみ聲をぞきく

春雨の静かにけむる大宮の

君が代を奏するひびきおごそかに

大内山にこだまする今日

嗚呼感激の日

綿打尋高 森 下 正 作

嗚呼感激の日、昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下には

我等小學校教員に對し、親しく御親閲を賜ひ、且つ優渥なる

勅語を下し、小學校教員の重んずべき事を諭させ給ふ。聖旨深



遠恐懼感激に勝へず。特に 陛下の御前に於て、國歌を奉唱し萬歳を三唱して皇運の無窮と聖壽の萬歳を壽ぎ奉りしに、龍顏殊に麗しく聞し召され、其の御態度の神々しさ、御仁徳あふるる大御心、義は君臣情は父子の如しとの聖旨も俾ばれて感激其の極に達し感涙滂沱として禁ずる事能はざりき。嗚呼此の感激此の光榮心根に徹して終生忘るる事能はじ。

御親閱感激文

綿打尋高 川口 盛次

神武天皇祭の佳辰に當り、全國小學校教員精神作興大會を開くに當り、畏くも 聖上陛下には特に御親閱を賜はり、剩へ優渥なる御勅語を賜ひて小學校教育の重んずべき旨を御諭し給ふ。聖恩の洪大無邊にして聖旨の優渥なるに對し奉り、感涙胸に迫りて恐懼感激措く所を知らず。

千歳一遇の此の歡喜と榮譽とを肝に銘じ夙夜匪懈職務に精勵し、道徳教育を振作して國家の隆昌を圖り、以て聖恩の萬一に報い奉らんことを期してやまざるなり。

御親閱感激文

綿打尋高 清水 實

日嗣皇子生まれまして喜び内外に滿ち滿ちたる此の佳節田鶴鳴く北の果より海龜躍る南の果より集ひ集ひし三萬餘に、有

難くも御親閱を賜ふ。此の盛儀に參列の幸を得たる自分は、日本人としての意識のかく強く我が胸に迫りし時未だ無し、日本人たる誇り有難き國に生を享けし歡喜と感謝、此の時の感激の内容は其れ以外に無し。更に優渥なる勅語を賜はり、吾等は 陛下の深き思召に對し協力一致非常時國民教育のため報國奉公の誠を致し以て御聖恩に答へ奉るべきなり。

御親閱を拜受して

綿打尋高 中山 浩

昭和九年四月三日、昭和聖代の御慶事 皇太子殿下の御降誕を奉祝し、忠君愛國の精神を興揚し教育報國の誠を致す全國小學校教員精神作興大會を舉行せるに、畏くも

天皇陛下には御親閱あらせられ、優渥なる勅語を賜ひて小學校教育の重んずべき旨を昭示し給ふ。聖慮深遠なるを拜察し恐懼感激の至りに堪へず。此の無上の天恩に浴し、責務の益々重きを自覺し、此の至榮を心肝に刻し、協心戮力發奮策勵して健全なる國民を養成し、以て聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閱に参加して

綿打尋高 荻野宗十郎

四月三日親しく 陛下の龍顏を拜し奉り、三萬六千の代表

が赤誠こめたる君が代の莊重なる合唱の聲は千載無窮の宮城の森にこたまし一種無限の感あり。更に畏れ多き事は 聖上陛下の御威嚴に滿たさせ給ひし玉音親しく勅語を御降し給ひ、吾等の進むべき道を御諭し給へる大御心にして、春の日の如く暖く慈しく感ぜらる。吾等は此の意義ある大會に參列し聖旨を奉體し聖職に見覺め其の責任重大なるを省み奮勵興起して國民教育の大事に當るの決心を深め聖恩の萬一に報いねばならぬ。

御親閱の光榮に浴して

綿打尋高 關口 光雄

昭和九年四月三日宮城二重橋前廣場に於て全國小學校教員精神作興大會を開催せらるゝに當り畏くも 天皇陛下の行幸を仰ぎ奉り御親閱の榮を辱うし又優渥なる勅語を下賜せらる。我等職を小學校に奉ずるもの誰か聖旨の篤きに感泣せざらん。我此の榮ある席に列することを得しを誇となし、此の感激此の有難さを銘肝し教育報國の實を擧げ以て聖旨の萬分の一に報い奉らんことを期する次第なり。

御親閱感激文

綿打尋高 久保田 いさを

四月三日畏くも 天皇陛下には、我等三萬六千の全國小學

校教員に御親閱を賜はる。我も其參列の光榮に浴す。午後二時三十分、君が代吹奏と共に臨御、目のあたりに御尊體を拜することを得。時恰も未曾有の非常時局に際會し、内外の情勢はあらゆる方面に國民の奮起を促す、此國家重大の時期に際し、この重任を負ふ者は小學校教員にありとの有難き御勅語を賜はる。しかもその玉音かきこきことながら、今尙耳の底深くあるを覺ゆ。嗚呼、感涙とゞむる能はず、畏きこの大勅語命のきはみ、永久に守らん覺悟なり。

御親閱に参加して

綿打尋高 糸井きよじ

四月三日慈雨煙る宮城二重橋前に於て御親閱を賜はり、畏くも勅語を賜はつた事は私として否全國小學校教員として終世忘れる事は出来ない。願れば我が帝國は皇統連綿として萬世一系の 天皇を戴き、各歴代の 天皇は國家の盛衰は教育にありと思召され日夜教育の御事に大御心を煩はし給うたのである。又此の度は千載一遇の光榮に浴し教育者たるの誇を禁じ得ず、私ども教育の任にあたる者勅語の御趣旨を奉體し粉骨碎身日夜奮勵努力して聖恩の萬分の一にも報いる覺悟である。



聖恩に只感泣

藪塚本町尋高 吉田傳藏

凜乎として邊りを拂ふ御英姿を目のあたり拜したる瞬間自ら頭は垂れて神々しき感激に浸る。今御機嫌麗しき龍顔に咫尺し奉り君が代奉唱をなすは、餘りの辱さに心臓の高鳴り止まず聲さへ震へて感涙滂沱たり。剩へ優渥なる聖勅を拜し奉りて恐懼措く所を知らず、聖恩の深きに只「感泣」の二字あるのみ。此至榮を荷ひたる感激を無上の天恩に浴したる感泣を常に心肝に刻し粉骨碎身以て教育報國に邁進して皇恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閲を仰ぎて

藪塚本町尋高 新井晴一郎

永遠に記念すべき榮譽ある四月三日我等三萬六千餘名は天皇陛下の御親閲を拜受し得たるこそ長くも長き極みなれ。時に陛下にはいとも優渥なる勅語を賜はる、以て教育に對する御軫念の程は參列諸員の胸底に言ひ知れぬ萬鈞の重力を加へらる。あゝこの空前の盛事にあひ深遠なる聖慮を拜察し奉りて責務の益々重大なるを感ずると共にこの光榮を心肝に刻し身命を獻げて教育の爲めに盡力し聖旨の萬分の一に報い奉らんことを期す。

御親閲を拜受して

藪塚本町尋高 松井寛七

午後二時三十分囁きたるラツパの音宮城内より響き渡り來る。恐る恐る遙に覗へばやがて鹵簿は靜かに御出門二重橋を渡らせらる、やがて仰ぐ陛下の神々しき御姿よ、おのづと心身のこはばるを覺ゆ。微かに洩れ來る朗々たる玉音。思はざりき、かく親しく龍顔を拜し、玉の御聲に接するの光榮に浴せんとは。

たゞ感奮感激

藪塚本町尋高 關根源一郎

場の内外を垂れこむる瑞雲瑞氣。春雨に煙る御濠の新緑。竹の園生の彌榮を壽ぎ奉ること、舞ふ鳩の高く又低く。全神經を硬直せしめつゝ只待ちに待つ三萬六千の沈黙。あゝ何たる幸、何たる榮譽ぞや。式は始まりぬ。靜かに御座所に立たせ給ふ神の御姿 聖天子。これぞ無窮の傳統と若き血にもゆる大日本帝國の御象徴、私は私を忘れ感激は感激を生みたまへ聖恩に感奮感激するあるのみ。

御親閲を拜受して

藪塚本町尋高 下山芳五郎

春雨けむる昭和九年四月三日我等小學校教員は宮城二重橋前の廣場に集合して御親閲を受け有難き御勅語を受く。感激何に譬へん。唯感泣して小學教員たるの責務と覺悟とを一層強めたり教育報國を固く我が心に誓を立つ。文部大臣の發聲に依り陛下の萬歳を三唱す、感激又更に湧き出づ。かくて凜々しくおはす陛下を拜し天と共に窮なく地と共に久しく榮えゆく我國を思ひて身の幸に感泣せり。

御親閲を拜受して

藪塚本町尋高 田部たみ

緑こき大内山に神威みち  
今出でましの樂はひびきぬ  
故知らぬもの身の内にみちみちて  
たゞ感激にもゆる一時

御親閲を拜受して

藪塚本町尋高 藤生三郎

昭和九年四月三日此の光榮の日我等代表は松の緑滴るお濠の前に立ち陛下の臨御を仰ぎ御尊顔を間近に拜し奉り特に

優渥なる勅語を賜はりたるは實に大なる光榮である。この無上の天恩を拜受せし我等教育者は重大なる責務を自覺すると同時に責務の遂行に邁進努力せねばならぬ。

御親閲を拜受して

笠懸尋高 塚越福三郎

玉の御聲を拜し感激感銘てふ語の眞意を始めて味得せる心地す、其の心を表すに由なし誠に意あまつて言葉足らず。報國の丹心 御聖旨に副ひ奉らむことを期す。

御親閲を拜受して

笠懸尋高 新井嘉一

昭和九年四月三日御親閲に際し、全國三萬六千の小學校教員は君が代を奉唱して聖壽の無窮を壽ぎ奉る。畏くも天皇陛下には優渥なる勅語を賜ひて小學教育の重んずべき事を昭示し給ふ。天顔を拜するに添きに剩へ玉音を拜し奉りては寔に恐懼感激の至りに堪へず。我等はこの聖代に生れ身の教職にあるを以てこの無上の光榮に浴す。この上は責務の益々重大なるを思ひ身命を獻げて一意君恩に報い奉らん事を期す。



御親閲を拜受して

笠懸尋高 小林 八郎

昭和九年四月三日全国小學校教員精神作興大會を舉行するにあたり、畏くも 天皇陛下の臨御を辱うし、あまつさへ前古未曾有の御勅語を賜はつた事は感激にたへぬところで、之の光榮に浴した吾人は、一意専心職務に精勵し、以て聖恩の萬分の一に對へ奉らんことを期する次第であります。

御親閲を拜受して

笠懸尋高 松村 潔

我が 天皇陛下には昭和九年四月三日神武天皇祭の盛辰に方り、教育報國に勇み立ちたる全国小學校教員三萬六千人を宮城二重橋前の聖地に於て、御親閲あらせられ剩へ優渥なる御勅語を賜はる。是實に未曾有の盛典にして、吾等國民教育者にとりて無上の光榮なり。

忝しく天顔に咫尺して寔に恐懼感激の極、感泣極りなし。茲に吾等は日夜奮勵努力兒童教育に對し其の最善を効し皇恩の萬一に報い奉らんとす。

御親閲拜受の話母に語れば

老いたるほゝに涙流しぬ

御親閲を拜受して

笠懸尋高 岩崎 傳吉

- 一、玉砂利の 高くこたまし
- 教へ人 光彩なす
- 九重の 雲紫に
- 神さびぬ 大内山は
- 二、緑なす 芝生は萌えて
- 水鳥の 聲美しく
- 日の本の 至尊の臨御
- 輝きぬ 二重の橋は
- 三、君が代を つゝしみ唱ふ
- 限りなき 天地と共に
- 仰ぎなば 帝の御影
- 錦なす 春雨の糸

御親閲を拜受して

笠懸尋高 齋藤才次郎

昭和九年四月三日我等小學校教員御親閲拜受の光榮に浴す。思ふに此の聖代に生を享けし我等が幸福此の上なきに、重ねて無上の聖恩に浴し、我が身の光榮を感ずると共に忠誠奉公聖旨に報い奉らん。

御親閲を拜受して

笠懸尋高 野口 馨

龍顔拜してあぐる君が代  
吾吾知らず泣く  
日嗣の御子の御降誕を壽ぎて  
吾よろこびによるこびにみつ  
勅語を奉體し吾更に勇む  
教育報國の心 確くもちてかたくもちて

御親閲を拜受して

笠懸尋高 徳江 ミナ

御言葉の心に深く刻まれぬ  
我が行く道のしるべとやせん

御親閲を拜受して

笠懸尋高 眞砂 つね

身にあまる無上の光榮を辱うして宮城前の聖域に參集す。畏くも 天皇陛下は宮中より臨御あらせられ我等小學校教員三萬餘人に御親閲を賜ひ、剩へ優渥なる勅語を賜はり、小學校教育の重んずべき所以を昭示し給ふ。尊き御姿玉の御聲を拜するだに畏き極み、教育の事に御軫念あらせられ、聖旨深遠河に恐懼感激の至りに絶えず春雨けふる中に感涙に咽びたり。今此處にこの無限の感激を長へに力あらしめ聖旨を奉體し、愈々教育報國の志を固くし身命を献げて君國の爲に盡くし、皇恩の萬一に報い奉らんことを誓ふ。



山田郡

御親閲に浴して

梅田尋高 鹽崎貫一

四月三日朝よりの春雨は宛然煙の如く、千代田の森は萌え  
たつ聖域の芝生と共に緑彌深し。此の日吾等小學校教員代表  
は、御親閲を賜はり且つ優渥なる勅語を拜戴す。寔に教育界  
未曾有の盛事にして、聖恩の鴻大なる全く感激に堪へず。今  
日此の終生得難き光榮に浴し得たるは全く身の國民教育の任  
に在るが爲にして歡喜極まると共に益々奮勵努力以て宏大な  
る聖恩に報い奉るべき事を期して止まず。

御親閲を拜受して

梅田尋高 奥野儀兵衛

みたみわれいけるしととほつおやの  
うたひしころうなづかれぬる  
あさみどりやなぎにけぶるはるのあめ  
たみそなはずにはのしづけさ  
たみくさのひともとゆえにゆるされて  
おほみすがたをあふぐけふかな

御親閲の所感

梅田尋高 金子孝一

昭和九年四月三日、今日こそ終生忘れることの出来ぬ感激  
の日であつた。全國小學校教員は大内山を拜し、聖壽無窮を  
祈りつゝ教育報國を誓つた。畏くも 天皇陛下には我等初等  
教育者のために御親閲を賜はり、更に優渥なる勅語を御下賜  
遊ばされた。誠に感激の極みである。これよりは聖旨を奉じ  
て國民教育の振作に粉骨碎身して御鴻恩の萬分の一にも報い  
奉る事を期する覺悟である。

御親閲拜受の所感

梅田尋高 戸崎 誠

近時外交、思想、社會、或は經濟問題等複雑多難の非常時  
に際して私達全國小學校教員はこゝに光榮ある御親閲を拜受  
し、更に畏くも御勅語をも賜はりましたのは誠に感激の至り  
に堪へません。全く身の國民教育の重責にあることを痛感致  
した次第であります。  
此の光榮に浴しました私は粉骨碎身以て皇統連綿世界に其  
の比を見ぬ國體と、光輝ある三千年の歴史とを擁護し以て鴻  
恩に副ひ奉らねばならぬと感銘致しました次第であります。

御親閲の所感

梅田尋高 江原藤司

すめらぎのみ代いやさかと祈るなり  
きみのみまへにぬかづきてわれ  
春の風音なく渡る九重に  
日嗣の皇子をことほぎまつる  
かしこみて晴のこの日を迎へたり  
よろこびのあまり涙いづるも

御親閲を拜受して

梅田尋高 小林かつ

よろこびの極みなるかもゆるされて  
今日のみのりにまゐりぬ吾は  
すめらぎの大みすがたををろがみて  
み代いやさかとことほげるかな

御親閲を拜受して

梅田尋高 秋場恒雄

萬歳の聲にかもめ立つ春の朝  
九重の奥おごそかに春の雨  
春の雨玉座眞白くけぶりけり

山田郡

参候の臣度みて春の雨

御親閲の所感

梅田尋高 小林敬三

もゝちたび神にちかひてはげまばや  
今日のよき日のみのかしこみ  
たふとしやくだしたまへる大みこと  
みむねかしこみいざすゝまなん

御親閲を拜受して

梅田尋高 長戸フチ子

すめらぎのみまへはるかにぬかづきて  
きみばんざいをいのりぬるかな  
みことのりちたび誓ひてすゝまなん  
をしふるみちはかたくはあれど

御親閲の所感

梅田尋高 飯野丑之助

春雨にうちけぶりたる二重橋  
いまし御車のいでまし見ゆるも  
御親閲をうくると我等春雨に  
濡れつゝ聖駕待ちてるにけり

三二七



大君のみ前にうたふ君が代に

おのづ涙のとどまらなくに

御親閲の所感

梅田尋高 茂木良一郎

御親閲にはのほとりの老松に

しづ心なく春雨のふる

九重の雲井の上に舞ふ鳥も

今日のよき日をことほぐがごと

御親閲の光榮に感泣す

川内南尋高 齋藤堯祐

千代田城の大奥より 陛下の臨御ましますを仰ぎ奉り天顔  
咫尺の裡に「君が代」を奉唱し次ぎて 皇太子殿下奉祝歌を合  
唱以て萬民歡呼の赤誠を 天聽に奏し奉る。嗚呼誠に無上の  
光榮、剩へ優渥なる勅語を賜はり玉音に接するに於てをや。  
恐懼極りなく感涙滂沱たり。文相の發聲に萬歳三唱、眞に天  
地に轟くばかりなり、龍顔いと麗はしく御舉手を以て萬民愛  
撫慈眼遍照の御會釋を垂れ給ふ。崇高なる御英姿を拜し一同  
皆感泣嗚咽あるのみ。尊い哉國民教育。吾等身命を献げ聖恩  
に報い奉らん事を誓ふ。

輝く光榮教育報國

川内南尋高 白石兼吉

遽に鼓動の高鳴る午後二時半、畏くも 御親閲を辱うした  
る上優渥なる勅語を賜はり、親しく龍顔を拜し奉り剩へ玉の  
御聲に接したる其瞬間、教育報國を心に誓ひ心身頓に引縮る  
を覺え恐懼感激止まる所を知らず。凡夫にして此の光榮に浴  
するを得たるは一に國民教育の天職にあればこそなり眞に無  
上の面目光榮の極み有難き限りなし。せめてこの瞬間なりと  
も老いたる父母に……と心の躍動を禁じ能はざりき。玉音と  
萬歳とを永に銘し益々精勵報國を期す。

御親閲を受けて

川内南尋高 齋藤芳次

皇太子殿下御誕生遊ばされ國民一同歡喜に堪へず。我等一  
同は四月三日のよき日に於て瑞氣洋溢せる皇城の畔に集ひ赤  
誠を捧げて萬歳を三唱し奉祝し奉る。此の時に畏れ多くも  
天皇陛下におかせられては君が代の奉唱裡に玉座に着御遊  
ばされ御親閲を給ふ。仰ぎ見るだに畏れ多き龍顔を拜し奉り  
剩へ勅語を賜ふ。不肖の身を以てこの無上の光榮に浴し天恩  
の厚きに唯々感泣するのみ。即ち一意専心益々聖旨を遵奉し  
第二國民の養成に努め以て聖恩の萬分の一をも報い奉らんこ

とを誓ふ。

御親閲に臨みて

川内南尋高 松島音次

感謝 過てば身は割腹と我聴きぬ

ゆく人々の心に泣けり

祈り 神様に又御佛に祈りして明くれば

嬉し今日の御親閲

平和 春雨のいとこまやかに注ぐなり

千代田の森の奥ぞゆかしき

玉座 玉座見て勿體なくて我泣きぬ

只感激の外はなかりき

御聲 有難き御聲耳にし誓ひしは

至誠奉公一語あるのみ

勅語 我と吾が心にうけし聖旨こそ

久遠に傳へ我はゆくなり

覺悟 任重し非常時日本の打開こそ

臣等職責竭すにあるなり

御親閲を受けて

川内南尋高 吉永知

芝崩ゆる四月三日千代田城下に嘯嘯たる君が代の喇叭の音

山田郡

無上の光榮に感激す

川内南尋高 加藤貞三

に錦旗を迎へ御親閲を賜ふ。眞に莊嚴の氣に打たれ感激のあ  
まり感涙に咽びぬ。龍顔咫尺の裡に勅語を賜ひ聖恩の廣大無  
邊腦裡に深く刻まれぬ。常に聖旨を奉體し粉骨砕砕至誠以て  
教育界に精進し健全なる第二國民を養成し國運の發展を期し  
聖恩の萬分の一に報いん事を期す。

御親閲を受けて

川内南尋高 林榮子

- 一、誇れ若人日の本の 御仁慈深き大帝
- 拜し高なる胸よ血よ 守れ日の本同胞よ
- 二、密雲低し乾坤の 叙慮宸襟垂れ給ひ



振ひ務めよと大みこと いざ勵まん小學校教師

三、あな神々し我が帝みかど あな尊しな大詔

御旨畏み身にゑりて 應へまつらんもろともに

御親閱を拜受して

川内北尋高 青 山 爲 藏

しめやかに春雨降りぬ教へ人

あれまじし日嗣の皇子の御榮えを

みそなはず庭の御旗の上に

おほみまへに壽げるかな

大君のみことかしこみおきなごを

教ふる道にいざ勵まん

榮ある記念日に

川内北尋高 榎 山 廣 作

神武天皇祭の佳き日四月三日こそ晴の御親閱を拜受し剰さへ 陛下には参列の全員に對し特に優渥なる勅語をさへ賜はる。眞に恐懼感激に堪へず。嘗て見ざる盛事にして、我等國民教育者の無上の光榮且誇るべき所、只々有難き聖慮の程に感泣すると共に、一層其の重責を感ず。幸にして身を此の榮ある天職に奉ずるを思ひ至誠一貫益々其の職に邁進し以て大御心の萬分の一に副ひ奉らんと覺悟を、此の榮ある記念日に

深く／＼心肝に銘せり。

御親閱

川内北尋高 倉 田 武 志

君が代奉唱裡に 至尊御臨幸遊ばさる。有難さにぞ涙こぼる。この心境を如何に表現すべき。「み民われ生けるしるしあり天地の」と高叫したい。折から煙る春雨もやむことし。樂隊の君が代吹奏に無事終了を知り、思はず萬歳を叫びたくなつた。

御親閱を終りて

川内北尋高 田 村 勝 次

わが教育史上未曾有の盛事 皇太子殿下御降誕奉祝を兼ねたる全國小學校教員精神作興大會に参加し、畏くも 陛下の御親閱を拜受し且近く玉音を拜し奉り誠に恐懼感激の至りに堪へず。我等教育者として此の無上の光榮を心肝に刻し身命を献げて教育の爲に盡瘁し、以て宏大なる聖恩の萬分の一に報い奉らんことを期す。

聖恩に應へ奉らん

川内北尋高 栗 原 勝 治

御親閱に御下賜遊ばされし勅語を拜察し奉りて靜かに思ふ

柳條溝に砲聲一發轟くや新日本主義の目標に語り傳へ承け傳へたる日本民族精神は、飛躍してアジャを背負ふ日本の姿を海外に認識せしむるに到れり。然れども國は外敵に因りて亡びず、國民思想に因りて倒れると。宜なる哉、朝野に叫ばれし國民精神の振作、然して其の淵源する所我等小學校教育にありと。誠に任務は重く道遠し。されど粉骨碎身何事か成らざらん。以て此の聖恩に應へ奉らんことを誓へり。

感激のまゝに

川内北尋高 河内 シャウ

聖代に生れし幸よ賤の身に

この光榮にいかにか應へん

勅下したまへる畏さに

おのづうなじは低く垂れたり

御親閱を仰ぎて

福岡尋高 飯 塚 鍋 吉

皇紀二千五百九十四年四月三日の佳辰、全國小學校教員代表者は清淨なる心身を捧げて宮城二重橋前の聖域に會同し日嗣皇子の御誕生を祝ひ奉れり。兼て小學校教員の精神作興を期し教育報國を宣誓するの大會に際り、午後二時三十分畏くも 至尊の臨御を仰ぎ、御親閱を辱うし剰さへ優渥なる勅

語を賜はる。親しく現人神の御英姿を仰ぎ、玉の御聲を拜し、肅然として感涙實に滂沱たり。吾等小學校教育の任に當るもの定に無上の光榮にして恐懼感激其の極致に達す。嗚呼、曠古の聖恩に浴せる此の日より、愈々其の天職の重きを悟り眞摯なる操持の中に自重精進し、教育報國、以て聖旨に副ひ奉らん事を期す。

御英姿を拜し奉りて

福岡尋高 吉 野 軍 也

進み行く國の姿ぞ惚ばれぬ

仰ぎ奉りし若き大君

御親閱感激録

福岡尋高 關 口 兼 吉

皇紀二千五百九十四年四月三日、これぞ吾が生涯記念すべき感激の日なり。朝來小雨降りしきて大内山の松の緑は殊の外麗しく豊榮昇る興國日本の姿ぞ惚ばれたり。午後一時三十分、整列全くなり一同息づまる喜を胸に臨御を御待ち申し上げ奉る。午後二時三十分、陛下には玉座に着御あらせられ畏くも玉音朗かに優渥なる勅語を賜ふ。寔に恐懼感激す。靜かに相和す君が代の合唱、總裁兼攝文部大臣閣下の發聲に和す萬歳の三唱何れか吾等の赤誠の逆りならざるはなし。



嗚呼！畏し 聖恩に浴せるこの日、忘るまじき思ひ出の日よ。この感激、此の喜びを以て教育の正道に精進以て、聖旨に對へ奉らん事を期す。

御親閱を仰ぎて

福岡尋高 坂本 島子

皇紀二千五百九十四年四月三日、全國小學校教員精神作興大會に臨み、忝くも 天皇陛下の御親閱の光榮に浴し其の上優渥なる勅語を賜はりましたて寔に恐懼感激に堪へないのであります。今や我邦内外の情勢は極めて多事多端の秋であります。此の上は唯々此の光榮を心に銘じまして一大奮起し、尊き小學校教育の効果を完うして皇恩の萬分の一にお報いする覺悟であります。

御親閱拜受の光榮に浴して

福岡尋高 桑子 茂三郎

すめらぎの光に心おどるなり  
降る春雨は靜かなれども

御親閱を拜受して

福岡尋高 徳原 三郎

此度御親閱の光榮に浴し、且優渥なる勅語を拜し奉る吾々

教育の任にある者の責務益々重きを自覺す。

御親閱を仰ぎ奉りて

福岡尋高 前原林 三郎

高光る光ぞ受けて教へ草

大和心の實こそ結ばむ

時を行く力ましける大八洲

國のみ中に御聲あがりて

御親閱を拜受して

福岡尋高 小 平 定 八

皇紀二千五百九十四年四月三日、神武天皇祭の佳辰に當り全國小學校教員の代表者三萬六千名、宮城前に整列し

皇太子殿下の御誕生を奉祝兼ねて小學校教員の精神作興を期するに際し、畏くも 天皇陛下の御親閱を賜はる。寔に聖代の光榮にして、感激に堪へざる所なり。これ皆、

陛下が國民教育に大御心を留めさせ給ふの聖慮によるものなるを思ひ、只管育英の天職を誇りとして堅實なる國民の養成に努め謹みて聖旨の萬一に副ひ奉らん事を期す。

敢へて誓ふ。

御親閱の光榮に浴して

大間々尋高 長谷川 誠司

昭和九年四月三日、初等教育界空前の光榮たる、御親閱の盛儀が宮城二重橋前の廣場に於て、いとも嚴肅に舉行せられた。午後二時三十分 聖上陛下には莊嚴なる君が代の吹奏裡に玉座に着御あらせられ、御親閱を賜はつたのである。

陛下の御英姿を拜し奉つた瞬間、感激の涙に瞳は曇つた。剰へ優渥なる勅語を賜はり、筆舌に盡し難き靈感に打たれた。剰愈々我が身の重責なるを感じ一意専心教育報國に努め、聖恩の萬分の一に報ゆるの覺悟である。

御親閱の光榮に浴して

大間々尋高 松村 信太郎

昭和九年四月三日、畏くも 天皇陛下には全國小學校教員代表を宮城前にて御親閱あらせられ剩さへ優渥なる勅語を下賜せらる。實に空前の御事にて誠に光榮の極なり。念ふに不肖職を初等教育界の席末に奉ずるの故を以て此光榮に浴するを得、感極つて言ふ所を知らず。唯々此光榮と責任の重大なるとに對し一意専心奮勵努力身命の限りを盡し其職に當り御聖旨に副ひ奉り皇恩の萬分の一に報い奉らんことを誓ふの

御親閱を拜受して

大間々尋高 荻野 國松

昭和九年四月三日の佳辰をして全國小學校教員會は、皇太子殿下御降誕奉祝並に教員精神作興大會を繰滴る二重橋前に於いて開催せり。之が盛舉は畏くも天聽に達し御親閱を辱うしたる上、特に優渥なる勅語をさへ下し給ふ。生等盛世に生れ教育事業に身を捧げ奮勵努力茲に滿三十ヶ年を経ぬれども、宮城前の聖地に於て然かも全國小學校教員の御親閱を行はせられしこと、古今未曾有の盛事偉觀にして之が席末を漬し得たること無上の面目にして欣幸極りなし。特に畏くも 陛下の勅語を宣べさせ給ひ、朗らかなる玉音を親しく拜聽し奉りし時、思はず感涙に咽び一生一度の此の無上の光榮に唯々感激の一語あるのみなりき。「弱き者よ汝は小學校教員」と見縊り精神的にも物質的にも冷遇するの徒少からざる我が國現代に於て、前には我等初等教育者の實狀を看破認識せられし明文相を戴きしことにより頗る意を強うしたりし程なりしに、今復畏くも聖慮を小學校教育にまで留めさせ給ひ、初等教育者の責務の至大なることを諭させ給へしこと洵に恐懼感激の至に禁ふるなし。現下國家多難の秋にてもあり身教育の重任にある不肖としては此の有難き聖旨を奉體し粉骨碎身教育報國の實を擧ぐること邁進努勉せんことを期す



み。

### 御親閲の感激文

大間々尋高 關 口 彌 作

皇紀二千五百九十四年四月三日初等教育者に對し、御親閲の榮を給ふ。心身を清め、二重橋前に位置して定刻を待つ。大内山は、皇太子殿下御降臨に依り、一層聖壽萬歳を思はしむ。彌々御親閲となり玉音いとも朗に、御勅語を賜はるに於ては遠き皇祖 天照大神を拜し奉るの思ひをなさしむ。唯々感激するのみにして一層我が職責の重大なるを感ず。粉骨碎身日夜精勵一意聖訓を奉體し奉公の誠を致し以て聖旨に應へ奉らんことを誓ふ。

### 謹 詠

大間々尋高 宮崎 光彦

出でませしすめらみことのみ姿に  
われぬかづきて涙はふるも  
大君の邊にぬかづきてことほぎし  
榮ある今日を永久につたへん  
身の幸を今日しみんと思ひつゝ  
重き務に我いそしまん

### 御親閲を拜し奉りて

大間々尋高 神 保 義 雄

あれませる光の皇子を祝ぎつどふ  
教への庭の民草四萬  
をしへ草茂らせよとて告りたまふ  
御聲はるかにをろがみまつる  
大みこと語りつたへん後の世に  
まなびの庭の庭守われは  
いまはたまなびの庭のわか竹を  
おふしたてなん心一つに

### 無言の言葉

大間々尋高 石 倉 榮 藏

幼い子供の頃から今に至るまで、幾度か國歌も 陛下萬歳も唱へ申した、しかし今 天皇陛下の御前で之を申し上げるとは何たる光榮であらう。感激の極、唯々有難く湧き出る涙を如何ともすることが出来なかつた。體の何處からか無言の言葉が生れて我が總身に流れた。  
「盡せ！己が務に！力の限り盡せよ！」  
と。我が良心と我が祖先の靈の聲であらう。父祖の靈も遙に山河を越えて我に體現したのである。

### 御親閲拜受に際して

大間々尋高 田 邊 琴 示

九重の松の翠の色映えて  
車駕のみゆきを待つぞうれしき  
御園生の竹の林に瑞雲の  
たなびく今日ぞめでたかりける  
御親閲いたゞきまつる長さに  
身を捧げてぞこたへまつらむ

### 御親閲を賜はりて

大間々尋高 高 山 隆

御親閲の光榮に浴すこの佳き日  
聖域のほとり春雨煙る  
常磐なる皇城のほとり胸とゞろかし  
御親閲拜受せり國民我は  
この感激永久に忘れじひとすぢに  
努め勵まん育英の道

### 御親閲の光榮に浴して

大間々尋高 松 島 正 雄

昭和九年四月三日、本校教員二十五名の代表者の一員とし

山 田 郡

### 御親閲拜受感激文

大間々尋高 井 上 す み

陽春四月三日神武天皇祭の此の日、東京宮城前廣場で行はせられた全國小學校教員の御親閲を受けた光榮の日であつた。喜びと感謝の念に胸を躍らせて三萬餘人の代表の列に加はつた。特に優渥なる聖旨を賜はりては身の小學校教員にあるを喜び且つ職責の重大なるを念ひ將來益々奮勵努力して聖恩に報い奉らんことを誓つた。  
何事も顧りみずして千萬の  
寶も捨て、吾向はなむ

### 卯月三日の歌

大間々尋高 山 本 静 子

さみどりの大内山ゆ雨にけぶりて  
たゆたひよどみつ雲ながれゆく



大君ををろがみまつるかしこきよ  
 たゞ濡れてるき雨になみだに  
 「努力せよ」とのらせ給ひし大みこと  
 わが使命こそいよよ重けれ  
 降りしきる雨もものは日の皇子の  
 生れましの歌たてまつりたり

光榮に浴して

大間々尋高 寺澤 フミ  
 いや崇きみ影かしこく目のあたり  
 をろがみまつる今日ぞうれしき  
 あめつちと相榮えませと日の皇子を  
 たゞへまつれりここにつどひて  
 ひたむきにすまむ教育道ぞその道に  
 みことかしこみ吾は生きなむ

御親閲に浴して

大間々尋高 小川 源 吾  
 畏くも昭和九年四月三日全國小學校教員御親閲に際し優渥なる御勅語を賜はりました。その際 陛下の御聲の朗かな事には全く感激致しました。始めから終り迄満庭に響き渡つた御立派さには全く感に堪へませんでした。いつもながらの

陛下の有難さを痛感してたゞ／＼感激のほかありませんでした。

感激録

相生尋高 櫻井 明

昭和九年四月三日、瑞氣溢るゝ宮城二重橋前の廣場に於て皇太子殿下御降誕奉祝を兼ねたる全國小學校教員精神作興大會に、忝くも御親閲を賜はり、親しく玉音を拜す。終生の光榮寔に恐懼感激の極みなり。具に現時の世態を察し、我國民精神を作興して、皇運を扶翼し奉るの急なるを思ふの時、聖勅を拜し、小學校教員たるものゝ責務愈々重きを覺ゆ。即ち此の光榮を永く心肝に銘し、日夜淬勵以て聖恩に報い奉らむことを期す。

國民の道のみをしへかしくみて  
 教へ育てむ大みだからを

感激の聲

相生尋高 中林守三郎

君が代をかなづる聲も慄きつ  
 千代の御榮えまづ祈るかな  
 細矛千足の國の日の皇子を  
 ほぎまつらくとわれ歌ふなり

祈ぎまちし日嗣の皇子は

生れましていよく固し國の礎

君が代をことほぎまつる我聲は

大内山にこだましつるも

國民を教へむ道のおほみこと

今日一入に身にはしみつゝ

いとし兒を導くわざは數あれど

先づ教へなむ日本眞精神

思ふこと得もこそ言はね明暮の

身の行ひの燈明とはせむ

御親閲拜受の感激をよめる

相生尋高 堀口 藤太

言の葉の限りを越えてひたぶるに  
 たゞ一向に胸は高なる  
 我血潮いや高なるぞうれしけれ  
 大和島根の民にしあれば  
 おのづから胸どよめきて一入に  
 己が務めの重きをぞ知る

感激文

相生尋高 砂賀 とめ

皇太子殿下御降誕奉祝式舉行に際し、忝くも 皇上陛下の御親閲を賜はる。不肖此の盛儀の席末に列するを得しは生涯の光榮たり。綠色濃き大内山を拜し、肅然として襟を正す。噫此の時、莊嚴極りなき君が代吹奏裡に 天皇陛下は臨御あらせ給ふ。我等謹みて國歌を奉唱し 皇太子殿下の御降誕を祝し奉れば、畏くも優渥なる勅語を下し賜ふ。寔に恐懼感激の極みなり。我等は此の廣大無邊なる聖旨を奉體し、益々教育報國の信念を鞏固にし、以て叔慮を安んじ奉らざるべからず。

全國二十五萬小學校教員の齊しくお待ち申上げた四月三日畏くも 皇上陛下御臨幸御親閲を賜ひ、我等恭しく皇太子殿下の御降誕を奉祝した。午後二時三十分緊張と嚴肅の裡に御親閲は開始せられ、我等が全身の血は感激に満ち、萬歳の聲は天地を震動させた。今や我國は東洋の一國に非ずして世界に雄飛せんとする位置にあり。多事多難の現狀に鑑み、此の優渥なる聖旨を奉體し、夙夜精勵洪恩に報い奉らなければならぬ。